大感動のカーテンコール! さようならインリン様——!!

enterbrain MOOK

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special

5.18 戦極 -第二陣-
5.24 ハッスル・エイド
5.24 U F C 84
徹底詳報
6.8 戦極 -第三陣-
6.15 DREAM.4
直前特集

2008 JULY 780yen



『DREAM.4』で戦慄の大勝負!!
サク烈するリアルを跳ね飛ばせ!
桜庭和志

グラップリングでグレイシーと激突!!
復活ロードの真意を独占告白!
ミルコ・クロコップ

バカサイバーが語る寝技バカ一代!
青木真也

"リアル"に賛否両論! 戦極ポーズは是か非か!?
ジョシュ・バーネット
ホジャー・グレイシー

これが"ボクらのヴァンダレイ"だ!
復活勝利ド直後インタビュー
ヴァンダレイ・シウバ

MMAのジャイアンが
言うちゃ悪いけど今月も大放言!
ダナ・ホワイト UFC代表


UFC帝国に最大最強の敵——
新興勢力『アフリクション』始動!!
ヒョードルvs シルビア実現!!

"PRIDE魂"は連鎖する!
UFCからDREAMへ——

桜庭(サクラ〜バ!)、オレもまだ闘ってるぞ!!

kamipro special 2008 JULY 桜庭、オレもまだ闘ってるぞ!!

印刷・製本 大日本印刷株式会社



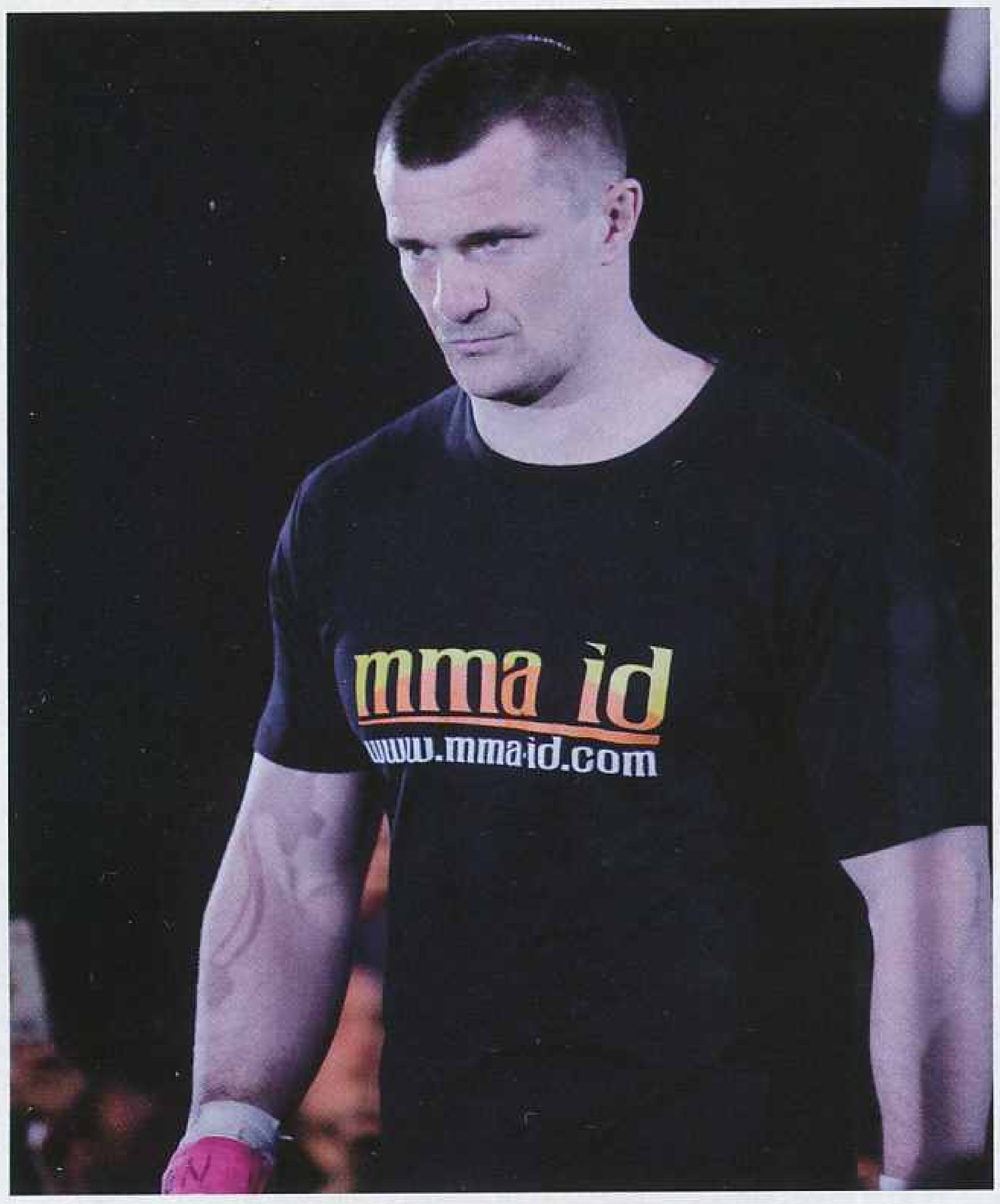
Bruno Frazatto
Cristiano Kaminishi
Carlos Toyota
Rubens "Cobrinha" Charles
Eduardo Pessoa
Rodrigo Feijap
Marquinhos Souza
Leo Santos
Lucas Lepre
Guilherme Mendes
Rafael Mendes
Roberto Souza
Mauricio Souza
Sachi
Fighter's Shop
BULL TERRIER
www.b-j-j.com
ファイターズショップ ブルテリア URL http://www.b-j-j.com 携帯サイト http://www.b-j-j.com/cgi-bin/i/index.cgi
〒435-0006 静岡県浜松市東区下石田町 1782-1 伊藤ビル1F TEL:053-421-2534 FAX:053-421-2542

を禁じます。

CONTENTS

6.15『DREAM.4』でグラップリングマッチ

ミルコ・クロコップ “白帯”からの挑戦



MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special

表紙写真/ Josh Hedge/UFC

2008 JULY

EGA

インディー

「はるばる東海岸のボストンから来たんだ。100ドル出す。チケットを譲ってくれ！」
「150ドルのチケットに？　クローズドサーキットやカジノでも試合は観られるよ」
「会場で興奮したいんだっ!!」


現在のUFCは、かつてのPRIDEがそうだったように、狂信的なエネルギーを保ったまま大衆を取りこもうとしている。

3億人もの人口を誇るアメリカ合衆国――。PRIDEのケースと異なるポイントを挙げるとすれば、ライト層に照準を絞る必要のない絶対的基盤がある。つまり充分なコア層が支えてくれるビジネス構造があることだろう。

それでいて真っ向から大衆と勝負する。インディーの姿勢をとり続けられるメジャープロモーション、メガインディーの世界である。

各々のこだわりをもって〝内〟へと向かうエネルギーは、その瞬間的には凝縮されていくが、大衆から遠く離れてしまって、やがて自爆の道をたどる。逆に〝外〟へ拡散しようとすれば、その運動性は薄まってしまいかねない恐れがある。

84



UFCはそれらを克服した恐るべきメガインディーなのだ。チンピラのように尖ったまま、マフィアのボスの貫禄を誇っていられる。


注目すべきは、UFCの競技性や世界最高峰の陣容というよりも、外に向かって放たれるエネルギーの解放感だ。チケットはソールドアウト、ヴァンダレイの入場テーマ『Sand Storm』に合わせて踊り狂い、総立ちで試合に熱狂する観客がいる。

アメリカでなくとも入国審査が厳しいご時世だが、「UFCを観に来た！」のひと言でスルー。いや、ホントに。入国審査官から「おまえはあのケージの中に入るのか？」というおキマリのジョークまでついてくる。

エリートXCの全米地上波放映があのCBSで開始され、MMAというジャンルは、より大衆の前にぶちまけられることになった。それがUFCにどのような影響を及ぼすかはわからないが、東海岸からラスベガスを訪れた前述の男は、1200ドルでチケットを入手していた。アメリカにも〝狂った季節〟は存在する。

――そうだ、革命の瞬間を目撃できるのだ！


ディンを秒殺KO!!
シウバ"が帰ってきた!
復活

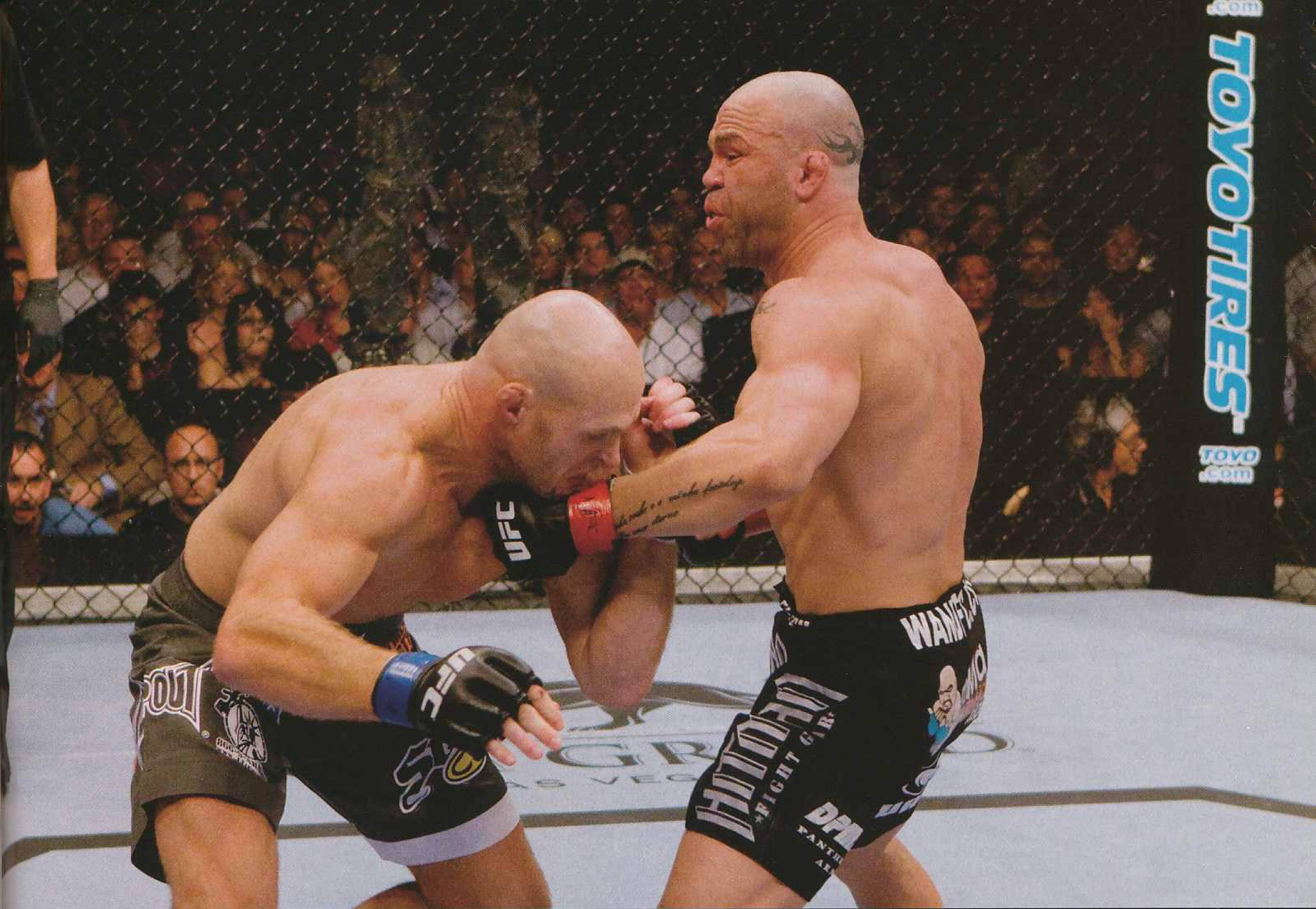


2008.5.24
UFC84 ILL WILL
LAS VEGAS MGM GRAND GARDEN ARENA

ヴァンダレイ・シウバが完全復活!!
昨年12月、鳴り物入りでUFC再デビューをはたし、チャック・リデル相手に
大激闘の名勝負を繰り広げながら、判定負けを喫してしまったシウバ。
PRIDE時代も含め、3連敗中ということで、一部では限界説もささやかれたが、
リデルを破ったキース・ジャーディンを秒殺KOし、そんな外野の声も一蹴!
ついにあの恐ろしく強いヴァンダレイ・シウバが帰ってきた!!

文 & 構成／堀江ガンツ 撮影／ Josh Hedges（UFC）

キース・ジャーディ
あの“ヴァンダレイ・シウ
完全



[5.24 UFC84 ILL WILL]
米国ネバダ州ラスベガス MGMグランドガーデンアリーナ

○ヴァンダレイ・シウバ vs キース・ジャーディン×

（1R 0分36秒 TKO）

背水の陣で臨んだ大一番。シウバはパンチには定評があるジャーディン相手に、いきなり足を止めての打ち合いを挑むと、まず右フックがヒット！　さらに左フックを入れダウンさせると、そのままパウンドの雨を降らせTKO勝ち！　見事、36秒の秒殺勝利で完全復活をアピールした。

「昔のヴァンダレイ・シウバに戻るんだ」試合前日、シウバはきっぱりとそう断言した

「昔のヴァンダレイ・シウバに戻るんだ」

5・24『UFC84』キース・ジャーディン戦の前日、公開計量後にシウバに話を聞いたとき、きっぱりとそう答えた。

「昔のヴァンダレイ・シウバ」とは、もちろん〝PRIDE絶対王者〟と呼ばれていたときの自分だ。

昨年12月、チャック・リデルとの4年越しのスーパーファイトでUFC再デビューをはたしたシウバ。試合内容自体は年間ベストバウト級と賞賛されたが、結果的には顔面を血で赤く染めての判定負け。白星デビューを飾ることはできなかった。

さらにさかのぼれば、シウバはPRIDE時代のダン・ヘンダーソン戦、ミルコ・クロコップ戦を含めて3連敗中。PRIDEで足かけ5年の長きにわたり無敗を誇った〝絶対王者〟が、06年7月の藤田和之戦以来、2年近く勝ち星から見放されていたのだ。

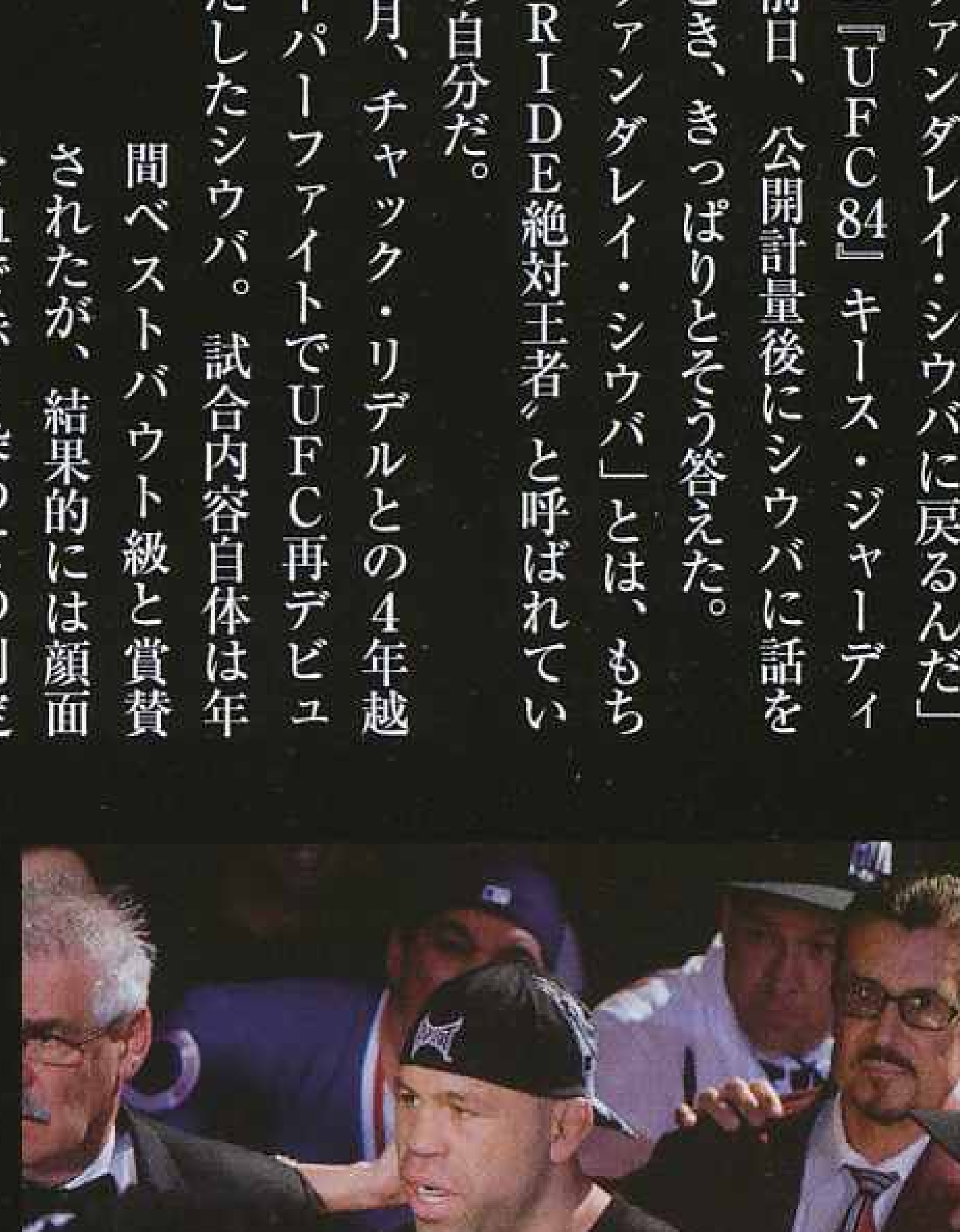
また、チャック・リデル戦では相手の長いリーチにはばまれ、アックス（斧）と呼ばれるシウバのフックが、なかなか当たらなかったこともあり、ファイトスタイル、体格的にもヴァンダレイはもう無理なのではないか、そんな限界論。ミドル級転向論なども現地のメディア、ファンからは試合前からささやかれていた。

さらに、そこに追い打ちをかけるかのように、試合前、ダナ・ホワイトUFC代表からは「今回、勝利が必要だ」と、負ければ契約解除、もしくは見直しを示唆したともとれる発言がなされた。

アメリカのスポーツ界、とくにメディアは巨大契約を結び、鳴り物入りで登場した選手が結果を出せなかった場合、非常に厳しい対応をする。あのミルコ・クロコップでさえ、〝出直し〟を強いられたように、シウバもUFC2戦目にして、早くも正念場に立たされていたのだ。

だからこそ、今回は何がなんでも「昔のヴァンダレイ・シウバ」に戻る必要があった。荒々しくアグレッシブで、そして相手を完膚なきままに叩き潰す。〝アックス・マーダラー（斧の如き殺人者）〟の異名どおりの闘いが求められていたのだ。

今回の相手はシウバに勝ったチャック・リデルを下しているキース・ジャーディ



館内総立ちの大歓声の中、おなじみ『Sand Storm』のテーマに乗って入場したシウバ。ノリのいいトランスの曲ということもあり、踊りだす観客が多数いるなど、入場シーンの盛り上がりはこの日一番だった。



UFC84 ILL WILL

ン。格闘技に三段論法は通用しないとはいえ、これに勝てばリデル戦の敗北を半ば無にすることができる。勝ってライトヘビー級のトップコンテンダーとして再浮上するか、それともタイトル戦線から脱落するのか。シウバにとってはまさに、乾坤一擲の大勝負だったのだ。

そんなヴァンダレイをアメリカの観客が後押しした。

この日はラスベガス最大級の巨大なアリーナであるMGMグランドガーデンアリーナが早くからソールドアウト。PPVのほかに、急遽クローズド・サーキット（パブリック・ビューイング）も開催。有料入場者数はラスベガスのMMA大会第4位の記録である1万4773人を数えた。

そんな大観衆で埋まった館内。シウバにはオーロラビジョンにその姿が映っただけで大歓声が送られた。UFCと契約してわずか2戦目、しかもアメリカ人ではないシウバが、ティト・オーティズやBJペンといった長年UFCで闘い続けたスーパースターと遜色ない声援を受けているというのは、もの凄いことだ。ミルコ、ノゲイラ、ダンヘン、ショーグン……。PRIDEのスター選手が次々とUFCに上がったが、これほどの歓声が上がるのはシウバだけ。小細工をせず、拳一つで真っ向勝負するシウバのスタイルは、アメリカのファンに早くも受け入れられ、そして尊敬を集めているのだ。だからこそファンは、かつての強く荒々しいシウバの復活に期待し、大歓声を送った。

この日もPRIDEで聞き慣れたシウバのテーマ曲『SandStorm』が流れ出すと、館内は総立ち！　そんな中をシウバがギラギラした目をして入場してきた。

ここ数試合、どこか不安げな表情をしながら入場してきたシウバは、もうそこにはいない。あの〝ブラジルの悪魔〟とまで呼ばれた〝目〟が帰ってきたのだ。

試合もまさに、我々がよく知る「ヴァンダレイ・シウバ」の試合だった。試合開始と同時に前に出て、左右のフックを振っていく。そしてジャーディンとの打ち合いの中、シウバの右フックがヒット！　さらに左フックを叩き込むとジャーディンがダウン。そこへパウンドをこれでもかと振り下ろし、動けなくなったジャーディンを見て、レフェリーがストップ！

シウバ、KO勝ち！

試合時間わずか36秒！

巨大なプレッシャーをはねのけ、ついにシウバが完全復活した！

まさに「これぞヴァンダレイ・シウバ！」という試合で、チャック・リデル、フォレスト・グリフィンを下したジャーディンを撃破。これにより、PRIDE時代二度にわたり現UFC王者クイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンを破っているシウバは、タイトル挑戦にも大きく前進したといえる。


シウバ完全復活の瞬間、館内は総立ちの大歓声。そんな中、シウバは勝利をアピールするより先に観客に向かって深々と頭を下げた。

「ファンに感謝したい」

試合後、バックステージでもそう繰り返していたシウバ。

昔もいまも、誰よりファンを大事にする姿勢は変わらない。

かつて日本のファンに愛されたヴァンダレイ・シウバは、世界中のMMAファンが愛する〝ピープルズ・チャンプ〟への道を歩み始めた。



激勝直後に独占キャッチ・・・！

ヴァンダレイ・シウバ

RLEI SILVA

―ヴァンダレイ選手！　素晴らしい勝利、おめでとうございます！
シウバ　アリガトー！　アリガトーッ！（日本語で）。
―キース・ジャーディンを秒殺KOし、復活をとげたいまの気持ちを聞かせてください。
シウバ　とてもハッピーだよ。昔の自分のようなファイトができた。〝ヴァンダレイ・シウバ〟が戻ってきたんだ！
―試合前にボクがさせていただいたインタビュー（『kamipro.com』に掲載中）では、昔の自分に戻るために、かつてと同様にスキンヘッドにしたと語ってましたね。
シウバ　そうだね。スキンヘッドにしたかいがあったよ（笑）。アメリカに来てから、大勢のファンに言われたんだ。「昔みたいなヴァンダレイが観たい」ってね。だから自分としてもPRIDEで闘っていた頃を思い出すために剃ったんだ。
―PRIDEで桜庭（和志）選手やクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソン、ヒカルド・アローナらを倒したときは、いつもスキンヘッドでしたもんね。
シウバ　ああ、だから身も心も昔の荒々しい俺、荒々しいヴァンダレイ・シウバに戻ろうと思ったんだ。ファンも自分もそれを望んでいるからね。
―実際、オクタゴンに上がったときのシウバ選手は、獰猛で野蛮な顔をしていましたよ。かつて「主食・日本人」と呼ばれていた頃の顔でした（笑）。
シウバ　そうかい？　自分としては、べつに日本人を食べるのが好きだったわけじゃないんだけどね（笑）。でも、昔はホントに相手を食ってやるぐらいの気持ちで試合をしていた。今回は気持ちの面でも、それぐらいのものを作れたと思うよ。
―でも、UFC再デビュー戦である昨年末のチャック・リデル戦で敗れ、PRIDE時代のダン・ヘンダーソン戦、ミルコ・クロコップ戦も含め3連敗中でしたから、非常に大きなプレッシャーを感じていたと思いますけど。
シウバ　確かにこの3ヵ月、もの凄いプレッシャーを感じていたよ。俺にとっては絶対に落とせない試合だった。不思議なもので、昔はずっと勝ち続けていたのに、少し負けが続くと選手というのは「もう勝てないんじゃないか……？」と不安に駆られるものなんだ。
―ああ、ヴァンダレイ選手ですらそうでしたか。
シウバ　それだけこのスポーツは、そういった恐怖心や不安との闘いなんだ。そして、それを払拭するために、俺はとにかく激しいトレーニングを積んできた。自分に自信を取り戻すためには、そうするほかはなかったからね。
―やはり、こういった絶対に落とせない試合の前というのは、メンタル面が大事になりますか。
シウバ　そうだね。ただ、もちろん大事なのはメンタルだけじゃない。フィジカルもメンタルもすべての要素が必要だった。
―では、今回の勝因は、そのすべてが揃ったということですか？
シウバ　完璧に揃ったかどうかはわからないけど、自分の最善をつくしたとは言えるよ。今日はスタンドアップの打撃がよかったと思うし、ムーブメント（試合のステップ等の動き）もよかった。あと、自分のコーチたちがキース・ジャーディンのことをよく研究して、いいゲームプランを作ってくれたので、それが大きな勝因だろうね。

「人生のベスト5に入るくらいの大勝利だ!!」



**あのヴァンダレイ・シウバが帰ってきたぜぇぇぇぇ!!
決してファイティングポーズを崩さない攻撃精神、その姿勢――。
いつだって我々を熱狂させてきたヴァンダレイだが、ひさしく勝利の二文字から遠ざかっていた。
ここまで3連敗中である。もちろん、相手が超難敵だったということもあるのだが、
勝利の咆哮をあげてこそ“あのヴァンダレイ・シウバ”なのだ。でしょ？
そして訪れた完全復活の日。激闘冷めやらぬバックステージで、
大きなプレッシャーのこと、今後のこと、戦友・桜庭和志のことを聞いた!!**

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／Josh Hedges（UFC）

WANDERI



『PRIDE男祭り2005』でも対戦予定だった二人。トータル4回のマッチメイク。桜庭は彼が練習に励むブラジルのジムにも足を運んだ。はやりのキーワードで言えば、"友情タッグ" な関係なのだ！

サクラ～バは何も心配することはないよ
苦しい時期はあるが、彼は必ず復活する

――12月にチャック・リデルと対戦してみて、リングとオクタゴンの違いは感じましたか？

シウバ　もちろん違いはあったよ。オクタゴンのほうがアグレッシブな試合になるね。コーナーがないし、金網だから外に落ちることもない。もちろんストップ・ドント・ムーブもないし、とにかく試合が止まることがないんだ。だから選手にとっては一瞬も気が抜けないし、ファンにとっても目が離せない闘いになる。それに、PRIDEとUFCではグローブの大きさも違うんだ。UFCのほうが小さいグローブを使っている。そういった違いはあるけれど、自分はしっかりとトレーニングを積んだし、もうやりづらさはないよ。

――いま、アメリカでのトレーニングはどこでやっているんですか？

シウバ　いくつかのジムでやっているけど、打撃や柔術、レスリングといったファイトのトレーニングに関してはエクストリーム・クートゥアーを中心に行なっている。そのほかに『MMAコンディショニング』というジムで、フィジカルトレーニングを積んでいるよ。

――そんなジムがあるんですか。

シウバ　そこは、多くのファイターがオープンで通っているフィジカルのトレーニングジムで、いろんな選手がチームの枠を越えてトレーニングしている。今回、日本のナカムラ（中村和裕）が、『MMAコンディショニング』の場所を教えてくれって言ってきたから、教えてあげたんだ。

――そんなサポートもしていましたか。

シウバ　あとトレーニングはブラジルに帰って行なうこともあるし、フロリダのジムでやることもある。いまの自分は非常に恵まれたトレーニング環境にあると言っていいよ。

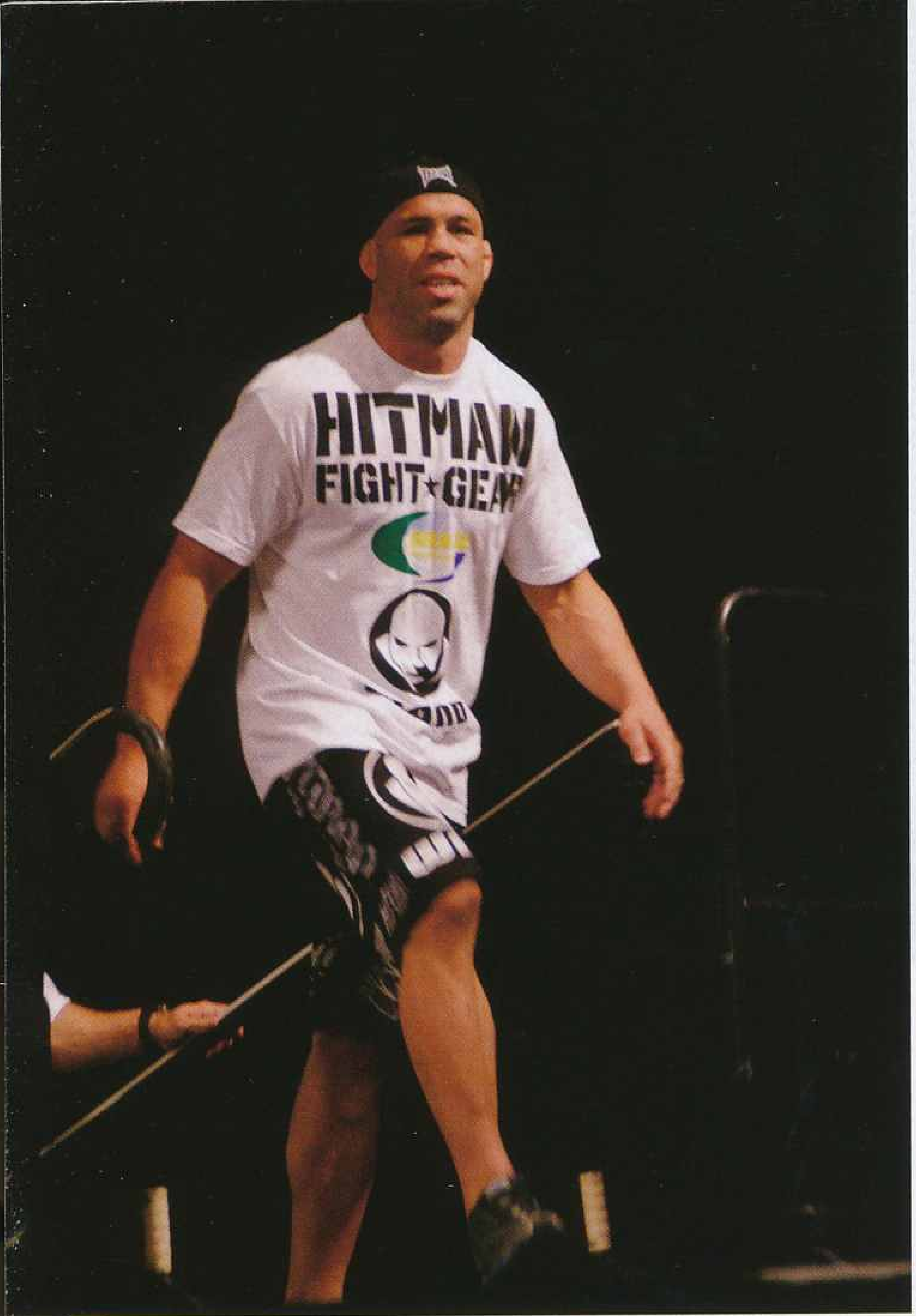
――そんな充実した練習環境も復活の一因なんでしょうね。今回のキース・ジャーディン戦は、ヴァンダレイ選手自身にとっても、忘れられない勝利になりそうですか？

シウバ　そうだね。とにかく、いまは嬉しいよ。ここ2年間でベストのファイトができたと思う。自分のファイト人生の中でもベスト5に入るくらい、大きな勝利だったんじゃないかな。今日の試合によって、昔の自分を思い出して、凄い自信になったよ。

――じつは、日本でも桜庭選手が6月に完全復活を懸けたような大一番に挑むんですよ。

シウバ　心配することはないよ。ちゃんとトレーニングを積めば、彼は偉大なチャンピオンなんだから、昔のようなパフォーマンスで相手を倒すことはできるさ。サクラ～バも苦しい時期はあったんだろうけど、彼はずっと自分の力を信じていた。そして、俺と同じように復活を信じ、必死で努力をしているんだろう。そうじゃなきゃ、ブラジルまで来てトレーニングをしようとは思わないさ。

――そうですよね。飛行機嫌いで有名な桜庭選手が、練習のために地球の裏側まで行くんですからね。今回の対戦相手、メルヴィン・マヌーフのことは知っていま



WANDERLEI SILVA■1976年7月3日。ブラジル出身。元PRIDEミドル級チャンピオン。どんな逆境にも立ち向かう攻撃精神をもって闘うことから、PRIDEの象徴ファイターとして人気を博した。来日時には必ず『はなまるうどん』に足を運び、一生無料券をプレゼントされたこともある。現在はUFCに参戦中。182cm、93kg。

一緒に練習しているジャカレイのセコンドとしてDREAMに行けたらいいな

すか？

シウバ　知ってるよ。会ったことはないけど、凄いストライカーだね。でも、サクラ〜バはテイクダウンがうまく、グラウンドがもの凄く強いんだから、寝技で仕留められるよ。

——いまでも桜庭選手に共感する部分はありますか？

シウバ　もちろん。サクラ〜バとの3試合は俺にとって最も重要な試合だったからね。3回とも死力をつくして闘い、そのあとはチームメイトとして一緒に練習をしたこともある。彼は必ず復活するよ。サクラ〜バはMMAという世界を作った偉大なるチャンピオンだからね。それは多くの人間が知っていることさ。

——そして、それを一番よく知っているのがヴァンダレイ選手だ、と。

シウバ　まあ、ほかの人よりはよく知ってるかな（笑）。

——では、桜庭選手にメッセージをいただけませんか？

シウバ　彼は一人の偉大な選手なんだから、俺からどうこう言うことはないよ。ただ、「俺は勝ったぜ」とだけは言っておこうかな（笑）。サクラ〜バ、俺はまだ闘っているぞ。そして、これからもな。

——UFCからDREAMへ、ヴァンダレイ・シウバから桜庭和志へ、この流れが続くことを僕らも願ってますよ。シウバ選手自身は、この完全復活したあと、どんな展開を考えていますか？

シウバ　いや、自分ではとくに考えてないよ。UFCに任せているからね。俺はいつでも試合に出るし、どんな相手とだって闘うよ。今回、無傷で勝利することができたから、できるだけ早くやらせてほしいぐらいだね。

——ライトヘビー級からミドル級への転向も噂されていましたが、そのあたりはどうお考えですか？

シウバ　ライトヘビー級でもミドル級でもどっちでもいい。俺がどっちで闘ったらよりおもしろいか、ダナとファンに判断してほしいね。

——ダナ・ホワイト代表は「ミドル級だと夢の対決は（アンデウソン・シウバ戦の）1試合だけだが、ライトヘビー級なら、興味深い対戦がいくらでも組める」と、ライトヘビー級続行を示唆する発言をしていました。

シウバ　だったらライトヘビー級じゃないか？　俺はどちらの階級でも、誰が相手でもベストをつくすだけさ。

——でも、ライトヘビー級では、やはりリーチの差などを感じませんか？

シウバ　べつに。踏み込んで相手の懐に入ってパンチで倒すのが俺のスタイルだからね。それは誰が相手でも変わらない。それにミドル級に落としたところで、チャンピオンは俺よりはるかにリーチが長いからね（笑）。

——確かにアンデウソン・シウバはライトヘビー級以上に腕が長いですね（笑）。

シウバ　だから関係ないよ。頭が大きくて手足が短いのは生まれつきだから（笑）。そうじゃなきゃ、俺じゃないしね。

——ミドル級王者であり、かつての同門でもあるアンデウソンのことは、どう思っていますか？

シウバ　とにかく凄くいいファイターだよ。闘えばもちろん強敵だと思う。もし闘う日が来たら、エキサイティングだね。

——次の目標を聞かせてください。

シウバ　とにかく次の目標というのはチャンピオンベルトを獲りたいよ。今日はそのための第一歩さ。これからもっと勝ち続けるよ。

——では、ヴァンダレイ選手の復活を祈っていたファンが、日本にもたくさんいます。彼らにメッセージをいただけますか？

シウバ　とにかく日本のファンに感謝しているよ。PRIDEでは長年にわたり俺のことを応援してくれて、俺がアメリカに行ってからも応援してくれている。俺は日本のファンが大好きだし、また日本にもぜひ行きたい。今年、一緒に練習している（ホナウド・）ジャカレイがDREAMに出るときに、セコンドとして行けたらいいね。

——それはいいですね！


シウバ　俺もジャカレイの試合を観たいし、日本のファンにも会いたい。なるべく早く実現したらいいと思ってるよ。今回はとにかくファンにありがとうと言いたい。俺が勝てないあいだも彼らの応援は感じていたし、ここラスベガスまで、エネルギーは届いていたよ。

——では、日本での再会を楽しみにしています。今日は本当におめでとうございます！

シウバ　アリガトー——ッ！

【08年5月24日（現地時間）／米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランド・アリーナにて収録】

WANDERLEI SILVA



『UFC84』で衝撃の秒殺デビュー!!

吉田善行

KI YOSHIDA

オクタゴン養成ギプス(?)をハメた日本発のUFCファイター、誕生!!

君は吉田善行を知っているか？　初代CAGE FORCEウェルター級王者として活躍し、日本では珍しい“金網ばかりで闘ってきた”異能のファイターだ。そんな吉田がいよいよケージの本場中の本場、UFCに足を踏み入れ、必殺のアナコンダチョークをズバリと極めて、鮮やかな秒殺デビュー！この勝利を祝して、試合から一夜明けた吉田に緊急電話インタビューを敢行！メイド・イン・ジャパンのオクタゴン養成ギプスをハメた男の素顔、未知なる可能性の扉を開けた吉田に今後の課題も含めて、ズバリ直撃ッ!!

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／Josh Hedges（UFC）



さらば、オクタゴン・コンプレックス!?　ここ数年、PRIDEファイターたちがUFCに闘いの場を移すも、金網とリングの違いに苦しみ、なかなか結果を出せない状態が見受けられたが、「じゃあ、最初から金網でやったらどうなる？」と、日本で金網の試合ばかり経験してきた『CAGE FORCE』育ちの日本人ファイター、吉田善行がUFC初参戦！　いきなり秒殺デビューの快挙を成しとげた。「金網は友だち、怖くない」と、徹底的に金網慣れした男、吉田に試合翌日の早朝、緊急電話インタビューを敢行だ！

――もしも〜し、吉田さん！　アメリカ出国前のお忙しいところ、すみません！

吉田　いや、大丈夫です。ただ、もう少しでホテルのロビー集合なんで、あまり時間はないんですけど（笑）。

――そんなにお忙しいところ、ホントに申し訳ありません！　昨日の試合が素晴らしかったので緊急電話インタビューをお願いしてしまいました。あらためて、おめでとうございます！

吉田　あ、ありがとうございます。

――試合から一夜明けですが、パーティとかでお疲れでは？

吉田　いや、自分はスポンサーの方々のパーティにちょっと顔を出したくらいですから。結局、ダナ・ホワイトとも全然会わなかったですし。

――あ、ダナ総帥とも会えなかった。しかし、昨日の試合はアナコンダチョークで見事な快勝劇でしたねぇ。

吉田　いや〜。たまたまとは言わないですけど、試合までのすべての流れがガチッとうまくいった感じでしたね。

――ただ、一つ残念だったのは、UFCで郷野（聡寛）選手も獲った賞（サブミッション・オブ・ザ・ナイト）が獲れなかったことじゃないかなって。

吉田　あ、そうですね。その賞が獲れなかったのは悔しくて悔しくて……。

――結局、BTTのホジマー・〝トキーニョ〟（・ハルハレス）選手が腕十字で獲ってしまって。インパクト的には、負けてなかった気もしたんですけど。

吉田　僕もそう思ってたんですけどねぇ（残念そうに）。あれ、賞金は日本円で750万円くらいですから（笑）。

――それは悔しいですよ。今回は、56秒という秒殺劇だったんですけど、内容的には作戦どおりだったんでしょうか？

吉田　ええ。序盤は「打撃を当てられたらいいな」とか「相手は組みついてくるだろうな」と思ってて。展開次第で「首を取れたらいいな」とは思ってました。

――僕は日本でパソコンのネットPPVで観たんですけど、レフェリーのストップが遅かったんで、「相手が死んだんじゃないかな？」とビビってました（笑）。

吉田　チョークの途中で力がガクッと抜けたんで、「落ちたかな？」とは思ったんですけど、グイグイ絞めちゃいました。

――試合前、相手（ジョン・コッペンハーバー）の印象を、「タトゥーが多い選手」と言ってましたけど。

吉田　背中に漢字が彫ってありましたね。

――写真を見返したら、背中に「適者が生き残る」って彫ってあって。適者じゃなかったんだな、と。

吉田　ハハハハ！　ホントですか（笑）。

――ええ。試合に勝った瞬間は、会場は沸いてました？

吉田　いや、3試合目だったんで、お客がたいして入ってなかったんですよ。

YOSHIYUK

——あ〜、確かにPPV放送が始まった後半戦は超満員でもの凄い熱気だったですけど、序盤戦はちょっと寂しい感じでしたね。吉田さんの試合は、PPV放送の試合の合い間に流されたんですよ。

吉田　PPVが始まって、僕も会場で観たんですけど、あの盛り上がりはハンパないっスよ！　同じ大会とは思えない（笑）。

——ダハハハ！　じゃあ、今後は超満員のお客の前でも闘ってみたい、と。

吉田　そうですね。あの中でやったらホントに気持ちいいだろうなぁって。

——そんなUFC初参戦ですけど、それまでの主戦場が『CAGE FORCE』でしたから、金網への躊躇はそれほどなかったんじゃないですか？

吉田　ええ。自分はデビューして金網の試合ばっかりなんで、リングより金網慣れしちゃってるんですよ（笑）。スタイルもケージの闘い方ですし、もうリングのほうが落ちつかない感じで。

——キャリアの半分以上、金網ですもんね。『CAGE FORCE』とUFCのオクタゴンの違いはありました？

吉田　試合前のチェックでオクタゴンに入ったら、「デカイな〜」と思いましたね。

——サイズが全然、違った、と。

吉田　『CAGE FORCE』はそれほどオクタゴンが大きくはないんで、ホントに倍以上に感じましたから。ただ、試合が始まったら、落ち着きましたけど。

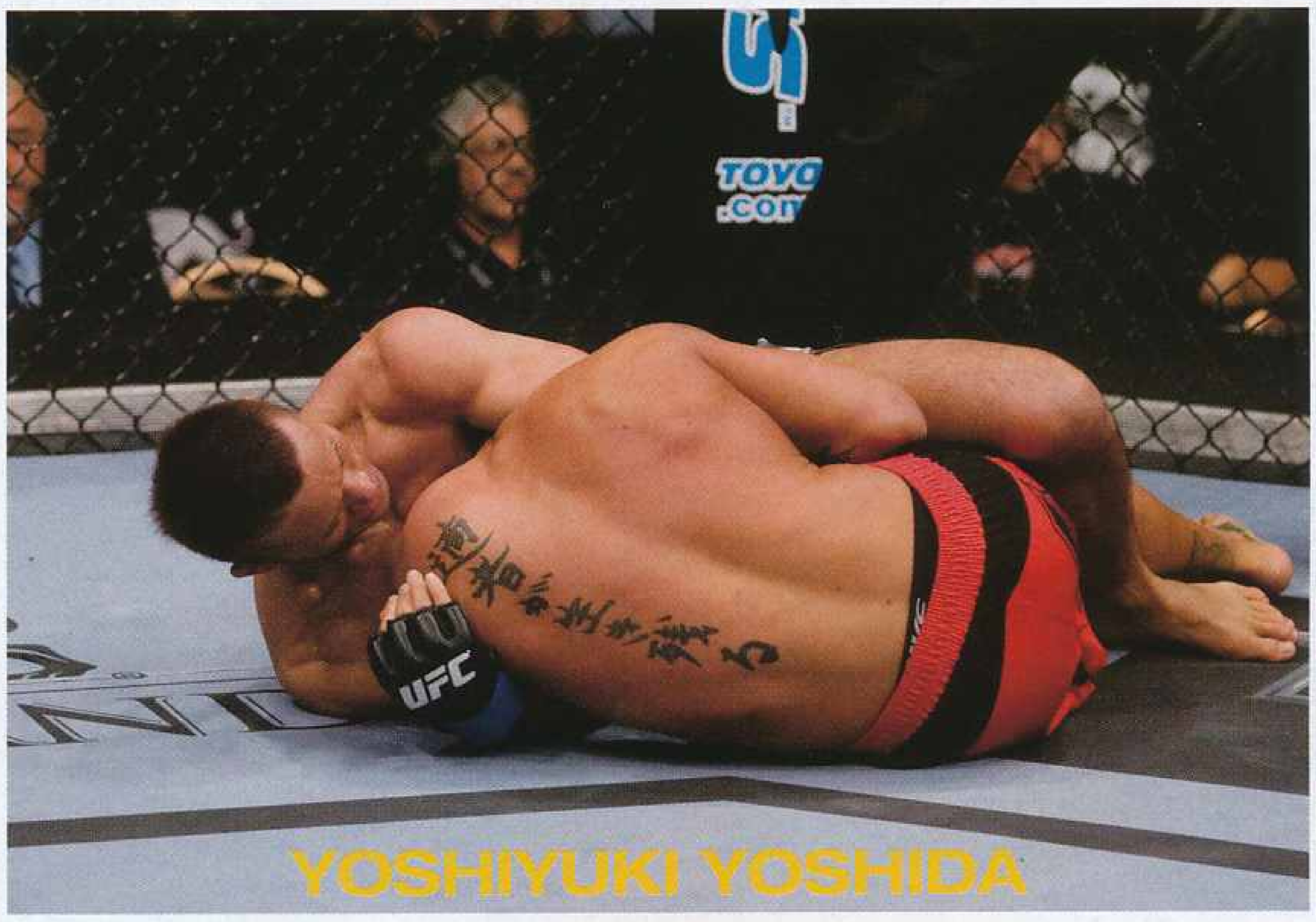
——そこは金網慣れしてるからこそ、かもしれませんね。あとUFCは試合後にリング上でインタビューを受けるんですが、受けてみてどうでした？

吉田　う〜ん。やっぱり通訳を通すと、「気持ちが伝わらないな」と思いました。

……あれは難しいですね（しみじみと）。

——ほとんどの選手が英語で話してるから、正直、チグハグ感もありましたね。

吉田　かなりグダグダになってたんで。そういう微妙な空気はヒシヒシ感じました（笑）。最後、インタビュアーもちょっ



［5.24 UFC84 ILL WILL］
米国ネバダ州ラスベガス MGMグランドガーデンアリーナ
○吉田善行 vs ジョン・コッペンハーバー×
（1R 0分56秒 アナコンダチョーク）
日本産の"金網ファイター"吉田のUFCデビュー戦。相手は『TUF』出身のコッペンハーバー。胴タックルで組みついてきた相手を払い腰で倒し、立ち上がろうとするところを一気にアナコンダチョーク！　吉田が鮮やかな秒殺勝利。

UFCのオクタゴンは日本の倍以上に感じた　でも、試合が始まったら、落ち着きましたね

と怒ってましたよね。だから、やっぱり英語を勉強しなきゃな、と。

——ええ、UFCを主戦場にする郷野（聡寛）さんも英会話教室に通ってますし、長南（亮）さんもアメリカに住んで、かなり上達してるみたいですから。

吉田　アメリカでやるんだったら、英語は必須科目でしょうね（と反省して）。

——金網慣れの次は、英語慣れが必要だ、と。しかもUFCとは4試合契約とうかがってますし、まだまだインタビューの機会はありますからね。

吉田　頑張らないとマズイですね（笑）。

——それから、吉田選手は凄く若々しいんですけど、じつは年齢的には34歳と意外といってるんですよね。

吉田　ええ、けっこういってます（苦笑）。

——じつは、同じ日に試合をしたヴァンダレイ・シウバやティト・オーティズのほうが若かったりしますからね。

吉田　あ、そうなんです？　でも自分では気にしてないんですよ。たまに「何歳だったかな？」って忘れちゃったり。ただ、34歳っていうと、ビックリされますけど。

——まだまだ現役バリバリですから。今後はどういう選手と闘いたいですか？

吉田　UFCって誰と当たっても弱い選手はいないんで。誰でも言われた人とやるしかないですけど……、あんまり強すぎる人はまだいいかな、と（笑）。

——吉田選手の階級はとくに強豪揃いですしね（笑）。同階級のジョルジュ・サンピエールやジョン・フィッチに興味は？

吉田　のちのちはやりたいですね。やっぱりUFCでやるならチャンピオンを狙わないと意味がないですから。

——ほう、そこは自信もある？

吉田　自信はそうですね……。一応、わりと持ってますね（笑）。

——頼もしいなぁ。吉田さんは日本の試合でも、判定負けはあっても一本負けもないですしね。

吉田　相手によりますが、寝技に関しても極められない自信は勝手に持ってます。

——最後に一つ気になったのは、趣味が「犬のしつけ」ということなんですが。

吉田　ハハハハ！　飼っているミニチュアダックスのしつけですね。名前は「シュウ」と言うんですが、その子が心配なんで、一刻も早く帰りたいな、と。

——犬のためにも気をつけて、帰ってください。ありがとうございました！

【08年5月25日（現地時間）／電話取材にて収録】

ということで、メイド・イン・ジャパンのオクタゴン養成ギプスをハメたUFCファイター・吉田善行は、いったいどこまでやれんのか？　郷野、長南だけではなく、この男の闘いにも刮目セヨ！

よしだ・よしゆき■1974年5月10日、千葉県柏市出身。東京イエローマンズ所属。元CAGE FORCEウェルター級王者。キャリア12戦中8試合が金網戦というケージのスペシャリストとして頭角を現わす。180センチ、78キロ。

ROUSIMAR “TOQUINHO” PALHARES

ホジマー・“トキーニョ”・ハルハレス



[5.24 UFC84 ILL WILL]
米国ネバタ州ラスベガス MGMグランドガーデンアリーナ
○ホジマー・“トキーニョ”・ハルハレス
vsアイヴァン・サラベリー×
(1R 2分36秒 アームバー)

BTTの新星がついにUFCデビュー。サラベリーのハイキックに合わせて一気にテイクダウン。サイドからバックマウントに移行しスリーパー。サラベリーの一瞬のスキから、トキーニョは腕十字を鮮やかに極め、劇的な一本勝利！

ついに、そのベールを脱いだ “BTTの新エース”はこの男だ！

文／堀江ガンツ　撮影／Josh Hedges（UFC）

ホジマー・〝トキーニョ〟・ハルハレス。その名前を初めて聞いたのは、たしか2年前。ブラジルに取材に行った際、ムリーロ・ブスタマンチが「将来、BTTにエースになるのが彼だ」と教えてくれたときが最初だ。

当時、日本ではまったくの無名だったが、ムリーロが「BTTの次期エース」と断言していたことで、いつか日本で観ることができるだろうと思っていた。

しかし、PRIDE消滅により、そのチャンスも失なわれてしまったが、今回、ついにUFCデビューというチャンスがめぐってきた。

そしてベールを脱いだトキーニョの実力はまさに本物。『戦極』ふうに言えばリアル。「BTTの次期エース」という言葉は本当だった。

トキーニョはK—1でも活躍したベテラン、アイヴァン・サラベリー相手に胴タックルからの豪快なテイクダウン。さらにマウント、バックマウントを奪い、チョーク狙いから腕十字に切り替え、見事な完勝。最高のUFCデビューを飾るとともに、ダナ・ホワイトからはサブミッション・オブ・ザ・ナイトの賞金、75000ドルが贈られた。

師匠ムリーロ・ブスタマンチは言う。

「今夜は彼にとって人生が変わる日なんだ」

トキーニョはブラジルの田舎町で、食べるものに困るほど貧しい家庭の出身。10人兄弟の3番目として生まれ、父が蒸発してしまったため、母に女手一つで育てられた。少年時代から農作業の手伝いと柔術の練習に明け暮れ、4年前、プロ格闘家になって母親を助けるべく24歳のときにリオに出てきて、BTTに弟子入りを志願した。

「BTTに入門を志願してきたとき、トキーニョは住む家がなく橋の下に住んでいた。そんな男が入門テストをさせてみると、BTTの柔術黒帯を破るほどの実力を見せた。そこで私は彼に最低限の住む家と食べるものを与え、BTTに入門を許可したんだ」

それから4年。トキーニョはムリーロの期待どおりの成長を見せ、UFCで衝撃デビューを飾った。

「彼は必ずミノタウロやパウロ・フィリオを超える選手になる。もう昨年の時点で、練習では圧倒していたからね」

昨年、ノゲイラ兄弟、パウロ・フィリオ、マリオ・スペーヒーなど、中心選手が離脱し設立以来最大の危機を迎えたBTT。名門を立て直すのは、4年前にムリーロに拾われた、この男を置いてほかにいない。

「今日から彼の人生は変わる。橋の下に住んでいた男が、世界中のMMAファンから尊敬されるようになるんだ」



どうだい、このダンディなツラ構え！　BTTに入門した当時は、橋の下に住んでいたという『あしたのジョー』ばりのハングリー精神がUFCの大舞台で開花！



大の大人が大興奮
“メガインディー”
UFC雑談

シウバ激勝もあり、大盛り上がりとなった『UFC84』。しかし、皆さんもお嘆きのとおり、現在日本でUFCを楽しむにはインターネットでPPVを購入しなければならないという、ややこしい手続きが必要なのだ。観たくても観られないという読者のために編集部でPPV観戦した大の大人が『UFC84』のおもしろさを語りまくりました!

試合撮影／Josh Hedges (UFC)

――今回の『UFC84』は日曜日の午前中から編集部に集まってもらい、ネットPPVをテレビ画面につないで観戦していただいたわけですけど。

椎名　男ばっかり集まって。いったん観だすと次の大会も観たくなるんだよね。「日曜の朝11時か……もっと眠りたい」と思いながらも、「今日は雨かあ……面倒くさい」と思いながらも。

――それでも足を運びますか(笑)。

椎名　で、今日は何よりショックだったのが、映像が止まる理由がパソコンのスペックだったってことかな。

――毎度毎度、ここぞという場面で画面が固まってきましたけど、ほかのPCに替えたらスムーズに観られて(笑)。

椎名　なんだよ、全然観れるじゃねえかっていうのが驚いた(笑)。

――高橋さんもUFCはネットPPVで?

高橋　はい。ネットPPVで観てました。ここ1年ぐらいですけど。でも、パソコンのモニターで観るのと、こうやってテレビで観るのって全然違うじゃないですか、そもそも。

椎名　一人で観てたんですか?

高橋　……カミさんと一緒に。

椎名　カミさんとパソコンで!　それも参加したかったです(笑)。

――そこまでして観たい、と(笑)。それ以外だと、『YouTube』とかで確認するしかないですよね。

高橋　荒い動画で観てましたよ。

椎名　それもなんか、やっとこさ見つけて、みたいな。ノゲイラがシルビアを極めたときは立ち上がって喜んだよ!

――編集部ではその瞬間、画面が固まったんですよ。それでも狂喜乱舞でしたけど(笑)。

椎名　でも、前はPRIDEの選手が負けてばっかりで悔しかったけど、ここ最近はそういうの関係なしで純粋にUFCとして観てるなっていう感じで。

高橋　今回もヴァンダレイ(・シウバ)だけでしたよね、思い入れを持って観れてたのは。

椎名　吉田善行選手も思い入れを持って観れましたよ。

――あれ、お知り合いか何かで?

椎名　いや、吉田選手の師匠は朝日昇じゃないですか?　相手を絞め落としたときに、朝日昇が(アレッシャンドリ・フランカ・)ノゲイラに落とされたときを思い出したけど(笑)。

――それ、思い入れじゃなくて思い出ですよ(笑)。でも、確かにレフェリーがなかなか止めに入らないのも含めて似てますね。

椎名　そうそう!　当時は「ギロチンでは落ちない」が定説だったから。

高橋　まあ、あとの試合は思い入れがなくてもUFCとして楽しめるというか。

椎名　なんか昔のPRIDEを楽しむ感じと一緒だよね。

高橋　そうですね。UFCというよりは、単純におもしろい試合を観たくて観てるって感じはありますね。

椎名　やっぱり一番最先端のMMAが観られるわけだから。

――椎名さんからすると、最先端はUF

雑談参加者

椎名基樹
本誌連載コラム『サムライ三昧』でおなじみのフリーライター&構成作家。最近のUFCは気になる試合のみ『YouTube』でチェックしていたが、ここ3大会は『kami pro』編集部でPPV観戦。

高橋ターヤン
『映画秘宝』をはじめ、映画やゲーム関連で活躍するフリーライター。UFCなど海外MMA事情にも詳しく、本誌でもおなじみのライター・橋本宗洋氏らと格闘技関連のトークイベントも開催している。

司会進行／ジャン斉藤(本誌編集長)

ヴァンダレイは素晴らしかった！勇気があって感動したよ！（椎名）

Cという感覚ですか?

椎名　そうでしょ。だって、新しいもん、闘いが。あとね、いいね、ケージは。アメリカでリングでやってるMMA団体ってあるの?

──あるはあるんでしょうけど、表立ってはないですね。

椎名　やっぱスポーツとして成り立っていく中で、最終的にはケージファイトってことになるんだと思うな。ケージでやるスポーツがMMAだってことだと思う。慧舟會でもそう言って（『CAGE FORCE』を）始めたんでしょ。やっぱりドント・ムーブはありえないなっていうのは感じる。やっぱりおかしいもの。

──あの瞬間、確かに緊張感は途切れがちですよね。

椎名　なくす。緩む。

高橋　ケージって僕、生で観たことないんですけど、観づらくないんですかね?

──でも、アメリカ人はそういうもんだと思ってるから。

高橋　ああ、最初からそういう意識でいれば問題はないですね。

──ロレンゾ・フェティータたちはリングのおもしろさを理解してて、PRIDEを買ったときに、アメリカでリングのブランドを作りたかったらしいんですよね。

椎名　なるほどね〜。でも、どっちの方向に行くかはまだハッキリ決まってないスポーツだけど、最終的にはケージになるだろうなって。で、リングは日本のアイデンティティみたいなもんになってると思うよ。

高橋　日本の観客の意識も総合格闘技はこういうリングでやるもんだっていうのがあるので、逆にケージには違和感あるかもしれないですね。

ソクジュに敗れたカズは契約解除？

──話題は変わりますけど、UFCのマッチメイクはどちらが勝つかわからないですよね。

高橋　ですよね。あと連敗同士でカードを組んだりするじゃないですか。

──UFCデビュー戦で負けた同士の中村カズとソクジュは、今回の試合で負けたほうが契約解除みたいな話も出ていましたし。

椎名　へぇ〜、シビアだねぇ。

高橋　カズは今回の敗戦で契約解除の可能性が高いですね。

椎名　これからどうするの?

──吉田道場のつながりから『戦極』参戦が濃厚とされてますね。最近は「UFCから離れる」＝「連敗したから」というイメージもあるので、ほかの団体は使いづらいと思いますし。

高橋　契約解除された選手を使うと、どうしても二軍感が出ますからね。ダナ・ホワイトはいつも「連敗したからって気にしないで、マイナーリーグで頑張ってまた上がってこい」なんて言ってるんですよ。それも凄い屈辱だなと思って。ミルコとか、まさにそんな出され方をしてるじゃないですか。

椎名　まあ、ミルコの場合はDREAMに来てくれたからオッケーなんだけど（笑）。でも、プロとしては当然っちゃ当然の扱いだけどね。

高橋　そのぶん「負けてもいい試合したら」っていう考え方があんまりないところが、ちょっと寂しいっていえば寂しいですけどね。

──このあいだのUFCで弘中邦佳が負けましたけど、いい試合だったってことで「ファイト・オブ・ザ・ナイト」で700万円近くボーナスが出たんですよ。それにも関わらず、その後、契約を打ち切られたりしてますし。

椎名　それも凄い話だねえ。

高橋　ダウンを奪い合う素晴らしい攻防で特別ボーナスをもらったのに、「連敗したからサヨナラ」みたいな感じで。

椎名　でも、そんなにボーナスが出るの?

高橋　UFCってトップどころ以外のギャラは低く抑えてあるんですよ。基本給を高くすると、それで満足しちゃうだろうと。でも、いい試合をしたときのボーナスが高いんです。



こいつが噂の“おしゃべりマシーン”ジョー・ローガンだ!

右側の人物がUFCのテレビ中継の解説とコメンテーターを務めるジョー・ローガン。試合後にはオクタンゴン内で、勝者、敗者問わずマイクを向け、自分勝手なインタビューをする名物男だ。

──今回の「KO・オブ・ザ・ナイト」はヴァンダレイみたいですね。

高橋　じつはシウバも今回、負けたら契約打ち切りの可能性もあったみたいですよ。前回のチャック・リデル戦は年間ベストバウトと言われるぐらいの試合だったのに。

椎名　シウバでもそうなんだ。凄い世界だなぁ。

──アメリカ人のメンタリティってそういうものなんですかね? 意識してそういう世界観を作ってるとはあまり思えないんですけど。

高橋　ダナのメンタリティじゃないですかね。わかんないですけど（笑）。

椎名　あと今回思ったのは、UFCがWOWOWでやってる時代のスターだったティト（・オーティズ）が、すっかりオールドファッションって感じで、LYOTO戦を見るかぎり、ちょっと勝てないだろうなって。

高橋　そうですね。まあ、（フォレスト・）グリフィンともけっこういい試合はしてたし、LYOTO戦でも三角絞めを極めかけたり、ティトも決して弱くはないんですけどね。

──LYOTOは強いし、なにげに無敗記録を更新してるんだけど、いまだタイトルマッチの声がかからないのは……。

椎名　凄くわかるね（笑）。試合を観るとわかる気もしますけど。

──一歩踏み出せば、倒せるだろ!って（笑）。とてもアントンの弟子だったとは思えないですよ!

高橋　前回、LYOTOはソクジュに一本勝ちして、ダナが「オレはいままでLYOTOのことは嫌いだったけど、今回の試合でかなり見直した」みたいなことを言ってたんですけど、今回の試合を観たらまたちょっとチャンピオンシップは遠のいたんじゃないかなって。

椎名　でも、ヒット&アウェーっていうか、LYOTOの戦術ってUFCだと成り立っちゃう気がしない?

──そこなんですよねぇ、このジャンルの難しいところは。

椎名　あの闘いができるのも打撃も寝技もしっかりとできるからだとは思うんだけど……。それに引き換え、ヴァンダレイは勇気があったよね!

高橋　素晴らしかった!

椎名　勇気があって感動するよ!

──「勇気がある」ってシンプルですけどいい言葉ですね（笑）。

椎名　あの試合を観たら「勇気あるなあ!」ってなりますよ。「エライ!」っていうか。ヴァンダレイってさ、初めの頃はただの野人だと思われてたでしょ?

──イメージ的にはそんな感じでしたよね。

椎名　最初はクル●ル●ーだと思ってたけど（笑）、英語を覚えるのも早いし、頭のいい人なんだなって凄い思ったね。

──ヴァンダレイのエピソードで大好きなのは、彼はヒョードルと仲がいいんですけど、あるときヴァンダレイが「ヒョードル、おまえはプロレスを観たほうがいい」ってアドバイスしたそうなんですよ（笑）。要するにサイコロジーの勉強しろってことなんでしょうけど。

椎名　そんなこと言ったんだ、スゲー!（笑）。

──そのへん、ヴァンダレイは観客論をよく理解してるなって感心しますね。

椎名　それこそシウバなんて、まだUFCでは知られてないのかなって思ってたら、凄い歓声を受けてたし。

──そこはPRIDE時代のヴァンダレイの映像がバンバン流れてるという理由もあるんでしょうけど。

椎名　そうか。PRIDEが買収された意味はそこにあるのか（笑）。

──いまやPRIDEのオフィシャル映像は、UFCの煽り映像でしか観られないという（笑）。

椎名　ホント寂しいよねぇ。いまだネットPPVでしかUFCは観られないし。

［ライト級タイトルマッチ］
○B.J.ペン（王者）**vsショーン・シャーク**（挑戦者）**×**
（3R 終了時 TKO）

現王者と前王者が激突！　シャークは禁止薬物の陽性反応でタイトルを剥奪されて以来10カ月ぶりの試合。試合は随所でペンがシャークを圧倒する展開に。最後はジャンピング・ニーからのパウンドでペンが文句なしの勝利をゲット！





○LYOTO vs ティト・オーティズ×
（3R 判定3-0）

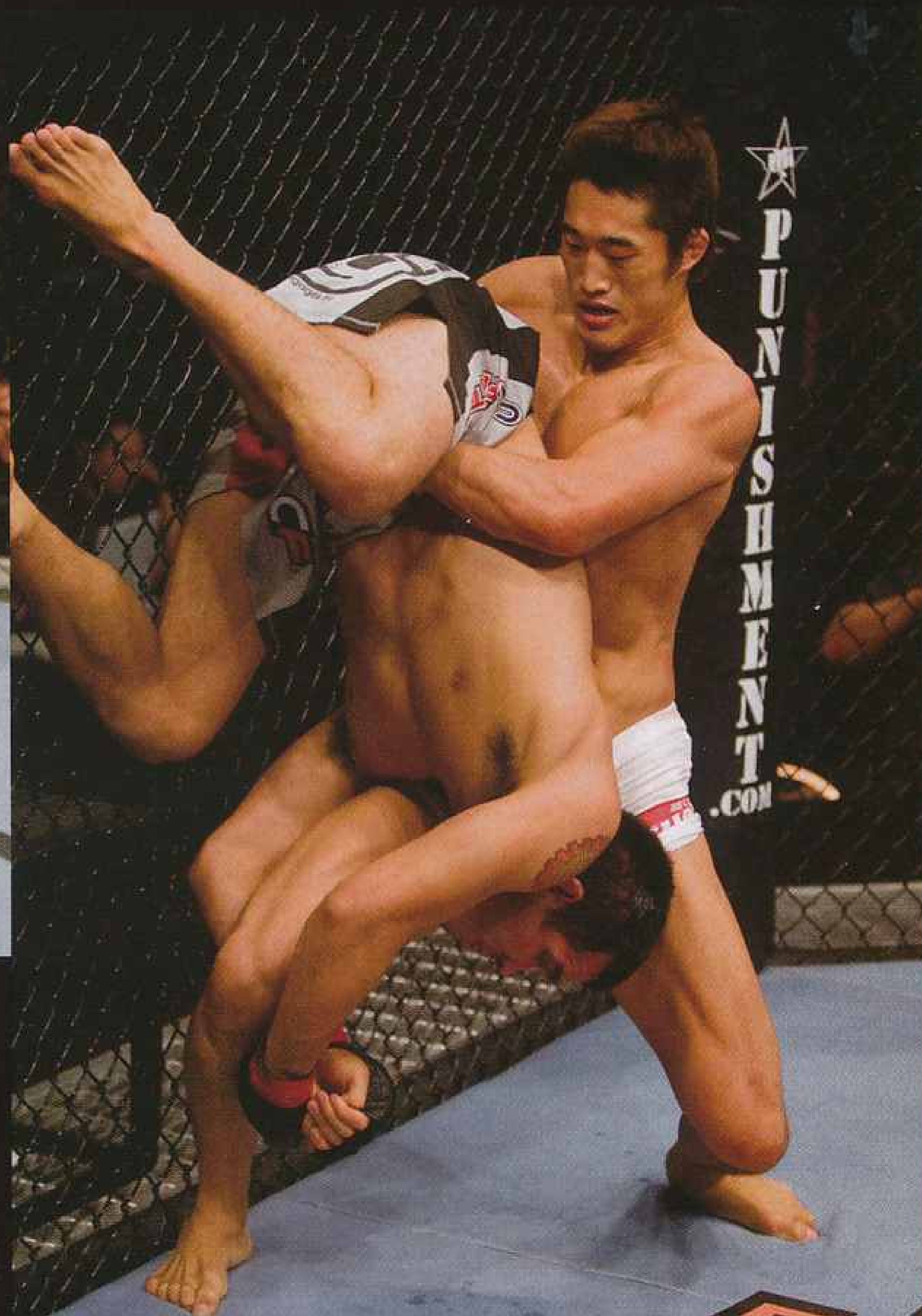
ティトのUFCラストマッチとなったこの試合。ティトが3ラウンド終盤に三角絞めでチャンスを握るもLYOTOは間一髪で脱出。結果は終始つかず離れずの戦法でポイントを重ねたLYOTOが判定勝利。ようやくタイトル戦線に絡めるか？

5.24 UFC84 ILL WILL
米国ネバダ州ラスベガス MGMグランドガーデンアリーナ
主要試合レビュー



○ソクジュ vs 中村和裕×
（1R 終了後 TKO）

敗者は契約解除とも噂されるこの一戦。1ラウンド終盤、ソクジュの右フックで崩れ落ちたカズ。ブザーに救われたかに見えたカズだったが、イスに座れないほどのダメージを見て、レフェリーが試合をストップ。どうする、カズ!?



○キム・ドンヒョン vs ジェイソン・タン×
（3R 0分25秒 KO）

韓国人初のUFCデビューとなったドンヒョンがタンを寄せつけず、終始試合を支配。圧巻は2ラウンドに見せたゴッチ式パイルドライバー！　最後は豪快な払い腰からヒジを振り下ろしてTKO勝利！　まさにコリアン・センセーション！



○ショーン・カーウィン vs クリスチャン・ウェルシュ×
（1R 0分44秒 KO）

かつてWJの長州力がプロデュースした『X-1』で佐々木健介と対戦経験を持つウェルシュ（フロントネックロックで秒殺負け）がカーウィンの右フックからのパウンドで秒殺負け。ウェルシュはマグマのような活躍は見せられず、ヴァー！

残念ながらMMAの本場は完全にアメリカに移ったって感じですね（高橋）

——今回は日本がらみの注目カードは全部、ダークマッチですよ！（笑）。たまたまPPV枠の試合が早く終わったから、おまけで流れましたけど。

高橋　日本でテレビ放映するつもりもないみたいだし、大会を開く予定もないから、日本人をプッシュする必要性は感じてないでしょうね。

日本が誇れるのはライト級だけ？

椎名　今回のショーン・シャーク戦を観てあらためてBJペンの強さには驚かされた！　もう、ボクシングテクニックはほかの人とランクが違うって感じで。

高橋　あの五味に打ち勝ってるわけですし、それでいて、もともとはグラップラーですからね。柔術の黒帯でムンジアルでも優勝してますから。ただ一人だけ非ブラジル人のチャンピオンで。

椎名　ムンジアルのチャンピオンっていうだけで尊敬できるよ！

——一方、ショーン・シャークには「ステロイド！」コールがずっと起こってたらしいです、試合中に（笑）。

高橋　シャークは前回のタイトルマッチで勝ったんですけど、勝ったほうも負けたほうも両方ステロイドの陽性反応が出ちゃって、両者リングアウト負けみたいな感じになって。

椎名　なるほど！（笑）。

高橋　で、BJペンはショーン・シャークを今回倒しちゃったことで、倒すべき相手がもういないんですよ。

椎名　じゃあ、青木選手とやろうよ！

——それは観たいですねぇ。

椎名　現実的に難しいっていうのはわかるんだけど、やっぱり青木真也vsBJペンとか観たいよなぁ。

——現地の声によると、アメリカの関係者は口を揃えて「青木真也UFC待望論」を唱えているみたいですね。

椎名　ほかの選手はだいたい試合展開が想像ができるんだけど、青木選手がどう闘うのかは興味があるなぁ。あと、DREAMに出てるエディ・アルバレスとかは、どうしてUFCに出てなかったんだろう、みたいな。

——まだDREAMのほうが条件がいいんじゃないですか。あの階級はまだアメリカでも食えてないみたいですからね。

椎名　え、UFCでも？

高橋　食えてるのは、まだ一部ですよね。ズッファの中・軽量級ブランドWECもあまりうまくいってないみたいですし、有名な話としては、エルメス・フランカがタイトルマッチ直前にケガをして、ここで欠場するとただでさえ貧乏なのに極貧になる。だからステロイドを使ってまで出場したんです。

椎名　そんななんだ。でも、それもだんだん変わってくるんだろうなって感じはするよね。

高橋　いま以上に観客の目が肥えてきたら軽量級のテクニカルな試合も好まれるようになると思いますね。

——軽い階級だったら、DREAMのほうがおもしろいと思いますね。個性もそれぞれ際立ってるし。

高橋　確かにDREAMのライト級とか凄くおもしろいですからね。『DREAM・3』も凄かったですし。

椎名　じゃあ、日本が世界に誇れるのはライト級だけなんだ（笑）。だったら、BJペンが日本に来てほしいよなぁ。

——ただ、いまのUFCのほうがメジャー感が漂ってるんですよね。実際におもしろいかどうかは別として、おもしろそうだなって雰囲気が凄くあって。ネットの動画で冷静に観たら、けっこうつまらなかったりするもかもしれないんですけど（笑）。

UFC雑談



武藤のシャイニングウィザードばりのヒザ蹴りでシャークを下し、ライト級王座を防衛したB.J.ペン。試合後には以前判定負けを喫しているGSP戦をアピールしたが、ゆくゆくは青木や、五味との再戦も観たいぞ！

高橋　でも、残念ながらMMAの本場は完全にアメリカに移ったって感じはしますよね。こうやって何大会か観てるだけでも。

椎名　それは凄いする！

高橋　10年前はヴァンダレイとティトが日本でUFCのタイトルマッチをやってたはずなのに（笑）。

——で、このUFCがアメリカではジャンルとしてはインディーだっていうのが凄いですよね。

椎名　インディーってどういう意味で？　人は集めてるし、PPVの契約数もそこそこ凄いけど、それでも知る人ぞ知る状態だってこと？

高橋　そうですね。結局、200万人ぐらいの視聴者がいても、アメリカの全人口からすればまだまだ掘り起こせるパイはいっぱいあるっていう意味ではインディーでしょうね。

椎名　PRIDEもじつはそうだったでしょ。マニアが観てるだけって感じで。

高橋　一般の人はK−1と区別ついてなかったですからね。

——やっぱり格闘技って、根っこはマニアが集うインディーじゃないと圧倒的な爆発力は生まないですよね。

椎名　そういう意味では、これからもずっとインディーだと思う。ボクシングみたいに組織が大きくなってメジャーになるのかなっていうか、なったらいいなって思ってた時期もあったけど。

——椎名さんはMMAがメジャーになるのが夢だったりするんですか？

椎名　そうなりゃいいなと思ったんだけど、最近なるわけないなとやっと気づいて。

高橋　何かきっかけでも？

椎名　ボクシングを最近よく観てるんだけど、「これになるわけないな」って思うんだよね。俺はボクシングが邪魔だと思う。ボクシングがなければなるかもしれないけど。格闘技はあそこでもう集約されちゃうだろうなって感じがするし。だから前田日明が「総合格闘技の黎明期だ」ってよく言ってるのは、そういう側面もあるけど、それは大きな間違いで、もしかしたら、運がよければ黎明期かもしれないけど、いまがもの凄くブームの一時期なのかもしれない。

——その可能性は非常にありますね。

椎名　とは言いつつ、なくならないなって感じもするんですよ、ここまできちゃったら。

——闘うっていうことは人間の本能的なものでもありますし、興味は絶えないとは思いますし。だから人間の本能をくすぐるインディーでありながら、ここまでメジャー感を漂わせるのは凄いですよね。メガインディーですよ。

椎名　そうそう、インディーでありつつメガであることが重要だと思いますよ。インディーが大きくならなきゃ成り立たないもんね。たとえばサザンオールスターズが100万枚売れても、「たった100万人しかいねえじゃん、日本には1億人いるのに」って感じでインディーでしょ。でも、100万人のコアなサザンファンがいながらも、一般的知名度も凄い。ポッと出じゃないよね。格闘技もそうなってほしいな、と。で、次は『UFC85』じゃないですか。『UFC1』はホイスから始まってるってところがカッコいいよね。

——最先端でいながら、重厚な歴史もありますからね。

椎名　その頃とは違う団体みたいなもんだけど、そこが凄いっていう。

高橋　93年に始まって十何年かけて大会数が40ぐらいになったのに、ここ2〜3年で一気に倍になっちゃってるんですよね。最近は毎月やってますから。

——では、次のUFCも、また編集部で仲良くネットPPV観戦できればと思ってますので、よろしくお願いします！

椎名　また、モノ好きな野郎どもが昼間っから勢揃いする、と（笑）。

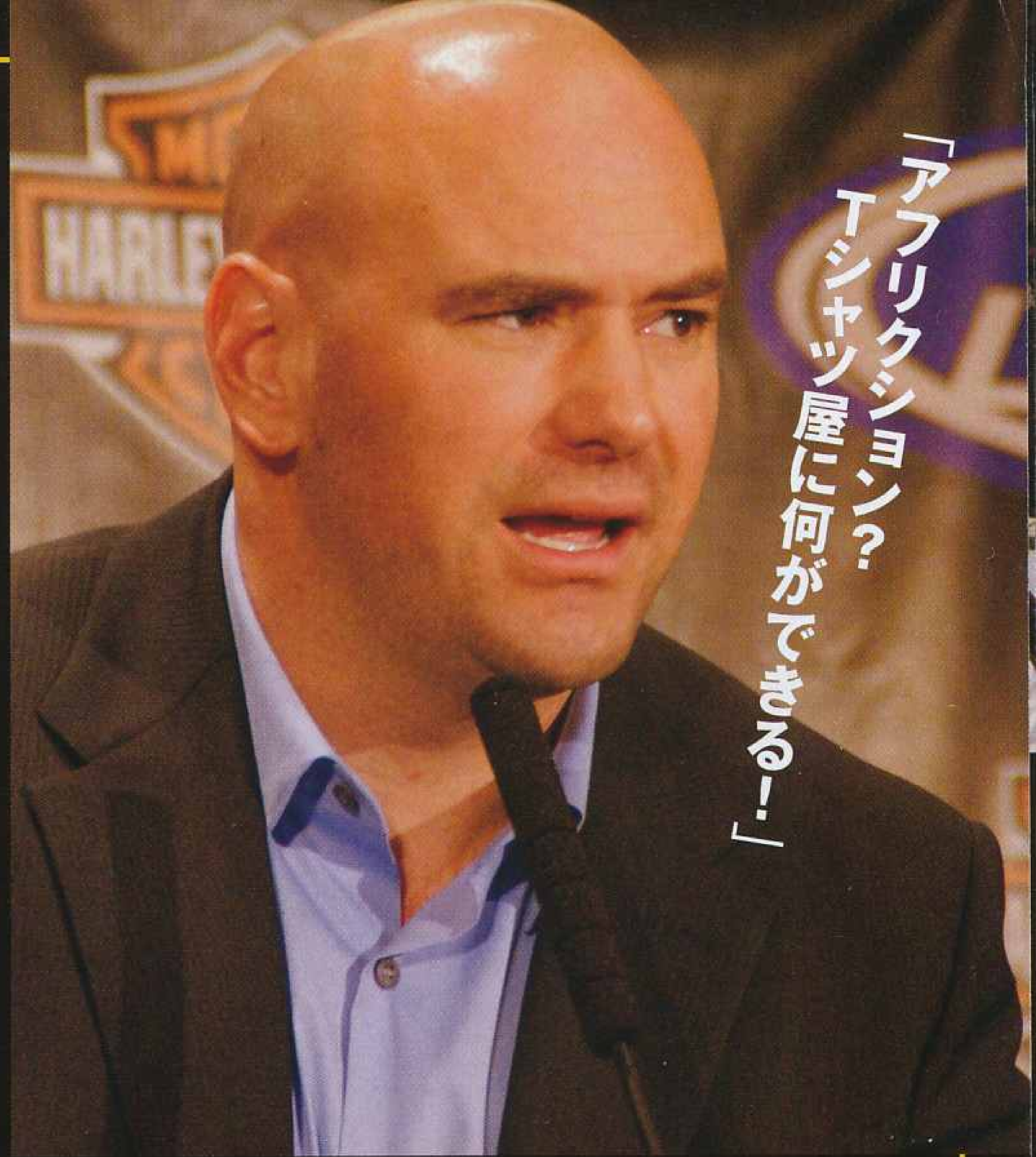
【08年5月25日／『kamipro』編集部にて収録】

“発動するリアル”（『戦極』煽りV調）

ダナ・ホワイト語録

大会のたびに試合とともに注目を集めているのがUFC代表ダナ・ホワイトの言動だ。大盛況となった『UFC84』はチケット売り上げだけでも370万ドル（約3億8000万円!）を記録し、上機嫌のダナは、今回で契約の切れる“天敵”ティトからライバルイベントに対してまで、いつにも増して暴言三昧! というわけで、大会後のダナの毒舌を一挙公開! “発動するリアル”とは、この男のことだ!　シャキーン!!（『戦極』ラウンド10秒前の効果音調）

構成／阿修羅チョロ　撮影／堀江ガンツ



「アフリクション？Tシャツ屋に何ができる！」

（今回のLYOTO戦でUFCと契約が切れたティト・オーティズと再契約するつもりはあるのか？）

ダナ　ティトとのことに関してはたくさん質問があると思うが、最初にハッキリさせておきたいのは、**ティトとの個人的な問題はリアルなことで、盛り上げようと思って演出しているわけじゃない**ってことを理解してほしい。本来なら彼と二人で話し合いの場を持たなければいけないことはわかっている。二人でちゃんと話したことなんて遠い昔のことだからね。まあ、そういう状況だから、契約とか今後のことはそれからの話だよ。

（※ここで、ティトが「UFCはオレにこうしろだとか、あそこに行け、ここに行けとか勝手なことばかり言うんだ」と不満げに吐き捨てる）

ダナ　（無視して）ティトがこの場に出てきてくれたのは光栄なことだ。今後のことは彼自身が決めることだと思うが、**ここで何を言おうがティトの判断だし勝手なことだ。そんなことよりも試合のことを話そう！**

（ティトがUFCに残る可能性は？）

ダナ　（質問者を睨み）**何回同じ質問をすれば気が済むんだ？**　さっき言ったとおり、まずは大人がやるようにティトと話し合う機会を設けないといけない。だが、我々は大人の話し合いはできない関係なんだ。**彼と同じテーブルにつくには、お互いにカウンセラーが必要だろう**ね。

エリートXC？ テレビのフリークショー企画にはまったく興味がない！

（一週間後に5・31『エリートXC』ニュージャージー大会がCBSで放送されるが視聴率は気になる？）

ダナ　その大会の視聴率をどう評価しろっていうんだ？　UFCと比べるものではないと思っているし、間違いなくベストファイターはUFCのファイターだ。CBSで放映される大会のメインはキンボ・スライスだろ？（今回のメインの）**BJペンとキンボをどう比べろっていうんだい？（呆れた顔で）**。もちろん、ネットワークを持つテレビ局との契約は重要なことだが、簡単な道を選んで安売りをしてUFCの価値を落としたくないんだ。それに**テレビのフリークショーを企画してるヤツらはほとんどが大卒で、どうすれば簡単にビジネスとして成り立つかってことばかり話してくる**んだ。だが、我々は違う。将来を見つめて、もっと大きなビジネスになるように間違った選択をしたくないんだ。テレビのフリークショー企画にはまったく興味がないね。

（エメリヤーエンコ・ヒョードルvsティム・シルビアをメインに7月19日に旗揚げされる『アフリクション』（母体は大手アパレルメーカー）については？）

ダナ　**『アフリクション』？　〝ファッキン〟Tシャツ屋だろ？（うんざりした表情で）。ここ数年、毎朝起きるとUFCに対抗しようと新しいMMAショーのニュースが飛び込んでくる。K―1、PRIDE、M―1、B―1、D―1、E―1……、それで今度はTシャツ屋**だ。ボクシングのプロモーターもいたな（笑）。だいたい、Tシャツ屋に何ができるっていうんだ。現実を見てみろよ。みんなCOME&GOで、新しい団体を作ってもすぐにいなくなってしまうじゃないか。**我々は、そいつらと違ってMMAというスポーツが大好きだし、今後どうやったらいいのか10年先までプランを立てている**んだ。しかも、どうやったらいいのかだけじゃなく、しっかりと実現させてきている。北米の市場においてもコミッショナーの認可が下りていないのはマサチューセッツ州、ニューヨーク州、テネシー州の3つだけ。テネシー州はもうすぐ認可が下りると思うし、マサチューセッツ州も承認処理の最中だ。ニューヨーク州でも認可されることを期待している。ほかのイベントの連中はUFCが認可を取るのを待っている状況だろうが、**UFCは全州でMMAの認可を取るという計画を待っているだけじゃなく、自分たちの力で実現させてきているんだ**よ。まあ、ほかのことでも同様だけどな（ニヤリ）。

（6・7『UFC85』ロンドン大会が2週間後に迫っているが、今後の海外戦略については？）

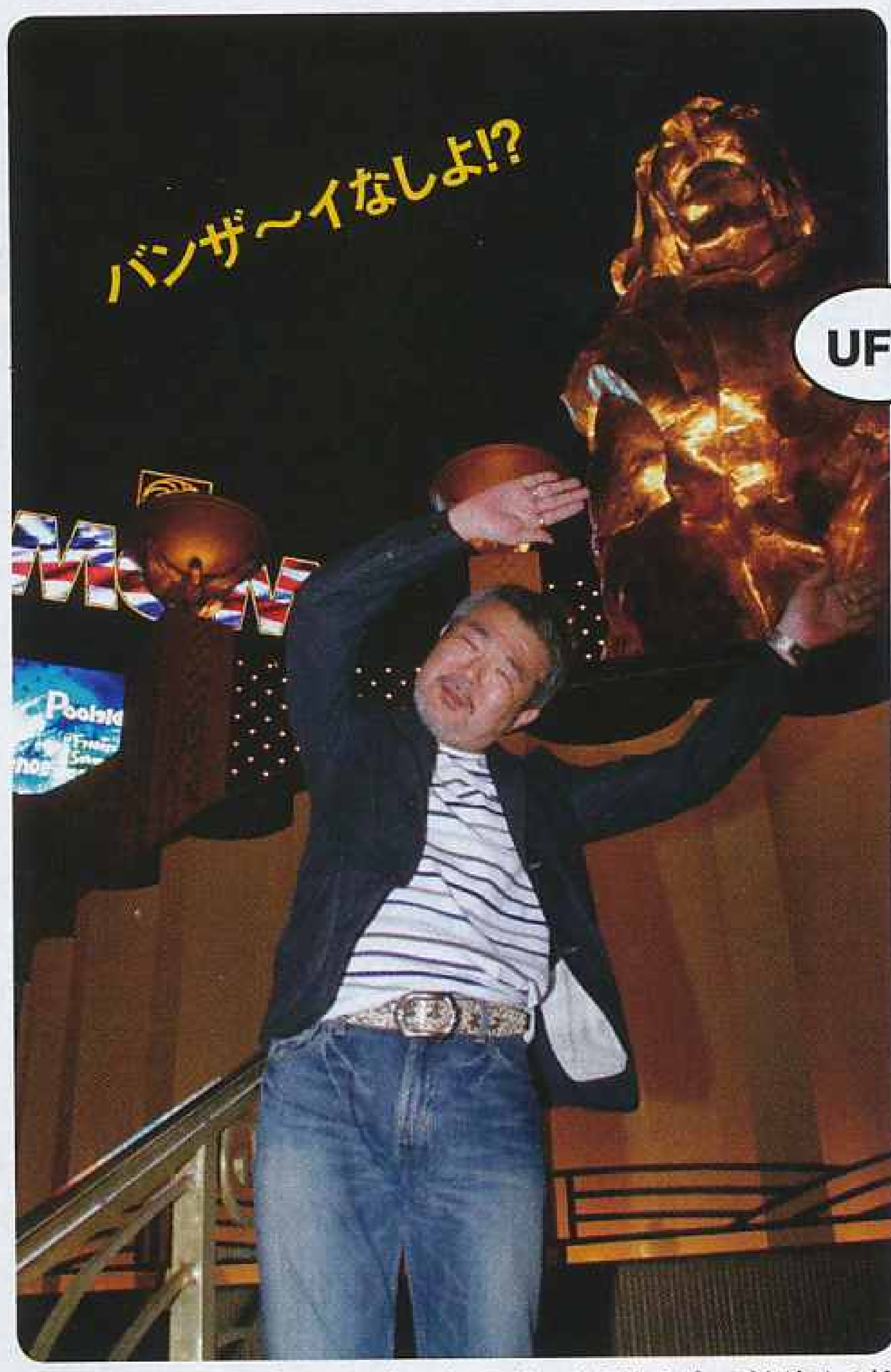
ダナ　これから**来年にかけてもっと積極的に世界展開をする予定だ。フィリピン、ドイツ、オーストラリアはすでに決まってるし、日本をはじめ、そのほかの国とも話をしている最中だ**よ。そろそろ最後の質問にしたいんだけど、**もうオレとティトへの質問はないのか？**

（報道陣から笑いが起こる）

ダナ　じゃあ、**今日はここまでだ。みんなありがとう！**



大会後のプレス・カンファレンスにはB.J.ペンやヴァンダレイとともにダナと犬猿の仲のティトもサングラス姿でふてぶてしく登場。数年前は蜜月だった二人だが、いまはガチで仲が悪いらしく、ダナも「二人の関係はフェイクではなくリアルで悪い」と100パーセント・リアル宣言！　ティトよ、どこへ行く？



会場となったMGMグランドガーデンアリーナの前でポーズを決める松林。『紙プロ』本誌時代には自分自身をプレゼントコーナーに出品したりもしていたお茶目な●歳。



“本誌・編集次長”

松林貴の UFC ギャンブル大将!!

ラスベガスといえば切っても切り離せないのがカジノ!
もちろん、おおいに盛り上がった今回の『UFC84』も賭けの対象となった。
そうとなれば黙っちゃ言られないのが本誌・編集次長の松林貴!
「ベガスの夜は俺のもの!」とばかりに繰り出したが結果は……?

文／鈴木佑　イラスト／イリ・チャンチン

3の倍数（オッズ）と3が付く数字（三度笠）のときだけお金をスリます？

ラスベガス大会の恒例企画といえばギャンブル大将！　文字どおりの〝格闘セレブ〟（プチ）になるために一攫千金を目指し、バブリーなアメリカMMAシーン景気の恩恵に少しでもあやかろうと、今回も〝本誌・鬼の編集次長〟こと松林が勇んでベガスに乗り込んだぞっ！

異常人気となった今大会のチケットは早々とすべてソールドアウト。松林によれば、会場外にて行なわれたクローズドサーキットにも、入りきれないくらいの人が詰めかける白熱ぶりだったとか。また、インターネット等で予約したチケットをピックアップするボックスオフィス周辺には大会前日からダフ屋やチケットを買えなかったファンが大勢たむろし、窓口でチケットをピックアップした人に片っぱしから「いくらでも出すから譲ってくれ！」と懇願している姿を目撃。加速するアメリカのMMAバブルを目のあたりにして、思わずニンマリする松林。これだけの盛り上がりがあれば、ギャンブラーにとっても賭けがいがあるというものだ。

単なる金儲けに終始せず、ギャンブルにはストーリー性を持たせることを身上としている、ドリーミーな〝ロマン派ギャンブラー〟の松林。今回のテーマはズバリ「やれんのか!?　PRIDEファイター！」に決定!!　これまでUFCには、PRIDE消滅に前後するかたちでミルコ・クロコップをはじめ、ダン・ヘンダーソンやマウリシオ・ショーグンなど、われわれ日本人にとってなじみの深いファイターが数多く参戦。しかし、〝世界最高峰のリング〟でしのぎを削ってきたファイターたちは、金網の現実の前に軒並み敗北を喫してしまう。この現状に歯がゆさを感じていた松林は、溜飲を下げさせてくれとばかりに、PRIDEで一時代を築いた〝ミスターPRIDE〟ヴァンダレイ・シウバと、中村和裕に迷わずベット！（中村の相手のソクジュもPRIDEファイターだが、PRIDE参戦回数は中村のほうが多いという理由でチョイス）。

まず、松林はオッズ3倍の中村に500ドルをベット（決して倍率になびいたわけではない）。UFCサバイバルマッチと目されたこの一戦で、中村に思いを託した松林は、試合後に「VIVA！JUDO！」と喝采したいところだったが……。中村は前日計量でのガッツ石松ばりの三度笠姿が「つかみはOK牧場！」とならなかったのが災いしてか、無念の敗北。「3の倍数（オッズ3倍）と3がつく数字（三度笠）のときだけお金をスリます」といった展開で、手元からは500ドルがスルリ。いきなりのPRIDE危機……!?　しかし、シウバにはさらにその上をいく1000ドルをベット！　一、十、百、1000ドル、1000ドルッ！

このサムライスピリットあふれるおもいきったベットが功を奏したか、松林の「やれんのか!?」の問いかけに対して、シウバは「ヤルゥ！」と吠えんばかりに目の覚めるようなKO勝ち！　このシウバの豪快な勝利によって、今回の松林の収支は差し引きプラス55ドルに。日本円でいうと約5500円……う〜ん、正直微妙！

『kamipro』の〝髭男爵〟松林としては、ひと儲けして「ルネッサ〜ンス！」と、世界一の歓楽街で勝利の美酒に酔いしれたかったところだが、結果的には「バンザーイなしよ」といったかたちに。まぁ、ちょいと一杯ひっかけるにはちょうどいいあぶく銭かと、自分を納得させる〝庶民派ギャンブラー〟の松林なのであった。



前日計量に中村は日本を誤解してくれといわんばかりの姿で登場、全米大喚震！　そして三度笠を被ったまま計量に臨むと、あえなく体重オーバー。三度笠を取ってなんとか計量をパス。



砂漠の不夜城・ラスベガスに砂嵐（サンドストーム＝シウバの入場テーマ曲）が大発生！　「これぞヴァンダレイ！」と叫びたくなる勢いでシウバは快勝、海を越えてPRIDEの魂ここにあり！

『UFC84』ラスベガス大会 オッズ表

ヴァンダレイ・シウバ	1.555倍	1000ドル BET!!
キース・ジャーディン	2.5倍	
ラミュー・ソクジュ	1.4倍	500ドル BET!!
中村和裕	3倍	

［その他の試合のオッズ］
B.J.ペン—1.454倍／ショーン・シャーク—2.7倍
ウィルソン・ゴベイア—1.714倍／ゴラン・レジック—2.1倍
ティト・オーティズ—2.7倍／LYOTO—1.454倍

松林貴の賭け収支表

【ギャンブル大将の必勝ポイント!】→“PRIDEファイター”2点買い

ヴァンダレイ・シウバ（1.555倍）に“1000ドル”をベット!
555ドルの利益!

↓

中村和裕（3倍）に“500ドル”をベット!
500ドルの損失

↓

［収支結果］
利益「555ドル」＋損失「500ドル」
55ドルの利益!



UFC帝国を脅かす新興勢力『アフリクション』とは何か?

**UFC帝国を脅かす新たなイベントが誕生!
"最強皇帝"エメリヤーエンコ・ヒョードルのアメリカ上陸を実現させた『アフリクション』が、ついに7月19日に旗揚げする。
すでに5月20日と22日にアメリカで記者会見を実施。ヒョードルに加え、対戦相手のティム・シルビア、ジョシュ・バーネット、ペドロ・ヒーゾ、マット・リンドランド、レナート・ババル、アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ、エメリヤーエンコ・アレキサンダーという超豪華なファイターの参戦を発表した。MMA界に突如として現われた新プロモーション『アフリクション』とは、いったい何者なのか!?**

文／大川義之　写真提供／アフリクション

正体は人気アパレル企業!!

『アフリクション』は05年8月に設立された新興ファッションブランドである。同ブランドの共同経営者であるトム・アンテシオ氏は、もともと大会運営を手伝ったり、カメラマンとしてMMAビジネスに関わりを持ってきた人物。彼らはブランド立ち上げ以降、ジョシュ・バーネットをはじめとして多くのMMAファイターをスポンサードしてきた。

これまでに契約した選手は、ランディ・クートゥアー、ジョシュ・バーネット、クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン、ジョルジュ・サンピエール、チャック・リデルなど錚々たる面々! 広告塔である彼らの活躍によって『アフリクション』は、定番MMAブランドとしての地位を確立し、さらに幅広い富裕層からの支持もゲット。ブランド立ち上げから数年で、アパレル業界内でフォロワーが登場するほどの大成功を収めたのだった。

また、今年初めに撮影した『アフリクション』のCMにはロック界の大御所、オジー・オズボーンをはじめ、数多くのアーティストが出演! MMAファイターではクートゥアーとヒョードルを登場させて話題を呼んだ。だが、この内容が、UFCのダナ・ホワイトを警戒させた。

当時、クートゥアーは「格闘家としての自分のキャリアは残り少ない。できれば"世界最強"と言われるヒョードルと闘いたい。彼と闘えない団体でこれ以上闘うつもりはない」と、当時ヒョードルの獲得に否定的だったUFCからの離脱を表明していた。



『アフリクション』は記者会見もLA&NYで開催するド派手ぶり！　ヒョードルの隣にはジョシュの姿も！　旗揚げ戦で両者が勝てば、二人が対戦する計画もあるとか。観てぇ！



元UFCヘビー級王者の超大物と“最強皇帝”ヒョードルが激突!!

そのクートゥアーとヒョードルを一緒にCMに出演させたこと、そして、『アフリクション』がオスカー・デ・ラ・ホーヤの『ゴールデンボーイ・プロモーションズ（以下、GBP）』と手を組んで新団体を旗揚げするという噂があったことで、ダナは『アフリクション』を“競合企業”と断定し、UFCの大会で選手が『アフリクション』のブランドを着ることを禁止。

結局、UFCに追放された『アフリクション』は、のちに自らMMA大会を開くことを公表。結果的にダナの直感は正しかったことになる。

だが、『アフリクション』は旗揚げ戦の記者会見を行なうまで、パートナーのGBPとの関係解消、テレビ放送をもくろんでいたHDnetとの交渉決裂（現在はFOXスポーツでアンダーカードの放送が決定）、UFCに続き、『エリートXC』にも締め出されるなど、文字どおり“アフリクション（苦悩）”を味わっていた。

だが、彼らは意に介さず、大会のサブタイトルに“BANNED”（はじかれ者／禁止された者）と名づけ、ふてぶてしく開き直る。

多くの評論家が指摘するように、ヒョードルはアメリカではまだ無名であり、彼らがMMA界で、まだ何もなしていないのは事実である。だが、『アフリクション』は、これまでに現われた新興MMAプロモーションと違い、アメリカで広く浸透したブランドであり、絶大な知名度を誇るという強みを持つ。彼らは契約した選手だけでなく、『アフリクション』ブランドを身に着けた一般人ですら広告塔にできるのだ。

また、豊富な資金力を背景に“最強”ヒョードルを獲得したことで、『アフリクション』はUFCの存在を脅かす“切り札”、そして強力な“ストーリーライン”をも手に入れた。アメリカで知られていないヒョードルが、UFCヘビー級王者に二度も登り詰めたシルビアを倒せば、クートゥアーとの夢の対戦も一気に実現に近づく。

クートゥアーと『アフリクション』は、クートゥアーのオリジナルブランドを生産するビジネスパートナーであり、両者は堅い信頼関係で結ばれている。それを証明するかのように、クートゥアーは「将来、『アフリクション』と契約するだろう」、「10月頃にヒョードルと闘いたい」と発言している。ヒョードルもクートゥアーとの対戦を熱望していることから、実現する可能性は低くない。

さらに、クートゥアー vs ヒョードルは、ダナ・ホワイトがなんとしてでもUFCで実現したかったカード。

昨年、クートゥアーが出場した二大会は、どちらもUFCのPPV購入件数でベスト4入りしている。『アフリクション』がクートゥアーとも契約すれば、UFC帝国を脅かす最大の敵対勢力となる可能性は充分！　UFCが失ないつつある重量級の強豪をズラリと揃えた『アフリクション』は、ダナにとってももはや「ジョーク団体」と笑っていられない存在なのだ。

UFCの一党独裁を崩壊に導く可能性を秘めた『アフリクション』の旗揚げ戦、そしてクートゥアーの動向に注目せよッ！



ファッションとしての『アフリクション』は、LA発のデザイナーズブランドとして大人気！　中でもスカルデザインは一級品！　袖や裾などには丁寧なダメージ加工を施す凝った仕上がりで、MMAファイター以外にもハリウッドスターのパリス・ヒルトン、ザ・ロック、サミュエル・L・ジャクソンらも愛用！　もちろん“皇帝”もご満悦！

これでも「ジョーク団体」?

7.19『アフリクション』

米国カリフォルニア州アナハイム、ホンダセンター

主要対戦カード

エメリヤーエンコ・ヒョードル vs ティム・シルビア
ジョシュ・バーネット vs ペドロ・ヒーゾ
エメリヤーエンコ・アレキサンダー vs ポール・ブエンテロ
アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ vs ヴァーノン・“タイガー”・ホワイト
マット・リンドランド vs ファービオ・ネガオ
レナート・ババル・ソブラル vs マイク・ホワイトヘッド
マイク・パイル vs ブレット・クーパーほか

出場予定選手

ベン・ロズウェル



マット界の最新情報から、"親殺し"まで完全究明!?

kamipro

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

No.124



6月23日(月)全国書店、コンビニにて発売予定!

※地域によっては多少発売日が遅れます。





enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町 6-1 TEL.0570-060-555(代表) [通信販売のお問い合わせ先] http://www.enterbrain.co.jp/

FEG代表

DREAMイベントプロデューサー

谷川貞治×笹原圭一



6.15『DREAM.4』を前に

黒の密談!?

ビッグ2の悪だくみ対談が実現!

DREAMのツートップが怪しい密会!?　PRIDEが"消滅"する前までは
実現するはずもなかったサダハルンバ×笹原EPの顔合わせだが、
なんと!　このたび、二人の"黒い密談"に潜入成功!!
DREAMの未来はもちろんだが、両者が"不仲"だった時代のことや、アノ団体のことまで、
興味深い"裏話"が続出。二人のトークからマット界の過去・現在・未来を探れ!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／乾晋也

——夢ならさめないで〜！ 今日は、DREAMイベントプロデューサーの笹原さんと、DREAMを〝遠くから見守っている〟主催者、谷川さんの〝誌上会談〟が実現しました！

谷川 （いきなり無視して）あ〜、大変だよ、大変だよ！

——んあ〜！ いったいどうしたんですか、いざ対談が始まろうとしているのに。

笹原 えー、とりあえず事情を聞きましょう（笑）。

谷川 いやあ、ホントにまいったよ！ あのね、ボクはいままでいろんな格闘技関係者とか、エージェントとか、いかがわしいヤツと渡り合ってきたけどさ。ところがK−1甲子園は一筋縄ではいかないね〜！

——はっはー。以前のインタビューでも軽く触れてましたけど、要するに、選手の親御さんたちとの話し合いがあまりうまくいってないとか。

谷川 いや、決してうまくいってないわけじゃないんだけど、ホントに未知数の世界だね。ちょっといままでにない経験をしてる。

笹原 それはボクも経験したことないですね（笑）。

谷川 あんまり詳しいことは言えないんだけど、「これってボクが悪いのかなあ……」なんて自分を疑っちゃってさ。

——まあ、マット界の大半の〝悪事〟は谷川さんが原因ですから。

谷川 んあ〜！ ヒドイなあ、もう！

——でも、自分の子どものことになると、どうしても愛憎が絡んできちゃいますから。なかなか冷静にはなれないですよね。

谷川 そうそう！ そうなんだよ。そこは愛と憎しみなんだよね。

——で、ムリヤリ話をつなげると、お二人の関係も愛と憎しみに満ちあふれていますねぇ。

笹原 いやいや、ボクたちのあいだには〝愛〟しかありませんから（笑）。

谷川 そうだよ〜。憎しみなんて、とんでもな〜い。ウフフフ。

——き、気持ち悪いなあ。

笹原 だから全然やりづらいところはないですね。確かにDREAMは初めての取り組みなので大変なことが多いんですけど、運営のやりづらさはまったくないです。むしろボクは凄くやりやすいですね。

谷川 ボクも凄くやりやすいなあ。

——そんな〝ほめ殺し〟はともかく、そもそもお二人の関係はかなり古いですよね。

谷川 古いですよね〜。笹原くんと初めて会ったのは、『PRIDE・1』の頃だもんね。

笹原 そうですね。もう11年前のことになりますよ。

——谷川さんがまだ『サムライTV』にいた頃ですか？

谷川 いや、違う。

笹原 まだ『SRS・DX』（休刊）もできてない頃ですよね。……思い出した、『格闘パンチ』（休刊！）の頃だ（笑）。

——ありましたねぇ、『格闘パンチ』。

谷川 へ？ やってたっけ、そんなの？

笹原 それで『PRIDE・1』をやったときは『格闘ゲリラマガジン』（休刊!!）ですね。

谷川 ああ、なんかそんな本を作った記憶があるねぇ。あの頃は……いろいろあったんですよ！

——「いろいろ」だけで片づけないでください（笑）。じゃあ、当時の谷川さんはマスコミの立場だったわけですね。

谷川 う〜ん。マスコミでもなかったんですけどね。

——コウモリ的な立場？

谷川 コウモリっていうかねぇ……これ、言っちゃっていいのかなあ。

——大丈夫です！

谷川 もう、無責任なこと言わないでよぉ。じつはボクも運営に加わるって話があって、人を介して当時東海テレビ事業にいた榊原（信行）さんと一緒にやらないかってなったんです。バラさんはK−1の名古屋大会もやってたし。でもいろいろあって、結局ボクは直接的に関わらず、別のかたちでPRIDEはスタートしたんですけど。ボクはフジテレビにとにかくPRIDEを扱ったほうがいいってことを提案してて。それで『SRS』で試合を流したんですよね。

笹原 やってもらいました。大会の煽りもやってもらってましたね。

——じゃあ、その頃は仲良かったんですね。

谷川 そうです！ ……いや、べつに仲悪いときなんかなかったよぉ。

——でも、03年の春頃からK−1とPRIDEは袂を分かったじゃないですか。笹原さんはその頃のK−1をどのようにご覧になってたんですか？

笹原 K−1はボクらの前をずっと走っ

谷川貞治×笹原圭一 激動のヒストリー

1997年 10・11『PRIDE・1』旗揚げ。



髙田延彦vsヒクソン・グレイシー戦が実現した97年10月11日からPRIDEの歴史がスタート。サダハルンバもPRIDEの運営に関わるかもしれなかったという話であるから、非常に不思議である。

1999年 PRIDEの運営がKRSからDSEへ。

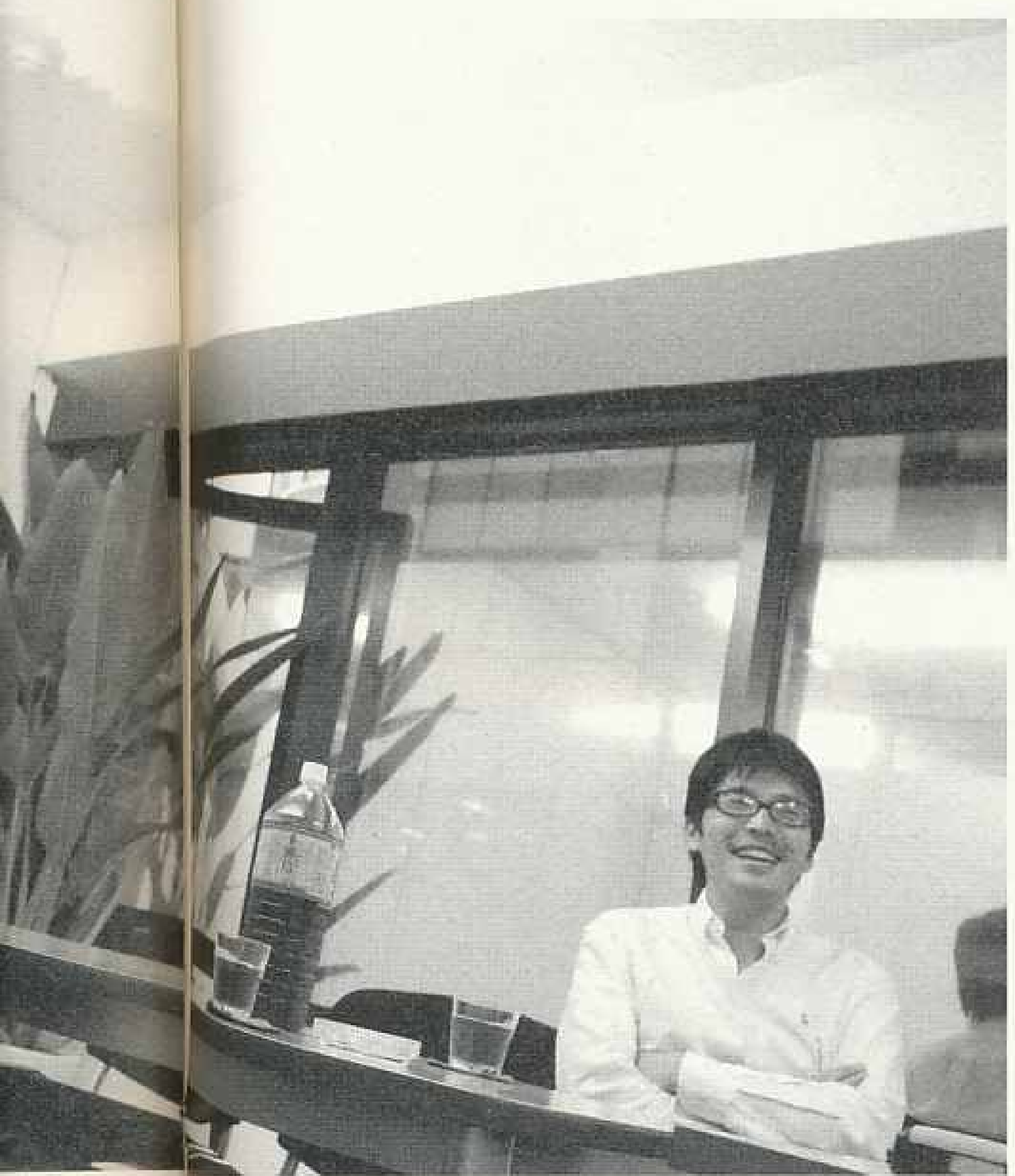
2000年 8・27『PRIDE・10』より、アントニオ猪木がエグゼクティブプロデューサーに就任
12・31『INOKI-BOM-BA-YE』初開催。

2002年 8・28『Dynamite!』（in国立競技場）開催。主催はTBS、運営はDSE、これにK−1とアントニオ猪木が協力するかたちで行なわれた。



日本格闘技史上、最も大規模なイベントとなった『Dynamite!』。ノゲイラvsサップ、桜庭vsミルコなど、K-1vsPRIDE対抗戦というコンセプトをもとにカードが組まれたが、そのラインナップはいま見てもかなりのドリームカードである。

じゃあ、短いあいだでしたがお世話になりました（笑）［笹原］



てるもんだという意識でした。むしろPRIDEは二番手でいいってずっと思ってました。……ほら、風除けはあったほうがいいじゃないですか（笑）。

谷川 んあ〜。ボクの場合はねぇ、PRIDEは……ええと、いつのPRIDEの話？

——谷川さんと仲が悪かった頃の。

谷川 あ、仲悪かったときの？ 仲悪かったときのPRIDEというのは……なんていうのかなあ。K―1とバラバラになることによって、お互いが悪くなるなと思ったんですよ。

——どっちにとってもマイナスだと？

谷川 うん。どっちも勢いがなくなると思ったんです。だってお互いに交流することによって勢いが増したところもあったわけだから。

——大晦日イベントをやったり、国立競技場に進出したり。

谷川 そこでバラバラになることはマズイなあと思ってだけど、別れてからのほうがPRIDEはよくなったからねぇ。

笹原 そうですか？（笑）。

谷川 ホントに。で、K―1と別れてから微妙にPRIDEの路線が違っていったんですよ。

笹原 確かに変わりましたね。かなり大振りになりました（笑）。

谷川 で、そこから開花したでしょ。ボクはK―1もPRIDEも両方悪くなると思った。要するに、やっぱり一緒にやることによって、選手の交流とかなんかもできたし、新しく生まれてくることのほうがあると思ってたんだけどなあ。だから、なんていうかな……結局は別れたほうがいいってこと？

——ダハハハハ！ DREAMも一緒にやらないほうがいいじゃないか、と（笑）。

2003年

11・17『WRESTLE―1』開催。K―1と全日本プロレス・武藤敬司が手を組むかたちで行なわれ、運営にはDSEが協力した。

12月より、サダハルンバがK―1イベントプロデューサーに就任。

1月より、榊原信行氏がDSEの代表取締役に就任。

12月31日に『PRIDE男祭り』『Dynamite!!』『INOKI-BOM-BA-YE』の興行大戦争が勃発。『男祭り』はフジテレビ、『Dynamite!!』はTBS、『INOKI-BOM-BA-YE』は日本テレビが放送した。




K-1とPRIDEが“仲が悪くなった”きっかけともいえる03年大晦日の視聴率戦争。これに加えて『猪木祭り』周辺の“ハプニング”も加わってくるから、03年はなんとも凄い年である。

別れてからのほうがPRIDEはよくなったからねぇ［谷川］



谷川 んあ〜！ 早くも結論が出ちゃったねぇ。

笹原 じゃあ、短いあいだでしたが、お世話になりました（笑）。

谷川 しかし、あのときはむしろK―1よりPRIDEのほうがグンとよくなったんだよね。だから、やっぱりコンテンツを作るうえで、笹原くんたちはかなり優秀ですよ。それと、もう一つ目を引いたのは、あのあとPRIDEにはいろんなトラブルが起きたでしょ。

笹原 ありましたねぇ……（遠い目で）。

谷川 それはね、しんどいだろうなと思った。もの凄くしんどい思いをしてるだろうなって。あと、選手のファイトマネーがどんどんどんどん上がったでしょ？

笹原 ああ、上がってく一方でしたねぇ……（さらに遠い目で）。

谷川 こっちも大変だったんだよ！ K―1だって、金銭的な体力が充分あるわけじゃないから。

——あ、そうだったんですか。

谷川 大変だったからこそ、PRIDEはお金の部分でもよくやりくりしてるなぁって感心した。

笹原 まあ、あの頃は無我夢中だったからでしょうね。言ってみればイケイケな感じがあったんで。年末に初めて『PRIDE男祭り』をやると決まったのだって、11月の頭ぐらいでしたから。そういう意味じゃ、周りを気にしない思いきりのよさはありましたよね。

——カラーの違いはお互いに意識されてました？

谷川 ………忘れちゃったなあ。

——んあ〜！

谷川 意識してないことはないけど。たとえば、いまUFCがあそこまでの世界観を築いたのって、間違いなくPRIDEがきっかけだよね。PRIDEが突き進んだおかげで、競技としてもレベルの高いものを求められてきたじゃん。

笹原 そうですよね。PRIDE的な価値観が道しるべになってますね。

谷川 でも、K―1と協力していた頃のPRIDEって、やっぱりテレビ的なカラーがあったというか、名前のある選手同士が闘ってナンボって世界だったと思うんですよ。ところがK―1とバラバラになったあとって、コアなほうへ突き進んで突き進んで。ボクはね、あの路線があそこまでウケると思ってなかったから。

——大衆受けはしないだろうと？

谷川 大衆受けはしないと思ってた！ だから、そこに笹原くんたちの優秀さっていうか、大きな功績を感じますね。……あ〜あ、モンスター路線やってる場合じゃなかったよ！

——谷川さんは100回生まれ変わっても、絶対にモンスター路線をやるに決まってますよ！

笹原 まあ、ボクらはあの路線しかやりようがなかったのが正直なところですよね、そういう意味では。それこそ開き直って「60億分の1」という方向に針を振りき

ったのが、ちょうど時代の空気とマッチしたんだと思うんです。でも、ボクは正直、『PRIDE武士道』に関しては、立ち上げた当初は絶対にうまくいかないと思ってたんですよ。

——さすがにコアすぎるだろう、と。

笹原 それに最初はミルコが出たりとか、けっこうゴチャマゼな感じで方向性が定まってなかったじゃないですか。

——『武士道』が中・軽量級に特化したのはけっこうあとのことですもんね。谷川さんは『PRIDE武士道』的な世界って理解できました？

谷川 ………………（小声で）難しいこと聞かないでよぉ、ほとんど観てないし。

——たいへん失礼しました（笑）。

谷川 でも、さっき笹原くんが「あの路線しかなかった」って言ってたけど、ボクも『HERO'S』的なことをやるしかしょうがなかった。K―1としては、自分たちもPRIDEを手伝ってたっていう意識もあるし、ずっとこの業界にいたっていう自負があったから、総合格闘技というのもちゃんと押さえたかったしね。でもね、ホントに手が回らないのよ！

笹原 K―1WGPもK―1MAXもやってますし。

谷川 いかんせん総合まで手が回らないのと、あとお金が回らない。最初にやった総合イベントは、ええと……なんて名前だっけ？

——『ROMANEX』ですよ！ 忘れないでください（笑）。

谷川 『ROMANEX』だ！ あれはヘビー級路線でやろうと思ったけど、ヘビー級はファイトマネーが高いし、軸になる選手がサップくらいしかいない。まともにPRIDEと張り合ったら大変なことになるなって。それでKIDや元気くんを主役にしたイベントならやれるなっていう手応えを感じた。

K-1からすると「よくノゲイラとヒョードルを年末にやるなあ」って［谷川］

2004年

2月、K―1常連ファイターだったミルコ・クロコップがPRIDEへ電撃移籍。



03年12月31日『猪木祭り』をケガで欠場した“K-1ファイター”ミルコ・クロコップが、04年からなんとPRIDEに電撃移籍。ミルコに関わるこの一連の出来事がK-1とPRIDEの“不仲”を決定づける一つのきっかけに。

5月22日、K―1が主催する総合格闘技イベント『ROMANEX』開催。



K-1版MMAイベントとして開催された『ROMANEX』。当初、『ROMANEX』は継続的に開催されるという話もあったが、実際に行なわれたのは一回きり。しかし、翌年から同大会を放送したTBS系が主催となり、『HERO'S』が開催されることに。

2005年

3・26『HERO'S』旗揚げ。



いま考えると不思議だが、なぜか上井駅長を総合プロデューサー、日明兄さんをスーパーバイザーに据えスタートした『HERO'S』。PRIDEとは対照的に、“お茶の間に受ける格闘技”という絶妙な空間を作り出した。

——それが『HERO'S』だったわけですね。

谷川 それにFEG的にはね、大晦日にイベントをやるかぎり、総合をやらざるをえないの。

——そういうもんですか。

谷川 だってMAXにはトーナメントがあるから、それ以上のものはMAXで作れない。あとK―1ワールドグランプリはフジテレビでやってることなんで、年末にK―1ルールのビッグマッチは組めるわけがないんだよ。そうすると、やることは総合しか残ってないんだよねぇ。

——言い方は悪いですけど、なんて低い志からのスタートでしょうか（笑）。その大晦日の視聴率戦争もかなり見応えがありましたね。

笹原 ああ、視聴率の争いは、こっちもやりがいがあっておもしろかったですけどね。

谷川 ボクもおもしろかった!!

笹原 おもしろかったというとアレですけど、凄く健全だったんですよね、K―1との争いって。

——健全といいますと？

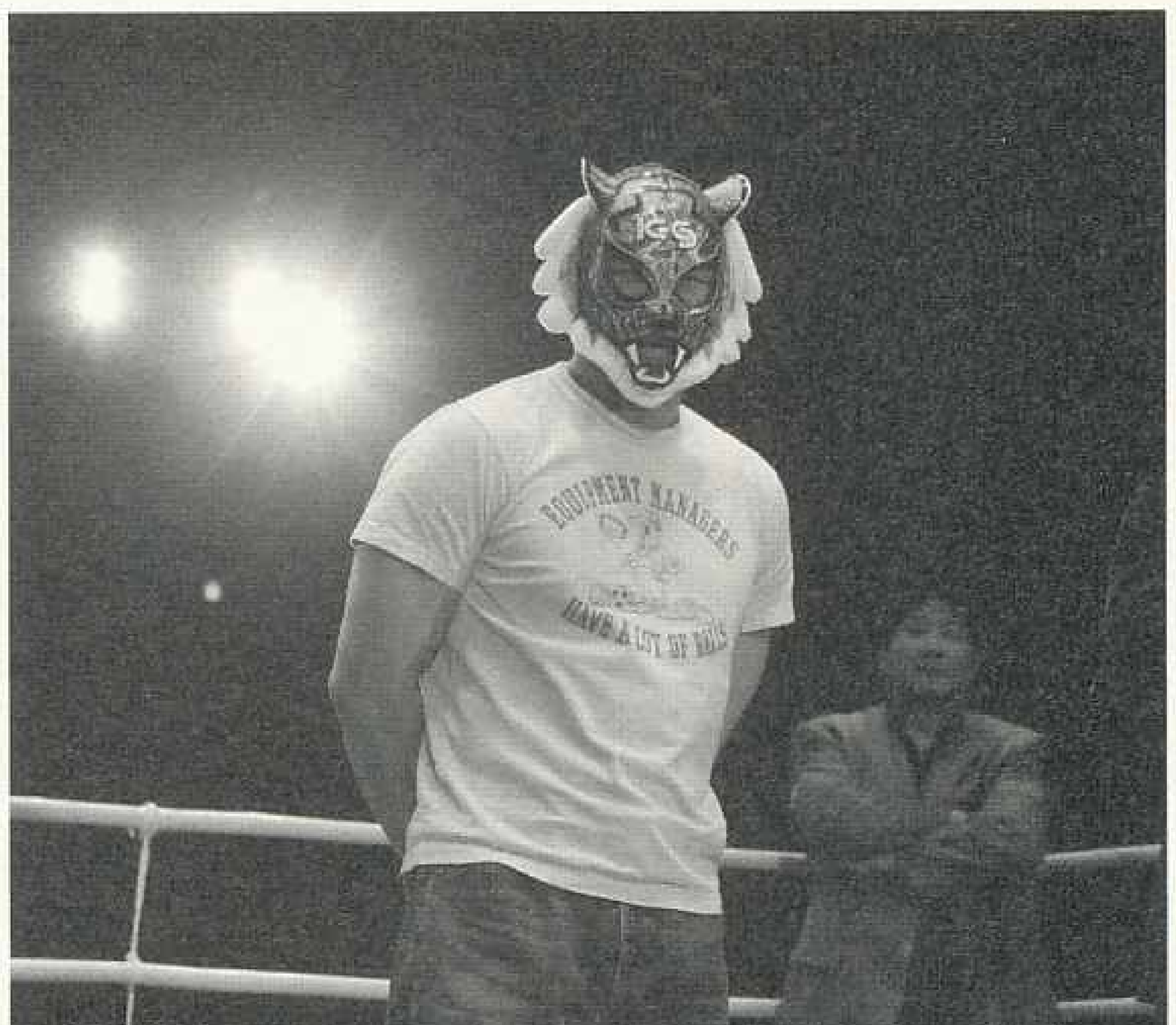
笹原 お互いに路線がまったく違うじゃないですか。ぶつかりようがないから、健全な勝負ができたんですよ。

谷川 そうそう。K―1からすると「よくノゲイラとヒョードルを年末にやるなあ」って感じなの。

笹原 ボクらからすれば、「よくボビーと曙でやるなあ」っていう感じで（笑）。

谷川 そういう意味では路線が違ってたんで、ある意味、いい意味で理解力がお互いになかったと思うんですよ。オールスター戦vs日本シリーズみたいな感じでカラーが違うから、健全で闘えたと思うんですよ。

——ところで、こうしてDREAMで再び仕事をするまで、接触する機会ってなかったんですか？



PRIDEの象徴だった桜庭和志が“不思議なリング”『HERO'S』に移籍したのも、両者にとって衝撃的な歴史の一つ。桜庭の望みどおりDREAMという舞台が誕生したが、このリングで桜庭は何を見せてくれるのか!?

谷川　別れてから会ったのは……『SRS』の10周年パーティぐらいかなあ。

笹原　ありましたね～。PRIDEグループとK－1グループで、パーティ会場が真っ二つに分かれてました（笑）。

――二つを行き来してたのは浅草キッドだけだったとか。

谷川　でも、ボクは感情的なものは何もないんだよね。周りがピリピリしてただけで。

――ファンはメチャクチャ仲が悪いっていうイメージしかないんですよね。

谷川　それはね、ハッキリ言ってPRIDEの戦略！

――なるほど！（笑）。

谷川　PRIDEの戦略として、K－1と仲悪く見せてたところがある。それはなんか、凄く伝わってきてた。「あ、そういう戦略なんだな」って。それによって先鋭的に見えたもんね、PRIDEが。

笹原　え～、そういう意図は少なからずあったと思います（苦笑）。

谷川　PRIDEの社員も信じ込まされてたんじゃない（笑）。でも、笹原くんなんかはべつに敵対意識はなかったでしょ？

笹原　もちろん商売敵ではありましたけど、人間的に憎たらしいみたいな感情はなかったですね。でなきゃ、いまこうして一緒にお仕事をさせていただけてないと思います。

谷川　逆に言うと、周りで焚きつけたりするヤツがダメなんだよねぇ……。

笹原　ああ、そういう人はたくさんいましたね。

谷川　そういうヤツのほうがボクは人間的にはイヤだったなあ。K－1とPRIDEのあいだで踊ろうとするからさ。逆に言うとまったく信用できないんだよ。

ボクからすれば「よくボビーと曙でやるなあ」って感じで（笑）［笹原］

2006年　6月5日、フジショック勃発。PRIDEおよび『ハッスル』の地上波放送が全面的に中止に。

2007年　3月27日、PRIDE六本木会見。PRIDEの運営権利がUFCへ。



MMAバブルの波にもまれ、UFCを運営するズッファ社に買収されることとなったPRIDE。DSE主催は4.8『PRIDE.34』が最後となったが……。いまだに再開の噂なし！

10月4日、PRIDEの日本事務所閉鎖が突如言い渡される。

11月21日『やれんのか！』開催を発表。

12・31『やれんのか！』開催。



大連立はここから始まった！　PRIDEの日本事務所閉鎖からほとんど時間がない中でFEGと旧PRIDEスタッフが協力して開催された『やれんのか！』。両者の奇跡的なドッキングにより、イベント自体も神がかり的な爆発を見せた。

2008年　3・15『DREAM・1』旗揚げ。



07年大晦日の大連立の流れを受け、08年からはFEGと旧PRIDEスタッフが新たな舞台DREAMを旗揚げ。カード発表が遅れるなど、現段階ではトラブルも多いが、"超！　イケてるイベント"（KID談）になる予定である！

笹原　それはボクらも同じですよ。PRIDEが危なくなったときにPRIDEとどういうスタンスを取ったかっていうのは大きく問われるよね。

谷川　ねえ。急にもの言いが変わっちゃったりしてさ、「え～え、PRIDEが好きだったんじゃないの？」っていう。その選手や関係者たちにも事情はもちろんあるんだろうけど、逆に言うと、事情があるからこそちゃんとしてないねと。

笹原　やっぱり、ピンチのときって人間の本質が見えるじゃないですか。ボクらがフジテレビに切られたときに、それでも以前と変わらずに支えてくれた人たちもいたんですよ。そういう人たちとは、いまでも一緒にやっていますし。

谷川　いやあ、勉強になるよね～。いつどうなるかわかんないからさ。

――そうですよね。まさか年末に『やれんのか！大晦日！2007』を共催するなんて想像もできなかったですから。

笹原　あれは10月末とか、もの凄くギリギリの話でしたからね。

谷川　よくできたと思う、ホントに。笹原くんたちって、それでもやっちゃえるんだよね、勢いで。それで責任感を持ってかたちにするから。そういえばさ、大晦日戦争で初めて負けたと思ったのは、その2007年の大晦日。

笹原　あ、そうなんですか？

谷川　それまで負けたなんて思ったことなかったんだよ、正直言うと。

――05年のときは視聴率で負けましたけど。

谷川　あれ、ボクのせいじゃないと思ってるから!!

――ダハハハハハハ！　よっ、サダハルンバ!!

谷川　あのときは、もともと負けると思ってなくてさ。大会終わった直後に（佐藤）大輔くんに勝利宣言したぐらいで。でも、こないだの大晦日は完敗だと思った。大阪から東京のあの盛り上がりを観て「うわ～っ、東京のほうがおもしろい！」って。

笹原　でも、それは谷川さんに協力していただいたからこそですよ。ホンマンや秋山選手も『やれんのか！』に出てくれて。

谷川　……こんなこと言うのはあれなんですけど、ボクは自分がやってるから好きなのかなあ。

――そんな理由ですか（笑）。

谷川　自分のやってることがおもしろく見えちゃうんだわ。だからさ、ほかのイベントにしても関わってないから観ててもおもしろくないんだよね。

笹原　じゃあ、DREAMはどうですか？

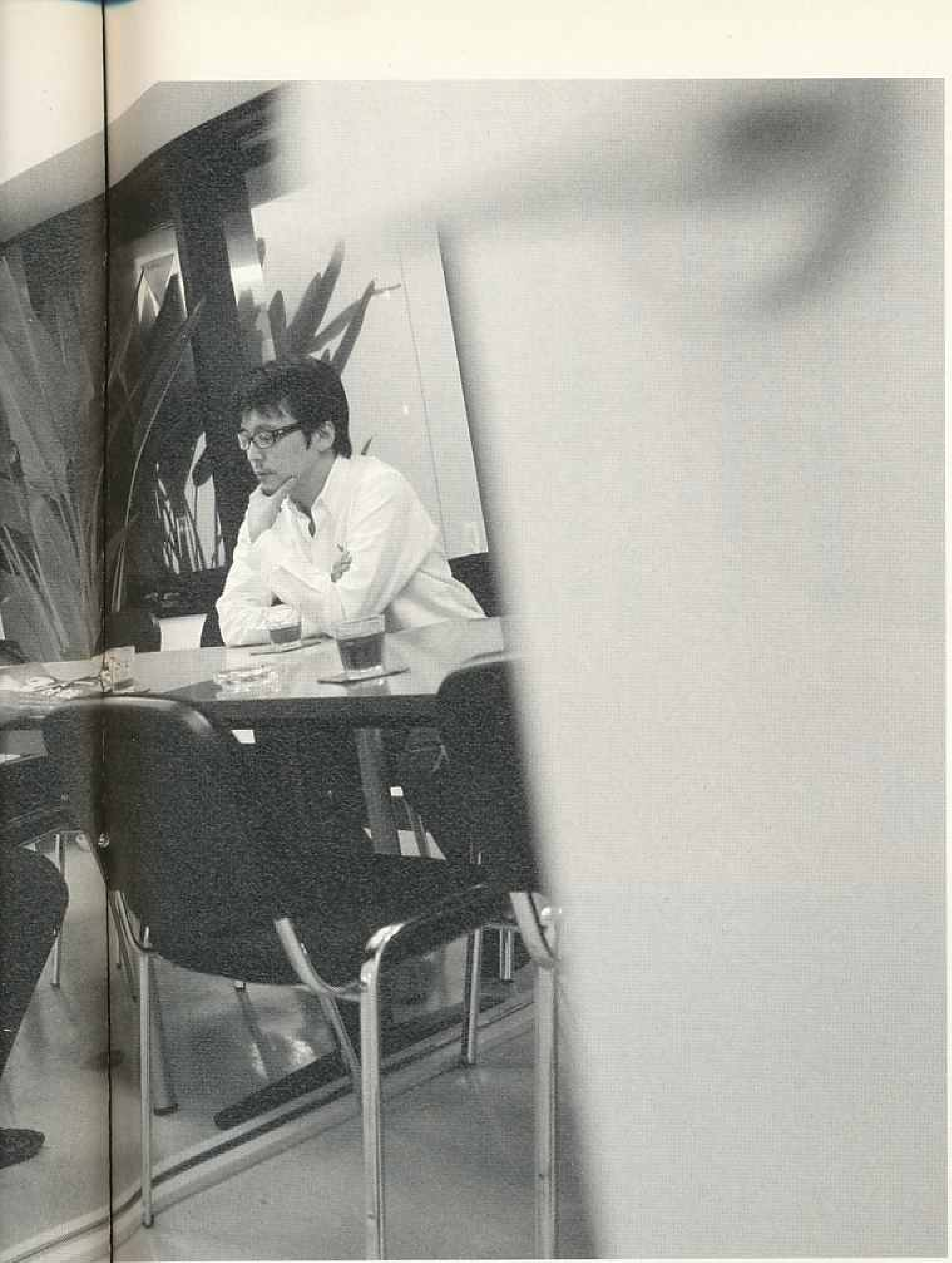
谷川　DREAM、おもしろいですよ！　それは見守ってるからというか、知ってる選手もたくさんいるし。とにかくイベントを作り上げる力は素晴らしい。それは前から思ってたことだけど、スタッフの動きを見ていたら、感心することが凄く多い。マッチメイクはときどき趣味が違うけどね（笑）。

笹原　それはおもいきり趣味が違うと思いますね（笑）。いままでの中でいうと、たぶん谷川さん好みのマッチメイクってほとんどないような気がしますけどね。

谷川　いやいや、そんなこともないですよ。だからエディvsヨアキム・ハンセン戦とか大好きなの、ホントは。

――谷川さん、べつに無理しなくてもいいですから。

谷川　んあ～！　ホントホント。ああいうカードは好きなの。あとなんだっけ？　あの頭のいい人。



——ジェイソン・〝メイヘム〟・ミラーですか？

谷川　ああいう選手とかも好きだよ。ジェイソン・ミラーとか、ジャカレイ、こないだのエディvsヨアキム・ハンセンみたいなカードとか凄く好きなの。逆に言うと、ボクは川尻くんとか石田くんの人気があるのはどうしてなんだろうってずっと不思議だった。

——DREAMでもそこに驚かれてましたけど、それが『PRIDE武士道』がよくわからないところでもあるという（笑）。

谷川　でも、笹原くんは『HERO・S』にそういう疑問ってないでしょ？　所くんとか笹原くんも好きだと思うから。

笹原　たぶん、嗜好としては谷川さんに近いと思いますよ（笑）。

谷川　KIDくんとかたぶん好きだと思う。秋山くんとかも。

笹原　いい選手がたくさんいるなって、普通に思いますよ。そこでPRIDEと『HERO・S』みたいな区分けを戦略的にすることはあっても、色眼鏡で見たりすることはないですね。

——決してK-1の懐が狭いってことじゃないですけども、PRIDEのほうがいろんな選手を受け止めやすいんですかね？

谷川　受け止めやすいっていうか……信念があるな。

——谷川さんにはないんですか！（笑）。

谷川　うん!!（キッパリ）。

——んあ〜！

谷川　テレビ局の人とかに「あれはちょっと……」とか言われると、すぐ「そうだよねぇ」って思っちゃうところがあるから。正直言ってね、あまりPRIDEもよく観てないところもあるんだけど、川尻くん同様、五味くんの魅力すらもよくわからなかったの。これ、有名な話なんだけど、MAXに五味くんの関係者から「出たい」って言われたときにビデオを見せられて、その中にKIDくんも出ててね。もうビックリしちゃってさ、「何、この子！　獣のような子だなあ」って。

そう考えると、『HERO'S』って不思議なリングですね［笹原］

——五味隆典がきっかけでKIDを発見した、と。

谷川　そうなの。そうしたら五味くんはPRIDEのほうに行っちゃったんだけど。PRIDEに行ったからこそ、あそこまでの選手になったと思うよ。こないだ『戦極』で観たときも、やっぱりいい選手だなと思ったけど。

——それはつまり、五味さんがMAXに上がったときのイメージが沸かなかったってことなんですかね？

谷川　できなかったんだよね〜。『HERO・S』とかMAXだと、あそこまでの五味くんの人気は作れなかったかもしれない。

笹原　青木選手はどうですか？

谷川　青木くん、最初に見たときビックリしたなあ

——確かヨアキム・ハンセンに勝って泣きながらコメントしてるときですよね？

谷川　そうそう。なんかね、とても格闘技をやる人には見えなかった。青木くんはいい選手になると思うけどね。でも、いまはなんか周りを気にしすぎてる感じがするけど。

笹原　そういう意味じゃ一番変わったのは、青木選手ですよね。去年の大晦日からいろいろありましたから。

谷川　しかし、そう考えると、ボクのほうが選手の好き嫌いがあるかもしれない。

笹原　ボクはなんでも飲み込めますね（笑）。たぶんそれは、PRIDEで培われたんだと思います。

谷川　だからさ、笹原くんたちって、どんな選手でも違和感なく見せるのがうまいよね。『HERO・S』だとね、ガクッと違う風景ができちゃうんだよ。なんか違うものになっちゃうんだわ。うん。だから、たとえば『HERO・S』で菊地選手と……パンクラスのチャンピオンがやってるんだけど。

——井上克也選手ですね。

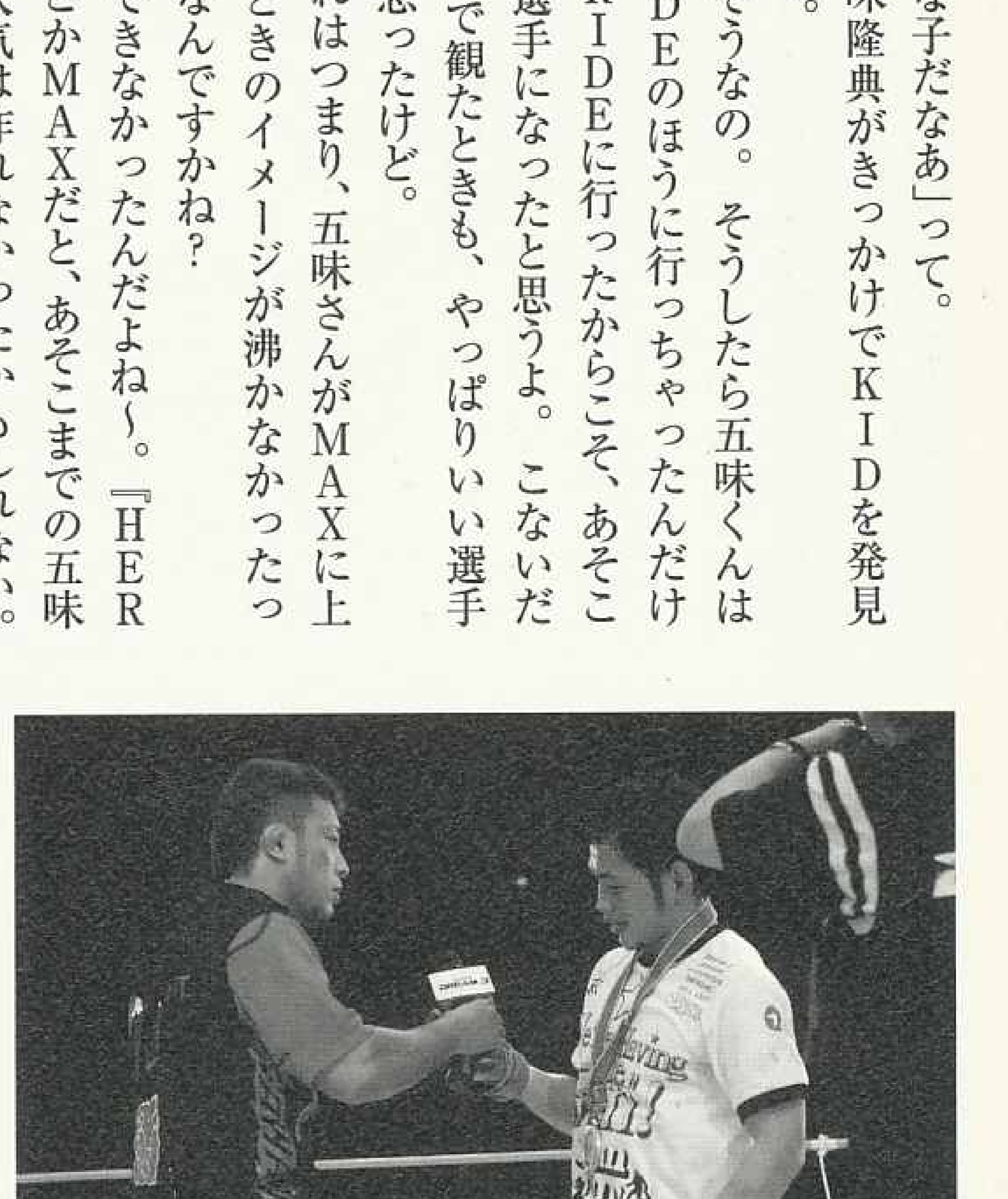
谷川　あ、井上選手だ！　井上選手と菊地選手。これ、笹原くんたちがやっていたら凄いいいカードだと思うんだよ。でもボクはそこがヘタクソなんだよねぇ、そういう試合をやるの。たとえば中村vsチョン・ブギョン戦とか、DREAMだと驚くほどしっくりいってるもんね。『HERO・S』だったら、ああはいかない。

——あと『HERO・S』でハリトーノフvsアリスター・オーフレイム戦ってやったじゃないですか。あれも見事にスベりましたよね。

谷川　ああいう違和感がね……そういうものに対して時間がかかるんだよね。

笹原　それはどうしてなんですかね？

谷川　なんだろうなあ〜？　だから所くんみたいなのは、ある部分『HERO・S』的才能が凄くあると思う。戦績はよくないんだけど。でもね、笹原くんたちは所く



アルバレスvsハンセン、宇野vs石田、さらには"川尻劇場"によって一気に爆発した感のあるDREMA。この流れでDREMAは軌道に乗っていくのか、それとも"歴史"は繰り返されるのか!?



『kamipro』No.123を読みながら密談を続ける二人。その号には"苦言"がたくさん書いてあるので、あんまり読んでほしくないのだが……。

んもうまく活かすと思うんだよね。ただ、逆に言うとボクらはハリトーノフvsアリスター戦なんて、「やったの？」って感じ。

――違和感がなかったのはミノワマンぐらいですよね、PRIDEから『HERO'S』に行った選手で。

谷川　サクちゃんも違和感なかったけど……なんかもの凄く相性が悪かったね。

笹原　そう考えると、『HERO'S』って不思議なリングですね。

谷川　不思議なリングだった、あれは！

――……という結論でいいの？

――まったくよくないです（笑）。いまアメリカのMMAシーンがますます巨大化してますけど、谷川さんってダナ・ホワイトのやり方はセンスがないって言われてましたよね？

谷川　いやあ、最近はよく知らないんですよ。

――ダハハハハ！　知らないで言ってたんですか！

谷川　まあ、成功してるからいいんじゃない？　ただ、なんていうのかな。PRIDEって選手の潰し合いをやってるように見えて、メチャクチャ活かしてるじゃない。UFCを観てるとね、ホントに潰し合いしかやってない感じがするんだよね。

笹原　そういう印象はありますね。

谷川　ミルコでもノゲイラでもヴァンダレイでもそうだけど、ホントに潰し合いやってるようで、ちゃんと相手も活きたし、本人たちもそれで潰れることなく活きてたじゃん、どんな結果になろうが。

――敗者にも光が当たってましたね。

谷川　そうそうそう。そこがアメリカと決定的に違うところだと思いますね。

――その日本の格闘技文化を保っていこうとしてるわけですよね？

笹原　まあ、いまはホント我慢の時期かなと思いますけどね。

谷川　アメリカのことをあんまり気にしてるときじゃないよね。とくにアメリカって面倒くさいんだよ。

笹原　それは凄くわかりますね（笑）。

谷川　K－1とPRIDEが闘ってたときってさ、そんなにお互い邪魔し合ったことはないと思うの。アメリカの邪魔の仕方って凄く陰湿なのよ。たとえば、業者を押さえて動けなくするとか。

――ザ・アメリカですね（笑）。

笹原　そういう意味じゃ先に入ったもん勝ちみたいなところがありますよね、アメリカは。

谷川　日本はそんな邪魔の仕方はしないから。もちろん選手の取り合いとかはあるけども、駆け引きも含めて。でも、アメリカはそういう邪魔の仕方じゃないんだよね。いろんなところにプレッシャーかけて、絶対にイベントをやらせないみたいな。

――じつは○○○○○○って、公明正大じゃなかったりしますよね（笑）。

谷川　そういう世界だから、ホントにあとから入るのってキツいんだよね～。

――逆にアメリカからすれば日本の文化はやりづらいっていうのがあるんですかね？

谷川　あるんだろうね。わりと自由だと思うんだけどね、日本なんかはとくに。

――じゃあ、しばらくアメリカ進出は視野には入れてない？

谷川　だから生半可な気持ちでは、なかなか難しいねぇ～。

笹原　そうですよね。いろいろなところと関係は築きつつありますが、いまは国内の足固めをしてるときですから。

谷川　考えないほうがいいですよ。逆に言うと、まだ韓国とかアジアを考えたほうが全然いいですね。とくに韓国で秋山くんが大人気だから。

――凄いみたいですよ。

谷川　今度、韓国の一大音楽祭イベントに出るんだって。東方神起とかも出るんだけど、イベント名が『ドリーム』なの。いち早くDREAMデビュー（笑）。

笹原　そうなんですか（笑）。秋山選手の歌って、メチャメチャうまいんですよね、聴いたことないですけど。

谷川　凄い甘い声だよお。秋山くんはDREAMではちょっと出遅れちゃってるけど、芸能では独走してるなあ～。

――で、そのDREAMもそろそろ助走期間が終わった感じはありますよね？

谷川　ですね。でも、今年1年トラブル続きだろうね。

笹原　まあ、そんな感じはしますね。まだまだ産みの苦しみはあるでしょう。逆にトラブルはあったほうがいいと思いますね。徐々に上を目指していく感じのほうが……だいたい大会の間隔が狭すぎですよね、単純に（笑）。

――ダハハハハ！　けっこうムチャですよ。

笹原　それは『やれんのか！』をやっちゃったからなんです。あれを1ヵ月でやれたんで、だったらできるだろみたいな感じで進んでしまったんで。もうちょっと慎重になっていれば……。

谷川　そうだねえ。『DREAM・2』を東京で、『DREAM・3』を大阪にするとか。次こそ東京でやりたかったよね、ライト級の決勝ラウンドは。

笹原　そうなんですよ。逆にしときゃよかったって感じですよね（苦笑）。

谷川　でも、やっぱり来年とか凄いイベントになるだろうね、これから。見守ってますので！


笹原　温かく見守っていてください！（笑）。

――まあ、何か悪いことが起きたら谷川さんのせいにしましょう（笑）。

谷川　んあ～！　ボクはK－1甲子園で頑張りま～す！

【08年5月21日／都内・リアルエンターテインメントにて収録】

サクちゃんも違和感なかったけど……もの凄く相性悪かったね［谷川］



日本のDREAMには出場しないが、
韓国の『ドリーム・コンサート』に歌手として出演!!

韓国が魔王色に染まる……ビール、自動車CMに続々出演!!

魔王はCMスター

韓国で魔王が凄い！

秋山成勲が韓国で怒濤の勢いでCMスター化、いや、軍隊問題&脳腫瘍問題で揺れるチェ・ホンマンにとって代わって韓国の国民的英雄になりつつあるのだ！　ホントかよォ!?

いや、ホントなのです！

ピングレのバナナ牛乳のCM出演を皮切りに、ハイトビールへの出演、そして起亜（キア）自動車への起用も決定するなど、魔王はたて続けにビッグディールを獲得。その勢いはまさに〝CMスター〟と言うにふさわしいのし上がりぶりなのである。

どれほどビッグディールかというと、バナナ牛乳は加工乳製品のシェア率50パーセント以上を占める、超有名な国民的ブランド。その売り上げは、韓国人が大好きな焼酎よりも上だというから驚き。このバナナ牛乳の商品イメージは、なんと〝健康〟と〝安心感〟！　苦笑気味の読者もいるかと思われるが、これが韓国での魔王のイメージなのだ。

そして、ハイトビールは8年連続シェア率1位を誇る業界トップブランド。魔王抜擢の理由は「純粋さ、率直さ、情熱」とのこと。魔王に純粋さですか……。

また、業界第2位のブランド起亜自動車は、秋山を〝ロチェ〟という高級車（日本円で約300万円！）のCMに起用！　こちらの起用理由は「強烈な瞳と強さのイメージ」なのだとか。

言うまでもないが、自動車やビールのCMは、業界において最もステータスの高い分野であり、国民的な知名度や好感度&親近感がなければ、出演は不可能。短期間に、これだけのCM出演をゲットする魔王は、まさに韓国で〝時の人〟と言えるだろう。

多方面で大人気の魔王

CM以外でも魔王の勢いは凄いことになっている。

6月7日には、韓国で開催されるトップスターたちの宴『ドリーム・コンサート』に歌手としてスペシャル出演！　日本のDREAMには出場しないのに、韓国のDREAMにはキッチリ参加するあたり、〝魔王〟的なブラックジョークが効いている。ひょっとして、こっちのDREAMに出たいために、ミドル級グランプリへの出場を回避したの!?　と勘ぐってしまいたくなるほど。いや、そうあってほしいものである。

そのほかにも、魔王は念願だったモデルデビューの夢もキッチリ実現。韓国のファッション雑誌に登場してグラビアを飾ったのをはじめとして、世界的にも有名なデザイナーであるアンドレ・キムのファッションショーへの出演も決定するなど、こちらの方面でも飛ぶ鳥を落とす勢いなのだ。

ほかにも、魔王の意外な露出ぶりは興味深い。例を挙げると「最も映画化してほしいスポーツ選手」という摩訶不思議な世論調査で見事1位をゲット！　さらに「芸能人で一番ナイスバディは誰？」というアンケートでは、なぜかクォン・サンウ、チャン・ドンゴンという韓流スターらに混じって4位にランクイン。ケガで格闘家業を休業中とはいえ、CMタレント、歌手、モデルといったマルチタレントとしての活躍ぶりは、日本では考えられないほど成功している。

韓国から見た秋山ブレイク

このような韓国における秋山のブレイクぶりを、韓国側の目から説明してもらうべく、韓国の新聞社に勤務するイ・ソンム氏を直撃。氏は格闘技事情にも詳しく、幅広い分野で報道活動を経験してきた記者である。

彼の言葉によれば、「秋山はもともと潜在的に韓国の国民から同情を引く存在だった」と指摘。その理由として、魔王が〝在日韓国人〟だったこと、そして〝韓国柔道界の贔屓判定〟によって、日韓両国で差別を受けたという〝悲運の物語〟が、秋山人気を後押ししているのだという。

だが、一方では、根強く日本に帰化した魔王に対してよくない感情を抱いていた層もかなりいた模様。そんな魔王にとって転機となったのは、やはり06年大晦日『Dynamite!!』での桜庭和志戦と、翌年大晦日『やれんのか！』での三崎和雄戦なのだという。

ソンム氏は、「秋山は桜庭との試合で無期限出場停止処分にされたが、韓国では『これは秋山が在日だからバッシングされている』と報道され、『韓国の秋山を応援しなければ』という人が急増した」と民族的な報道について説明。なんじゃそれ！

さらに「三崎が〝反則キック〟をカマしたあと、『日本人は強いんです』と発言したことで、一気に秋山は日韓両国の不和を象徴する存在へと押し上げられるようになった」と解説！　韓国の秋山人気の裏に三崎発言があったとは……。

ちなみに秋山自身が犯した〝反則〟について聞くと、ソンム氏は「そんなことは一般の韓国人にとってどうでもいいことで、反則が事実かどうか知る必要もない。問題は秋山が日本でバッシングされている、イコール差別されているという図式が彼らには重要だった」と、日本人的には驚きの答えを返したのだった。



韓国では“芸能人”としての才能をいかんなく発揮している魔王!!　日本でも同様のブレイクを図るには、いまの“秋山成勲”の個性を崩さないかぎり難しい。熱々のおでんを食わされたり、とにかく酷い目に遭うキャラなんかどうでしょう?

反則こそが問題の本質であったにもかかわらず、韓国ではその本質的問題が完全にスルーされ、国家間の民族問題へとすり替わってしまっている。恐るべし韓国!!

こうした状況の中で、今年の2月末、魔王は韓国のゴールデンタイムの人気トークショーに出演。そこで絶品の歌唱力、そして爆笑トークを展開して高視聴率をゲット。魔王の新たな魅力に、格闘技ファンはもちろん、一般層にもその個性は一気に浸透したのだ。ドキュメンタリーなどで魔王の逆境の人生に対して理解された。さらに恋人は売れっ子美人モデルで、プライベートでは高級オープンカーを乗り回し、ファッションに気を使い、シャンパンやサーフィンなどのセレブでアクティブな趣味生活も紹介された魔王。

さらに、意外な歌の才能まで披露したため、もはや〝格闘家〟という枠内には収まりきらなくなったのだ。ソンム氏は上記の例を挙げつつ「風変わりでスターにふさわしいライフスタイルが紹介されて、秋山は韓国で憧れの対象となった」と人気の理由を説明したのだった。

魔王はスターの座を維持できるのか？

ソンム氏によると「現在、韓国では格闘技人気が下がり気味。それはチェ・ホンマンの軍隊問題と脳腫瘍問題で批判が集まったこと、そしてPRIDEがなくなったことが大きい」という。DREAMは日本人選手が多く、PRIDEの世界観を求める人たちを満足させられていないのだとか。また「デニス・カーンも、最近ちょっと負けが込んでいるので、いまは秋山が韓国の代表選手という図式になりつつある。彼の商品価値は、もっと大きくなるでしょうね」と現況を評価しながら、国民的英雄の世代交代の可能性について指摘。ついに韓国が〝魔王〟の手中に!?

一方で、「ただし、あくまでも秋山は格闘技選手。本業でいい成績が出せなければ、批判されないとも限りません」という。芸能活動に精を出しすぎて、結果が悪くなった途端、バッシングを受けたホンマンの例を挙げながら、「昔からの秋山を知る人にとって、彼が韓国で戦略的にイメージコントロールを行なっているのは周知の事実。昔、秋山が日本のテレビ向けに『サムライ精神で頑張ります』とコメントしていましたが、そういう発言は危ないですね。今後、何か失言があれば、彼はいまの地位を失なうかもしれません」と、魔王の二重性についても鋭く指摘したのだった。

考えてみれば、芸能活動に精を出し、歌手デビューまではたしてしまった魔王とチェ・ホンマンの共通点はなくはない。スターになるには〝強さ〟以上の何かが必要だが、韓国でのホンマンの叩かれぶりを見ると、本業をおろそかにすれば、足元をすくわれる可能性も充分にある。

韓国で、この世の春を満喫する魔王も、その地位は決して盤石なものではない。〝夢〟を見るのもいいが、魔王は魔王らしく、リングの上で結果を出し、実力を見せる必要もある。〝魔王〟の主戦場は決してCMやステージではないはずだ。　（大川義之）

交流戦アリ！ 選手の貸し借りアリ！ 完全協力体制へ！



佐伯

DEEP代表

繁

上原

ZST広報

譲

格闘技プロモーターは つらいよ対談

SHIGERU SAEKI × JOE UEHARA

格闘技プロモーター対談第2段は、DEEPとZSTの両首脳から繰り広げられる寅さんばりの“プロモーターはつらいよ”トーク！
5月15日、協力体制シフトを表明したDEEP&ZSTの両者だが、その目論みとともに、
現マット界へのさまざまな願望や悩みをぶっちゃけてくれた。二人の暴走トークから現格闘技界を探れ！

聞き手／堀江ガンツ

——今日は、格闘技イベントのDEEPとZSTが提携するということで、さっそく首脳対談をセッティングさせていただきました!

上原 いやいやいや、困りますねえ。だってあの会見、べつにそんなつもりでやったんじゃないですから。

——あ、そんなつもりじゃなかった(笑)。

上原 パンクラスの坂本(靖・常務取締役)さんにも言われましたよ。「ZSTさんはシュートボクシングとも、DEEPとも一緒に会見やるのに、どうしてウチだけ一緒に会見をやってもらえないんでしょうか?」って。

——ダハハハハ! さっそく妬まれてますねえ。

佐伯 (唐突に)ちょ、ちょっと、上原さん。まずさあ、ZSTの日程はどんなふうになってるの!?

——この場でいきなり打ち合わせですか!(笑)。

上原 ええっと、ウチは次、8月24日の新宿FACEです。

佐伯 うわっ、みんな8月24日だ! 『戦極』と、MARSと、M-1チャレンジの韓国大会もだよ! みんな来ちゃったねえ! ……あっ!! ほら、例のヤツはいつだっけ?

上原 例のヤツ? その次の大会の話ですか? あれは……○月○日ですね。

佐伯 えっ!! ○日!? 待てよ……(突然カバンの中をあさり始める)。○月○日って、なんか入ってる気が……(日程を書き込んだ書類を見つけて) あっ! 入ってない! よかったー!! 大丈夫、大丈夫。あーっ、ぜんぜん空いてるじゃない。

——ダハハハハ! やりたい放題だなあ、佐伯さんは。ではひと安心したところで、そろそろZSTとDEEPで協力関係が結ばれるようになったきっかけなどを教えてもらえませんでしょうか?

佐伯 (ゴソゴソと日程表をカバンにしまいながら) でもさあ、そんなこと言ったって、もともとは何も問題ないし、ただ単にPRIDEがあって『HERO'S』があって、それで……。



5月15日に行なわれた所英男と今成正和の合同公開練習を皮切りに、ZSTとDEEPの協力体制を発表した両団体。これによって格闘技界の夢はまた広がりつつあるが、それにしても今成の写真はいつもヒドい。

上原 交流しづらいところがあったみたいな感じですよね。

佐伯 そうそう! そういう雰囲気! ZSTさんには谷川さんも会場に来たりとかしてたしね。でも、実際にはなんにもないんですよ。

——「悪い子と付き合っちゃいけません!」みたいな感じだったんですかね(笑)。

佐伯 うん! そう! ま、悪い子っていうけど、実際ウチの選手は素直な連中が多いからさ!

——そうですか(笑)。じゃあ、ようやく表立って交際できるようになったということですね。

佐伯 そうね。で、この前の会見みたいに今成とか所選手とかの話もあるんだろうけど、もう一つには、お互いに『club DEEP』だったり『SWAT!』だったりをやってるじゃない。あれって、よく考えると同じテーマでやってたりするのかなって思ったんですよね。

上原 若い世代の育成という意味では、目的は同じですよね。

佐伯 でさ、ある程度トップの選手になってくると、交流戦での勝った負けたはほかの興行にも影響が出てくると思うんですけど、若い世代での交流戦だったら勝負というよりも、業界の起爆剤になってお互いの興行の中で盛り上がれるんじゃないかなという気もするんですよ。

上原 そんなにお金や手間がかかる話でもないですし、交流戦をやることで選手がモチベーションを上げてくれるんだったら、それはいいのかなって思いますからね。でもね、佐伯さん、『SWAT!』に出てる選手ってけっこう強いですよ!

佐伯 あ、そう!

——そういう対抗戦の中で、"対抗戦男"みたいなかたちで、新たなスター候補がバーンと来る可能性もありますよね。

佐伯 ウチもそうだけど、選手はホントに凄い数いるんでね。それに、DEEPも大会数がめちゃくちゃ多いんですよ、実際。だから、パズルのピースを合わせるような状態になってる感じもあるしね。

——とはいえ、やっぱりトップどころの選手の交流戦、もしくは選手の貸し借りみたいなところも期待したいなと思うんですけど、そのあたり、お互いに興味のある選手っていますか?

佐伯 僕が一番興味あるのはね、小谷(直之)選手!

——ほう! 小谷選手は一度『PRIDE武士道』のリングにも上がってますもんね。

佐伯 小谷選手だったら、たとえばbarbaro44とかと試合させたらおもしろいなと思うんですよ。小谷選手はもっともっとイケる選手だし、実力は凄くあるからね。

——へんな話、ファイトスタイル的にはDEEP向きかもしれないですね。

佐伯 俺、いまたまたまbarbaroって言ったけどさ、これがまたね、凄いヤツなんですよ。めっっっっったにしゃべらないからね! 小谷選手よりしゃべらない! ビックリする!

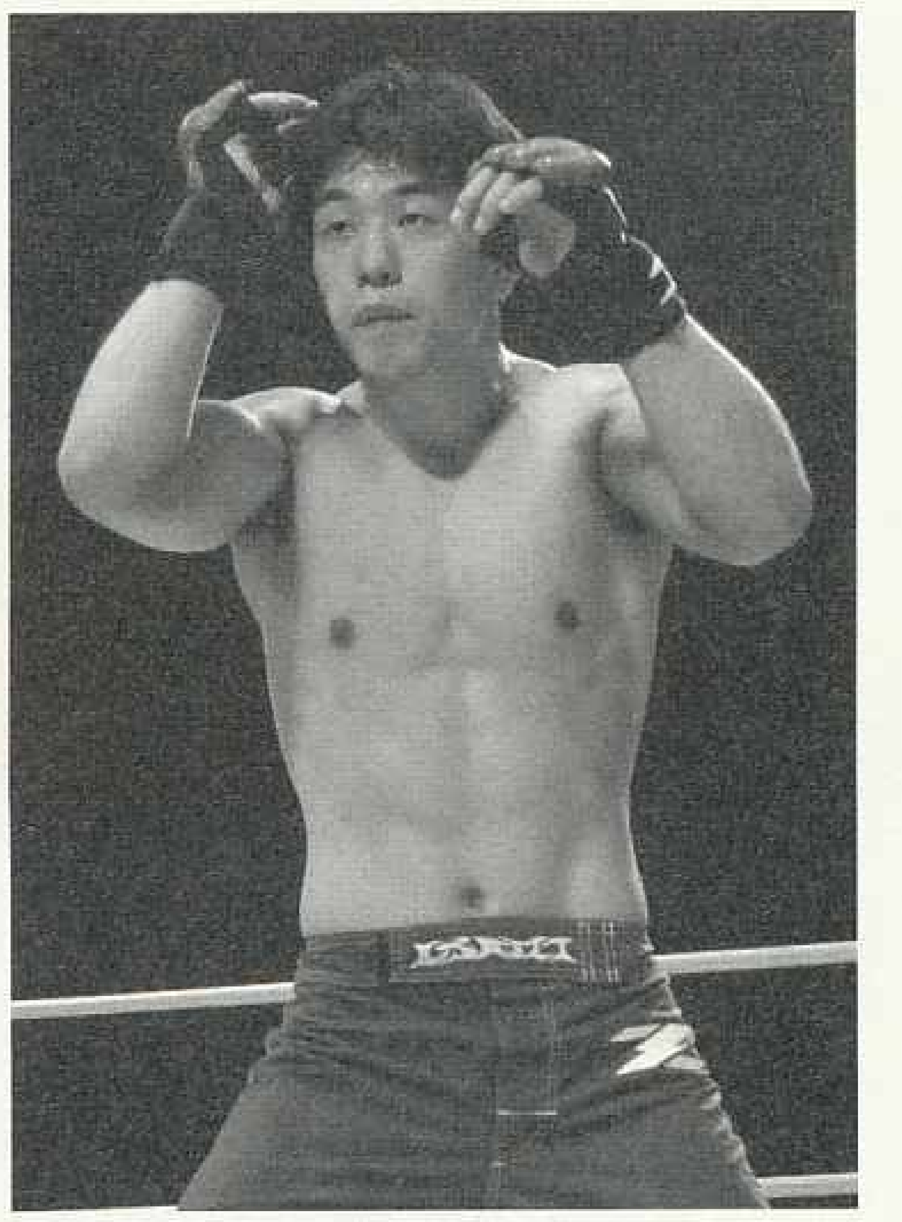
上原 でも、逆に小谷はしゃべるようになっちゃったんですよ、残念ながら。

佐伯 あ、ホント? でも、barbaroはビックリする! 長谷川(秀彦)とか青木(真也)とかに聞くとわかるけど、ニヤーッと笑って、それで終わりですからね。いまずっと一人暮ししてますけど。

若い世代での交流戦だったら、業界の起爆剤になる(佐伯)

プロレスに興味がない選手が多いんで、技術や強さはあるけど頭が柔らかくない（上原）

——知らないですよ、そんな情報（笑）。
佐伯　（無視して）こっちに来てもう1年！でも、まだ誰も友だちいないんですよ。
上原　アハハハハ！　どんな性格なんですか（笑）。
佐伯　だって長谷川とかが「メシ食いに行こう」って言って、実際に連れてくのに半年ぐらいかかってますから。しかも、食ったら「もう帰ります」って。
上原　いいんじゃないですか？（笑）。小谷とbarbaro選手と、挙動不審同士の対決ってことで。ただ、小谷はしゃべるようにもなりましたし、知恵もついてきましたからね。
——小谷選手に知恵が！　『PRIDE武士道』の煽りで、いまや伝説の〝アキバファイター〟じゃなくなりましたか（笑）。
佐伯　まあ、だからそういう部分では、いろいろできることは多いなって。それに、なんだかんだ言ったって、ちゃんと定期的に興行打ってるのはウチとZSTさんと、GCMと、修斗と、パンクラスしかないんでね。……っていっても、みんな微妙な距離感だなあ（苦笑）。
——ダハハハハハ！　ぜひ相関図を作っていただきたいですね（笑）。ただ、ZSTとDEEPといえば完全な格闘技イベントでありながら、ベースがあくまでプロレス的なイベントっていう共通点がありますよね。
上原　それがないとおもしろくないと思いますね。実際に試合をしている選手たちはプロレスに興味がない人が多いんで、技術や強さはあるけど頭が柔らかくない、おもしろくない選手が多いんです。
佐伯　理解してる選手としてない選手がいるんだよね。だから難しいんですよ、ホントに。どうしていいかわからない！
——投げ出してどうするんですか（笑）。
佐伯　これ、言いにくい話なんだけどさあ、この前、長谷川秀彦vs長岡弘樹って試合があったじゃない？
——5・19『DEEP35』後楽園大会の試合ですよね。ウェルター級チャンピオンの長谷川選手が判定1－0でドローながら、長岡選手にポイントを取られてしまったという。
佐伯　あれ、長岡は長岡で意地でもチャンピオンに勝ちたいという気持ちはわかるよ。ただ、あの試合のあとにガッツポーズは厳しいよお。
——ダハハハハ！
佐伯　逆にあの内容で判定で勝っても評価しにくいよ。もちろんあの試合は長谷川もチャンピオンとして最悪だけどさ、長岡はチャレンジャーという立場なんだったら、もっとガンガンいって、負けてもいいやぐらいの気持ちでいってほしいね……。長岡にはもっと期待してるから言ってるんですよ。先日の『戦極』の川村亮選手にも同じことが言えるんだけど、ランデルマン相手にいつもの前に出る川村がいなかった。川村のよさは殴られても殴られても前に出る姿でしょ。だからファンも支持してる。さっきのプロレスの話じゃないけど、そのとき自分が何を求められてるのかっていうのを感じてほしいです。
上原　あのー、佐伯さん、そういうタイプの選手はウチはけっこうですから（冷たく）。
——ダハハハハハ！
上原　逆に僕がDEEPの大会で気になったのはLUIZ選手なんですけど。レミギウスと闘ったらおもしろいんじゃないかと……どうなんですか？
佐伯　うん！　LUIZはホント頭悪いから強いね！
——ヒドいなあ、佐伯さんは。
佐伯　大物になる素質は充分ですよ。天才ですね。ただ気が弱いんでね、タップも早いよ!!
上原　アハハハハ！　でも彼はZST向きだと思いましたね。
佐伯　そうかもね。アイツ、ホントに頭悪いし！
上原　頭悪いからZST向きってどういうことですか（笑）。
佐伯　それにね、アイツ、メシを凄く食うんだよ！
上原　いや、知らないですよ！（笑）。
佐伯　移動のときはずっとチンチン触ってたり。それに、オシッコばっかり行くし



佐伯代表がDEEPにほしいと求愛中の小谷直之。5.18『ZST.17』では所とのタッグチームで好勝負を演じたZSTのエースだが、その拳でDEEPを渡り歩く姿も充分に想像できる。

KI × JOE UEHARA

ディファ有明、大爆発！ 5.18『ZST.17』



○奥出雅之vsマクシム・ニェヴォリア×
【2R 2分17秒 三角絞め】
二大会連続でメインイベントに抜擢された奥出が見事な逆転一本で勝利！ 前半は寝技で攻めようとするも、決め手を欠き攻めあぐねていたが、スピード感あふれる三角で劇的な勝利を飾った。



△所英男&小谷直之vs矢野卓見&エリカス・ペトライティス△
【延長Rドロー】
所&小谷の両エースがひさびさに登場！ この試合は4者全員のタッチワークが絶妙のタイミングで、観客も大興奮。あまりの盛り上がりに、主催者判断で突如延長ラウンドのゴングが鳴らされた！



○山田哲也vs太田裕之×
【1R 6分19秒 KO】
現役高校生ファイターの山田クンは、所の兄貴分であるベテラン太田を相手に見事なまでのKO勝ち！ オープニングファイトでの登場がもはやもったいない活躍ぶりである！



○横山大輔vs渡邊将広×
【1R 4分03秒 アンクルホールド】
高校卒業後一発目のZST参戦となった横山クン。強さゆえに、対戦相手がなかなか見つからなかったという主催者をなおも苦しめるがごとく、今回も驚異的な一本勝ちを飾った。

理解してる選手としてない選手がいる。だから難しいんですよ、ホントに（佐伯）

ねえ！
――ええっと、話がおかしな方向にいきそうなので軌道修正しますが、外国人ファイターなんかもやり取りができるといいですよね。
上原　リトアニア人が続々とDEEPに出るっていうのもアリですね。
佐伯　俺、思うんだけどさ、ZSTはリトアニアってイメージ凄くあるじゃん。でもウチってどう考えても韓国だもんね！　だから俺は韓国格闘技界に一番貢献してると思うよ！
――ダハハハ！　突然なんですか。
佐伯　みんなそうじゃん！　だから俺思うもん、絶対DEEPを韓国で放送するべきだって！（鼻息粗く）。
――佐伯さん、そういう話は別の機会にお願いします。
上原　でもまあ、リトアニアvs韓国での対抗戦というのもアリかもしれないですしね。
佐伯　そうね。そういう大会もやっていければいいかもね！
――でも、こうやって思想的にプロレスベースの団体がちゃんと活性化していくのは、我々としても非常に楽しみです。
佐伯　やっぱり競技っていうスポーツの中にあるから、そのへんのバランスが難しいんだけどねえ。たとえばさ、こないだのDREAMで川尻（達也）の行動あったじゃないですか。
――『DREAM・3』の宇野薫vs石田光洋戦後にいきなり宇野に対戦表明した件ですよね。
佐伯　あれ観たらさ、俺なんかは「うわっ、おもしれえ！」って思って観たくなるんだけどさ、基本的にはダメなんだよねえ。でも、ガチの感情が出る試合って観たいじゃん。でも、この世界、ガチで仲悪いとやらないでしょ。
――そうですね（笑）。
佐伯　まあ、だけど重要なのは物語なんだけど、実際なかなかそういうカードって組めないんだよな。こっちまで緊張するカードってなかなかないからさ。
――でも思い起こせば、リングスの頃、前田（日明）さんは軽くそういうの組んじゃってましたけどね。「やれや」の一言で（笑）。
上原　ええ、そういうのは関係なく組んでましたからね。でも、前田さんのマッチメイクで、「うわぁ、これはどうなんだろう」っていう試合が、最終的には「あ、こうなるのか」って妙に納得できる部分がありましたからね。
佐伯　いやー、でも難しいよ。そういうのは。どーにもなんない選手もいますから、ホントに!!　……だから、そういう選手はZSTさんに上がらせます（サラリと）。
上原　いやいやいやいや！　いらない人だけこっちにもらったってイヤですよ！（笑）。
佐伯　大丈夫、大丈夫。しっかりした選手しか出さないし、そんな恥ずかしいことしないって！
上原　ホントですか!?（疑いの目で）。お願いしますよ、ちょっと。
佐伯　ちゃんと言うこと聞くヤツも多いんですよ。あ、俺の場合はさ、言うこと聞きにくい選手は自由にさせておこうと思ってるんですね。だって対抗して話しても勝てないヤツがいるからさ。たとえば長南（亮）とか。
――ダハハハハハ！　勝てませんでしたか。
佐伯　負ける！　負ける！　「どっちが正論ですか？」って言われたら、「う～ん……おまえだなあ」ってなるからねえ（苦笑）。しがらみなんかもあって、僕が話してることもありましたけど、長南なんかは正論をストレートに言いますからね。
――たいへんですねえ、佐伯さんは（笑）。
佐伯　だからZSTさんがうらやましいのは、代表が別にいて、上原さんっていう「これはこうだ！」って言いきれる人間がいるじゃないですか。その形式がいいなって。こっちは俺が代表だし、言えるときと言えないときがあるんで、うらやましいですよぉ。
上原　でも、正直、僕は選手と歳が近いからやりづらい部分ってありますよ。選手と歳が離れてることによって言える部分ってのもあるんじゃないですか？　過去にも、僕が厳しいことを言ったことによって、DEEPさんとかほかのリングに行っちゃった選手とか、けっこういますからねえ。
佐伯　でも、僕はあんまり何も言わないですよ、実際は。いま厄介なのは全部、木下（雄一・DEEPスタッフ）に振っちゃう！
――ダハハハハハ！　で、今年の初め『HERO'S』とPRIDEが合体したようなかたちでDREAMができましたけど、これによってやりやすくなった部分ってありますか？
上原　ZSTの選手はまだDREAMさんには上がってないんでわからないですね。まあでも、周りにいる人間はいつもと同じだから、あんまり変わらないかなという感じなんですけど。選手からしてみたら、やっぱりグローブから何から違いはあるから、そこは全然違うと感じるかもしれないですけど。
――佐伯さんはいかがですか？
佐伯　う～ん……まあ、DREAMができて、『戦極』ができて、正直またみんな同じことやってんじゃねえかって思っちゃうね。
――そうかもしれないですね（笑）。
佐伯　それから、FEG関係者と旧PRIDEスタッフって、やっぱりまだなんか距離があるような感じがしますねえ。
――ほう。距離がありますか。
佐伯　仕事一つにしても、どこかお見合いをしてるというかね。でも、体制がまだしっくりきてない中で、こないだの『DREAM・3』は本当によくやったと思います。ただ、逆に言ったら、そのへんをこれからどうやってくのかによって先が変わってくるんじゃないかなとは思いますね。



佐伯代表が小谷をほしがる一方、上原広報がZSTでレミギウスと闘わせたいと語るのがこのLUIZ。LUIZのとんでもなさはDEEP周辺では有名な話であるが、ご存知でない読者は『kamipro』No.121をいますぐ読むべし！

SHIGERU SAEKI × J

所選手なんかは「川尻さん、仲良くやりましょうよ」って思ったはず（上原）

――そのへんはまだうまく流れていない原因だったりするんですかね。

佐伯　1年前まであんまり交流がなかったところだからねえ。僕から見たって『HERO'S』に出てた選手はいろんな気持ちがあるだろうし、PRIDEに出てた選手からしてみてもいろんな部分があるし。まあ、それを活かしてやってくしかないとは思いますけどね。なんか不思議な空間ですよね。

上原　僕のDREAMさんの印象としては、『HERO'S』に比べると、正直、殺伐としてると思いますね。それこそ、僕がDEEPさんの会場に行ったときに、ちょっと警戒心を持っちゃったのと同じような感じで。なんか怖いんですよ。『HERO'S』はアットホーム的な感じでしたから。

佐伯　楽しそうだったもんねえ！　いつも思ってた！

上原　さっきの川尻選手の話は、僕も佐伯さんと同じような視点で観てましたけど、所選手なんかはあれを観て「川尻さん、もうちょっと仲良くやりましょうよ」って思ったと思いますよ。

佐伯　ふーん。そうなの？

――ちなみに、DREAMの対戦カードがなかなか決まらないのは、その"チグハグさ"も関係してるんですかね。

佐伯　あると思いますよ。やっぱり、偉い人がたくさんいるし。それに、もう一つは、みんなスタッフが忙しすぎるんだよね！　谷川さんにしたって、K-1WGPもあるし、K-1MAXもあるし。忙しい連中ばっかり集まってるからなかなか時間がないと思いますよ。打ち合わせとかでその日に決まらなかったら「じゃ、今度にしとこう」っていうことになるわけでしょう。実際そうだと思うよ。


上原広報いわく"殺伐とした"人間ドラマが繰り広げられるDREAMのリングだが、"プロレス的"な要素を多分に取り入れる両団体のファイターにとっては、相性は抜群のはずである。

――なるほど、なるほど。

佐伯　ホントだったら、4月にしても5月にしても、それぞれチームを作ってね、時間があるチームがプロモーションやったりできると思うんですよ。でも、いっぺんにやると各スタッフは「休めるうちに休んどこう！」って気持ちになるじゃん。ホントだったら、片方が忙しいときに、マッチメイクだったり公開練習だったり、いろいろ進められることはあると思うんだけど、みんなが忙しいから難しい。休めるときに休まないと身体がもたないですからね！

――そんなに休もうと思ってますか（笑）。

上原　ぜんぜん話は変わりますけど、佐伯さんって、試合の前日、何時に家に帰ります？

佐伯　前日は……今回はね、大江戸温泉（都内の温泉施設）にいましたね。5・18『戦極』行って、そのまま大江戸温泉に行った！

――なぜ、大江戸温泉（笑）。

上原　ってことは、前日は作業してないんですか？

佐伯　作業はもう全部終わらせちゃう！　前々日には全部終わらせて、前日のルールミーティングと計量終わったあとに、雑用をすませるぐらい。

上原　へえ～。優秀ですねえ！

――でも、なんでわざわざ大江戸温泉なんですか？

佐伯　（無視して）細かい話だけど、普通は前日にプレスとか招待客とかのリストを作ったりして、今回はけっこう前から準備したんで、早かったことは早かったで

歴史に残る4時間半興行！ 5.19『DEEP35』


○三島☆ド根性ノ助 vs 今成正和×
【3R 判定2-0】
王者が次々と敗れたこの日のDEEPで今成までも王座陥落。得意の足関節を逆に三島に仕掛けられるなど、攻め手を欠く内容に。一方、新王者となった三島はひさびさの勝利に涙をにじませた。


○ハン・スーファン vs 横田一則×
【1R 3分38秒 KO】
ライト級タイトルマッチとして行なわれたこの一戦、なんと現王者・横田が撃沈。序盤、ハンをコーナー際でコントロールする横田だったが、スタンドに戻されると鋭い左フックを一閃！


○市井舞 vsしなしさとこ×
【2R 判定2-0】
体重差10キロにしてプロレスラー市井との一戦に臨んだしなしだったが、市井にタックルを潰され逆にパウンドの餌食に。市井のパワーの前にあらゆる技を潰される結果となった。


△長谷川秀彦 vs 長岡弘樹△
【2R 判定ドロー】
タイトルマッチではなかったものの、DEEPウェルター級王者・長谷川が長岡相手に判定1-0でドローに。拳を高く挙げて喜びを表現した長岡だったが、佐伯代表からは厳しいコメントが……。

すね。

上原　僕、リングス時代は朝まで事務所にいて、明け方、事務所の近くでシャワー浴びて、そのまま寝ないで興行やるっていうのがあたりまえだったんですよ。それがあるんで、ノソノソやっちゃうんですよねえ。で、疲れちゃうんですよ。

佐伯　でも、あれでしょ？　DEEPはだいたい後楽園でやるけど、どっちにしても14時半まで入れないんですよ。

上原　ああ、そっか。ウチはディファ有明とかが多いから、早い時間に入れますからねえ。

佐伯　そうなってくると、睡眠バッチリで行けるんだよね！　13時ぐらいまで寝て、メシ食ってから行くっていう感じなんで。でも、作業事態も前日の20時までには全部やっちゃいますね。

上原　優秀ですねえ！

――優秀ですけど、なぜ佐伯さんが大江戸温泉に行ったのかいまだにわからないんですけどね（笑）。

佐伯　今回は、有明（コロシアム・『戦極～第二陣～』の会場）から近かったから（サラッと）。

――それだけ！

佐伯　でも、一回帰りましたよ。1時ぐらいに帰って、それで寝て。でも、だいたいそんな感じですから。けっこう前日は飲んだりもするからね。

上原　へえー、いいですね！

佐伯　その代わり、たとえば1週間前の日曜日とかに控室割りしたりとか、グッズの手配とかもやってますよ。リリースだって、先4つぐらいのを一度に作ってたりしますからね。それに、パンフレットの原稿も自分で書いてますから。

――あ、あれ、佐伯さんが書いてたんですか（笑）。

佐伯　いやー、パンフの原稿が一番キツいね！　今回だったら13試合だから、プロフィールの原稿は26人ぶんだよ!!

上原　それはキツいなあ。

佐伯　あのねえ、やっぱり一回書いてあとで読み返したりすると、句点が多いとかあるのよ。あとは、「そして」ばっかり使っちゃうと困るでしょ!?

――確かにそうですね（笑）。

佐伯　パンフはやっぱり24時間かかる！　一人1時間ぐらいかかるんでね。それに、途中で寝ちゃうからさ。

――非常にスケールの小さい話になってきましたね。

上原　凄いなあ、佐伯さんは（笑）。でも、ZSTの事務所ってベッドがあって、泊まる環境としては完璧なんですよね。でもベッドを置いたことによって、ダメになっちゃいますね、やっぱ寝ちゃうんで。

佐伯　でしょ？　あとね、データのない選手が困りますね。そういうときはウソを書きます！

――ダハハハハ！　主催者自ら（笑）。

佐伯　ってのは冗談だけどさ。とくに海外とかの初参戦の選手はたいへんですよ。本当にウソでも書きたくなるもんな（笑）。

一同　ガハハハハハ！

『HERO'S』は楽しそうだったもんね！いつも思ってた！（佐伯）

SHIGERU SAEKI × JOE UEHARA

――でも、今回協力関係を築いたことによって、せっかくなんでグッズとかもコラボしたらいいんじゃないかと思うんですけど、どうですか？

上原　グッズですよねえ。ウチ弱いんですよ。

佐伯　ウチも弱いなあ！　グッズってさ、結局サイン入れなきゃ売れないよね。

上原　そうそう。だから、こないだ所選手にサインさせたら凄い売れましたよ。

佐伯　やっぱ、そうだよね。でも、ウチ、そういう選手がいないもん。人気のあるヤツがいないから！（キッパリ）。

――確かに、渋いメンツが揃ってますからねえ。

佐伯　チャンピオンの長谷川とかいるけど、前に大阪で試合したときに、長谷川が長谷川Tシャツ売ってても、まったく売れてませんでしたね！　逆に言うと、グッドマン田中に負けてましたから！

――誰なんですか、グッドマン田中って！（笑）。

佐伯　いや、バカにしてるでしょ!?　でもね、グッドマン田中が売るのよ！　京都の選手で、大阪のパワーゲートのエースなんだけど、パワーゲートの戦績は9勝1敗ぐらいなんですよ、たしか。

――ダハハハハ！　ダメじゃないですか（笑）。

佐伯　そのグッドマンTシャツに長谷川は負けてますからねえ。そういう意味では、パンクラスとか、ホントに力入れて作ってますよね。

――でも、所選手のグッズとかは売れてるんじゃないですか？

上原　リバーサルは売れてると思います。ブランドを作っちゃってるし、カッコいいイメージがありますから。

佐伯　もう、Tシャツはグッドマンに任せるか！

――えー、なんかこれ以上話すとグッドマン田中の話に転がりそうなので、今日はこのへんにしておきますか（笑）。

佐伯　（あわてて）ちょっと、ちょっと、ちょっと！　なんかシメようとしてない？　大丈夫？　書くネタあった!?

――なんですか、いまさら（笑）。好き放題しゃべっておいて。

佐伯　大丈夫ならいいんだけどさ。なんかよけいなことまでしゃべってる気がするから、ちゃんと原稿チェックさせてよ！

上原　聞いてもないことしゃべるからでしょう！（笑）。いやー、でも、おもしろいなあ、佐伯さんは。

――というわけで、今後の両団体の盛り上がりに期待してます！

【08年5月21日／kamipro編集部にて収録】





タムラゲノム

“U”を継承するのはこの男だ!!

中村大介

DAISUKE NAKAMURA
U-FILE CAMP.COM

聞き手／堀江ガンツ
撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

黒いショートタイツに、黒いレガース。そんな、いまや懐かしい"UWFの正装"を身にまとった男が、5・11『DREAM・3』で、あの青木真也、石田光洋を苦しめた、韓国の腕十字職人、チョン・ブギョンから見事にKO勝利を挙げた。

その男の名は中村大介。U－FILE CAMPに所属する田村潔司の愛弟子であり、現在、調布の小会場で開催されているU－STYLEのエースでもある。

師匠・田村の意志を継ぎ、頑ななまでにUWFにこだわる中村大介とはどんな男なのか？ 真正UWF継承者のこだわりをたっぷりと聞いてみた。

――『DREAM・3』ではチョン・ブギョン相手に素晴らしい内容でのKO勝利、おめでとうございます！

中村 ありがとうございます。

――ご自身でも今回は会心の勝利だったんじゃないですか？

中村 そうですね。自分の試合ができたというか。寝技の攻防を一通りできてからのKO勝ちだったんで。勝ったこともそうですけど、いい内容にできたのが嬉しかったですね。

――中村選手が信条とする、動きのある試合ができた、と。

中村 ただ、欲を言えば自分の中ではまだまだというか。1ラウンドの途中からはちょっと止まっちゃった部分もあったんで。

――あの内容でもまだまだですか！

中村 理想を言えば、まったく止まらない試合が理想なんで。これで満足しないで、もっと練習して沸かせたいですね。

――煽りVで煽られてましたけど、腕十字合戦は見応えありましたよ。

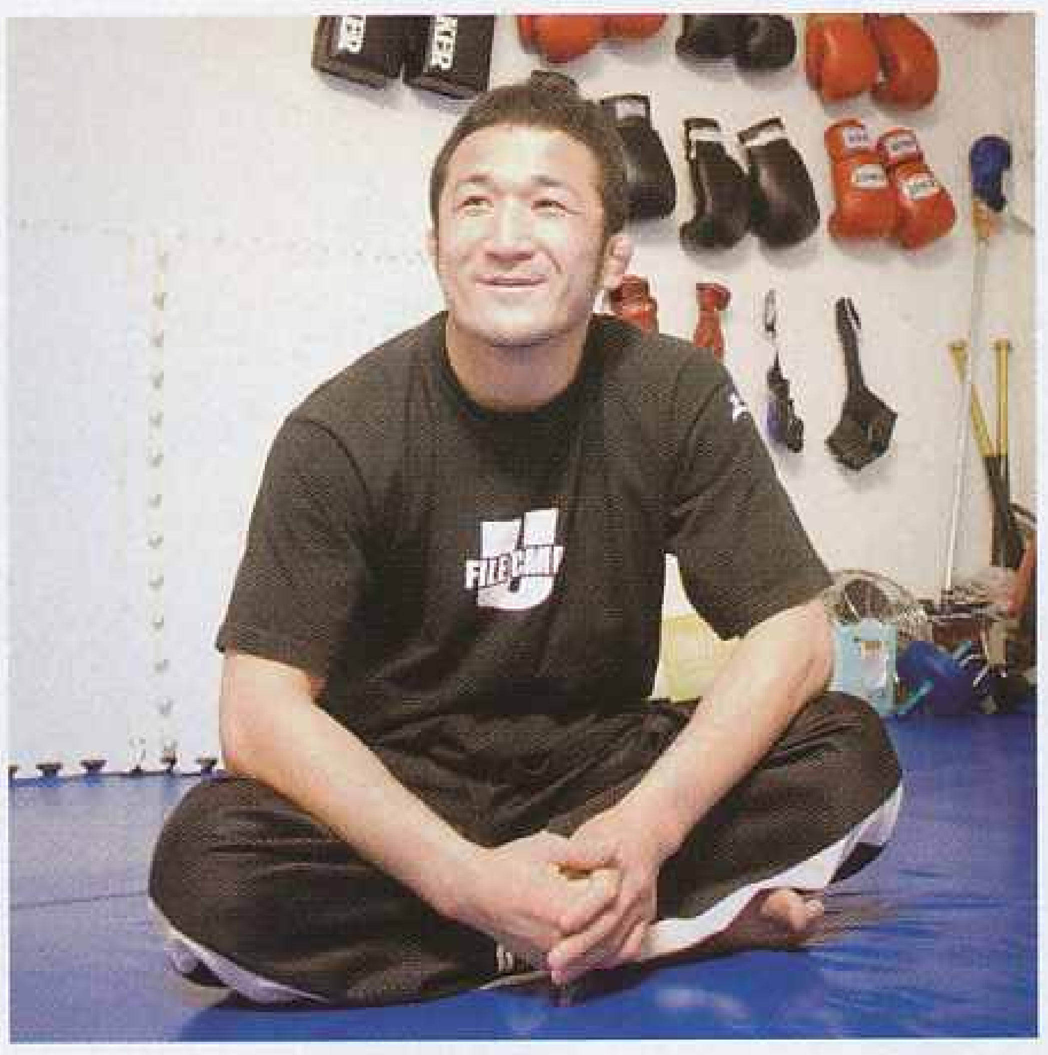
中村 ああ、あの映像は凄かったですね。自分も「十字やんなきゃ」って思いましたから（笑）。

――中村選手自身が煽られちゃいましたか（笑）。

中村 まあ、煽られなくても自分には十字しかないんですけど……。だから、十字で一本勝ちできるように、試合当日の朝、10時に目覚ましをかけたんですよ（笑）。

――ダハハハ！ そんなゲン担ぎをしましたか（笑）。

中村 でも、ちょっと寝坊しちゃったんで、それで十字が取れなかったのかなって（笑）。



――腕十字だけでなく、アキレス腱固めなんかも狙ってましたよね。

中村 そうですね。やっぱりアキレス腱固めはUWFの象徴だと思うんで、あまり足関は得意ではないんですけど、やっちゃいました（笑）。

――得意でもなんでもないのに、あえてUWFっぽい技をやりましたか（笑）。

中村 まあ、どんな体勢からでも狙える技を狙っていこうかな、と。

――相手にバックを取らせてアームロックからの腕十字。あれなんかモロにUインターっぽい技術ですよね。

中村 あれは自分の得意技というか、これまでもタップを奪ってきたんで。だから、あれで取れなかったのが悔しいですね。

――やっぱり、腕十字や寝技に関しては、相手はかなりうまかった？

中村 うまいですね。あと、やっぱりオリンピックの銀メダリストなんで、気持ち的に「絶対取らせない」というのは伝わってきました。

――でも、関節技での一本ではありませんでしたけど、青木選手と石田選手があれだけ苦戦した相手にKOで勝てたっていうのは、大きいことだと思いますよ。

中村 それは自分でも感じてます。僕は実績がないので、ライト級GPに出られませんでしたけど、ブギョン選手というGPに出た選手に勝てたというのも、自分の中では大きいですね。

――一つの大きな実績になりますよね。

中村 自分はいままで、『PRIDE武士道』でマーカス・アウレリオ選手とやらせてもらったり、『ケージレージ』でもビトー・"シャオリン"・ヒベイロ選手とやらせてもらったり、けっこうチャンスをいただいてたんですけど、それをものにできてなかったんですよ。でも、今回ああいう勝ち方ができて、田村さんやチャンスをくださった方々に一つ恩返しができたかな、とは思ってます。まあ、まだまだですけど。

――最後は右ストレートでしたけど、インターバルのとき、田村さんがパンチについて身振り手ぶり指示を出してましたよね。やっぱりあのアドバイスがきいたわけですか？

中村 そうですね。相手のパンチが大振りなので、狙えばカウンター取れると言

中村大介プチREVIEW



[05.11.23 U-STYLE Axis]
有明コロシアム
× vs フランク・シャムロック
（12分56秒 アンクルホールド）

いろんな意味で伝説の大会『U-STYLE Axis』に出場。ここでも大物フランクとの対戦というビッグチャンスを得る。総合さながらの試合に挑み、敗れたもののポテンシャルの高さを見せた。



[05.04.3 PRIDE武士道 -其の六-]
横浜アリーナ
× vs マーカス・アウレリオ
（2R終了 判定 3-0）

DEEP等で実力が認められた中村は『PRIDE武士道』に抜擢。相手はZST GP優勝の実績を引っさげてPRIDE参戦してきたアウレリオ。中村はこの実力者に敗れたものの、寝技で真っ向勝負！



[02.7.20 THE BEST Vol.2]
ディファ有明
○ vs シャノン・"ザ・キャノン"リッチ
（1R 4分28秒 腕ひしぎ十字固め）

総合格闘技プロデビュー戦でいきなり、PRIDEで（一応）メインを務めたこともあるシャノン・"ザ・キャノン"・リッチと対戦。現在も得意とする腕ひしぎ十字固めで見事に一本勝ちを奪った。



[5.11 DREAM.3]
さいたまスーパーアリーナ
○中村大介 vs チョン・ブギョン×
(2R 1分5秒 KO)
中村がDREAMに初出場。相手は青木真也、石田光洋をおおいに苦しめた柔道銀メダリストのチョン・ブギョン。中村は序盤こそ、ブギョンの腕十字にヒヤリとさせられたが、逆に得意のアームロックからの腕十字や、アキレス腱固めなどで攻め込み、客席をおおいに沸かせる。そして2R、中村の右ストレートがブギョンのアゴを打ち抜き、見事にKO勝ち!

十字で一本勝ちができるように、試合当日の朝10時に目覚まし時計をかけたんですよ(笑)

われて、そのおかげでもありますね。

――中村選手って普段、打撃はどれぐらい練習してるんですか?

中村 寝技と打撃、半々ぐらいですね。

――ほかのジムに行って、ボクシングやキックボクシングをやったりとかは?

中村 まったくないです。ボクシングだけでなく、柔術とかもまったくないですね。

――柔術経験ゼロですか!

中村 ボクはU-FILEの寝技ですね。

――打撃もU-FILEのキックボクシングのコーチに習ってるんですか?

中村 コーチというか、田村さんです。

――あ、打撃の師匠も田村さんでしたか(笑)。スタンドの構えもノーガードのような独特な構えからパンチを出してましたけど、あれはどうやって生まれたんですか?

中村 あれもボクシング的には、フリッカージャブっていうらしいんですけど、全然そういうの意識してるわけじゃなくて。自分でやりながらあのスタイルになりましたね。

――「これがやりやすいな」って感じですか?

中村 はい、だからまだ変わるかもしれないですし。いまのところはあれが自分のスタイルですね。

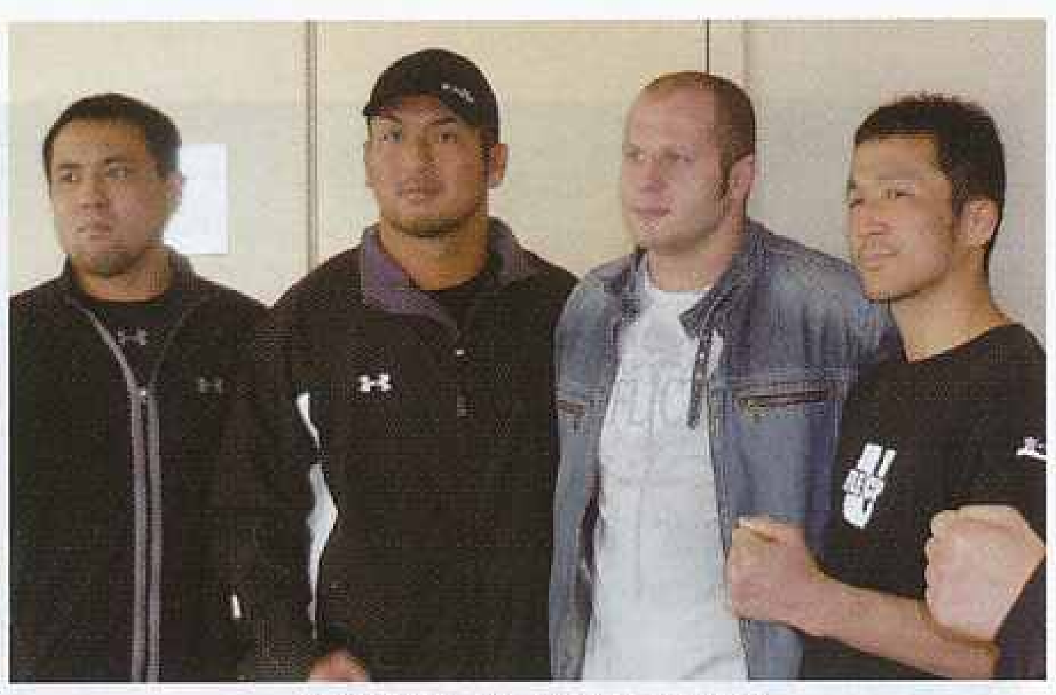
――試合前に「U-FILE CAMPで身につけた技術で世界トップクラスにいきたい」って言われてましたけど、出稽古に行かないというのも、そのこだわりがあるわけですか?

中村 こだわりは凄くあります。あと出稽古したら逆に弱くなりそう気がするんですよ。

――それはスタイルに迷いが出そうということですか?

中村 いや、基本的に人見知りなんで。

DAISUKE NAKAMURA



[08.4.3 M-1 CHALLENGE]
ロシア・サンクトペテルブルク・アイスパレス
○ vs ユーリ・イブレフ
(2R終了 判定 3-0)
5人一組の国別対抗戦となったこの大会。中村は日本チームの一員として、ロシアチームと対戦。判定勝ちを収め、日本チームの勝利に貢献した。写真は会場に来ていたヒョードルとの一枚。



[07.10.28 HERO'S KOREA]
韓国ソウル・ジャンチュン体育館
○ vs クォン・アソル
(3R 3分12秒 腕ひしぎ十字固め)
中村が師匠の田村に続いて『HERO'S』参戦。スピリットMCのアソルと対戦。中村には珍しい打撃戦となるが、3ラウンドに中村はアソルのタックルを潰すと、得意の腕十字でまたしても一本勝ち。



[06.8.26 PRIDE武士道 -其の十二-]
名古屋レインボーホール
○ vs 池本誠知
(1R 3分12秒 腕ひしぎ十字固め)
中村の二度目の『PRIDE武士道』の相手は、『REALRHYTHM(リアルリズム)』のエース池本。中村は実績で上回る池本相手に得意の寝技で挑み、見事にアームロックからの腕十字で一本勝ち。

――人見知り！　そんな理由ですか（笑）。あと試合コスチュームが、ショートタイツにレガースというのも、もちろんこだわりがあるわけですよね？

中村　こだわってますね。自分は普段、U－STYLEの試合もやってるんですけど、総合も調布でやってるU-STYLEも同じ気持ちでやってるんで。そういう意味も込めて、普段どおりのコスチュームで総合に上がるようにしてるんです。

――吉田秀彦選手があえて柔道着で上がるようなもんですかね。

中村　あとはUWFに憧れがあるんで、一種のコスプレですね（笑）。

――コスプレですか！（笑）。でも、普通に考えたら、レガースをしてたら不利ですよね？

中村　僕はべつに気にならないです。不利なんですかね？

――やっぱり威力は弱まるんじゃないですか？　だからこそ、田村さんですら、総合ではめったに着けないし。

中村　でも、ハイキックがちゃんと入れば失神しますし、ローキックもかなり効くはずなんで。もし威力が若干弱くなったとしても、レガースをすることで自分のテンションが上がるほうがいいと思ってます。

――いまやショートタイツもほとんどいなくなりましたよね。

中村　でも、けっこうDREAMのリングにはいますよね？

――確かに美濃輪選手とか柴田選手とか、なぜかショートタイツが揃ってきてますね（笑）。

中村　ほかにもアライケンジ選手とか、佐藤光留選手とかもそうですけど、みんな自分の好きな選手ですね。みんな、ちょ



組技には定評があるブギョン相手に、腕十字、ヒールホールド、さらにスープレックスのようなアームロックと、次々と関節技を仕掛けていった中村。DREAMにじつに楽しみなグラップラーが現われた。

自分はU-STYLEも総合も同じ気持ちでやってるので　コスチュームもU-STYLEと同じものを使ってるんです

っとへんな人っていうか（笑）。

――ちょっと時代錯誤というか（笑）。

中村　でも、プロとしてのこだわりがある選手ばかりなんで、僕はいいと思いますね。

――中村選手もちょっと変わってますよね。

中村　いやいやいや、自分は普通です。

――ホントですか？　テーマ曲からちょっと、いまの時流とは違うなっていう。なんといっても『西部警察』のテーマですからね（笑）。

中村　あれも、ちょっとこだわりがあるんですよ。

――そこにもこだわりが（笑）。

中村　はい。『西部警察』はU-FILEに入った頃に再放送をしていまして、練習に通いながら毎日観てたんですよ。だから、自分の原点というか、あの曲にはその頃の気持ちがこもってるんです。あの曲を聴くと凄くテンションが上がるんですよね。

――実際、カッコいいですよね。

中村　そうなんですよ！　自分にも合ってると思って。

――70年代後半ぐらいのドラマって、カッコいいのが多いですよね。

中村　そうですね。自分はまだ小さかったですけど、その頃って好きですね、昭和の感じが。だから、自転車も昔の配達用みたいなのに乗ってますし。

――昔のお豆腐屋さんみたいなのに乗ってますか（笑）。

中村　凄く重くて、乗り心地も悪いんですけど、自分の中ではカッコよくて、足腰の鍛錬にもなるんで。

――あと、普段は雪駄を履いてるっていうのはホントなんですか？

中村　いつも雪駄ですね。真冬でも履いてます。

――なぜ雪駄！

中村　寅さんが好きなので。雪駄も昔っぽくて好きですね。

――映画も昭和ものが好きですか。

中村　そういうのをDVDで観たりとか。あと最近の映画では『ALWAYS』ですね。

――おもいっきり昭和ですね（笑）。UWFスタイル自体が、いまはある種、過去のものみたいになってるじゃないですか。

中村　なんかそうなってますよね。でも、昔の映画をいま観ても感動するように、昔のUインターの試合とかは、いまDREAMを観ているファンが観てもおもしろいと思いますよ。

――中村選手自身はUインターのファンだったんですよね？

中村　はい、Uインターです。

――きっかけはなんだったんですか？

中村　高田vs北尾戦をテレビで観て、これはすげえなって。そして初めて会場に観に行ったのが、神宮球場でやったベイダー戦です。

――あのクソ寒い神宮ですか（笑）。

中村　真冬の神宮球場です（笑）。あのと



中村のホームリングは、観客数十人の前で行なわれるU-STYLE。こんなわずかな観客の前で全力ファイトを続けていた男が、大舞台で弾けた姿はじつに感動的だ。

UWFインターの頃の髙田さんだったら、ヒョードルにも勝てるっていまでも思ってます

DAISUKE NAKAMURA

きも「この寒い中、パンツ一丁で闘ってるプロレスラーは凄いな」って思って、そこからさらにUインターにどっぷりになりましたね。

―いまは、「Uインターは格闘技じゃなくて、プロレスだった」とか言われるじゃないですか。それでも思いは変わらないわけですか。

中村 まったく変わりませんね。実際、試合は凄いし、皆さん強い人ばかりだし。僕はいまでも、あの頃の髙田さんだったら、ヒョードルを倒せるんじゃないかって、本気で思ってますから。

―やっぱり、ファンにそれぐらい思わせてこそ、プロレスラーですよね。

中村 やっぱり憧れますよね。

―格闘技ファンの中には知らない人も多いと思うんですけど、中村選手はいまでも、西調布格闘技アリーナでU-STYLEの試合をしてるんですよね。

中村 はい、やってます。あのU-STYLEの経験っていうのが、自分の中で大きいんですよ。西調布は凄く小さな会場なんですけど、お客さんに間近で観られるので、へんな小細工は通じないし、手を抜いたりしたら、すぐにバレますからね。だから、調布での経験は自分の中で凄く大きいです。

―僕も調布のU-STYLEは何度か取材させてもらってますけど、普段、あの小さな調布アリーナの会場でやってる人が、2万人の前であれだけの試合ができるのが凄いなって。

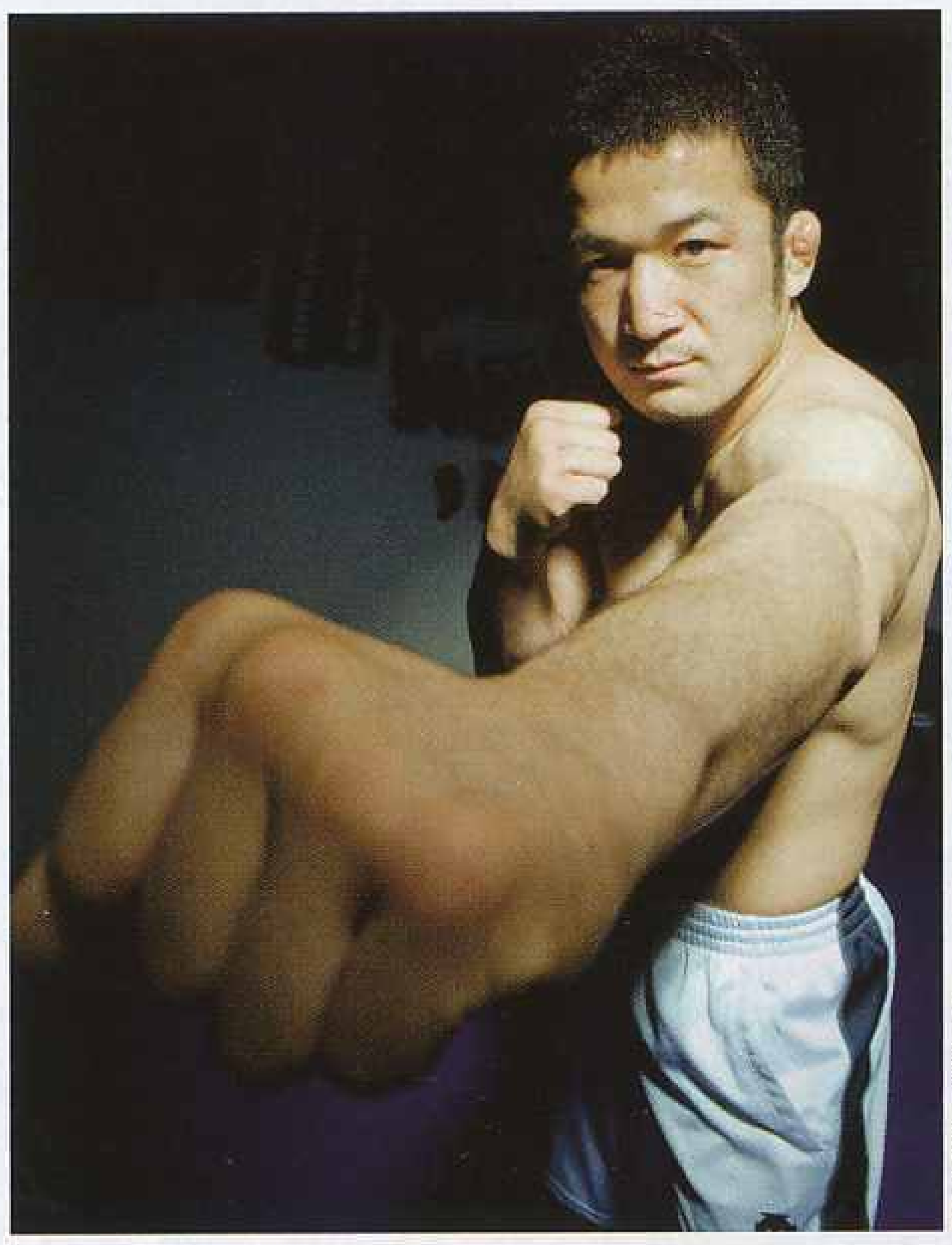
中村 だからDREAMも調布でのU-STYLEも同じ気持ちでやってます。やっぱり、同じようにお金を払って観てもらってるんで、全力でやることに変わりないですから。

―観客が2万人だろうが、38人だろうが、同じように沸かせたい、と。

中村 そうですね。自分は普段の練習から沸かせたいぐらいですから。

―練習で沸かせますか!

中村 ある意味、練習のほうがおもしろいとも思うんですよ。キックボクシングのスパーリングで、水面蹴りとかやってますから。



なかむら・だいすけ■1980年6月10日、東京都足立区出身。UWFにこだわりながら、総合でも結果を出す、次代のUを背負う男。05年からは『PRIDE武士道』にも参戦。1勝1敗の戦績を残す。 現在は調布で行なわれているU-STYLEのエース的存在。176cm、70kg。

―ガハハハハ! 破壊王ばりに(笑)。

中村 だから練習のときから、魅せるプロの試合をやるための練習をしてますね。あと自分は、ほかのジムの選手にナメられたくないっていう気持ちが凄く強いんです。U-STYLEをやってることで、競技的に甘く見られたりするのは、許せないっていうか。

―U-STYLEに対する偏見みたいなものはあるでしょうね。

中村 だからこそ、技術的にもナメられたくないし。技術で上回ったうえで、お客さんを沸かせて勝ちたいっていう気持ちが強いです。

―勝つことだけ考えてるヤツらにこそ、負けたくない、と。

中村 中にはプロなのに、ただ勝てばいいっていう選手もいると思うんですよ。でも、そんな試合やってて楽しいのかなって思っちゃいますね。やっぱりアームロックからの腕十字が取れたりしたら、練習でも嬉しいし、ましてや試合で極められたら、エクスタシーですからね。

―もう、たまらんと(笑)。確かに、『DREAM・3』のメインでの宇野選手のチョークみたいなのが取れたら、相当エクスタシーでしょうね。

中村 そうですよね。あれは気持ちいいと思います。自分もあんな素晴らしい試合がしたいですね。

―今後、やってみたい選手っていいますか?

中村 DREAMのライト級には素晴らしい選手がいっぱいいますんで、みんなやってみたいですね。ただ、自分はまだ実績が全然ないので、もっと勝ち続けて発言権を得てから、そういうことは言いたいです。

―その「発言権を得る」という考えも田村イズムですね(笑)。以前、お互い「闘いたい相手」と言っていた、所英男選手なんかどうですか?

中村 所さんとも、もちろんやってみたいです。

―いまでも一緒に練習したりしてるんですか?

中村 いや、最近はほとんどないですね。以前は月曜日の夜に、U-FILE以外の選手たちも集まって、登戸のジムで一緒に練習してたんですけど、自分が月曜日の夜は赤羽のジムで指導することになって行けなくなっちゃったんですよ。でも、所さんは凄くおもしろい試合をする選手なんで、いつかはやりたいですね。

―所選手は階級落とすみたいな話もありますけど、DREAMでもZSTでもDEEPでも、どこでもいいから観たいですね。

中村 僕はU-STYLEでもいいんですけど(笑)。

―そのカードを調布でやったらもったいないですよ!(笑)。

中村 もしくはZSTでタッグも組んでみたいです。Uインター好きとしては、ダブルバウト(タッグマッチ)をやってみたいんで。

―ダブルバウト! とことんUインターですね(笑)。では、UWFの継承者として、これからも期待してます!

【08年5月16日/U-FILE CAMP赤羽にて収録】



各方面から「興行がぶち壊しだよ!!」との苦情が多数!!

kamipro.com

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

カミプロドットコム

kamiインタビュー



本誌・阿修羅チョロ考案の「戦極ポーズ」をジョシュに伝授した歴史的インタビューを掲載中!!

5.18『戦極～第二陣～』の直前に当サイトで掲載されたジョシュ・バーネットのインタビューで、本誌編集部の阿修羅チョロが自分で考案した戦極ポーズをレクチャー。その結果、ご存知のようにジョシュはリング上で戦極ポーズを披露した。そんな歴史的インタビューが読めるのは『kamipro.com』だけ!! DREAMミドル級GP2回戦に進出したゲガール・ムサシとゼルグ"弁慶"ガルシックも登場!! 必読です!!



ゲガール・ムサシ&ゼルグ"弁慶"ガレシックがDREAMへの情熱を語る!!

ポッドキャスト

"カリスマ司会者"原タコヤキ君をドッキリさせるためだけにほぼ毎回のようにサプライズ・ゲストが乱入する超人気ポッドキャスト番組『mimipro』。すでにRG、マッスル坂井、\(^o^)/チエ、佐伯繁DEEP代表が登場。これからも豪華ゲストをほぼ毎週お招きしてマット界の最新情報と無駄話（おもに本誌編集部・阿修羅チョロの生態について）をお届けしています。



ニュース

記者会見が3つ重なる場合も少なくない昨今のマット界。プロレスだけじゃ物足りないし、格闘技だけじゃ満足できないというあなたのために、『kamipro.com』はあらゆる団体の会見を取材して最新情報をお届けしております。気になるカードの発表もここでチェックできる!! なるべく毎日、できれば数時間おきにチェックしよう!!



大会速報

月刊誌である本誌はあまり試合レポートを詳細に掲載することは多くないですが、『kamipro.com』は試合結果および試合の詳細や試合後のコメントまでガッチリ取材します。試合写真もたっぷり掲載。会場で観戦した人も、家に帰ったら「よかったねぇ～」と夢枕獏先生ばりに試合の感動を噛みしめながら、大会速報をチェックしよう!!



最新号情報

「いつ出るんですか?」「どこに行けば買えますか?」「誰が表紙ですか?」「どんな内容ですか?」というお問い合わせが発売日直前になると本誌編集部に殺到します。でも、これからは大丈夫。いち早く『kamipro.com』が最新号情報をお伝えします。またエンターブレインのショッピングサイト「eb! store」にもリンクしているので購入も可能です。



次はどんなポーズが飛び出すのか?

レッツ毎日アクセス!!

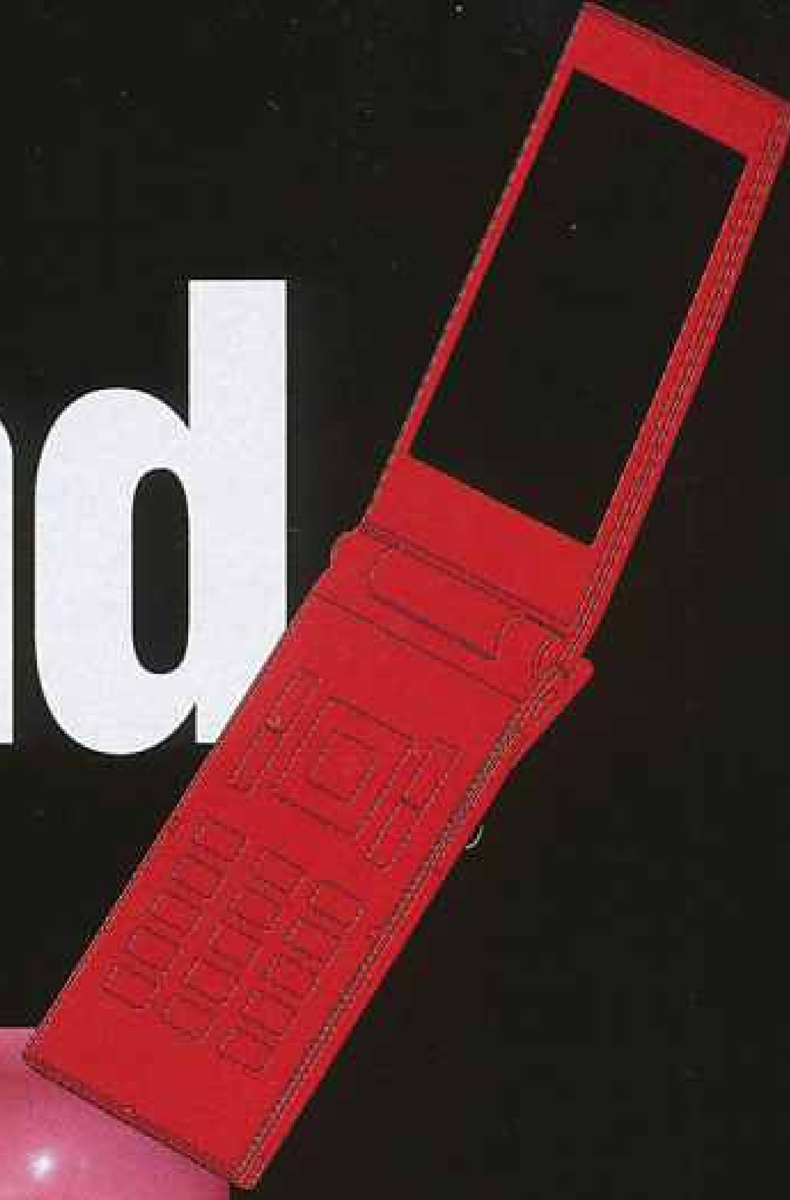
http://kamipro.com

※携帯電話からはアクセスできませんのでご了承ください。

kamiproの携帯サイト

kamipro Hand

ニュース、コラムを毎日配信



あの『与作』にも潜入! その一部をちょっとだけ公開!!



いまは亡きターザンの地元立石を探訪中なのだ! ウワー!!

土曜コラム [kamipro事件簿]

「アチャー! ターザン山本を偲ぶ葛飾・立石探訪記」

(5月3日更新分より)

そうだ、立石に行こう。

私は薄いエメラルドグリーンのカーテン越しに朝の陽光がきらめくダイニングテーブルで、少しミルクを入れすぎたモーニングコーヒーをかき回しながら、ふと思い立った。

(中略)

よし、こうなったら立石に行くしかない。ターザンが生前、最もいい時代からどん底の時期、そして死の前にあだ花を咲かせたあの土地に足を踏み入れ、文字でしか感じられなかったあの店、この場所の"実際のところ"を体感するしかない! そうすることになんの意味や生産性があるのか、まったくわからないが。

どうせなら少し足を延ばして、最近、話題になったあのへんにも行ってみよう。もちろん、赤い自転車でネ。う、ふ、ふ、ふ、ふ。そうすればターザンだけでなく、いまやその存在感を消してしまった"あの人"についても何かわかるかもしれない。男は常在戦場、さよならだけが人生さ。ウワー、これはナイスアイデアなのだ! というわけで、立石探訪行ってきまーす!

[文/高崎計三]

編集部員によるkamiblogも読み応え充分! いますぐkamipro Handへアクセス!!

携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1 QRコードでクイック・アクセス!!

2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス

3 hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

DoCoMo	iMenu ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技/大相撲 ▶
	※もしくは「kamipro」で一発検索			
au	トップメニュー ▶	カテゴリで探す ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
SoftBank	メインメニュー ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
WILLCOM	趣味&スポーツ ▶	スポーツ ▶	総合 ▶	
	エンターティメント ▶	TV・メディア・本 ▶	本 ▶	

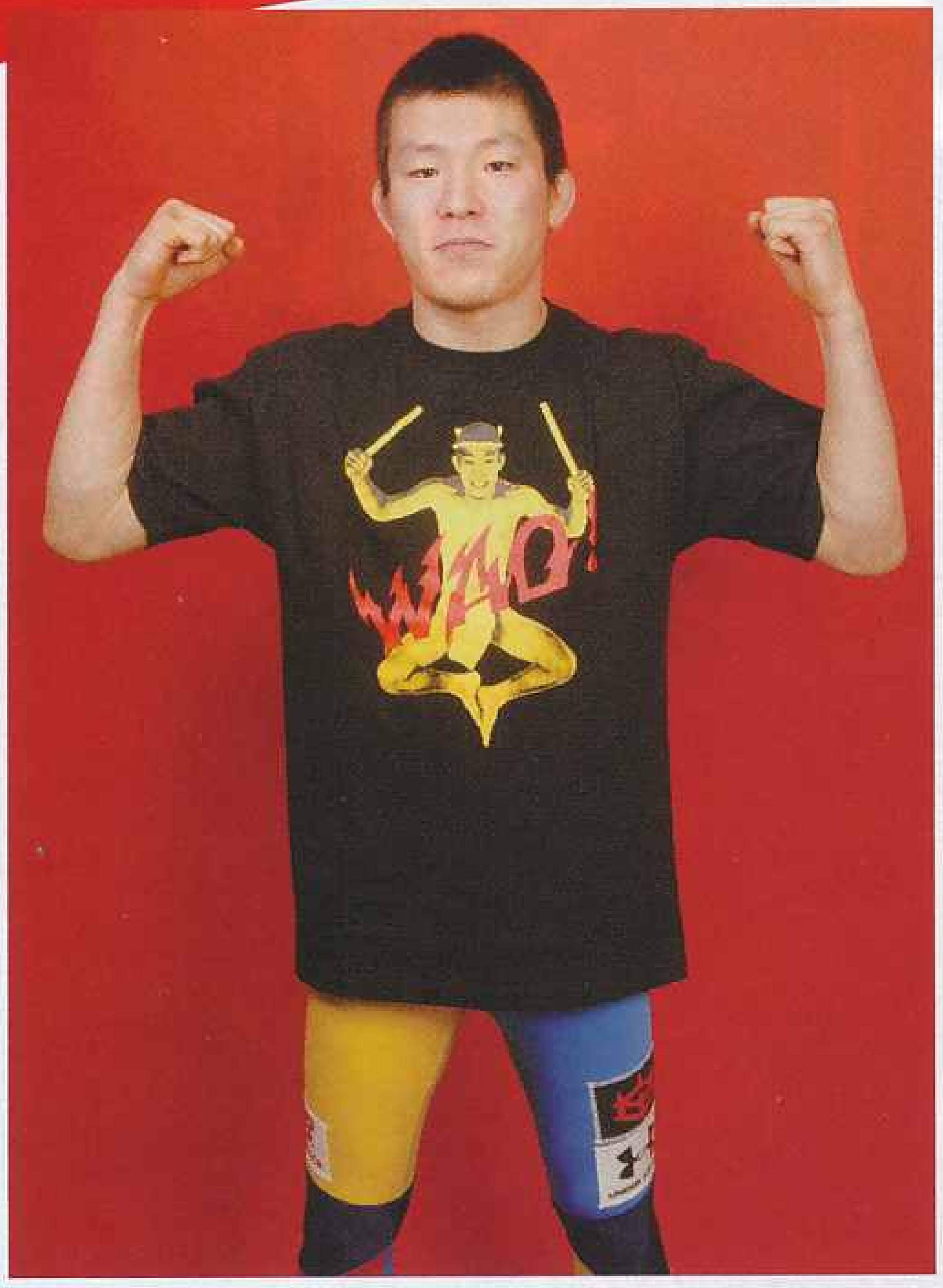
kamipro Hand

[QRコード]

[お問い合わせ] (株)ダブルクロス TEL.03-5368-1795

kamipro SHOPPING

“ミスターやれんのか！”
青木ふんどしTシャツも大好評!!





青木フンドシ Tシャツ[☆]
[M·L·XL ブラック]¥3,990（税込）



Kamiproマスクシャツ[☆]
[S·M·L·XL ホワイト×レッド]¥3,990（税込）



マッスル スターウォーズ Tシャツ[☆]
[S·M·L·XL イエロー]¥3,150（税込）



インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[M·L·XL グレー]¥3,990（税込）



インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト×ブラック]¥3,990（税込）



I編集長“殺し”Tシャツ[☆]
[M·L·XL ブルー]¥3,990（税込）



マサ斎藤Tシャツ[☆]
[M·L·XL ブラック]¥3,150（税込）
©mmsaito Co. Ltd. 2007 All Rights Reserved.



インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[M·L·XL ホワイト]¥3,990（税込）



インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト]¥3,990（税込）



インリン様女神「LOVE」バッグ[☆]
[ベージュ]¥1,980（税込）



インリン様 vs ボノちゃん対戦記念Tシャツ
[M·L·XL ブラック]¥3,990（税込）



ハッスルFLASHTシャツ
[M·L·XL ブラック]¥5,040（税込）



髙田総統パロディTシャツNO.3
[M·L·XL ブラック]¥3,990（税込）

『kamipro』通販方法

- 通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
- 全国どこでも送料一律500円です。
（何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合わせください）
- 代引き手数料は315円です。
（代引き金額によって異なります）

［『kamipro Hand』でご注文の場合］
詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。
ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

［電話でご注文の場合］
（株）ダブルクロス TEL.03-5368-1797
（平日13:00〜19:00）

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]
☆マークのものがKamiproオリジナルTシャツです

（単位はcmです）

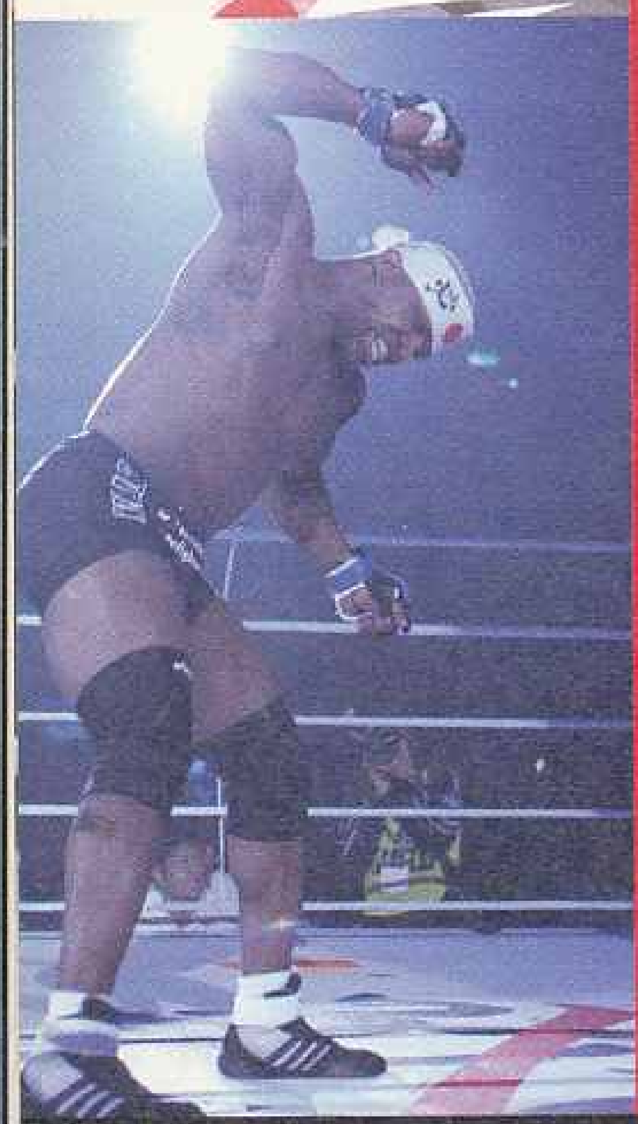
サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24



※価格はすべて税込みです







戦極ポーズ 出たぞ!

公明正大なリングに何が起こったのか?

5.18『戦極〜第二陣〜』有明コロシアム

いざ、16ページ大特集!!





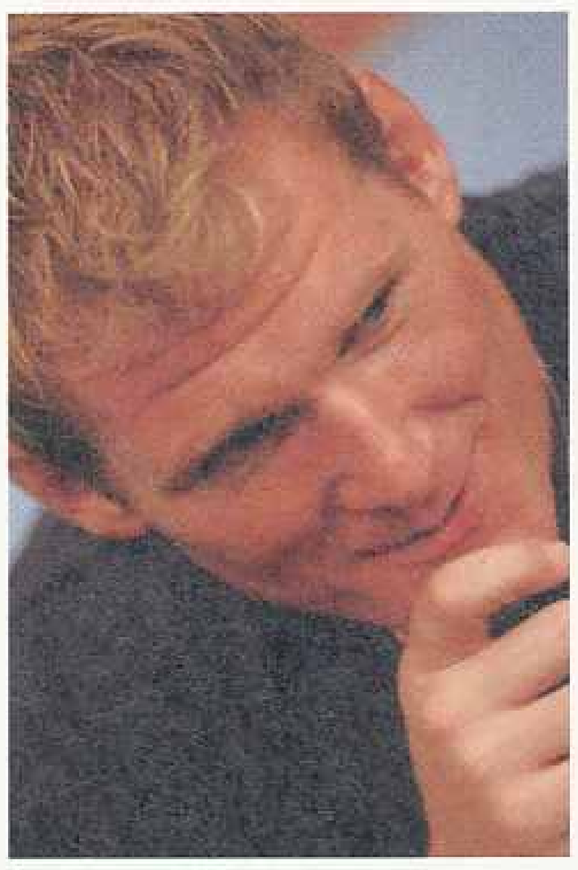












リアルで公明正大なリングに“異物”混入
“戦極ポーズ”は是か非か？

5.17『戦極～第二陣～』でのモンソン戦後、ジョシュが公約どおり、ホントに戦極ポーズを披露してしまった！
公明正大でリアルなリングに似つかわしくない、この珍妙なポーズ。じつは本誌公式サイト『kamipro.com』での
インタビューの際、本誌ロクデナシ編集者、阿修羅チョロが自ら考案したポーズをリングでやってほしいと頼んだもの。
好漢ジョシュはホントにリング上で披露してくれたのだ。しかし、リアルが売りの『戦極』だけに、このポーズは賛否両論。
はたしてジョシュ本人はそのへんどのように思っているのか？

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

ジョシュ・バーネット

ARNETT

よりによってチョロ考案！ これが問題の戦極ポーズだ!!



「いくぞー！」「オー！」のあと、まずは「一」指を一本前に差し出す。

「十」は両手を前に広げて指10本で十を表現。ちょっとかわいらしい。

「百」は胸の前で腕をクロスし、斜め下に広げる。なぜこれが「百」なのかは不明。

そして右、左と交互にシュートサインを決めて「戦極ッ！ 戦極ッ!!」。完璧だ！

——ジョシュさん！　昨日の『戦極～第二陣～』では素晴らしい勝利と、素晴らしいポーズでしたね！（笑）。

ジョシュ　ありがとう。ただ、ボクとしては試合とポーズ、どちらがよかったのか気になるね。どっちがよかった？

——う～ん、ややポーズのほうが盛り上がっていたような気がします（笑）。

ジョシュ　ハッハハハ！　まあ、KOや一本で勝てなかったからね。最後のアンクルホールドはタップを奪えそうだったんだけど、ちょっと時間が足りなかった。

——それにしても、試合後の戦極ポーズはいろんな意味で話題沸騰ですよ。賛否両論とも言いますけど（笑）。

ジョシュ　おかげでいいエンターテインメントができてよかったよ。

——ただ、あれのおかげで『戦極』のイメージがちょっと変わってきてるような気もするんですが……（笑）。

ジョシュ　それは心配してないよ。あのポーズが浸透していくことによって、『戦極』の闘いが軽くなるわけではないし、エンターテインメントの一部としてファンと選手を一つのものにしてくれると思う。大会が終わって、勝った選手も負けた選手も、みんなが一緒に楽しめるんだから、いいことだと思うよ。

——それにしても、大事なメインをフルタイムで闘ったあと、よくあんなポーズをやることまで覚えていましたね（笑）。

ジョシュ　せっかくセンセイ・チョロ（阿修羅チョロ）にしっかり教えてもらってたんで、試合後にやらなきゃいけないってのは、ちゃんと覚えてたよ（笑）。

——気を使わせてしまって、どうもすみません。そしてチョロなんかを「先生」と呼ぶ必要はまったくございません（笑）。

ジョシュ　ただ、次回の『戦極』にボクは出場しないから、誰か〝弟子〟を探して、戦極ポーズを伝授しておかないとね。

——ポーズ継承ですか！

ジョシュ　たとえばキタオカサン（北岡悟）なんかいいと思う。昨日、一番びっくりしたのは、キタオカサンが戦極ポーズをやったことだからね。あれはまったく彼らしくなくておかしかったよ！（笑）。

——無理矢理やらせたくせに（笑）。

ジョシュ　あと、ボクは次の『戦極』には出られないけど、6月のＩＧＦには出るからね。それに向けてじつは「ＩＧＦポーズ」を考えてきたんで、インタビューのあとでちょっと相談に乗ってほしいんだ。

——ダハハハ！　今度は自発的にＩＧＦポーズを考えてきましたか！　こうなると『アフリクション』のポーズも考えないといけないですね（笑）。


ジョシュ　いや～、アメリカ人にこういうのは通じないよ。もしやったら、ＫＹデスネ（日本語で）。

——まあ、戦極ポーズもかなりギリギリですが（笑）。

ジョシュ　ただ、自分があのポーズをやったのは、メインイベンターだからというわけでなく、もうこのイベント自体に関わったわけだから、精一杯盛り上げていきたいと思ったんだよ。ボクはカクトウギとかプロレスというものは、とてもシリアスなものだと思ってる。だけど、試合が終わったら、みんなリラックスしてリングの上でエンターテインメントを楽しめばいいんだよ。

——ほかの試合はご覧になりましたか？

ジョシュ　だいたい観たよ。キタオカサ



一、十、百、戦極ッ！戦極ッ!!

JOSH BA

マット界にセカンドインパクト！
なんと"IGFポーズ"も完成!!

ンの試合は第1試合にはピッタリだったね。観客を興奮させるような素早い動きで、彼のダブルレッグスープレックス（両足タックル）と、フロントチョークは印象的だった。あとカワムラサンとランデルマンの試合は、それぞれの思いがぶつかり合うタフな、いい試合だった。ただ、全体的に見てもっと試合のレベルは上げられると思ったよ。まだ選手が自分のいいところを見せられていないし。

――ホジャーの試合はいかがでしたか？

ジョシュ　あの試合はホジャーの思いどおりの展開で、彼は試合を完全にコントロールしていたね。逆にコンドウサンは、ちょっと残念だった。彼は昨日、リングで自分の力を見せられなかったからね。

――昨日の試合後、ホジャーは将来的にはジョシュさんと闘ってみたいと話していましたが、現時点で彼をどのように評価していますか？

ジョシュ　将来的に、そういう可能性はなくはないだろうけど、いますぐ彼を殴ることを想像するのは難しいね。

――それはルーキーとトップでやってきたファイターの違いということですか？

ジョシュ　イエス。それが第一さ。ただ、いままでボクに挑戦してくる人はいなかったんだ。だから、ホジャーがホントにボクと闘いたいと思っているのかどうかは疑問だね。実際に、挑戦状を叩きつけられたら、それは受けるよ。ただ、必ずホジャーは痛い目に遭うだろうね（ニヤリ）。

――グレイシーを倒したいというモチベーションはないですか？

ジョシュ　もちろん、グレイシーというのは、ネームバリューが凄くあるから、勝てばそれは凄く名誉なことだと思う。だけど、それが自分の究極の目標かというと、それは全然違う。それに、グレイシーだからといって、必ずいいファイターであるとは限らないしね。

――ホジャーも必ずしもいいファイターではない、と？

ジョシュ　そういうわけじゃない。とても高いポテンシャルを持っていると思うし、若くてグラップリングの技術もあるから、今後に期待は持てるけど……。いま彼とどうこうということはないよ。



［5.18 戦極～第二陣～］
有明コロシアム

○ジョシュ・バーネット vs ジェフ・モンソン×

（3R終了 判定 3-0）

旗揚げ2戦目にして早くも"KING OF THE 戦極"のニックネームがなぜかつけられたジョシュと、昨年4月の『PRIDE.34』メインで藤田和之に一本勝ちしたモンソンが激突。リングを降りれば友人同士ということで、やりにくそうではあったが、ジョシュがスタンド、グラウンドともに優位に試合を進めて判定勝ち。3ラウンド終了間際にアンクルホールドを極めかけたが、時間切れ!!

――現時点では眼中にない、と（笑）。いま、ジョシュさんにとって闘いのモチベーションとはなんですか？

ジョシュ　もちろん、世界のベストになることさ。ただし、ただ競技的にトップに立つのではなく、エキサイティングで人に興味を注がれるような、魅力的な人間味のあるファイターになりたいんだ。たとえば、イノキサン、マエダサン、タカダサン、ビル・ロビンソン、カール・ゴッチのようにね。彼らがそうであったように、観ている人に勇気や憧れを与えられる選手になりたい。ボクだけじゃなく、フナキサンやスズキサン、TK、カオル・ウノ、みんな彼らから影響を受けているんだ。だから、未来のファイターの心に灯をともせるような選手になれたらいいね。

――ちなみに、いま着ているTシャツの『ビル・ロビンソン・プロジェクト』とはいったいなんですか？

ジョシュ　ああ、これはボクとアート・ジャンキーのニュープロジェクトなんだよ。というのも、ビルはヒザの手術のためにアメリカに帰らなければならない。だから、このTシャツを売った収益を彼の手術代、リハビリ代に充てる予定なんだ。だから、できれば皆さん、このTシャツを買って、ビルが手術をして元気になって、また日本でキャッチレスリングのコーチができるよう、応援してほしいんだ。

――そうだったんですか。それは誌面で紹介させていただきます。では、ジョシュさんの次のMMAは、噂どおり7月の『アフリクション』ですか？

ジョシュ　イエス。7月19日に『アフリクション』のアナハイム大会でペドロ・ヒーゾと闘うよ。

――ヒーゾはかつてUFCで一度負けた相手ということで、この試合には高いモチベーションで臨めそうですか？

ジョシュ　もちろんモチベーションは高いよ！　だって、この試合を逃したら、もう彼とは二度と闘えないかもしれないからね。自分が闘いたい相手と闘える機会というのは、あまりないことなんだ。みんな選手はいろんなところで闘っているし、ペドロ・ヒーゾも、PRIDEやアメリカの大会を転戦していたから、これが彼と闘うラストチャンスだろうね。

――ジョシュさんは、あの敗戦以降、ヒーゾよりもはるかに高い実績を残していますけど、やはりそれでも、あのときの敗北は心のどこかに残っていたんですか？

ジョシュ　そうだね。ボクの格闘家人生の中で初めての敗北だったからね。それに、あのときボクは試合前からイライラしてたんだ。あの当時、ボクはまだルーキーでペドロは実績を残した強豪選手だったから、ボクが彼と闘うと聞いた人はみんな「お気の毒に！」とか、「健闘を祈るよ」って感じで、ボクが当然負けると思って話しかけてきた。それで、凄く腹が立ってたんだ。自分は相手のフィールドである立ち技でも、彼を倒す力があると思っていたし、ボクは自分の力で彼との試合を勝ち取ったのに、そう言われて頭に来ていた。でも、実際に負けてしまったから、とても悔しかったんだ。

――なるほど。今回は7年半ぶりに、その思いを晴らすチャンスというわけですね。『アフリクション』というイベントについてはどう思いますか？

ジョシュ　『アフリクション』というのは、ファッションブランドで、最初は自分をサポートしてくれていたんだ。そして、U

ホジャーは高いポテンシャルを持っているが いま彼とどうこうということはないよ

FCが大きくなるにしたがって、彼らもボクだけじゃなく、ほかの多くの選手たちをサポートしていくようになった。すると、今度はUFCが彼らに文句を言いだしたもんだから「だったらいいよ。自分たちでイベントを開くから」ということになったのさ。

――では、そういう経緯もあって、思い入れが深いということですか？

ジョシュ　そうだね。友人関係もあるし、ビジネス関係もある。付き合いも長いので、いつかは自分のイベントと言えるようになればいいね。

――では、『戦極』と並行して、両方で闘っていくということですか？

ジョシュ　イエス。それとIGF。この3つで闘っていくよ。

――『アフリクション』には、エメリヤーエンコ・ヒョードルもメインイベントで出場しますが、彼と闘ってみたいという気持ちはありませんか？

ジョシュ　いや、いまはペドロ・ヒーゾを短い時間で、印象的な試合で倒すことしか考えていないよ。

――でも、ヒョードルを倒してこそ、世界最強と言えるんじゃないですか？

ジョシュ　ベストなファイターになるということは、相手で決まるものではない。誰かと闘ったから自分がベストになるのではなく、自分が自分の試合を見せるからベストになれるんであって、人に頼ってベストになろうという考え方はしない。ヒョードルだってべつにノゲイラに勝ったから世界最強と呼ばれるようになったわけじゃないし、彼自身の実力でPRIDE王者にふさわしい闘いを続けてきたから、いまの地位があるわけだからね。

――でも、ジョシュvsヒョードルという試合は、ぜひとも観てみたいですけどね。

ジョシュ　あせる必要はないよ。ボクと彼が闘う運命にあるなら、自然とそうなるだろう。ボクは自然にまかせるよ。

――わかりました。では、そろそろインタビューも終了の時間なので、ジョシュさんが考案してきたという、IGFポーズを披露していただきたいんですけど（笑）。

ジョシュ　OK！　じゃあ、ボクがセンセイになるから、ちゃんと覚えてね。

――ラジャーです！

ジョシュ　まず、「I」はこう！　Iはこう！（と言って両手を上にあげる）

――ダハハハハ！　こうですね!?

ジョシュ　「G」はただのGじゃないよ。こうやって力を溜めている感じ！　G!!

――G！

ジョシュ　それで、溜めていたものを吐き出すように、逆側にチョップ！　これでF!!

――ダブルチョップで「F」、これは新しい（笑）。

ジョシュ　最後に「ファイッ！　ファイッ！　ファイッ！」で、パンチ3連発さ！

――ダハハハハ！　『炎のファイター』のイントロでのかけ声みたいだ。

通訳さん　戦極ポーズよりいいかもしれませんね（笑）。

ジョシュ　たぶん、オガワが知ったら、アイツはこれをパクるだろうから、しばらく内緒にしておいてほしいね（笑）。

――では、パクられる前にIGF北海道大会での披露、期待してます！

ジョシュ　でも、IGFの人たちはこういうユーモアをわかってくれるかなぁ……。IGFはシリアスなリングだからね。心配だなあ。

――まあ、猪木さんがラップを歌ってるリングなんで、大丈夫だとは思いますけど、「1、2、3、ダーッ！」がある手前、もしかしたら難しいかもしれないですね（笑）。では、ちょっとしつこいかもしれませんが、最後にあらためて戦極ポーズで締めてください！

ジョシュ　OK！　イクゾー！　イチ、ジュウ、ヒャク……。

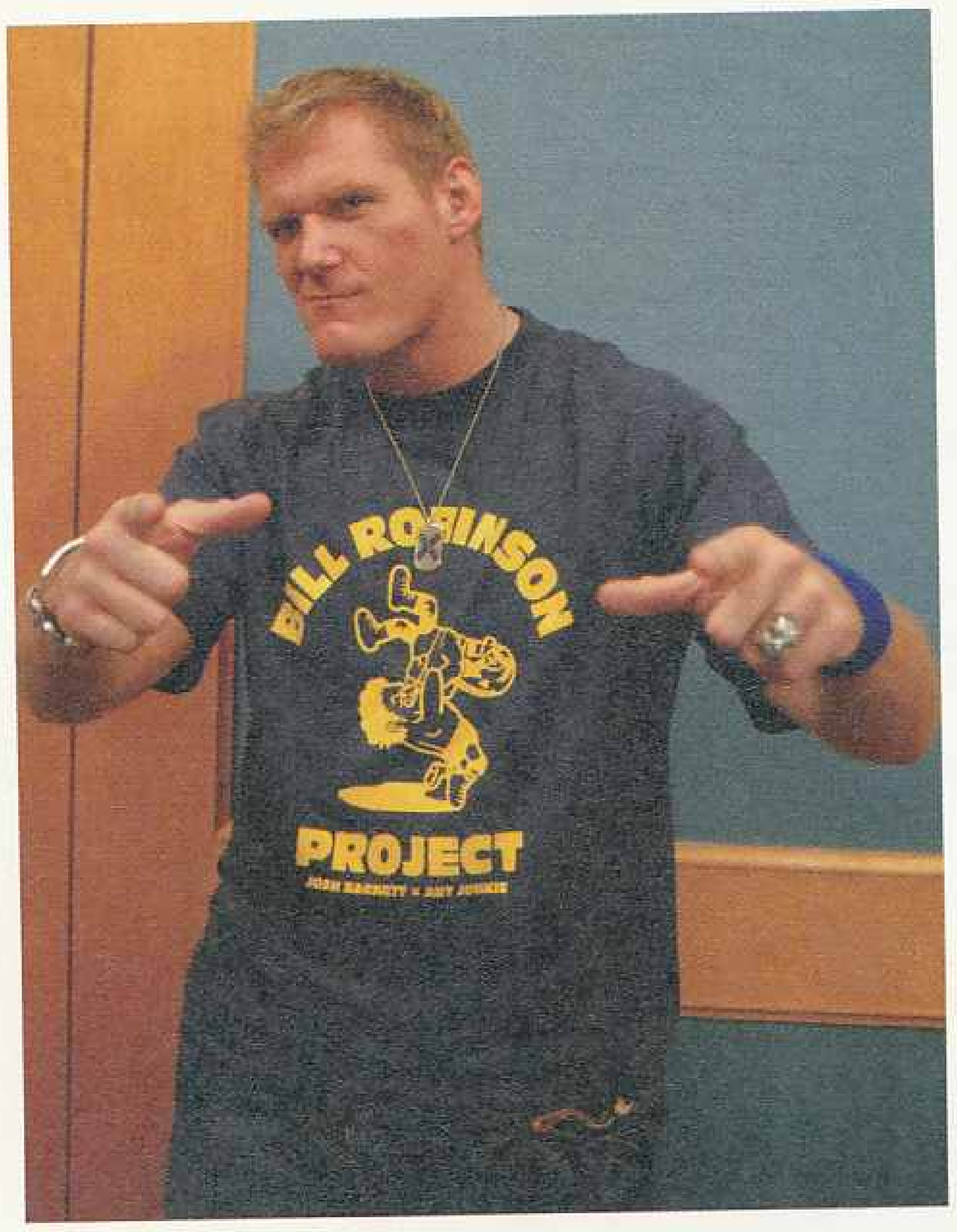
一同　戦極ッ！　戦極ッ!!

ジョシュ　アリガトウゴザイアシター。

【08年5月19日／都内・某ホテルにて収録】

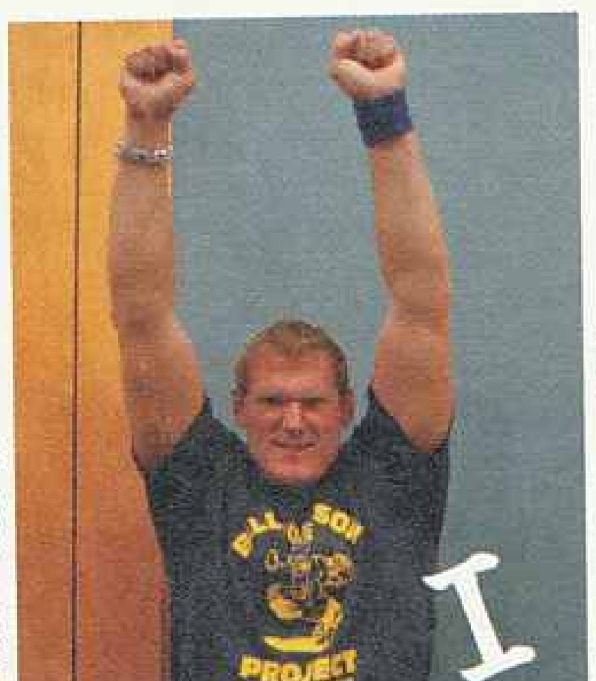
IGFはこのポーズをわかってくれるかな IGFはシリアスなリングだからね……

JOSH BARNETT

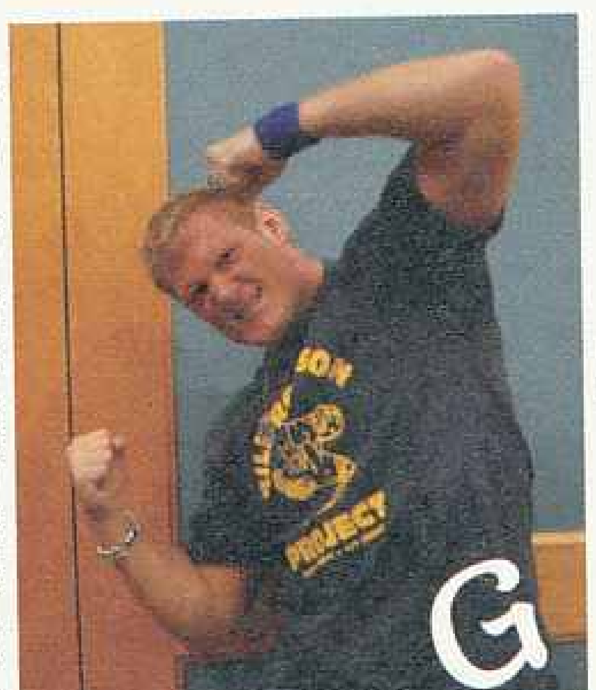


JOSH BARNETT■1977年11月10日、米国ワシントン州出身。UFC、PRIDE等で大活躍した"蒼い瞳のケンシロウ"。02年3月、ランディ・クートゥアーを破り、UFCヘビー級王座を奪取。しかし、薬物の陽性反応が出たことを理由に王座が剥奪され、ジョシュは事実無根を訴えUFC離脱。その後、新日本プロレス、パンクラス等を経て、04年10月よりPRIDEに参戦。06年のPRIDE無差別級GPでは準優勝に輝く。現在は『戦極』、IGFを中心に活躍中。191cm、117kg。

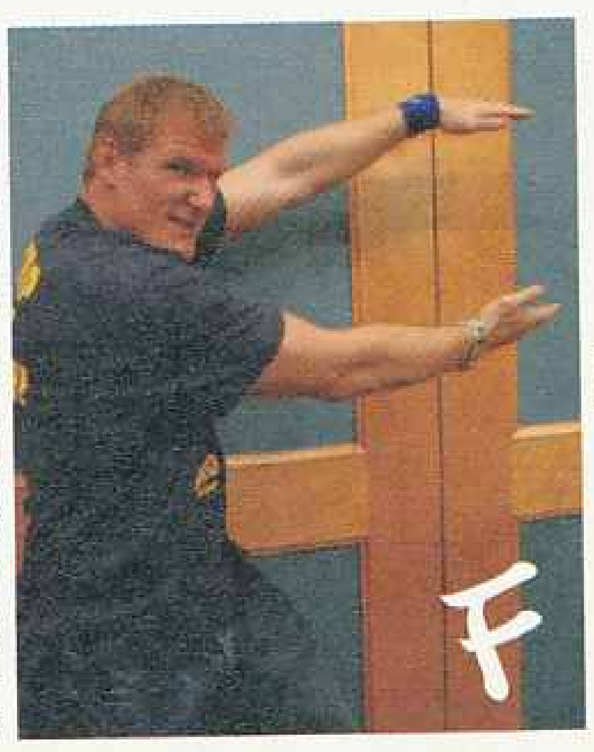
6月のIGF北海道2連戦で披露なるか!?　これがIGFポーズだ!!



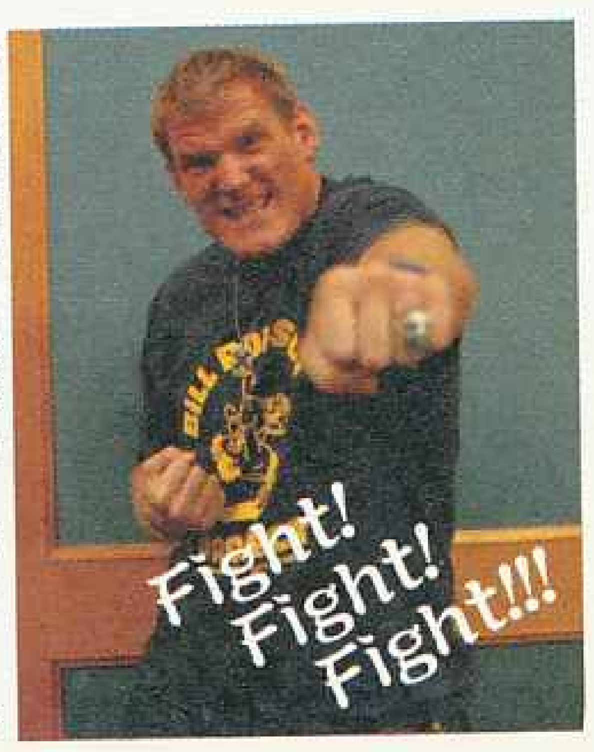
「I」まずはストーンコールドのように、両コブシを天に突き上げる。




力強く力こぶを横向きに作り「G」。しかし、ジョシュは向きが逆だ！



その溜めた力でおもいきりダブル水平チョップ！これで「F」！



最後は正拳突き3連発で「Fight！Fight！Fight!!!」これで完成！


GRACIE
ホジャー・グレイシー

謙虚な新世代グレイシー日本初見参

幻想の逆襲

ROGER G

一族最強の秘密兵器はやっぱり強かったぞ!!

“グレイシー一族最強の秘密兵器”として、ここ数年、日本マット参戦が期待されていたホジャー・グレイシーがついに『戦極』に登場したぞ! パンクラスの近藤有己相手にほとんど何もさせずに完勝し、噂にたがわぬ実力者ぶりを発揮したこの男を大会翌日に直撃!

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

〝グレイシー一族最強の秘密兵器〟がついに日本マット登場！

〝400戦無敗〟のヒクソン・グレイシーを筆頭に、格闘技界で長きにわたり、〝幻想〟を守り続けてきたグレイシー一族。

しかし、ここ数年はグレイシー姓のファイターの敗戦も珍しくなくなり、その幻想性も一時期に比べるとかなり揺らいでいるというのが事実。そんな中、再び幻想を抱かせる新世代グレイシーとして、かねてから来日が熱望されていたのがホジャー・グレイシーだ。193センチ、100キロという恵まれた体格を誇り、アブダビコンバットや柔術世界選手権・ムンジアルをともに制すというリアルな実績を持ち、現在グレイシー最強との呼び声も高かったホジャーが『戦極』マットに登場。

参戦こそ早くから発表されていたものの、対戦相手がなかなか決まらず、ファン、そして関係者をヤキモキさせていたホジャーだったが、大会直前になって対戦が決まった近藤相手に危なげなく勝利。体格差があったとはいえ、パンクラスのエースにほとんど何もさせずに勝利してしまったホジャーだが、そのあまりの圧倒ぶりに、今回の『戦極』の煽りVでしつこいくらいに強調されていた〝リアル〟がいまいち実感できなかったのも、また事実だ。

その穏やかなたたずまいと謙虚な発言の数々は、これまでのグレイシーとは異なるイメージを感じさせるホジャー。この男による〝グレイシー幻想〟の逆襲、いざ！（『戦極』ナレーション調）。

——昨日は見事な勝利おめでとうございます！

ホジャー　ありがとうございます（微笑）。



［5.18 戦極～第二陣～］
有明コロシアム
◯ホジャー・グレイシー vs 近藤有己×
（1R 2分40秒 チョークスリーパー）
体格差はあるものの総合2戦目ということもあり、70戦以上の試合経験を持つ近藤相手にどういった闘いぶりを見せるのか注目されたホジャーだったが、いざ試合が始まると、あっさりマウントを奪取し、パウンドからチョークスリーパーで一本勝ち。あまりの一方的な試合展開に観客も口をあんぐり。

――一夜明け会見では少し遅刻をされましたが、試合後にドンチャン騒ぎしてたわけではないんですよね？

ホジャー　みんなでディナーを食べただけで、お酒は少ししか飲んでいません。

――そうでしたか。セコンドにはヘンゾ・グレイシーもついていましたけど、試合後、ヘンゾはどのようなことを言ってました？

ホジャー　今回の試合は戦略どおりにすべてやれたので試合展開には満足している、と言ってもらいました。自分自身でも3分以内に試合を終わらせて、パンチも一発ももらわなかったので、完璧な試合ができたと思っています。

――内容的には満足しているわけですね？

ホジャー　そうですね。これからの試合もヘンゾをはじめ仲間と戦略を立てて闘っていくことになると思います。

――普段ホジャー選手はロンドンで生活されているとのことですが、試合前はニューヨークのヘンゾの道場で練習をされてるんですよね？

ホジャー　そうですね。基本的に、MMAや、ギ（道衣）なしの試合のときは調整のために行っています。ただ、柔術の試合の前は基本的に自分のところでトレーニングしています。

――今回の来日ではイゴール・グレイシー、グレゴー・グレイシーというMMAを経験している二人の選手も同行されていましたが、その二人とはよく一緒に練習してるんですか？

ホジャー　はい。今回、その二人に来てもらったのは、スパーリングパートナーとして体格的にもコンドウさんに近いからという理由もありました。

――大会直前にはGRABAKAで練習したという話も聞いたんですが、それはどういった経緯で？

ホジャー　GRABAKAには練習場所を貸していただけるということで借りて、そこでボクシングトレーナーとミット打ちをして、ヘンゾと組み技のスパーリングをした程度ですね。

――とくにGRABAKAの選手とスパーリングをしたというわけではないと？

ホジャー　そうですね。

――GRABAKAの三崎和雄選手がヒカルド・アルメイダのところで練習をしていたときに一緒に練習したことがあるんですよね？

ホジャー　そうなんです。ミサキさんは真のサムライのような方で、ヒカルドのところでずっと住み込みで練習していたんですけど、そのときに一緒に練習できて凄くよかったと思っています。ミサキさんは自分にとって偉大なファイターの一人ですし、これからも機会があったらまた練習したいと思っています。

――日本人選手でいうと、いまMMAで大活躍している青木真也選手とは2005年のアブダビコンバットの無差別級で闘っていますけど、そのときの印象を聞かせてください。

ホジャー　彼もとてもいいファイターだと思いました。ただ、あのときは無差別級のトーナメントで僕とは体重差もかなりあったので、彼にとっては不利な闘いだったと思うのですが、凄くいい選手だという記憶がありますね。

――今回の近藤戦は階級がかなり下の選手との闘いになりましたが、逆にMMA

基本的に試合中はファンを楽しませなきゃいけないとかは考えないようにしています

ROGER GRACIE

で自分より階級の重い選手と闘うという選択肢もあるんでしょうか？

ホジャー　ＭＭＡのプロデビュー戦はロン・ウォーターマンとの試合で、彼は僕よりも30キロ重いファイターでしたし、可能性はあると思います。今回のコンドウ戦も自分とは体重差がありましたが、次は同じぐらいの体重の選手と闘う気がしますね。

——今回はなかなか対戦相手が決まらず、ホジャーさんも来日してから「試合が延期になる可能性も考えていた」と言っていましたが、対戦相手のセレクトに対してナーバスになっていた部分はありますか？

ホジャー　基本的に対戦相手というのは、主催者側とマネージャーとトレーナーのヘンゾを中心に決めることなので。今回は不運なことに対戦相手が直前まで決まりませんでしたが、次回はなるべく早く決めてもらって対戦相手を想定した練習をもっと積んで試合に臨みたいと思っています。

——近藤戦後、ホジャーさんは「『戦極ポーズ』というのをジョシュ・バーネットがやっていましたが、意味はわからなかったですけど、お客さんを楽しませたいと思っているので自分も参加しました」とコメントされていましたが、試合内容で観客を楽しませたいというプロ意識は強いんでしょうか？

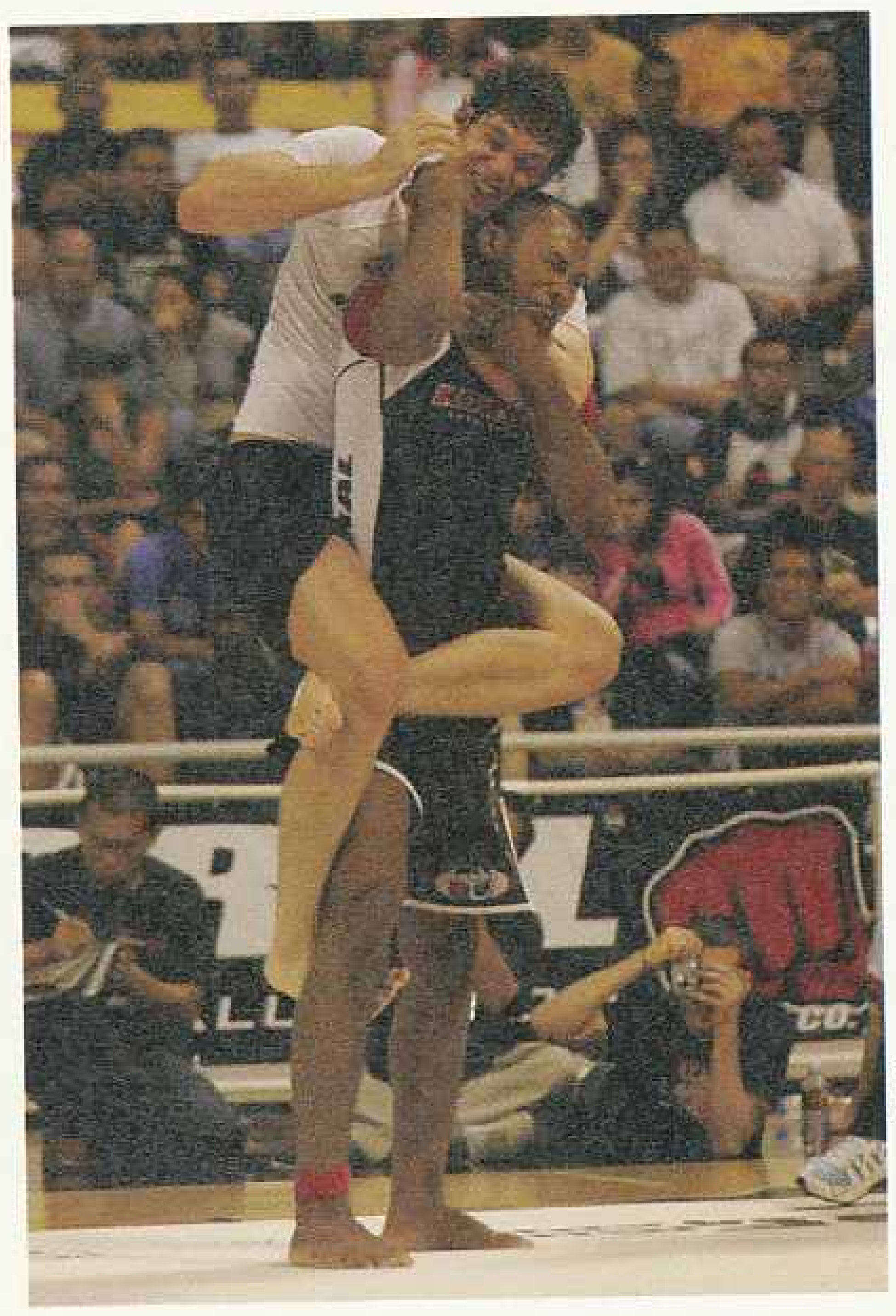
ホジャー　いえ、基本的に試合中はファンを楽しませなきゃいけないとか、そういうことはあまり考えないようにしています。どちらかというと自分と対戦相手、この二つの世界だけに集中したいので、ファンにエンターテインメントを提供するのは、今回のジョシュ・バーネットのように試合のあとでいいんじゃないかというのが自分の考えです。

——柔術の試合も含めて、一本勝ちにこだわるという姿勢は、やはりグレイシー一族だからという部分も大きいんですか？

ホジャー　もちろんです。相手を倒して一本勝ちするというのが自分の闘い方だと思っています。ＭＭＡの試合で、もしも打撃で相手を倒したとしたら、それはアクシデントだと思います（笑）。

——将来的にＭＭＡの経験を積んでも、打撃よりも寝技で仕留めたいという強いこだわりがあるわけですね。

ホジャー　そうですね。僕としてはテイクダウンをして関節技で仕留めるというのが自分の一番得意なパターンですから、そうすることに常に集中しています。



先日の『DREAM.2』で強烈なインパクトを残したホナウド・ジャカレイとはアブダビコンバットやムンジアルで対戦し、勝ち越しているホジャー。05年のアブダビ無差別級決勝では裸絞めでタップを奪っている。いずれ、MMAのリングで対峙する日は来るか？

——今回の近藤戦がＭＭＡは2戦目ということですけど、ボクシングや打撃の練習もかなりされてるみたいですが、将来的にはＫＯ勝ちしてみたいという願望はないですか？

ホジャー　可能性で言えばありえることだと思います。これからもボクシングや打撃のトレーニングはずっと続けていくつもりですし、倒して極めるよりも一発でＫＯしようという気持ちも出てくるかもしれません。

——先ほども話題に出ましたがＭＭＡのデビュー戦でウォーターマンと闘ったボードッグについてどういった印象を持っています？　現在は活動を停止されたみたいですけど。

ホジャー　僕が出場したのは06年12月の大会でしたが、そのときのボードッグは凄い勢いもあってこれから大きくなっていくイベントだと思っていたのですが、内部でいろいろ揉め事があったみたいで、結果的にダメになってしまったのは非常に残念なことです。ただ、いまになって考えると、ボードックでＭＭＡデビューをして、現在『戦極』という素晴らしいイベントに出られるようになったという現実を考えると、いい経験をしたと思っています。

——前向きなんですね（笑）。実際に『戦極』に出場してみて、大会自体はどういった印象を持ちました？

ホジャー　『戦極』は規模としても演出としても非常に素晴らしいイベントだと思いました。以前から日本には何度も来たことがありますし、ほかのイベントもいくつか観ているのですが、日本の大きな大会は、試合だけではなく試合以外でもしっかり演出されている素晴らしいエンターテインメントショーになっていると感じるので、そういった点では『戦極』も同じようなレベルで素晴らしいものだったと感じましたね。

——最近のグレイシーの話題といえば、ホジャー選手とともに、ヒクソンの息子のクロン・グレイシーが柔術の試合で51試合連続一本勝ちという"リアル"な大記録を打ち立てて注目されていますが、クロン選手についてはどう思います？

ホジャー　クロンは技術はもちろん、才能も凄いものを持っている選手だと思います。父親が一時代を築いたヒクソンというグレイシー一族最強の人間だったので、そういったことも彼の助けになっているでしょうね。

——それはあるでしょうね。

ホジャー　クロンは最近黒帯を取ったみたいですが、黒帯になっても勝ち続ける



05年のアブダビコンバットの表彰式では-99kg級と無差別級を制したホジャーと、女子-60kg級で優勝したキーラ・グレイシーをヒクソンとヘンゾが嬉しそうに祝福。

ことができる選手だと思いますね。彼がこの後、僕のようにMMAにチャレンジするとかどのようなプランニングを持っているかわからないですけど、何もやるにしてもヒクソンに近づけるような非常に素晴らしい選手だと思います。

——凄く評価が高いんですね。一つ教えていただきたいのが、クロン選手は19歳にして51回連続一本勝ちというもの凄い記録を持っているわけですが、聞くところによると「お父さんはいまでも自分の十倍は強い」と言ってるみたいなんですよ。ホジャー選手も、現在47歳とはいえ、やはりヒクソン・グレイシーの強さは別格だという認識はあります？ それとも、やはり〝幻想〟なんでしょうか。

ホジャー いえ、僕は〝幻想〟だとは思いません。なぜかというとヒクソンというファイターは柔術でもMMAでも一度も負けたことがないわけですから。そう考えると、いままでで一番素晴らしい最強で最高のファイターだということは間違いないと思います。

——ほぉ〜、ヒクソンは〝リアル〟だ、と。ただ、クロン選手は体重が80キロ前後ということもあって、ヘビー級のホジャー選手が現在のグレイシー一族最強なのでは？ という声も聞かれますが、それに関してはどう思います？

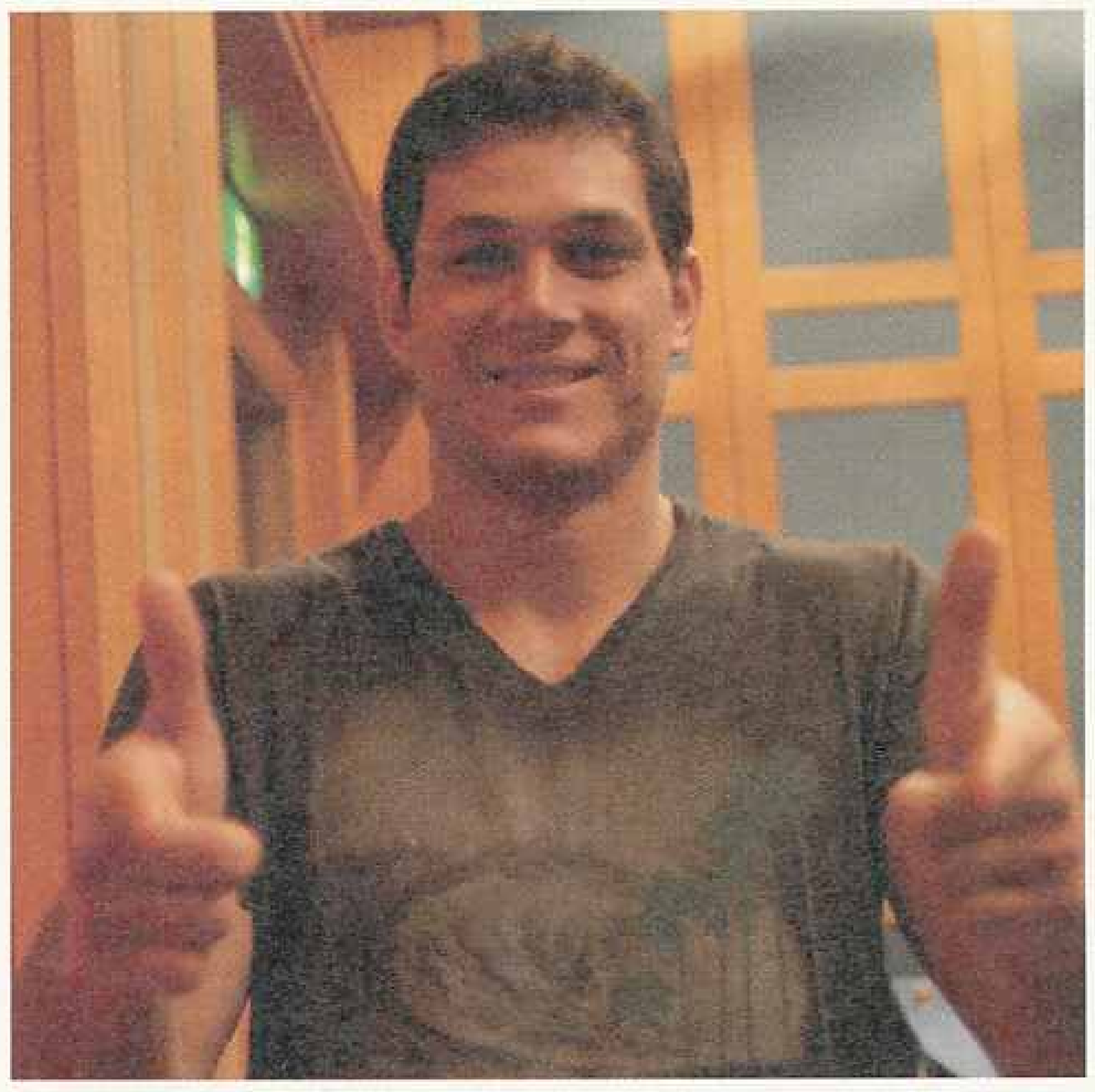
ホジャー そう言われるのは正直嬉しく思います。ただ、基本的には「グレイシーで一番強いのは僕だ」とか思ったことはありません。僕は自分の実力を最大限に発揮するということだけを考えて試合をしていますし、それをサポートしてくれるのはファミリーのみんなだと思っているので、その中で自分が一番強いとかそういう考えはないです。

——いや〜、これまでのグレイシーのイメージと違って、ホジャーさんはホントに謙虚なんですね（笑）。帰国後には6月上旬にアメリカで開催される柔術世界選手権大会のムンジアルに出場するということですけど、柔術に詳しい人に聞くと、MMAの試合から一カ月もないのでムンジアルには出場しないんじゃないかと思われていたみたいですが、今回の『戦極』参戦にかかわらず出場するつもりでいたんですか？

ホジャー はい。柔術は僕にとって人生の哲学だと思っていますから。

——柔術は人生の哲学！

ホジャー 人間として自分自身を成長させてくれるのが柔術だと思っていますから。ただ、もしも反対にムンジアルが先にあって、6月にMMAの試合が控えていたとしたら、出なかった可能性もありますが、今回は試合でケガもしませんでしたし、コンディション的にも問題ないので出場することに決めました。ムンジアルというのは自分の一つの宿命でもありますし、今後もMMAの試合と並行して、出られる限り出場していきたいと思っています。



ROGER GRACIE■1981年9月26日、ブラジル・リオディジャネイロ出身。現在はイギリス・ロンドンで自身の道場を主宰。これまで柔術ではパンアメリカ選手権、ムンジアルなど数々の優勝経験を誇る。06年12月にボードッグでのロン・ウォーターマン戦でMMAデビュー。『戦極〜第二陣〜』での近藤有己戦で日本デビューを勝利で飾った。父はマウリシオ・ゴメス、母親はヘイラ・グレイシー。193cm、97kg。

戦極ポーズ？ 次の試合のあとはやってみようと思います（微笑）

——継続参戦を考えているという『戦極』では吉田秀彦選手や、ジョシュ・バーネット選手との対戦が期待されていると思いますが、本人的にはいかがですか？

ホジャー もちろん興味はあります。その二人とは体格的にも近いですし、将来的に闘うことになるのではという予感はしています。

——それと、現在のMMAで世界最強と言われているエメリヤーエンコ・ヒョードルには興味はありますか？

ホジャー ヒョードルはヘビー級のベストファイターの一人と思っていますし、彼とも時期が来れば闘うことになると思っています。

——ズバリ、ヒョードルと闘って勝つ自信はありますか？

ホジャー ヒョードルに限らず、リングに上がったら一本で極める自信は持っています。

——自信はある、と。次の『戦極』での試合がいつになるか具体的には決まっていないようですが、次回の試合後はホジャー選手の『戦極ポーズ』を楽しみにしています！（笑）。

ホジャー はい。次の試合のあとはやってみようと思います（微笑）。

【08年5月12日／都内・某ホテルにて収録】

というわけで、『kamipro』初登場のホジャー・グレイシーでしたが、皆さんはどのような印象を持たれましたか？

実際に話した印象では、質問の一つ一つに微笑みを交えつつ丁寧な受け答えしてくれたホジャーは〝リアル〟にいい人といった感じでした。ただ、その笑顔の裏には得体の知れない怖さもあわせ持つような気もしました。それも含めて〝グレイシー幻想〟なのでしょうか？

その人間性と同様、MMA2戦目となった近藤戦を観るかぎり、ホジャーのバーリ・トゥードにおける本当の実力は、いまだベールに包まれた状態と言えるかもしれません。

左ページでマウントパンチを放つ狂気が宿ったかのようなホジャーこそが〝リアル〟な姿なのか？ それとも、やはり〝幻想〟なのか？ 『戦極』の煽りVではないが、ホジャーの〝発動するリアル〟を体感したいぞ！ シャキーン!!



ROGER GRACIE

シャキーンッ!!（『戦極』の残り10秒告知音調）

5.19 戦極 第二陣 クロスレビュー

構成／真下義之
撮影／乾晋也
イラスト／北出裕貴

第1試合 [ライト級 ワンマッチ]

○北岡 悟
[1R 0分50秒 フロントチョーク]
イアン・シャファー×



07年はどうにもついてなかった北岡が『戦極』デビュー。没入しまくりの表情で攻め込み、一気にチョーク葬！「マイク持つつもりはなかったんですけど（笑）」と戸惑いを見せつつ「総合格闘技サイコーです！」と絶叫した。

第2試合 [ウェルター級 ワンマッチ]

○マイク・パイル
[1R 4分52秒 三角絞め]
ダン・ホーンバックル×



"鉄人"ランディ・クートゥアーの"継承者"パイルと、モヒカン野郎・ホーンバックルのともに日本初上陸対決は、打撃でラッシュしたパイルが、最後はズバリと絞めあげて、ギブアップ奪取。3試合契約らしいので、まだまだ来るぞ！

第3試合 [ライト級 ワンマッチ]

○光岡映二
[1R 4分15秒 チョークスリーパー]
イ・ヴァンヒ×



"韓国の火の玉ボーイ"と五味を意識する光岡が五味包囲網対決！光岡はマウントからパウンド投下、最後はチョークで一本！試合後は「五味選手は凄く強い、僕はまだまだ……」と曖昧かつ脱力気味のマイクを披露。

第4試合 [ミドル級 ワンマッチ]

○ジョルジュ・サンチアゴ
[3R 2分10秒 腕ひしぎ十字固め]
佐々木有生×



佐々木が『戦極』初参戦。実力者・サンチアゴは果敢に前へ出るが、佐々木も1R終盤に腕十字、2R終盤に肩固めを極めるがともに時間切れ！逆に3Rにサンチアゴの腕十字がズバリ！チームメイトの三崎は敵討ちを表明した。

世界のDJ GOZMA
会場観戦

郷野聡寛



ごうの・あきひろ■1974年10月7日、東京都出身。GRABAKA所属の実力派。修斗、パンクラス、PRIDEを経てUFC参戦、入場パフォーマンスで戦慄を走らせた。現在は、右手負傷で欠場中。176cm、77kg。

北岡は鈴木みのる的!?

北岡は強くなりましたね。自信マンマンで試合してるし、自分の見せ方まで研究しているように見えた。ちょっと俺にはパンクラス旗揚げ当時の鈴木みのるっぽく見えちゃったけど。一方のシャファーはその言動から、どこまで真剣に勝つ気があったのかちょっと疑問。総合ナメんなよ。

対戦しても怖くない

佐々木と一緒に入場ゲート裏にいて試合は観てないんだけど、勝ったパイルが控室へ戻る途中、「全然余裕だぜ！」って腕立てしたり、「イージー！」とか言ってハシャイでたのを見て、彼とは同階級だけど、こういうタイプは足下を見失ないがちだから、対戦しても怖くないな、なんて思いましたね。

組織論を感じた

和術慧舟會の選手って誰が出てもしっかり強くて、いい練習してるんだろうなぁって。控室が隣でしたけど、練習仲間で作った町道場的な俺らと違う、なんかこう完成された組織といった空気を感じました。前の試合の選手と違って、慧舟會の選手と闘うのは大変だろうな、と思いました。

サーフパンツってアリ?

サンチアゴの穿いてたパンツ、間違いなくサーフパンツですよ。定番のハイビスカス柄でね。ウエストにゴム入ってないから試合が進むにつれ半ケツに近い状態まで下がってるし。アンダーウェアなかったらケツ見えすぎでイエローカードもの。リングよりビーチが似合いそうなヤツでした。

ドラァグクィーン
会場観戦

アナニーナ・K



あなにーな・けー■19XX年6月10日、日本国生まれ。本業であるWeb系ライターの傍ら、見た目は派手なのにしょっぱい活動がウリという地味女装（ジミージョ）としても活動中。色白、体毛薄、痩せ〜ちょいガッチリくらいが大好物。

ドSにもいろいろあります

直接的なドS（イアン）と、内に秘めたるドS（北岡）のぶつかり合いが開幕ってことで、どうなることかと思ったわ。結果は精神的ドSの勝利だったんだけど、ドSにもいろいろあるのねって勉強になった試合でした。今度は直接的なドMと精神的なドMの闘いを……べつに観たくないわね（笑）。

見つけたわ! お宝よ!!

マイクにゾッコン。パイルにラヴ。顔も身体もパーフェクト！とくに、ちょっぴり脂の乗った身体がいやらしくってたまんないわ〜。今日は重量オーバーで減点1スタートだったけど、これくらいがちょうどいいのよ！無理して痩せちゃダメよ！階級上げるか、常に減点1で出てきてほしいわ。

兄弟愛を感じる二人

髪型といい、身体つきといい、妙に礼儀正しいところといい、冒頭の攻めあぐねた感じといい、なんだか似たもの同士の二人。試合終了後に肩組んで会話してるところなんて、本当に仲の良い兄弟みたいだったわ。兄弟が真剣に殴り合う……、そして勝者をたたえる……。なんて美しい兄弟愛なのかしら！

太もものチラリズム

ジョルジのパンツ、大磯ロングビーチとかで売ってそうでびっくりよ。ま、お高いんでしょうけど。一方の佐々木（Jリーガーみたいな顔よね）は、パンツのスリットが深いのか、仰向けに寝っ転がって足を上げると、どんどん太ももが見えてくるのよ。チラチラ見える太ももがまぶしかったわ。

戦極ポーズが賛否両論!!
会場観戦

阿修羅チョロ



あしゅら・ちょろ■1972年1月16日、岩手県生まれ。本誌編集部。07年より、なぜか"阿修羅"名を語り、一部では"ホームレス編集者"疑惑もある36歳。自ら考案した戦極ポーズがホントに『戦極』で実現！賛否両論の渦中の男。

目立ったワオ木さん

不運続きの北岡も長州ばりに「俺の人生にも、一度くらい幸せなときがあってもいいだろ」と言ってもいいぐらいの完勝劇！（一度だけかよ！）。でも、もっと目立ってたのが会場からアドバイスを送っていたワオ木さん。開始早々で、まだ空席が目立つ場内に甲高い声が鳴り響いてましたYO!!

継承してない

節制したコンディション管理で40代でも現役バリバリの"鉄人"クートゥアーのゲノムを持つ"鉄人継承"と紹介されたパイルですが、大会前の計量で200グラムオーバー。再計量もせずジュースなどをがぶ飲みし、なんと3.6キロオーバーで減点1からのスタート。全然、継承してないって！

五味と瓜二つ?

煽りVで「五味と瓜二つ」と紹介されたヴァンヒだが、実際はザ・大陸的なツラ構え！「これは怒るだろ」と心配してたらビジョンには笑顔で観戦中の五味の姿が。ホッ……としたのもつかの間、歯切れの悪い五味への対戦表明マイクの光岡にちょっとイライラ。やりたいならハッキリ言おうYO!

輪島もビックリ

なぜか佐々木が"GRABAKAの裏番長"、サンチアゴは"Goldenヒザボンバー"という輪島大士もビックリのキャッチフレーズ対決となった一戦。地元の高円寺で何度か目撃している佐々木のモヤモヤ病からの復活を期待していたのだが、最後の最後での逆転負けに、こっちがモヤモヤ状態！

大会総評



『戦極』2戦目となった今大会、ホジャーの日本デビュー戦が話題となり、『第四陣』～『第五陣』の予定も発表など積極的な興行姿勢を表明するも、動員的にはやや苦戦し、國保広報も「PRが課題」と反省点を述べた。

PRIDEガール好き
ほとんどを控室の映像のみのモニターで観てたので、イベントの全体像はつかめてないです。なので、くだらなくて申し訳ないけど、休憩時間に客席が映ったとき、超小さく映った元PRIDEガールの二人組をすぐに見つけて、名前もすぐに出てきた俺の無駄なPRIDEガール愛にあきれました。

火薬のご利用は計画的に
イベントのオープニングなんかでよくある花火。あれってショックで倒れた人とかいないのかしら？ とくに今回は火薬の量がハンパなかったみたいで、耳塞いでなかったら確実に失禁モノだったわよ……。この歳で尿漏れプレイとか嫌よ！ 火薬はちゃんと適正な量で使ってよね！

今後もやれんのか？
ほかのページでも触れられているのに申し訳ないですが、ボクにとって今大会の見どころはジョシュが披露してくれた戦極ポーズにつきます。結果的にはジョシュだけではなく、中尾KISSや北岡までもがポーズをキメてくれましたが、心配なのはジョシュのいない第三陣以降。やれんのか!? 誰かお願いします！

第8試合
［ヘビー級 ワンマッチ］
○ジョシュ・バーネット
［3R終了 判定3-0］
ジェフ・モンソン×



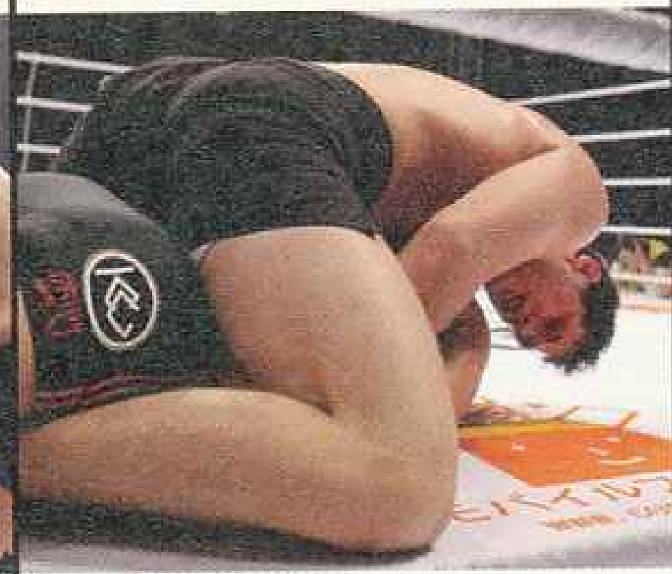
ジョシュがモンソンと"親友対決"！ ジョシュがバックスピンキックを出せば、モンソンも重い打撃で対抗。足関節を狙ったジョシュは極めきれずも判定勝利し、本誌・阿修羅チョロ直伝の戦極ポーズをホントに披露！

すんごいタトゥー
正直、メインに日本人がいないのは寂しいなって。……ただ、ジョシュの相手、すんごいタトゥーでしたねぇ。肌の色よりタトゥーの面積のほうが大きいんじゃねぇかって 。日本ならサウナやプールも行けないし。日本じゃこの人は暮らしづらいだろうなって。そんなこと考えてました（笑）。

腐女子向け要素満載
1ラウンド終了時には、「耳が痛いよ」的アピールをかまし、2ラウンド終了時にはジェフの肩に頭をちょこん。なんなの、なんなのよ、この腐女子が好むジョシュのしぐさは!! あのタトゥー博士に切ない片思いなのかしら……ってアタシまで腐女子的発想になっちゃったじゃないのよ！

悪気はないので
MMAでは珍しい（？）親友対決となった今回のメイン。ハッキリ言って試合より、大会前に自分が指導し、ジョシュも「勝ったらやる」と予告していた戦極ポーズのことばかりが頭をグルグル。結果はご存知のとおりですが、ホントに悪気はないので次回は皆さんもやってくださ～い！

第7試合
［無差別級 ワンマッチ］
○ホジャー・グレイシー
［1R 2分40秒 チョークスリーパー］
近藤有己×



"グレイシー最強"とも言われるホジャーが待望の日本上陸。崖っぷちの"不動心"近藤有己が挑んだセミは、あっという間にホジャーが組みつき、ポジションを変えてチョークスリーパー一閃！ 幻想膨らむ満点デビュー。

策が見えない
近ちゃんには思い入れがあるし、俺のコラムでもいつか書きたいんだけど、今回の試合も前回の山宮戦と同じく、どう勝ちに結びつけるのか？ という策が見えない。本人は「感じるままに闘う」と言いますけど、それは逆に言えば無策で臨むということですから。そこの限界がきてるのかな、と。

ホジャーの功績は偉大
どんな功績かって"グレイシー≠イケメン"という構図をぶち破ったことだと思うの。なんも期待せずにいたんだけど、味のあるいい顔してるじゃない！ なんでこんな上玉隠しておくのかしら。あと、ホジャーの絡みつく執念は凄かったわねぇ。一度ベッドでお手合わせ願いたいわ。

『mimipro』に招聘？
『kamipro.com』で絶賛配信中、サプライズゲストの登場も話題の『mimipro』。これまでもRGやマッスル坂井らが乱入しているが、この番組に来日中のホジャーを呼ぼうと収録前日にオファー。グレイシーにしては珍しく（？）穏やかな性格のホジャーだけに……って、そりゃ無理ですよね。失礼！

第6試合
［ライトヘビー級 ワンマッチ］
○ケビン・ランデルマン
［3R終了 判定3-0］
川村 亮×



肺の感染症から、"ドンキーコング"がMMAに復帰。タックル狙いのランデルマンに、打撃でプレッシャーをかける川村だが、決定打が出ず。ランデルマンの判定勝利も、微妙な裁定に不満の声も。両者は再戦をアピール。

フッカーなりの戦略
ケビンは打撃の防御センスが素晴らしい。判定には客席から疑問の声もあったけど、ケビンは被弾してなかった。川村の攻撃は素直だから、防御はわりとラクですよ。素直なフックばかりだと予備動作もあるしよけやすい。ストレートを覚えるか、フッカーとして戦略を詰める必要がありますね。

露出の季節到来
だんだんと暖かくなってきて、露出プレイ大好きな方の喜びの声が聞こえてまいりました。そんな中、川村の極小エナメルパンツに目が釘づけ。ケビンがバックから手を回すと、角度によっちゃ全裸で闘ってるように見えるのよ！ とくにタイプでもないんだけど、気づいたら前傾姿勢で見てたわよ……。

赤ちゃんの今後
退場時にハイテンション&汗だくのランデルマンが花道にいたヤンママが抱っこする赤ちゃんを奪い、笑いかけるも、その迫力で固まってしまった赤ちゃんの今後が心配。あと『ランボー4』のプレミア試写会に参加した川村とスタローンと対談を申し込んだら、ムベもなく断られました。チェ。

第5試合
［ヘビー級 ワンマッチ］
○中尾"KISS"芳広
［2R 0分46秒 TKO］
BIG・ジム・ヨーク×



中尾さんが『戦極』で復活！ なんと髙田総統よろしく『威風堂々』で入場し、試合でもお尻プリプリなど余裕シャクシャク。2R、右フック2連発でKO！ さらにテレビカメラにキス、藤田和之戦も志願など濃厚な中尾劇場を展開!!

もったいないな
中尾選手は打ち方が綺麗で打撃センスを感じます。ただ、昔は痩せてててグッドルッキングガイだったらしいじゃないですか？ なんかもったいないですね。もっと絞ったら打撃もキレるし、あのキャラより、もっと男臭さを全面に出したほうがファンに届きやすいと思うし。もったいない。

ガチムチvsガチムチ
ヘビー級の選手ともなると太いわねぇ。This is ガチムチ！ I was GAY！って感じかしら（違うって）。中尾のゲイネタばっかり取りざたされてるけど、ジム・ヨークもゲイっぽいわよね。新宿とかじゃなくて、上野とか新橋のサウナにいそうな感じ。意外と一緒に通ってたりして!?

やるならしっかり
試合はよかったと思うけど、それ以外で鳥肌立った！（悪い意味で）。大会前、吉田秀彦も「試合以外の部分も楽しみ」と語っていた中尾さんだが、テレビカメラにディープキス&唾液で曇った映像が垂れ流しされるわ、戦極ポーズを披露するもポーズはあやふやだし、やるんならしっかりやってYO!



“模倣の天才”が『戦極』の煽りVをぶった斬り！シャキーンッ!!
（『戦極』残り10秒告知音調）

戦極ディスコフィーバー！！ 一、十、百、選曲、選曲ッ！

「煽りVの極意は選曲にあり！」

プロレスラー&DDTテック代表

マッスル坂井



プロレスラーでありながら自らも煽りVを制作しているマッスル坂井。そんな坂井が本誌122号の煽りV企画では「『戦極』の煽りVが作りたいです。それっぽいのを作る自信はあるんで！」と、取りようによってはちょっと失礼な発言！ よーし、ならばとりあえず『戦極』の煽りVをレビューしてもらいましょう！ マット界の異端児の目に映った『戦極』の煽りVとは!?

聞き手／真下義之

——坂井さん、今回は『戦極～第二陣～』の煽りVについて、お話をお聞きしたい思います！

坂井　よろしくお願いします。

——坂井さんは今回の『戦極』の煽りVをどのようにご覧になりましたか？　けっこう、巷じゃ佐藤大輔さんの煽りVの劣化コピーみたいだなんて不評もあるようですが。

坂井　え、そんなことないでしょう！（取ってつけたように）。

——あ、今日はほめ殺しモードですか（笑）。

坂井　いやいや、何をおっしゃいますやら！（笑）。僕はDVDで観たんですけど、格闘技イベントの煽りVとして忠実な作りだと思いましたけどね。定石にならっているというか。

——もともと格闘技関連の映像スタッフの方が関わってるみたいです。

坂井　それでいて、ちょっと作家的な部分や内省的な部分もあるし、選手側の気持ちになってる作りは素晴らしいと思いましたね。

——なるほど。やる側の視点に立っている感じがあった、と。

坂井　DREAMの煽りVが視聴者側に立ってるのに対して、『戦極』はファイターに感情移入するように作られてるっていうか。たとえばK－1MAXや『HERO'S』だったらおなじみの家族ネタ押しじゃないですか？　これって観る側にとっては“あるあるネタ”だと思うんですよ。

——「貧しい家族のために闘う」っていうアレですね（笑）。

坂井　「ああ、あるある」って視聴者の共感を誘って（笑）。それに比べて『戦極』はもっと選手寄りですね。すると視聴者にとっては、「あるある」よりは「ないない」って感じになって。

——たとえばケビン・ランデルマンが真菌感染症にかかって、3年間で13回も手術するほど重傷だったのにリングに復帰するとか、常人なら「ないない」っていう部分ですよね（笑）。

坂井　そのあたりは梶原一騎の世界観を彷彿とさせますね。「まさかこんなことはないだろう」っていう。

——なるほど（笑）。ちなみにオープニング映像や演出はいかがですか？

坂井　マイケル・ジャクソンやニルヴァーナをダンス調にミックスしてましたけど……、凄く不思議な選曲ですよね（笑）。

——コンセプトとしてはディスコでフィーバー！　みたいな感じだったのかな、と。

坂井　あれで思い出したのは、『PRIDE・34』のミラーボールから始まった煽りVですね。ラモーンズの曲をKISSがカバーした素晴らしいもので。

——PRIDEの名場面を振り返った映像ですね。『マッスル』でもあの映像のパロディを作ってましたけど。

坂井　あれ、カブっちゃったんですよね（いけしゃあしゃあと）。

——偶然、カブってましたか（笑）。

坂井　同時代性を感じましたねぇ（しみじみと）。ただ、佐藤さんの煽りVのいいところって、編集そのものに凄くテンパってる部分が見えるとこですよね。なんかこう……シラフじゃ作れない。シ●ブをキメてるっぽい編集というか（笑）。

『戦極』の煽りVはアシッドっぽい。そしてお金の匂いがしました(笑)

――また穏やかじゃないことを(笑)。感情が高ぶるような、ギリギリのところで作ってる感じがする、と。

坂井　観てるほうもドキドキする、偏執狂的な編集なんですよ。それを音響とかで整えて、最終的に高いクオリティに落とし込んでいて。

――それに対して『戦極』は？

坂井　ちょっとアシッドっぽい感じですかね。映像の絵柄がちょっとサイケデリックな印象もあって。ただ、今回の映像はちょっとオチをつけたがる傾向があったじゃないですか。

――ええ、中尾選手の煽りVでも、さんざん"KISS"のキャラで、煽っておきながら、「そんなのはどうでもいい！」とひっくり返したり(笑)。

坂井　そうですよね。個人的にはその煽りVは意外とよかったですけど。ホモキャラが気持ち悪く立ってたし。

――バラの絵が挿入されたり(笑)。ただ、そういった笑いを誘おうとするところに関しても、会場の反応はそんなによくなかったんですよね。

坂井　う～ん。純粋に間が悪いんじゃないかな、って気もしますけどね。

――佐藤さんの煽りVは意図したところで笑いが起こりますが、『戦極』はそこでつまずいてる感が(笑)。笑いを作るコツってあるんですか？

坂井　あったら僕が知りたいです！

――失礼しました(笑)。

坂井　だから、僕がヨソ様の煽りVを言及するのもなんなんですけど。あとは煽りVを「誰に向けて作るのか？」っていう問題もありますよね。じつはこの前、『Number』の煽りVの(『TBS中継の秘密』)記事を見て、僕自身も揺らいだんですが。

――地上波の煽りVに関して分析してる記事ですね。TBSのゴールデンで放送されている格闘技番組のわかりやすさに対して、PRIDEは深夜中継とかがベースだったからこそ、エッジの効いた番組作りができたっていう論説で。



『戦極～第二陣～』の煽りVでとにかくプッシュされたのが「リアル」の3文字。OP映像では「リアル宣言 発動編」と、まるで「伝説巨神イデオン」のようなアプローチも。リアルを強く押し出すあまり、逆にリアル感が失われたという話もチラホラ。

坂井　PRIDEはマニアックなテイストで受け入れられたって書いてましたけど……。僕らなんて、さらにコアなプロレスマニアに向けて発信してる立場じゃないですか！

――確かにそうですね(笑)。

坂井　そういう意味では、僕なんかは『戦極』の映像ディレクターの方と立場というか狙ってる視聴者層が違いすぎるので、あんまりとやかく意見を言うのもどうなのかなって……。ていうか、そもそも煽りVって必要なんですかね？(笑)。

――ダハハハ！　煽りVの存在を根底から覆すような発言を(笑)。確かに今回の『戦極』を観て、「煽りVってどこまで必要なのかな」って思いましたね。『DREAM・2』の青木vsカルバン戦では「煽りVがなくてもこの試合の意味は伝わるんじゃないか」って思いましたし。

坂井　逆に煽りVがないほうが試合そのもののストイック感は増しますよね。そういう意味では、なんか今回の『戦極』の煽りVは、ストイックとは真逆な感じで……ズバリ、お金の匂いがしましたから(笑)。

――確かに海外ロケが多かったですよね。ランデルマンの家やランディ・クートゥアーのジムに行ったり。

坂井　あと、やたらに「リアル」って言葉が見受けられて。あの「リアル」押しは気になりましたね～。

――うがった見方だと、DREAMに対しての牽制的な表現なのかなって。"夢"に対する"現実"っていう。

坂井　なるほど！　でも、そういうコンセプトだったらば、もうちょっと映像の中に説明が必要ですよね。

――ええ。『戦極～第一陣～』では、「おまえら、まだ夢(DREAM)を見ているのか？」っていうかなり直接的な表現もあったんですけど。

坂井　今回はちょっと伝わりにくかったですねぇ。僕はそこまで深読みしなかったので気づかなかったし。

――さらに深読みすれば、DREAMイベントプロデューサーの笹原圭一の会社名が「リアルエンターテインメント」なので、その"リアル"を意識してるかな、と(笑)。

坂井　なるほど～。それはかなり深い見方ですね(笑)。僕は全体を観て思ったんですけど、主要選手のキャラ的には『戦極』とDREAMって逆のような気がしますよね。選手を入れ替えてもいいっていうか。だって、吉田(秀彦)選手やジョシュ(・バーネット)選手や中尾選手ってキャッチーじゃないですか？

――地上波向きって感じですね。

坂井　むしろDREAMのほうが"リアル"で(笑)。DREAMの選手のほうがよりストイックだし、あまりリッチな感じはしないですし。

――川尻(達也)選手とか石田(光洋)選手って一途というか、ひたむきさが全面に出てますもんね。

坂井　で、ちょっと成功してる宇野(薫)選手に絡んでいくっていう(笑)。

――そこもリアルだ、と(笑)。それから、今回の煽りVは「長すぎる」という声もあるんですが。

坂井　単純に先に原稿ができあがってるんじゃないですかね。ただ、構成作家って必要なのかなとも思います。極端に言えば、いい曲さえあれば、煽りVって作れると思いますから。

――作り手側に詰め込まなければいけないことがありすぎる、と。そういう意味で、DREAMの煽りVって"佐藤大輔印"であり、記名制です

ナイスなチョイスからNG曲まで不思議な選曲
戦極「煽りV BGMセレクション」



『Jaguar』
AZTEC MYSTIC
(『Jaguar』より)
08年5月18日『戦極～第二陣～』
ケビン・ランデルマン vs 川村亮
強靭なエレクトロニック・サウンドが印象的な楽曲。"ランデルマン＝猛獣"と煽っていたのが「ジャガー」選曲の理由か？



『ゴッドファーザー 愛のテーマ』
(『ゴッドファーザー』より)
08年5月18日『戦極～第二陣～』
佐々木有生 vs ジョルジ・サンチアゴ
アカデミー賞受賞作品のサントラ。GRABAKAの絆をマフィアに重ね合わせたかった気持ちだけは俺に届いた！(三崎和雄調)。



『BAD』
マイケル・ジャクソン
(『BAD』より)
08年5月18日『戦極～第二陣～』
オープニング曲
言わずと知れたマイケル・ジャクソンの代表曲。『戦極』の空間を唐突なまでに80年代ディスコ風に整形？(マイケルだけに)。

90年代を西麻布ですごしてそうな雰囲気の選曲
佐藤大輔「煽りV BGMセレクション」



『KANEDA』
(『AKIRA Original Motion Picture Soundtrack』より)
8年4月29日『DREAM.2』
桜庭和志 vs アンドリュース・ナカハラ
世界的に大ヒットしたアニメ映画『AKIRA』のサントラ。「桜庭に迫り来る極真幻想」といった雰囲気を見事なまでに演出！



『THE END』
THE DOORS
(『THE END』より)
08年4月29日『DREAM.2』
田村潔司 vs 船木誠勝
アメリカの伝説のバンドの10分にもおよぶ大作。あさま山荘の映像とともに荘厳な楽曲がUWF対決を否応なく盛り上げた！



『ザ・ラスト・レース』
(『デス・プルーフ in グラインドハウス』より)
『やれんのか！ 大晦日！ 2007』
秋山成勲 vs 三崎和雄
クエンティン・タランティーノ監督による最新映画のサントラ。おどろおどろしい迫りくる旋律と魔王の相性がバッチリ！

煽りVは作り手の顔が見えないと感情移入しにくいかもしれない



一番キャラが立っていた選手はやはり中尾KISSか。すっかりハードゲイモードも板につき、煽りVは中尾のどアップのKISSシーンからスタート。試合前に観るもののハートをギュッとワシづかみ!? はい、そこ引かない!

よね。でも『戦極』は作り手の顔が見えない部分があって。

坂井　そのわりには映像の主張が強いですけど（笑）。誰が作ってるか見えづらいと感情移入はしにくいかも。

——それに、全体を統括している感じもないから、全部の煽りVが全力投球なんですよね。

坂井　全試合、全力投球はつらいですよ。せっかくランデルマンの家に行っても、第2試合の選手も海外ロケじゃ、特別なものに見えないし。そこはプロレスとも似てるかもしれない。

——第1試合から、大技を連発されたら、メインは死んじゃいますから。

坂井　それから一番大事だと思うのは僕らは結局、熱があるものが観たいわけじゃないですか？

——試合も、煽りVも〝お仕事〟を逸脱したようなものが観たいですよね。

坂井　スタッフが朝まで編集してテンパって、異様なテンションから生まれるものがみたいなわけですよね。ただ、『戦極』さんのVには、バカ騒ぎ感はあまり感じないから、現場はどんなノリなのか。「こういうのだったら佐藤さんっぽいよね？」ってゲラゲラ笑って作ってるなら、むしろいいんですけど……。

——「これ、やりすぎじゃない？」とか。笑い飛ばしちゃうくらい、元気な感じはないですよね。

坂井　そう考えると、僕も格闘技のリングでは闘えないけど、映像を使って闘うことはできるんじゃないかなって。「誰が一番いい煽りVを作れるか？」って映像ディレクターたちも競いあって作ったほうがいいですよ！　『マッスル牧場ｃｌａｓｓｉｃ』の企画でもやりましたけど。

——「煽りビデオＧＰ」の発想ですね（笑）。前回の煽りVのインタビューでは、「『戦極』の煽りVを作りたい！」とアピールされてましたけど、お声はかかってないんですか？

坂井　かかってないですよ！　ただ、『戦極』の煽りVに関わってる方から「『ｋａｍｉｐｒｏ』読んだよ、ちょっとディレクターを一人増やそうと思ってるんだよ。フフフ」って意味深なことは言われましたけど（笑）。もし、お鉢が回ってきたら全然やらせていただきたいとは思いますね。ただ、やるとなったら、エフェクトだったりCGとか細かい編集技術はあまりいらないと思うんです。さっきも言いましたけど、意外と僕は曲さえよければプロモーションビデオとして機能すると思いますし。

——選曲さえよければ作れる、と。

坂井　その選曲を選ぶセンスも、あまり理屈じゃないような気がします。純粋にいい曲であれば。そういう意味で佐藤さんはちゃんと遊びが感じられる選曲だし、90年代を西麻布で過ごしてそうな雰囲気が（笑）。佐藤さんが青春時代に聴いてたような音楽なのかなぁって。

——曲に対する思い入れが伝わってきますよね。

坂井　ちょっと憧れの先輩の車で流れてた曲みたいで（笑）。首都高を走りながら「先輩、これなんて曲ですか？」って聞きたくなるような。

——じゃあ『戦極』の煽りVを作ってる先輩の車に乗るとどうですかね？　佐々木選手の試合では、最後に『ゴッドファーザーのテーマ』とか流れてましたけど。

坂井　あれはＮＧ曲ですよ！　普通にベタすぎで（笑）。ただ、とりあえずランデルマンの曲をチョイスした先輩は相当にナイスな先輩ですね。

——あ、ランデルマンの選曲はよかったですか。

坂井　「こんなの誰が聞いてるんだ」って言いたくなるようなマニアックなデトロイト・テクノを使ってるんですよ！　あの選曲効果は素晴らしかったですね。じつは、僕が毎日出がけの一発目で聴く曲なんですけど（笑）。

——すっかり煽られた、と（笑）。

一、十、百、選曲、選曲ッ！

坂井　あと、僕は吉本興業の芸人さんを中心に100人の人が映画を監督するっていう企画（『YOSHIMOTO DIRECTOR'S 100』）に参加したんですけど、その中で僕の作品に効果音をつけてくれた人が、ムチャクチャな音をいっぱいつけてきまして。「どんな選曲なんだ？」ってくらいおもしろい人がいたんですよ。

——それは結果的には？

坂井　凄いよかった！　この人が編集スタジオで僕と一緒に作業しているときに、「次『戦極』で音入れがあるんですよ」って（笑）。

——ダハハハハ！　すでに『戦極』のVのスタッフとお仕事を（笑）。

坂井　そういう優秀なスタッフも参加しているはずなんですが。……会場の反応は微妙だったんですよね？

——正直、客席とは距離があったような気がしますね。観客のほうも佐藤さんの煽りVを見慣れてすぎてる部分もあるし、作る側も佐藤さんテイストを求められてるんでしょうけど。

坂井　まぁ、青空をバックに「発動するリアル」はどうかなって。あれは佐藤さんしかやっちゃいけないし、佐藤さんテイストをやるなら徹底的にやるべきですよ！　佐藤さんをマネするならF1まで観ないと！

——フジテレビ時代のF1の煽りVテイストも加えますか！　『戦極』の煽りVは今後どうしていったらいいですかね。

坂井　すでにいろいろ言ってますが、僕は言える立場じゃないですよ。でも、ホントに格闘技の煽りVの制作はやりたいですね！　さすがにＤＲＥＡＭとか地上波は無理だろうけど。

——それには「チーム佐藤」に入らないと（笑）。

坂井　僕なんて大学を中退してるような人間ですから。業界用語もわかんないですから無理ですよ、無理！

——やはり制作を熱望している『戦極』に携われるといいですね。

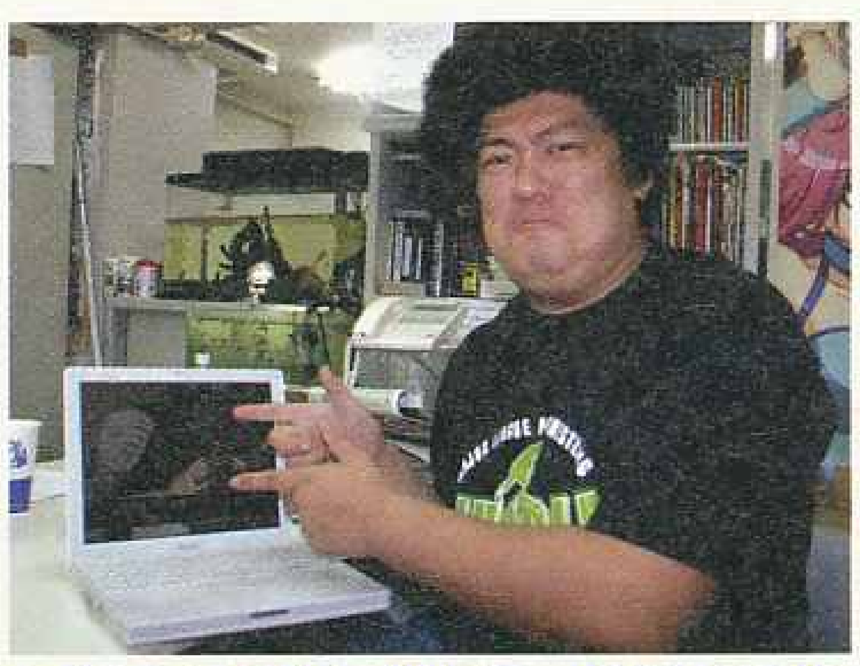
坂井　そうですねぇ。ちゃんと青空の素材とか動物とか、フリーの素材集も持ってますから！（笑）。こんなオシャレな編集はできないですけど、魂のこもった熱いVは作れますよ！

——坂井さんの手がけた、ストイックな『戦極』煽りVは観たいですね。

坂井　もし『戦極』の映像ディレクターが足りないんであれば、ぜひとも煽りVを作らせてほしいですね！　われわれはもの凄い低い予算でも対応できるんで。ウチはサムライＴＶの放送中継枠も価格破壊で勝ち取ってきた歴史もありますし（笑）。

——それまた〝リアル〟な話だなぁ（笑）。ではいつの日にか坂井さんが作った格闘技の煽りVが観られる日を楽しみにしてます！

［08年5月21日／都内・DDT事務所にて収録］



まっする・さかい■本名・坂井良宏。1977年11月5日、新潟県出身。早稲田大学在学中に映像班としてDDTに関わり、気がつけばプロレスラーに。現在はプロレスラーとしての活動以外にも、お笑いイベント、映画監督、雑誌コラムなど多分野で活躍中。186cm、120kg。



インリン退

あなたこそがハッスルのエースでした——

インリン・オブ・ジョイトイ
ラスト・インタビュー

ありがとう! そして、さようなら! 5.24『ハッスル・エイド2008』で3年半の活動に終止符を打ったインリン様。元横綱のプレスを見事に受けてリングに散ったラストマッチと、その後のドラマ、そして『ハッスル』のリングでは初めてとなるカーテンコールでは多くの観客の涙を誘った。美しくセクシーな女性でありながら、超一流のプロレスラーたちの中で、ひときわ輝きを放ってきた彼女にラストマッチ終了直後にインタビューを行なった。

聞き手／ジャン斉藤、坂井ノブ　試合写真／平工幸雄、山口比佐夫　写真提供／ハッスルエンターテインメント



そして08年5月のラストマッチでは体重21万5000グラムの第64代横綱の曙（ボノちゃん）のボディプレスで玉砕した。5月に肺炎を患って、前日までは夕方になると熱が出るような状態で最後まで闘い抜いた。



05年2月のデビュー戦ではバルセロナ五輪・柔道銀メダリストの小川直也からM字固めでフォール勝ち。これがインリン様伝説の始まりである。

子どもが生まれて、お婆ちゃんになって孫に見せたらみんなどう思うんだろう？

—インリンさん、お疲れさまでした！ホントに終わってしまいましたね。

インリン そうですね。試合前はいつもどおりでしたけど。ちゃんとやらなきゃいけないって、そっちの神経ばっかり使ってて。終わってからですね、「あ、ホントに終わっちゃった……」って。なんか不思議な感じですね。

—最後のあれはカーテンコールと言っちゃっていいんですかね？

インリン ……それより、やってよかったんですかね？

—よかったと思いますよ。最後が悲しすぎる終わり方だったので。最後にファンに対して感謝のメッセージが伝わったし、あれでよかったと思いますよ。確かにプロレスを越えたところで観てた部分があるんで、だからこそ痛がらないで出てきてほしかったなっていう意見もありましたけど。

インリン ウチのスタッフにも「堂々と出てくると思った」って言われたから「そうなのか？」って思いましたけど。

—う～ん、プロレスと舞台のあいだの難しい部分ですけど。

インリン 難しいですよね。

—『ハッスル』はこれからも続くだけに、表現は難しいですよね。でも、インリン様ってそういう難しさとの闘いの連続だったじゃないですか。柔道の五輪銀メダリストにも勝ってしまったり。

インリン ありえないですよね。わたしがボノちゃんを投げちゃったり（笑）。こんなちっちゃい女の人に抱えられて投げられたり、M十字をかけられたり。でも、凄い歓声が聞こえました。

—そんな歓声を受けたラストマッチを終えて、あらためてどんな心境ですか？

インリン 『ハッスル』に携わっていた3年半は凄い充実してました。ホントにインリン様、ニューリン様も含めてなんですけど、毎回パフォーマンス的にも、もちろん皆さんの力を借りて自分が満足いくような環境でやってきたんで、この仕事をやってよかったなと思います。

—インリンさんにとっての『ハッスル』って、どんなものでしたか？

インリン たとえば自分が将来結婚して、子どもが生まれて、お婆ちゃんになって、孫の代になったとき、それを見せたらみんなどう思うんだろうって考えると笑っちゃうんですよね。

—「凄いよ、お婆ちゃん!!」って（笑）。

インリン はい（笑）。自分の人生においては大きい仕事でしたし、一生忘れられない思い出として残ると思います。

—プロレスに対してのイメージって変わりました？

インリン だいぶ変わりましたね。最初は失礼ながらあんまり観てなかったんですよ。私が子どもの頃に、ゴールデンタイムで放送してたのをお父さんが観てたぐらいで。皆さん大きい身体で相手を投げたりとか、こういうの……、なんていうんですか？（チョップの動作をしながら）。

—チョップですね（笑）。

インリン すいません、3年半やってきてチョップもわからなくて（笑）。

注目されるのは一番嫌なんですけど
総統の横にいるから安心できました

——まったく問題ありません（笑）。こうしてリングに上がってから、ほかの団体の試合もご覧になりました？

インリン　深夜に放送している新日本プロレス中継をたまに観たりしてますけど、試合の流れとか観たりしてます。

——流れ！

インリン　「この技に入る前に、こういうふうに見せたほうが大きく見えるんだな」とか。「だから、あのときアン・ジョー（司令長官）さんはああいうことを言ってたんだな」とか、そういう感じで観てますね。たとえば首を絞めるにしても身体をどう動かすかによって見え方が全然変わるんですよね。

——インリンさんが新日本を観て「あ、こういうふうにやればいいんだ」とか思うのって、要するに新日本プロレスと『ハッスル』もあまり変わりのないものとして観てるところがあるわけですよね。

インリン　技の一つ一つの部分ですけどね。ちっちゃいときからプロレスラーに憧れて、一生懸命筋トレやってる人にはホントに失礼だと思うんですが、ムチでパッと叩いて倒すのとか。でも、自分は自分だし、こうやって『ハッスル』でもインリン様が成り立ってる。応援してくれる人がいるから、『ハッスル』ではこれでいいんだと思ってました。ただ表現者として、こういう表現をしてるわけで。そこを理解してくれる人がいればいいかなって。

——プロレスラーって表現者ですからね。何年やろうが、一生懸命やろうが、どんなに愛があろうが、リングで表現できるかどうかが絶対に問われると思うのですよ。そして、表現する瞬間はたった一人で引き受けなければならない。インリン様は最後の最後までプロレスラーだと思いました！

インリン　ありがとうございます。

——カーテンコールのときは泣いていらっしゃるように見えたんですけど。

インリン　じつはリングで泣いたんです。

——あ、そうだったんですか！

インリン　ボノちゃんを最後にさわる前からもう涙が溜まってたんですよ。目をつぶった瞬間に流れたんです。ホッとしたのもあって……。

——後楽園での涙もかなり印象的だったんですけど。

インリン　お客さんの拍手があまりにも嬉しくて。そんなふうに皆さんが応援してくれてたんだっていうのをあらためて実感して、嬉しいなと思って。でもそのキャラを演じなきゃいけないから、涙が出たら声も出ないから、「絶対泣かない！」と思って、違うこと考えてました（笑）。

——ダハハハハ。あのときは髙田総統の「『ハッスル』最大の功労者」って言葉があって、お客さんが拍手を送りましたよね。

インリン　そうですね……。

——引退を知らされたときも悲しかったですか？

インリン　はじめは「なんで？」という気持ちはあったんですけど、皆さんが「なんで辞めちゃうの？」っていうタイミングで辞められるのは、いま考えると逆に幸せなのかなと思っちゃうんですよね。ここでカッコよく辞めていったほうが、お客さんも「去ってくときもインリン様はカッコよかった」みたいなかたちで、きれいに終われたんじゃないかなって。最後の試合に近づけば近づくほど、とくに前回の後楽園で凄くそう思いました。

Yinling of Joytoy

——実際、カッコよかったですよ。しかし、デビュー戦は柔道銀メダリストで、引退試合が元横綱って凄いですよね（笑）。

インリン　ホントですよ！（笑）。私もどうやって闘うのか、わからなかったし。

——だいたいプロレスって不思議な世界だと思いませんか？

インリン　不思議ですよ……、いまでも不思議（笑）。

——比類なきジャンルですよね（笑）。プロレスって、どうして観客を引き寄せてると思いますか？

インリン　やっぱりキャラクターじゃないですかね。もちろんプロレスも……たとえばムタさんはお客さんを引きつけるキャラクター性が最初からできていて、しかも動きがすべて重いんですよね。一つの動きだけでも凄いものを観てる感じを与えてくれるじゃないですか。あれは存在感だったりキャラクターだったり、動きのメリハリなんでしょうね。

——サイコロジーというか。

インリン　お客さんが、その世界に引きつけられてますよね。

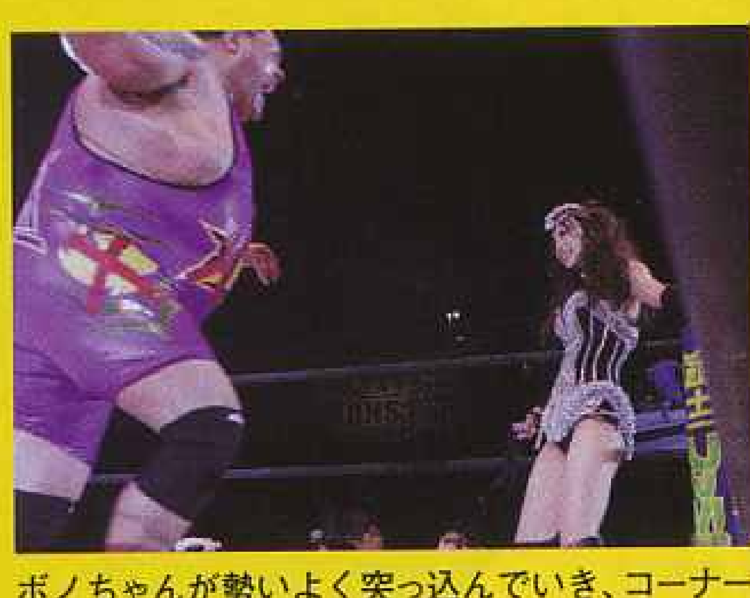
——インリン様の動きの一つをとってみても、そういうところにこだわりは持ってましたよね。

インリン　でも、格闘技をやってたわけじゃないから、自分はメリハリつけてるつもりでも、プロから見たらまったくダメってこともありました。アン・ジョーさんに何度も教えてもらいました。目つき

PLAYBACK　5.24「ハッスル・エイド2008」インリン様ラストマッチ



「ボノちゃん。あなたはとってもいい子よ。私の大事な宝物。生まれてきてくれてありがとう……」と言い残して静かに目を閉じたママを抱えて退場するボノちゃん。観客も号泣！



ボノちゃんが勢いよく突っ込んでいき、コーナーを背にしたインリン様を圧殺！ この直前にインリン様はボノちゃんに「きてみろ～!」と絶叫。いつも優雅だったインリン様初の絶叫である。



元横綱とがっぷり四つに組んで上手を取られながらも下手投げ一閃！ 150キロ以上はあろうかという体重差なんて関係ねえ！ これぞファイティング・オペラの醍醐味である。



突っ込んでくるボノちゃんにバッとムチを突きだして動きを止め、さらには観客の視線をも釘付けにしてしまうインリン様。間合い、タイミング、緊張感が凄まじく高いレベルだ。



ボノちゃんを最後にさわる前から もう目に涙が溜まってててて じつはリング上で泣いたんです

だったり、顔を上げるタイミングとか、そういうのを測ってるんですよ。この表現は凄いなと思いましたね。

——タレントの表現とレスラーの表現は違いますか?

インリン どうなんですかね? たとえば強い目つきだったりとか、吠えてみたりとかやってましたけど、その中で自分は「ここまでやっちゃっていいのかな?」って悩んだときもありましたよ。

——そうなんですか?

インリン 「ここの『ウェーッ』って表現はやりすぎかなあ? インリン様の場合、もっと上品なのになぁ」とか。

——へえ~。その客観性は重要ですねえ。

インリン ニューリン様はとことんやってたんですよ。強さで勝負だったんで。でも「ちょっと狂暴すぎるかな?」って悩んだりとかもしてたんですよ。あとイメージの問題ですね。インリン・オブ・ジョイトイとしての(笑)。やっぱり限界ってあるじゃないですか。

——一応、別人格ということにはなってましたけど(笑)。

インリン なってますけど、ホントはインリン・オブ・ジョイトイってみんな知ってるから、そこはどうなのかなって思ったこともあったんですけど(笑)。でも、そんなの関係ないと思いながら、やりたい放題やってきたんです。

——そんなの関係ねえ! と。それが結果的に、プロレスの歴史に革命を起こしてしまったんですけど。

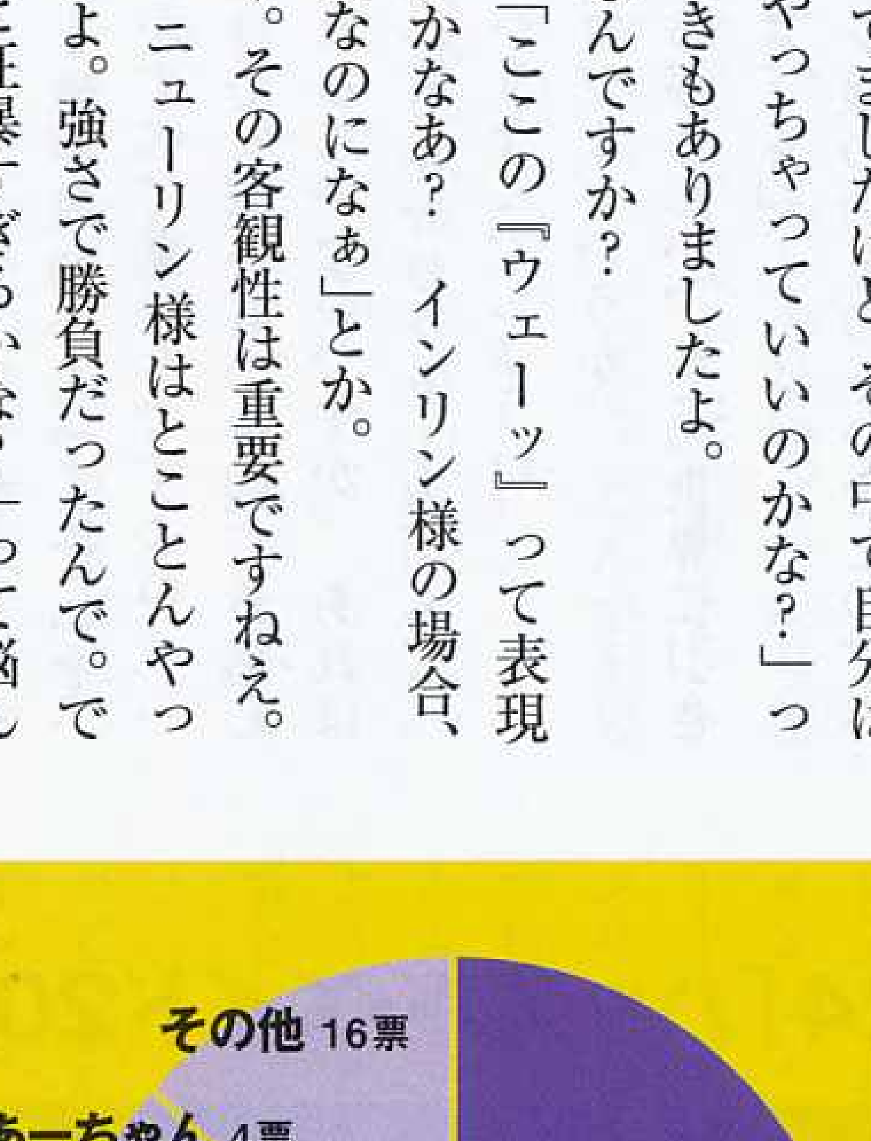
インリン (ビックリして)私がですか!?

——そうです! 髙田総統はリングに上がらないじゃないですか。だから髙田総統が『ハッスル』の象徴ならば、それを体現していたのはインリン様だったんじゃ

kamipro Hand ハッスル・エイド2008 アンケート

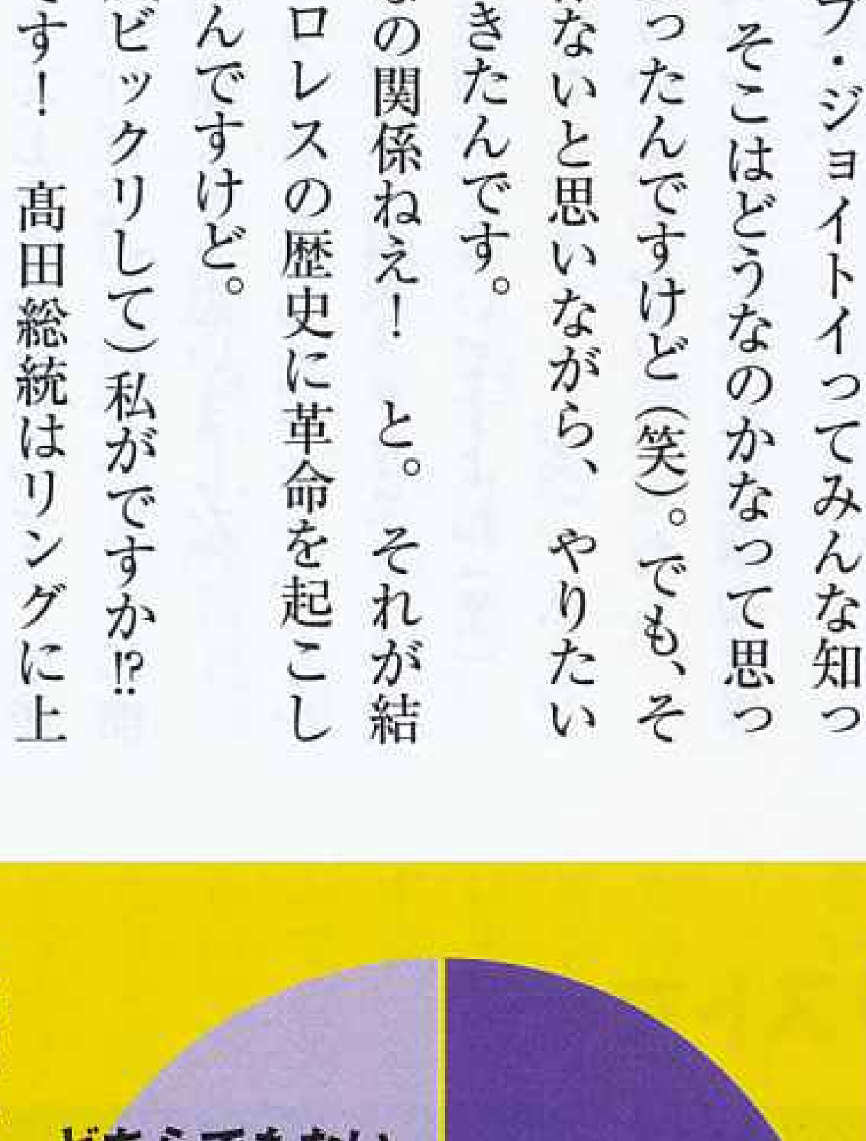
有効投票数=184

Q1 MVPは誰だと思いますか?



それをいまさら聞くか? という声もありましたが、質問するほうだって野暮は承知の上! 圧倒的な強さを誇るインリン様がぶっちぎりの1位。それはともかく、あーちゃんが意外に健闘しているのに驚かされる。RGのポジション、危うし! マスクを脱いで新展開を予感させたHGにも票が集まっている。

Q2 インリン様の引退には賛成ですか? 反対ですか?



これも、いまさら聞いたからってどうにかなるもんでもないですが、でも聞くんだよ! こちらの予想よりも賛成票が多く入ったが反対が圧倒的に多い。惜しまれながら引退するのは、プロとしては最もかっこいい散り際だろう。きっとインリン様も満足しているに違いない。

アンケート実施期間 5月26日～27日

カーテンコールのときは叫びたかったな、「ありがとうございました！」って……

ないかなって。もちろん、先ほどから言われているように周囲のサポートがあったと思うんですが、入場からリングからマイクからひっくるめて、「『ハッスル』とはインリン様である」っていうぐらいのものを表現したと思うんです。

インリン　でも、髙田総統がいたからここまでできたんです。私、注目されるのが一番嫌なんですよ。

――えっ！（笑）。またまたご冗談を！

インリン　そういう願望はあるけど、現実的にそうなるとパニクッちゃうんですよ。

――プレッシャーで？

インリン　そうです。だから、常に二番手というか、総統の横にいるから安心できた。総統の存在は凄く大きかったんですよ。だから好き放題にできたのかなって。

――凄く楽しんでやってたイメージがありますけど、そういう安心感があってのことなんでしょうね。ちなみに試合後に、いままでの名場面のVTRが流れたんですけど、その中で控室で待ってる素のインリン様の映像があったんですよ。

インリン　えっ、そんなの出てました？

――たぶん今年の2月のさいたま（スーパーアリーナ）の出番前の映像ですけど、あれが非常によかったですね。最後にニコッとカメラ見て笑うんです。なかなか素のインリン様を見たことないんで、印象的でしたよ。

インリン　あんまり笑ったりしないですもんね、インリン様の格好してるときは。

――そう考えると、最後まで素を見せなかったわけですが、カーテンコールでマイクを持ちたかったっていう気持ちはなかったですか？

インリン　思わず生声が出ちゃいそうでしたね。「ありがとうございました！」って叫びたかったな……。

――それは叫んでほしかったなぁ。

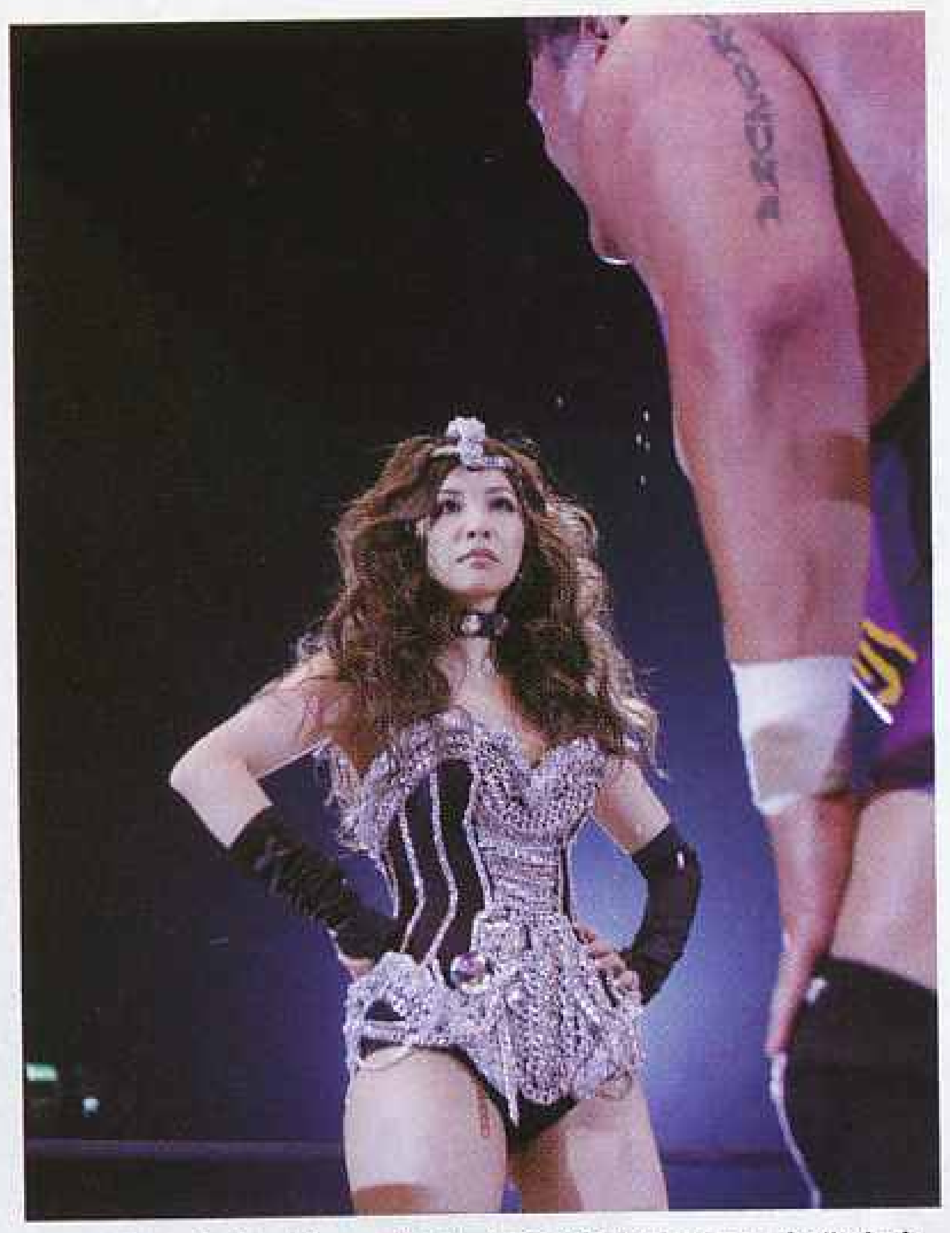
インリン　でも、最後までインリン様を表現できたと思いますから。

――今後の『ハッスル』はどうですか？

インリン　『ハッスル』はこれからもずっと見守っていきたいっていうか、観ていきたいし、自分がやってきたので、そういう意味でも気になりますね。

――インリン様の後釜になるような人が出てくるかどうかもわからないですけど。

インリン　難しいですよね。タレントさんはなかなかプロレスやってくれないじゃないですか。「一生懸命やります」みたいな感じの若い子じゃないと、事務所も怖がるから難しいですよね……。なんで私、裏方みたいなこと言ってんだろ（笑）。



いんりん・おぶ・じょいとい■1978年2月15日、台北出身。10歳より東京で生活、95年よりヒラオカノフスキー・クラタチェンコのマルチメディアユニット「JOYTOY」に参加。公式HPはhttp://www.most-sexy.net/

Yinling of Joytoy

――ダハハハ！　インリン様は事務所からは反対されなかったんですか？

インリン　「やったほうがいい」ってみんな言ってました（笑）。

――これから『ハッスル』に限らずいろんな団体でインリン様的なポジションを狙う人が出てくるかもしれないですね。

インリン　それはそれでおもしろいですよね。真似していただくぶんには嬉しいです。プロレスの技がうまい人がやったらどうなるか観たいですね。

――最後にヒマでモテないプロレスファンにメッセージをいただきたいんですが、……その前に、プロレスファンってホントにヒマでモテない感じでした？

インリン　それがよくわからないんですよ。「ヒマでモテないって超失礼じゃない？」とか思ってたんですけど、だんだんそれを言うのが気持ちよくなってきちゃって（笑）。

――では、ヒマでモテない『kamipro』読者にメッセージをお願いします。

インリン　3年半、インリン様と『ハッスル』を応援してくれてホントにありがとうございました。もう『ハッスル』には出ないんですけど、私自身も応援していきたいし、皆さんもこれから『ハッスル』を応援してください。

――『kamipro』もお世話になりっぱなしでしたよ。

インリン　そうですね、いっぱい出させていただいて。

――『ハッスル』のページで一番載せたのインリン様でしたから、これからどうしようかと頭を悩ませてるんですけど（笑）。

【08年5月24日／kamipro編集部にて収録】

Q3 インリン様に贈るメッセージをお願いします！
※カッコ内はペンネーム

▼送別M字ビターン（あか）

▼インリン様を見れないで、いつハッスルすればいいんだっ!?（ガスタンク）

▼お疲れ様でした。（ハーンズ）

▼インリン様は私の憧れであり大好きな女性です！　インリン様を思う気持ちはそこら辺の暇でモテないプロヲタなんかには負けません！　インリン様ぁ～！（マスカラ）

▼最後がいまいち。（はな）

▼インリン様は皆の心の中でこれからもずっと戦い続けていてくれるはず！だからさよならはいいません！　愛と感動をありがとう☆MONSTER‼（SEAMONATOR）

▼『エロカッコイイ』とは、インリン様の為の言葉だ！ファンタジーをありがとう（涙）。（福井のしもやん）

▼ドS、母性愛を兼ね備えた素敵なハッスラーでした。お疲れ様でした。ありがとう。（なっしー）

▼インリン様数々の下界への降臨ありがとうございました！終生洗脳され続けさせていただきます！（STALEMATE）

▼引き際が少し遅かったけど、設定上のキャラでは最高のキャラでした。お疲れ様。（ねこやなぎ）

▼お疲れ様でした。絶頂期に引退なんて山口百恵みたいでカッコイイです！（ドリームファイター）

▼あなたの登場は、プロレスから少し遠ざかってしまった私達の眼を確実に醒ましてくれました。ありがとう！（Hi-H）

▼最初ふざけんなって思ってたけど、ハッスルの方向性をつくったのは間違いなくあなた。お疲れ様。（セレブはどこに？）

▼絶対復活。（ヒトナグァ）

▼3回程会場に行った事ありますが、正直最初は興味もなく、馬鹿にしていました。プロレスを馬鹿にしてる様にみえたからです。でも今は見てて感動するし、お疲れ様って素直に言えます。（まちゃ）

▼お疲れさまでした。いつか再び『ボレロ』か、あるいは『亡き王女のためのパヴァーヌ』が会場に流れることを夢想しております。（インリンゲノム）

▼この三年半、お伽話とリアルとの境界線を行ったり来たりの貴女に魅せられっ放しでした。お疲れさまでした。また、いつかどこかで！（龍斗）

▼イン婆として復活する日を楽しみしています。（ターザン山本）

▼戻って来て！（ユウスケ）

▼お疲れさま。ちょうどいい引き際だと思う…ハッスルは新しい物語を作り続ける事が必要な団体だと思うのでもう少し見たいと思われる状況で引退が理想的。絶対復帰だけはしてほしくない。（ぽぽん）

今夏、あのローソンとハッスルが“食”のコラボを全国展開!!

探検隊、なんと極秘試食会に大潜入!!



5月某日、都内・ローソン本社で行なわれた極秘試食会にプロレス探検隊がなぜか潜入！『ハッスル』関係者らと真剣な表情で検討!?



……もつかの間、やっぱり目的は食事だった！『ハッスル』とローソンのコラボ商品を次々とたいらげてゆく隊長と小松隊員。



モンスター軍、ハッスル軍、両軍の対決商品がある今回のコラボだが、ハッスル軍の弁当がお気に入りの二人。そこにあの男が……。



モンスター軍も食べろって！ と急襲する川田。慌てふためく探検隊！ 最後はやっぱりモンスター軍のカレーパンでニッコリ！



GK隊長
かなざわ・かつひこ■元『週刊ゴング』編集長。テレビ朝日『ワールドプロレスリング』の解説も務める、プロレス界の重鎮ながら、プロレス探検隊でも全力投球！ 体当たりで取材に挑む。

小松隊員
こまつ・しんたろう■元『SRS・DX』編集部。隊長とは以前から親交があり、『週刊ゴング』の座談会も担当。元相撲部だけにグッドルッキンなボディも持つ男。その“受け”の美学は今回も全開だ！

川田利明
かわだ・としあき■1963年12月8日、栃木県出身、『ハッスル』を主戦場とする、ご存知モンスターK。「歌って踊れて試合もできるハッスラー」を自称する超多芸ぶりは芸人ばり。183cm、100kg

マット界きっての“食通”、モンスターKも大満足!!

GK探検ファイル
番外編

GKスペシャル
プロレス探検隊

数々の冒険を繰り広げてきたプロレス探検隊が今度はなんと、あのローソン本社に大潜入!!
今回の調査は、7月1日よりスタートする、ローソンと『ハッスル』の“食”のコラボ!
場違いな二人が極秘試食会に参加、そしてハッスラー代表のモンスターKに“食”のこだわりをズバリ直撃だ!!

構成 / 真下義之 撮影 / 山口比佐夫



モンスター軍の焼きそば、モダン焼きは夏場にピッタリ!! ビールにも合うねぇ

GK 小松隊員よ、さっそくローソンと『ハッスル』の食のコラボを通して、モンスターKの食へのこだわりを聞こうじゃないか!

小松 隊長、もう食えません……。

GK こ、小松隊員! だいたい君は食事に集中しすぎなんだよ!

小松 ラジャーです、隊長。しかし今回は凄いですねぇ。まるで広告のようなページじゃないですか? これを機にローソンのキャラになったりして……。グフフフ!

GK 黙らんか小松隊員! 今回の目的はコラボの素晴らしさを伝えること! むろん、そういう話はやぶさかではないがな。ムフフフ!

小松 た、隊長……?

GK (気を取り直して) しかし君は幸運な男だ。なぜならプロレス界の〝K・K対決〟、モンスターK vs GKを目のあたりにできるのだぞ!

小松 おお、今日も自信に満ちあふれてますな、隊長!

GK おう! 俺こそ、ローソンだよッ! (坂田亘口調で絶叫)。ということで、モンスターK! どうですか? 今回のお弁当は?

川田 いや〜、これから夏場は暑くなるでしょ? そういうときはこのモンスター軍の焼きそばやモダン焼きを食べながら、ビールでキューッとね! この焼きそばだけで大ジョッキ3杯は飲めるよ!

GK おっ、気が合いますなぁ! この金沢も同意見です! 小松隊員よ、ビールはないのか?

小松 探検中にお酒は禁物ですって! それよりカレーパンのお味は?

川田 カレー自体はモンスター軍の黒カレーが好み! でも、ハッスル軍のパンも生地がアッサリしてておいしいし、食べやすいよね。

GK ほほう、さすがはモンスターK! この金沢と同様、食に対する感覚が鋭いっ。ちなみにカレー自体もお好きなんですよね?

川田 スープカレーみたいなカレーなら。凄く食べるほどじゃないけど。

小松 いやいや、去年の暮れにジャイアント白田さんとカレーの大食い対決をやられたじゃないですかぁ!

川田 あのときはカレー8杯食べて、腹が破裂しそうになったよ! 水分も取れずに気持ち悪くなったし。



食事へのこだわりを語りまくるモンスターK。好きな食事は「和食かな」と薄味好きながら、「熱いときはやっぱりスタミナつけなきゃ!」と今回のコラボを大絶賛!

GK そうそう! だから、濃い味のものを食べるときは水分が必要! つまりお酒なんかを飲んだほうがいいんだ。ねえ、モンスターK?

川田 そういうことだよ!

小松 またお酒……。今回は丼のお弁当も目玉ですが、川田さんは丼物だと何がお好きですか?

川田 ハッスル大盛対決どんぶりはイケるね! モンスター軍の豚焼肉も食べ応えあるけど、ハッスル軍のダッカルビもうまい。ただ丼物もいいが、俺は分けて食べたいタイプなの。

小松 ちょ、ちょっと、ローソンの方に怒られますよぉ……。

GK 辛いものはどうですか? 今回のお弁当は辛口で攻めてますけど。

川田 あ、辛いものは大好き!

GK よかった! しかし、お話を聞く限り、モンスターKは見かけによらず、食通なんじゃないですか?

川田 カッチーンッ! 気づくの遅いよ! (怒)。フードコメンテーターっているでしょ? 俺はその人と仕事して、「川田さんにテレビ局の人を紹介したくない。仕事取られちゃう」って言われたぐらいの食通だよ?

GK プロも認める食通! では、最後に〝フードコメンテーターK〟として、アピールしてもらえます?

川田 モンスターKファンの諸君、ローソンと『ハッスル』のコラボ弁当で、元気にハッスルしたまえ! そういうことだよ、バッドラックだ!



なぜ『ハッスル』なのか? ローソンさんに直撃!!

今回のコラボは、今年のローソンのテーマ“元気になローソン”の一貫で、元気の象徴として『ハッスル』のコンセプトがピッタリだなって。夏場のスタミナ企画ですので、ボリュームのアピールに最適だし。あと『ハッスル』は闘いの構図が、誰が観てもわかりやすいじゃないですか? “対決”も売りにしたかったので、そこもバッチリ当てはまった。模範解答かもしれませんが、このコラボでお客さん、ローソン、『ハッスル』さんと三位一体で元気になってほしいと思います。

株式会社ローソン・奥村一十三さん(左)、数土伸也さん(右)

君たちも食べたまえ!!

ローソン×ハッスル コラボ商品

7月より、全国で発売開始!!
※価格はすべて税込



530円 7/15より

ハッスル大盛対決チャーハン

チャーハン対決でもガップリ四つ! 赤のハッスル軍のビリリと辛いキムチ味派か、黒のモンスター軍の風味豊かな甘味噌味派か? 交互に食べ比べてハッスルせよ。



530円 7/15より

ハッスル大盛対決どんぶり

ハッスル軍とモンスター軍が“どんぶり”上で正面激突ッ! ハッスル軍が赤のダッカルビで攻め込めば、モンスター軍は黒の豚焼肉で応酬! スリリングな味の決戦に挑め。



498円 7/15より

ハッスル赤の大盛冷し中華

ハッスル軍、冷し中華始めました! ハッスル軍のイメージカラー、赤の唐辛子入りキムチが味の決め手。もちろん麺も大盛の1.4倍に増量で大満足!



498円 7/15より

豚玉ダブルモダン焼き

モンスター軍印のモダン焼き! 山芋を加えたふっくらした生地とソース焼きそばが合体! 腹ぺこモンスターにはたまらない従来の1.5倍のボリューム、ぜひ味わいたまえ!



498円 7/15より

モンスターWカルビ焼そば

Wビターンよろしく、豚カルビと牛カルビがWでのったカルビ焼そば! モンスター軍の黒こしょうでスパイシーに仕上げた味と通常の1.5倍に増量された麺はまさにモンスター級!



150円 7/1より

ハッスル 黒カレーパン

食べたまえ! 高田総統がモンスター軍食品研究所で極秘に開発させた脅威の黒カレーパンは、ドーナツ生地で牛肉たっぷり。激辛でガーリックも入ったスタミナ満点の逸品だ。



150円 7/1より

ハッスル 赤カレーパン

俺こそカレーパンだよ! 坂田亘がハッスル軍の食欲増進を計り、徹夜で制作した赤カレーパンは、チキンにパプリカも入ってヘルシー。白パン生地で朝食にもバッチリだ。



335円 7/15より

ハッスルサンド

モンスター軍が黒ソースの極黒スパイシーなトンカツ、対するは激辛ハバネロソースのハッスル軍のチキンカツで大勝負! 両者を分けるのはスタミナにんにく入りメンチカツ!

※一部取り扱いのない店舗がございます。あらかじめご了承ください。※写真はイメージです。



HGがマスクを脱いでキャラチェンジか!?

"インリン様後の世界"はもう始まっている!!

インリン様のラストマッチという感動のフィナーレがある一方で、5・24『ハッスル・エイド』には「地味」「舞台装置がなくて寂しい」「ゼウスいらない」など、さまざまな意見があった。いろんな感想に耳を傾けると、いままでの豪華絢爛な『ハッスル』のビッグマッチと今回の『エイド』とのあいだにはギャップがある、という評価に落ち着くようだ。

『エイド』には今年2月からさんざん焚いてきた"モンスターK"川田利明vsHGのシングルマッチがわずか58秒で終わってしまうという冷たい試合も含まれていた。リング上では初めて素顔をさらしたHGの張りつめた表情に、観客はどよめいていた。さらにその衝撃をブチ壊すようなゼウスの乱入に「アンタ、誰?」という観客のリアクションが投げかけられる。微妙な空気だが、これは産みの苦しみといったところだろうか。

インリン様という絶対的なエースが去ったいま、あらためて個々が力量を試されることになる。7月からは「ハッスルGP」というトーナメントが開催されることになった。勝敗に大きなスポットが当たるトーナメントに札を置くこと自体、『ハッスル』にとっては大きな方針転換だ。"インリン様後の世界"は、もう始まっている。





全知全能の高田総統が優勝者の望みをかなえてくれるという副賞がつく。7月からトーナメント1回戦が始まる!

7月からハウスとナンバーシリーズを統合した新シリーズ開始!!

ハッスル 今後の大会スケジュール

ハッスル・ハウス vol.37

6月18日(水)後楽園ホール(18:00開場/19:00開演)

新シリーズはこれだ!

KYORAKU PRESENTS **ハッスル・ツアー 2008**

7月 6日(日)福岡国際センター(15:00開場/16:00開演)
7月11日(金)後楽園ホール(18:00開場/19:00開演)
7月27日(日)横浜文化体育館(16:00開場/17:00開演)

お問い合わせ
ハッスルエンターテインメント
TEL.03-3221-2431 www.hustlehustle.com

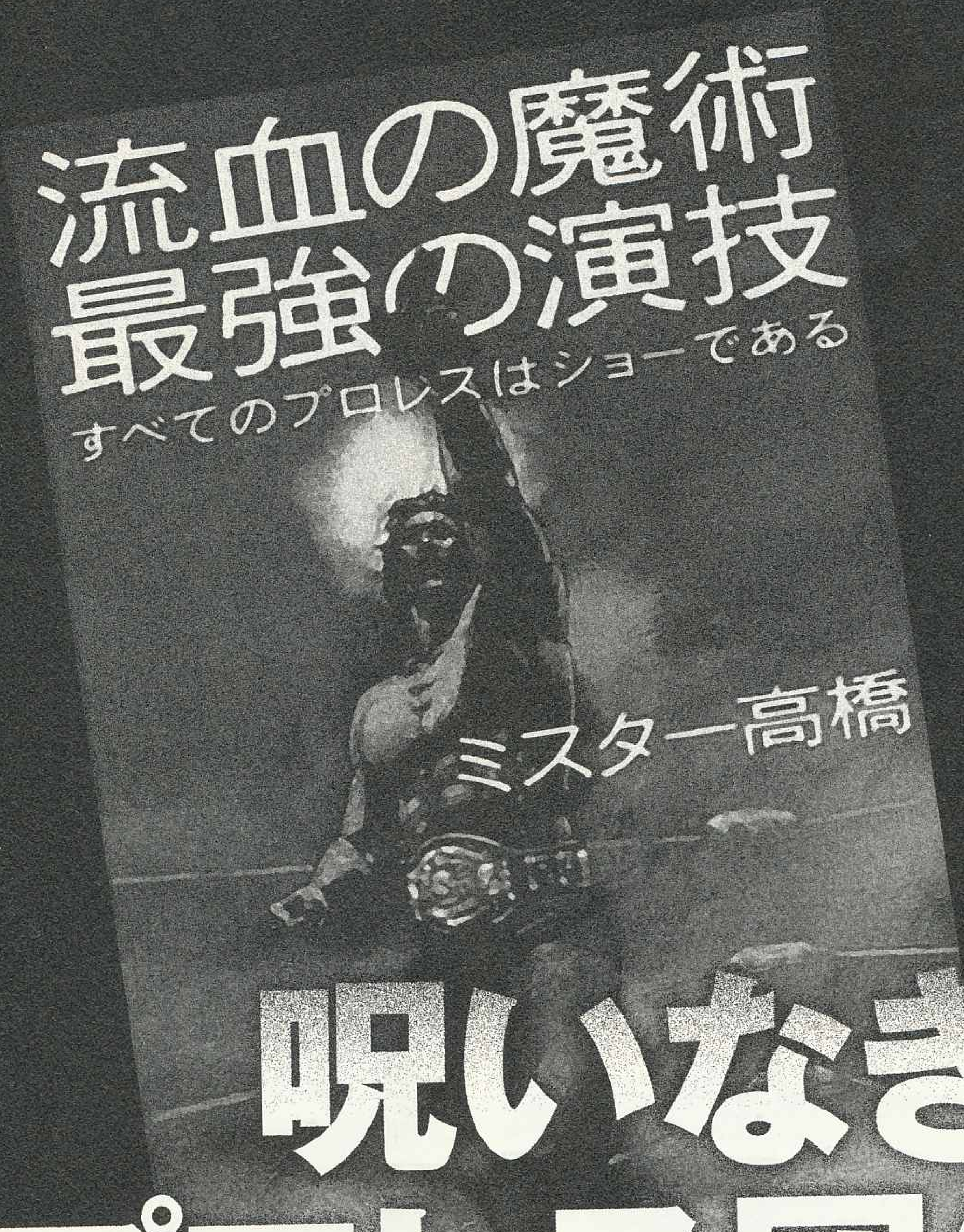
リング外でも激変!! 日本ハッスル化計画始動

異業種とのコラボが次々と始まる! 5月21日に会見を行なった『ハッスル』は自動車教習所、携帯電話、QUOカード、PC周辺機器、ケータイ小説など、さまざまな異業種とのコラボを発表した。全国の自動車教習所で開催される新シリーズ『ハッスルどライブ』はすでに6月21日(日)島根県雲南市の木次自動車教習所での開催が決定! 08年に5回程度開催する予定だ。



さらに携帯サイト『おりおん☆』で携帯小説『ラブ&ハッスル』(泉忠司・作)が連載中。QUOカードも絶賛発売中だ。

ミスター高橋本本から早7年





呪いなきプロレス団体がここにある!

プロレス界に大きな傷跡を残した“ミスター高橋本”の発売から早7年。その“呪い”を恐れてか、
存在自体を無視する団体がほとんどだったが、“高橋本”後に誕生したこの団体は違った。
“高橋本”を無視するどころか、逆手にとって、いわゆるプロレス界のカミングアウトネタを頻繁に用いて、
あと一歩で武道館大会開催というところまで来ているのだ。
この“呪いなきプロレス団体”『マッスル』の誕生から現在、そして気になる今後の展開まで徹底分析!!

新日本プロレスからハッスル、そしてFEGまで!!

主要プロレス団体&格闘技団体広報に一斉アンケート!!

呪いなき『マッスル』は、プロレスなのか？

あれから7年……。日本プロレス史上最大級の激震！と言っても過言ではない、ミスター高橋がプロレスの舞台裏を明かした禁断の書、『流血の魔術最強の演技—すべてのプロレスはショーである』（講談社）の出版から、気がつけば7年もの月日が経過してしまったのだ。

アフター高橋本の世界、そのハルマゲドン的な影響力は、プロレスのジャンル全体を覆って、ボディブローのように徐々に暗い影を落としていった。この荒波を受けた各プロレス団体は、高橋本の"呪い"を振りほどくため日夜奮戦していく。

その結果、『ハッスル』のように、「守るのではなく、作り出せ！」（高田総統）とエンタメ路線を全面に打ち出した団体も出現！呪いを受けた側のプロレス団体は、時代の要請に応えつつ、アイデアを駆使し、「プロレスとは何か？」を試行錯誤していった。

芸人から小学生までがリングに上がる昨今、従来のプロレス的な価値観はフラットなものとなり、もはや何が起こってもおかしくない、"一寸先はハプニング"なサバイバル時代が到来。

そんな中、いつの間にやらスキ間産業的にポッコリと誕生し、独特のポジションを築いているのが『マッスル』である。

アフター高橋本の世界を前提として生を受けた『マッスル』は、"呪い"といったキーワードが抜け落ちているお気楽な団体。同内容の興行を二日続けて行なったり、試合にスローモーションを取り入れたり、あっけらかんとしたカミングアウト手法はじつに厄介だが、どこかポジティブなムードも持つ。このハタ迷惑で能天気な存在を、呪いを受けた側のプロレス団体、あるいは違うベクトルの格闘技団体の視界には入っているのか？

本誌は、主要プロレス団体&格闘技団体の広報に『マッスル』に関して一斉アンケートを実施!! 一部からは回答をいただけなかったが、興味深い集計結果が集まった。その内容は……読めばわかるさ！

アンケート実施団体

FEG、新日本プロレス、全日本プロレス、ハッスル、IGF、ファーストオンステージ（ZERO・1MAX）、ドラゴンゲート、大日本プロレス（無回答）、そのほか。

1 『マッスル』のことを知っていますか？

知名度はノー問題!!

なんと回答していただいた全団体が「YES」と返答して、その知名度は実質100パーセント！と自信マンマンに円グラフを作ってしまったが、ぶっちゃけ回答をもらえたのが7団体。しかもアンケートに答えてるんだから、あたりまえの回答だって！ただ、どの団体に連絡しても「マッスルに関してなんですが」とこちら側が切り出した瞬間に「ああ……」と一様にテンションが下がり気味だったのだから、さすがとしか言いようがない。



2 『マッスル』はプロレスだと思いますか？

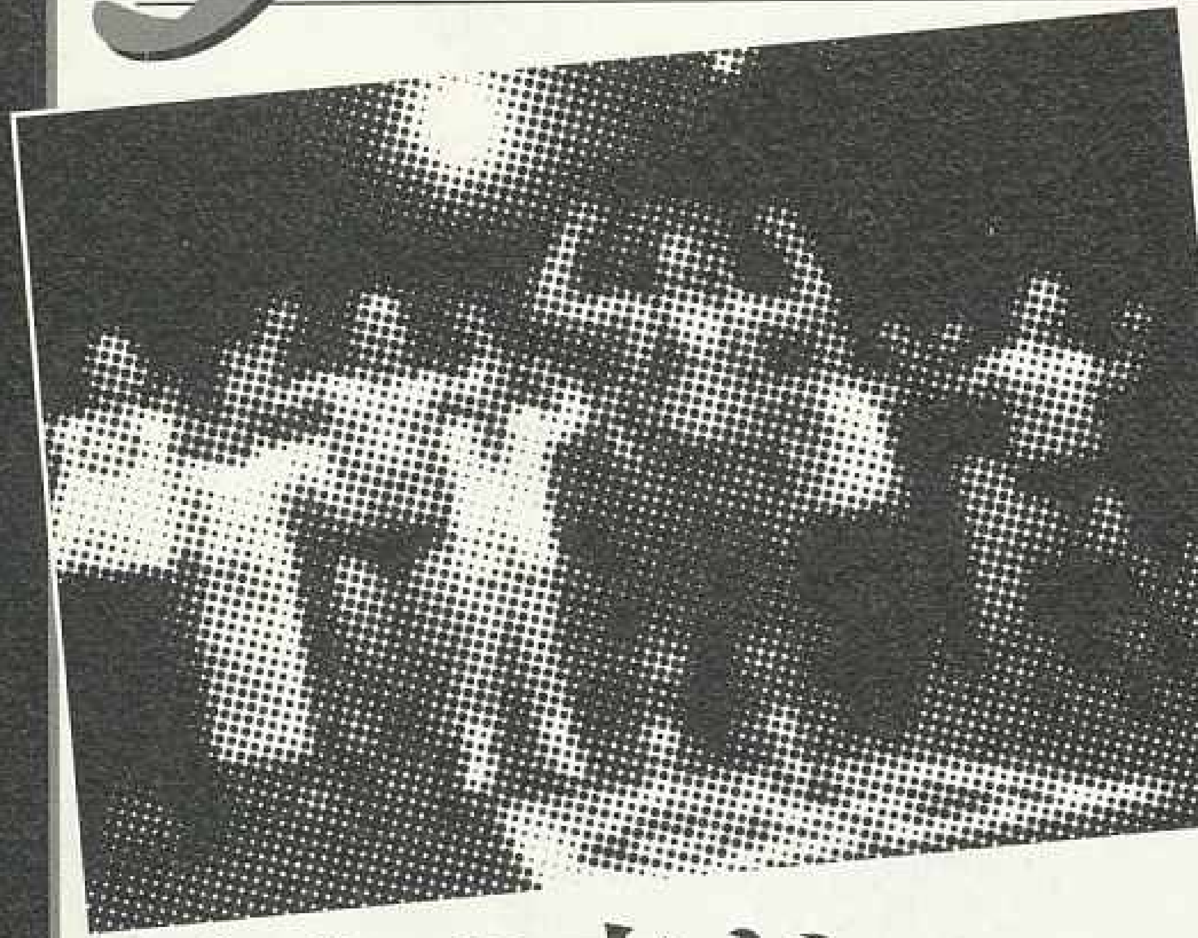
やっぱり異論アリ!!

知ってはいても、プロレスかどうかは別問題！ということで、「YES」と答えたのは、ストーカー市川が出場しているドラゴンゲート、そして利害関係のないFEG。「YES&NO」の両方と微妙な返答だったのが全日本プロレスとIGF。そして「見たことがないから、わかりません」としたのが、新日本プロレスとハッスル。キッパリと「NO」と言いきったファーストオンステージ（ZERO1・MAX）など、それぞれ各団体の微妙な"揺れ"が感じられる結果となった。



3『マッスル』と聞いてイメージすることは？

みんなで考えよう!!



藤岡メガネと趙雲子龍（全日本プロレス）

ハッスル、後楽園ホール、坂井、アフロヘアー（新日本プロレス）

ダッチワイフとの格闘
（DDTと間違ってたらすいません）（FEG）

COMEDY
（ファースト オン ステージ/ZERO1・MAX）

申し訳ございませんが、
名前のみで試合を拝見したことが
ございませんので、
よくわかりません（IGF）

回答なし（ハッスル）

ファンの方が、
とても楽しんで
観ているイメージがある
（ドラゴンゲート）

4 あなたの団体に『マッスル』からオファーが来たら、どうしますか？

ズバリ、出せんのか!?



オファー内容によります（ハッスル）

すでに"ハリウッド"ストーカー
市川選手が出場いたしました（ドラゴンゲート）

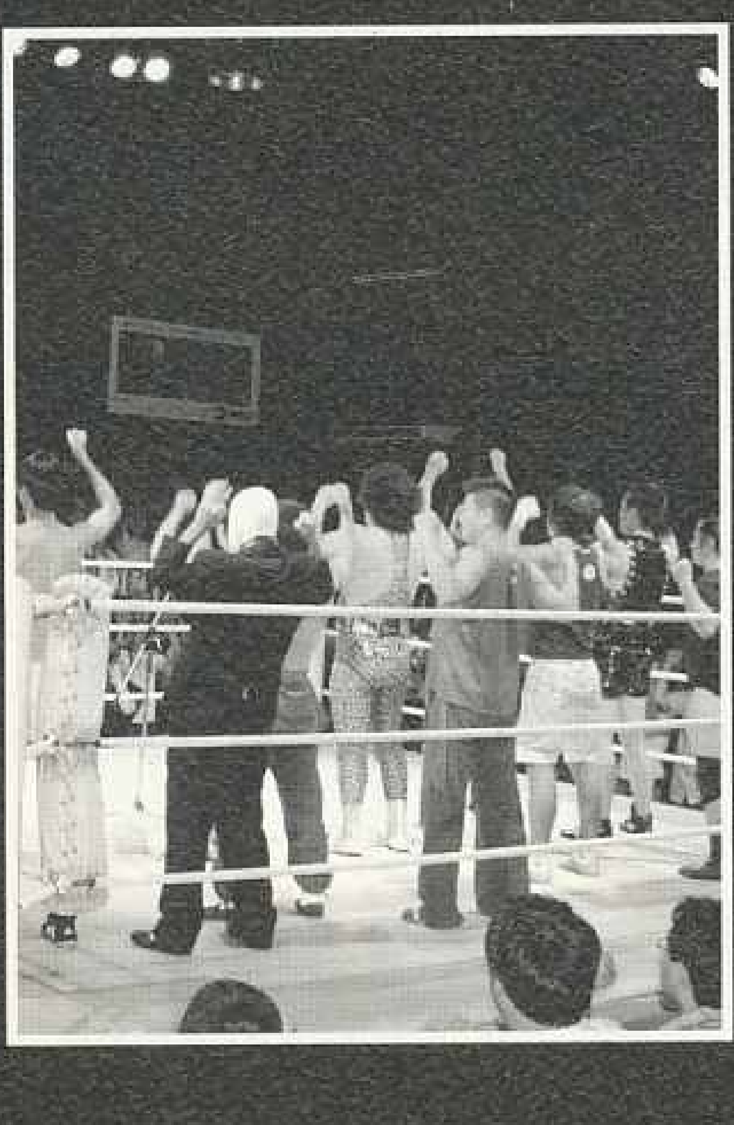
オファーが来てから、
考えさせていただきます
（新日本プロレス）

Yes（ファースト オン ステージ/ZERO1・MAX）

所属選手がいませんので、
オファーは来ないと思います
（IGF）

どうしましょう？（FEG）

すでに内田雅之取締役を始め
（07年『マッスルハウス4』に出演）、
全日本を主戦場にしている選手が
多数出場しています。武藤社長は
ギャラ○○○万と、以前に
坂井選手との対談時に申していました
（全日本プロレス）



呪いが解けない プロレス界にとって、『マッスル』とは？

『マッスル意識調査』を終えて

今回、意識調査を各団体にお願いして思ったのは、『マッスル』は好かれている……かどうかはわからないが、じつはもの凄く嫌われてもいない、ということだった。

プロレスの構造をぶっちゃけて、ストーリーを構築する『マッスル』は確かにタブー的要素を扱ってはいるが、それをネタに昇華する際の"ヒネリ"が抜群に効いてるからこそ、一見して危険分子に見えないのだろうし、興行の規模的にもマッスル坂井の言葉を借りれば「おそるおそるやってる」からこそ排除されないのだろう。

これはあくまで妄想だが、『マッスル』を「見たことがないから、わからない」と返答いただいた『ハッスル』、そして『レッスル・ランド』（現在休止中）を手がけた新日本プロレスらのエンタメ路線の経験団体は、むしろ『マッスル』の"ヒネリ"の部分に得体の知れない何かを感じているのかもしれない。

ミスター高橋本の呪いを解くためには、能天気な『マッスル』と関わってみるべきなのか？　業界での『マッスル』の立ち位置の変化とともに、今後の動向を見守りたい。



マッスル全大会“カミングアウト”レビュー

『マッスル』も気がつけば20大会突破! 中には10分程度で大会が終わってしまったり、ちょくちょく追加公演などもあるため正確な興行数はわかりづらい『マッスル』だが、大会内容まで詳しく説明するにはスペースがいくらあっても足りないので、駆け足で全大会を紹介しま〜す!

ウルティモならぬツルティモ・ドラゴン校長が登場!

『マッスル1』

04年10月13日　東京・北沢タウンホール
観衆=197人（超満員札止め）



DDT社長・高木三四郎にマッスル坂井と改名させられ、ほぼ同時期に『マッスル』という大会を始めることになった坂井。副題に“ファイティングオーディション”とつけられた第一回大会では、見るからにうさん臭い超どインディー戦士が勢揃い。最後には日本最古のプロレス学校のツルティモ・ドラゴン校長が登場。マッスルポーズもこの日、初公開!

どマッスル度▶▶

アントーニオ本多が初登場! リング上で死人も!

『マッスル2』

04年1月4日　東京・新木場1st RING
観衆=249人(超満員)



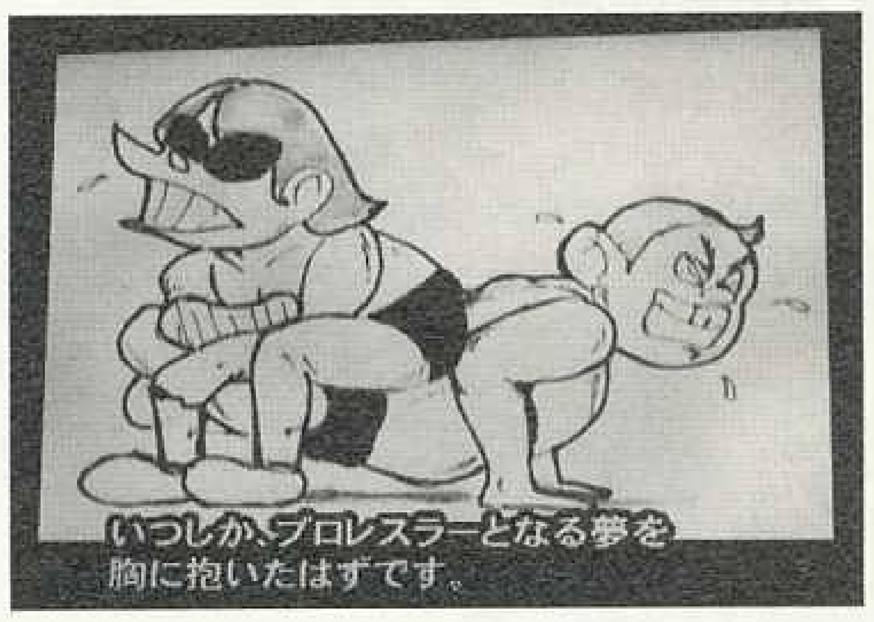
プロレスラーを目指し、ツルティモジム入学を決意した坂井だったが、プロレス界特有の上下関係に悩まされ、最終的には先輩レスラーとの対抗戦に突入。のちの定番となるリング上で人が死んでしまうというネタはこの大会で初公開。現在の『マッスル』主要メンバーのアントン初登場もこの大会。次回大会の伏線としてTAKAみちのくも姿を見せた。

どマッスル度▶▶

『マッスル』の代名詞、スローモーション初公開!

『マッスル3』

05年3月20日　千葉・Blue Field
観衆=333人（超満員札止め）



第二回大会からの流れでK-DOJO勢とのあいだに因縁が勃発したマッスル軍はK-DOJOに道場破りを敢行。対抗戦のメインで激突した坂井とDJニラの一戦がノーコンテストに終わると、地底王国の王子として登場した藤岡メガネが二人のただならぬ関係を告げる。過去を思い出した二人は、のちに『マッスル』の代名詞ともなるスローモーションで激闘!

どマッスル度▶▶

“総合演出家”鶴見亜門が初登場!

『マッスル4』

05年5月5日　東京・北沢タウンホール
観衆=297人（超満員札止め）



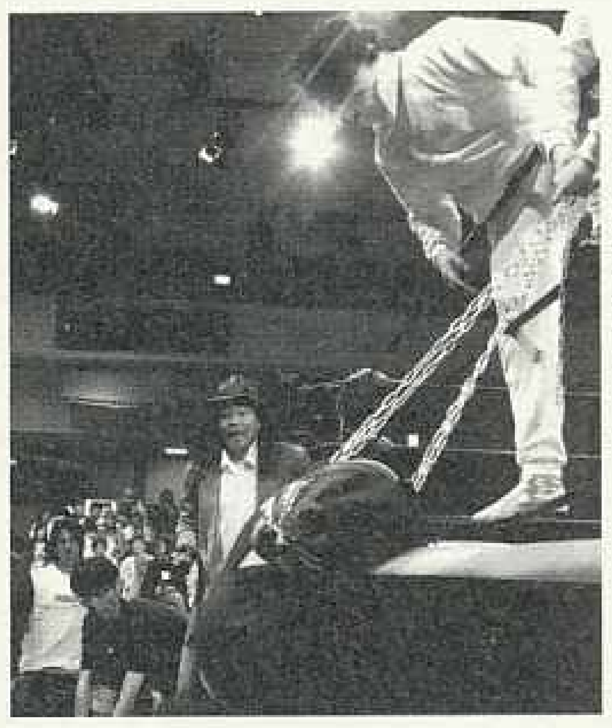
じつは高木三四郎のアイデアというK-1グランプリならぬK-I(アイ)グランプリを開催した『マッスル4』。この大会から、のちに名物キャラとして『マッスル』を支える鶴見亜門が“総合演出家”として初登場。プロレスの大会に大っぴらに演出家が名を連ねたのは、おそらく日本初。トーナメント決勝戦を行なわず、結果のみを映像で振り返るというエンディングも大きな話題を呼んだ。

どマッスル度▶▶

鶴見佐助にターザン鶴見も登場ですよぉお!

『マッスルハウス』

05年10月2日　東京・後楽園ホール
観衆=1411人（超満員）



『マッスル』初の後楽園大会には以前から坂井の才能を高く評価していたサスケが鶴見家入りし、鶴見佐助として登場。さらには第三の専門誌『週刊リング』編集長のターザン鶴見も登場しプロレスマスコミを挑発する名言を連発し場内を沸かせる。しかし、巻頭で特集するためメインのカードを繰り上げ1試合目に行なうも、出場したサスケはなぜか射殺されてしまう。

どマッスル度▶▶

リングと控室が逆転!? 新北京プロレス参戦!

『マッスル9』

06年1月17日　東京・北沢タウンホール
観衆=294人（超満員札止め）



冒頭ではネットワークビジネスをネタにした「Amon way」を取り上げ、社会ネタにもチャレンジ。続けてリング上と控室を逆転して使用するという画期的な試みも導入。さらに、ツルティモジムを卒業した趙雲が現場監督を務める新北京プロレスとの対抗戦も実現（新北京はのちに単独興行も開催）。最後は長渕の「Close your eyes」の大合唱!!

どマッスル度▶▶

ボウリング、カラオケ、しゃぶしゃぶ屋で決闘!?

『マッスル10』

06年3月5日　東京・新宿FACE
観衆=600人（超満員札止め）



同日昼のDDT興行に出場したゴージャス松野がケガをしてしまったため、参戦予定だった『マッスル』を欠場。出演部分に穴が開いてしまうという緊急事態に。大会では、これまでの総集編として行なわれ、『マッスル1』から過去の映像を交えつつ、会場となった新宿FACEが入ったビルにあるボウリング場、カラオケ、しゃぶしゃぶ屋で激闘を繰り広げた。

どマッスル度▶▶

会場ぐるみでマンモス半田にどっきり企画!

『マッスルハウス2』

04年8月14日　東京・後楽園ホール
観衆=1092人（超満員札止め）



ひさびさに登場のサイモン鶴見が余った番組時間に流すため「マッスルランド」と「ファックアップ」を立ち上げ、プレ旗揚げ戦を収録。リング上ではバラエティ番組の手法を取り入れ“名古屋の怪童”マンモス半田に観客ぐるみで、どっきりを仕掛けるという斬新なネタを導入。後半には大鷲透が参戦し、仮装大賞の得点板を設置し、点数で勝敗を競った。

どマッスル度▶▶

ツルティモ校長の娘婿サイモン鶴見が新社長に!

『マッスル5』

05年8月14日　東京・北沢タウンホール
観衆=294人（超満員札止め）



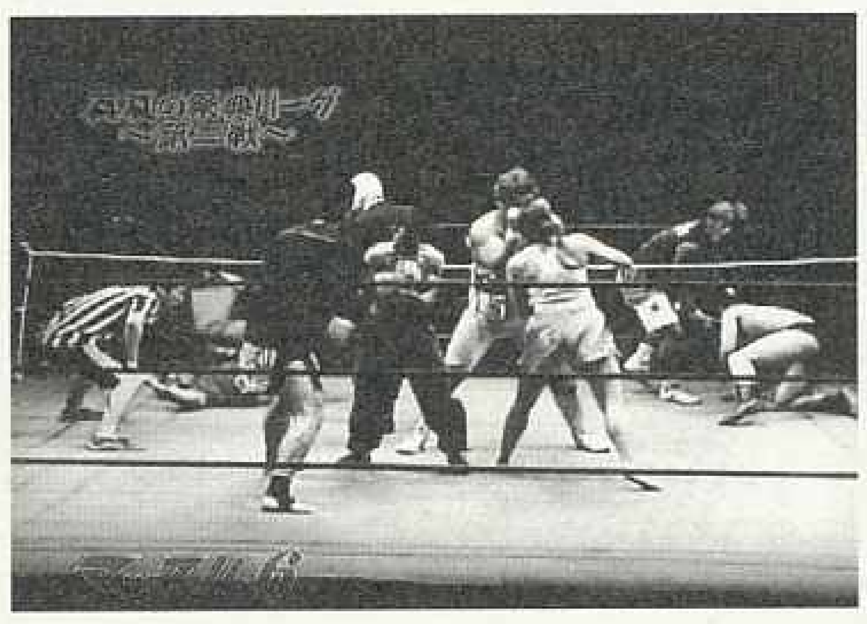
当時の某老舗団体社長をネタにしたサイモン鶴見という新キャラが登場。ツルティモ校長の娘婿サイモンは新社長に就任したことを明かすと「プロレスの本質は真剣勝負の格闘技」と言いきり、プロレスの興行に存在する無駄な時間を排除するため、リング上とバックステージにて4試合同時に試合をさせるという暴挙に。大会は10分ちょっとで終了。

どマッスル度▶▶

ロープでリングを4分割し、なんと同時に4試合!

『マッスル6』

04年8月14日　東京・北沢タウンホール
観衆=294人（超満員札止め）



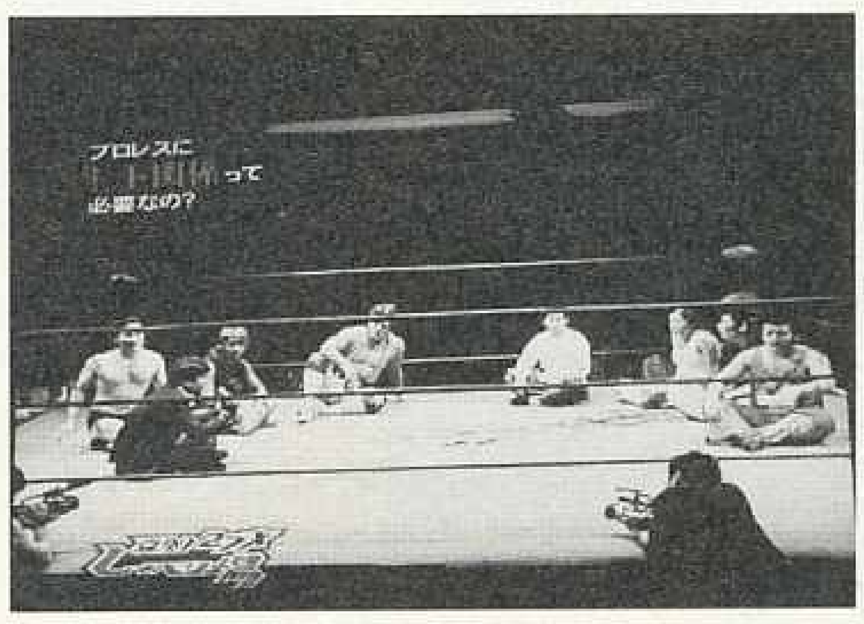
おそらく世界最短のプロレス興行『マッスル5』から数分後にスタートした『マッスル6』。再度リングインしたサイモンは、さらなる効率化を図り、ロープでリングを4分割し、4試合同時に行なうと宣言。リング上は8人のファイターが組んずほぐれつの大乱戦を展開、4人目の勝者が決まった瞬間、エンドロールが流され、またしても約10分で興行は終了。

どマッスル度▶▶

試合形式は、なんと「真剣27歳しゃべり場」!?

『マッスル7』

04年8月14日　東京・北沢タウンホール
観衆=294人（超満員札止め）



4人が同率首位で並ぶ星取り表を見たサイモンは「次はさらに効率を図り、かつ8人全員が個性を出せる試合形式」と自信満々。その試合形式とは某国営放送で人気を博した『しゃべり場』のパロディ『真剣27歳しゃべり場』。「プロレスに上下関係は必要なのか?」とのテーマでリング上では若干激しいトークバトルが繰り広げられるも、最後は収拾つかず……。

どマッスル度▶▶

死人続出! 犯人は全中王者・藤岡メガネ!

『マッスル8』

05年8月14日　東京・北沢タウンホール
観衆=294人（超満員札止め）



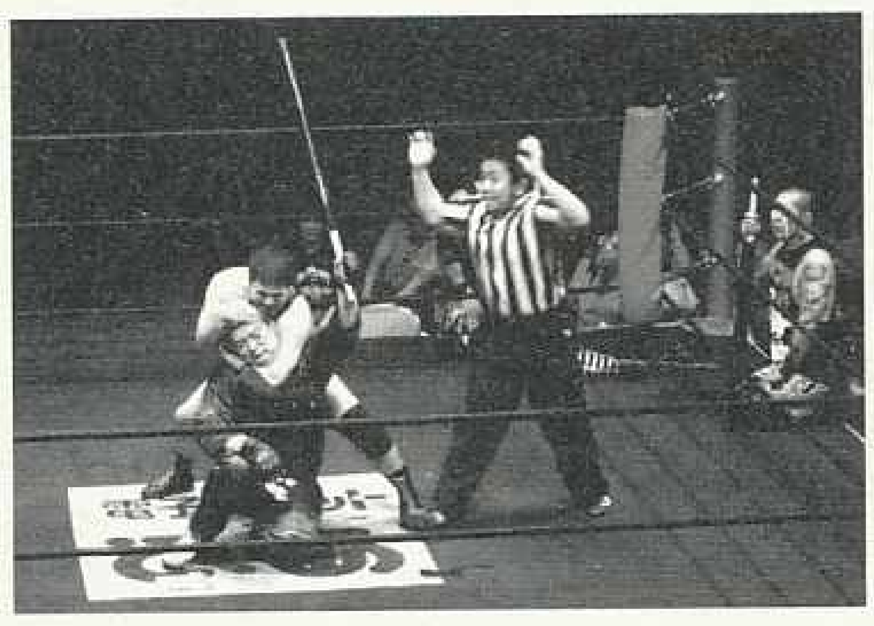
ツルティモ校長の怒りを買ったサイモンはアメリカに帰国。入れ替わるように登場した亜門の指揮で試合が再開されたが、選手が次々と謎の死を遂げていく。その犯人であり、1989年の全国中学校プロレス選手権を制覇した藤岡メガネが坂井に勝利し大会は終了。エンディングで坂井から初の後楽園大会開催が発表されると場内はどよめきに包まれた。

どマッスル度▶▶

ツルティモならぬウルティモ校長が初登場!

『マッスル15～中日～』

07年9月6日　東京・北沢タウンホール
観衆=300人(超満員札止め)



前日にテレビ埼玉でのレギュラー番組の放映を発表した『マッスル』。高視聴率を狙い、通常のカメラ以外に胃カメラや心霊カメラなどを駆使して試合をするも、やることなすこと裏目に。その後「プロ剣道」を旗揚げした坂井だったが前夜に続き会場に時限爆弾が仕掛けられるという無茶な展開に。最後はツルティモならぬ、本家ウルティモ校長が初登場!

どマッスル度▶▶

アイデア枯渇の『マッスル』とエヴァがシンクロ!

『マッスル15～最終日～』

07年9月7日　東京・北沢タウンホール
観衆=300人(超満員札止め)



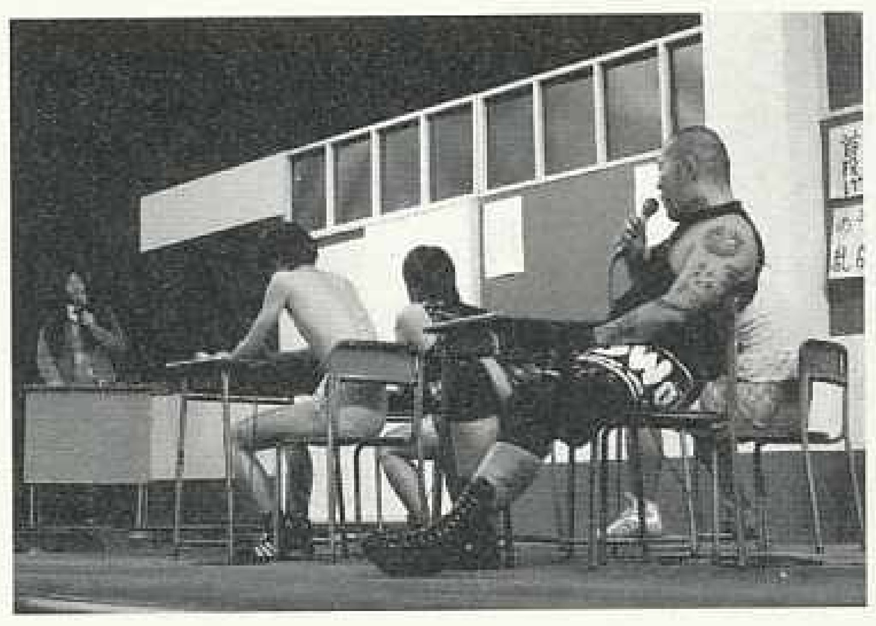
北沢3連戦もようやく、この日が最終日。3日間とも別内容で行なうと宣言したはいいが、さすがに無理があったか坂井のアイデアは枯渇。そこからはエヴァ好きにはたまらない、エヴァンゲリオンの第弐拾五話を模倣した展開に。結局、坂井のスランプの原因はプロレスにあることが判明。飯伏と演出抜きの肉弾戦を展開した坂井は、試合後はいつも以上に号泣!

どマッスル度▶▶

大会途中で726の愛妻の死が明らかに!

『マッスルハウス5』

08年1月3日　東京・後楽園ホール
観衆=1938人(超満員札止め)



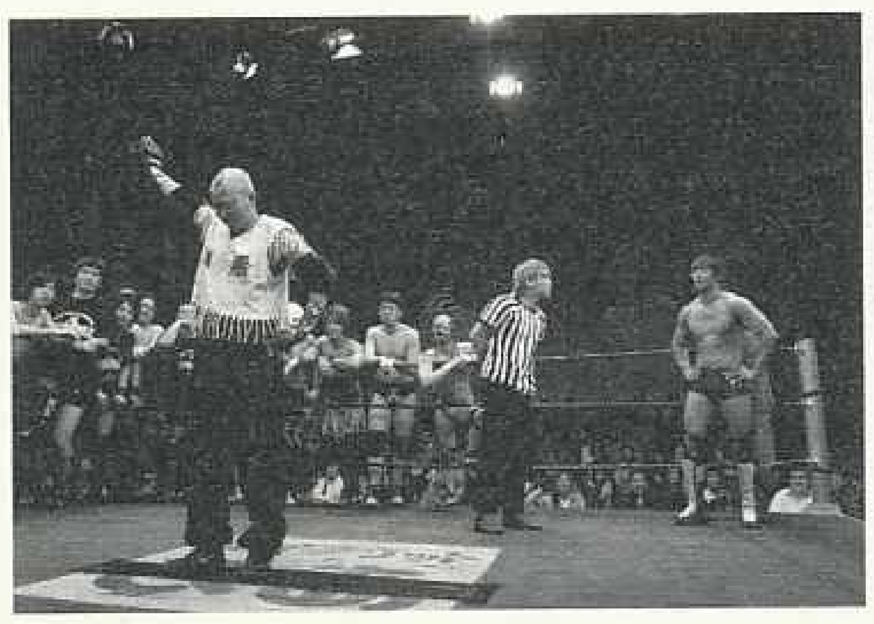
08年一発目の興行の前半は『マッスル』では初となるWリングの使用や、教室のセットを用いるなどハチャメチャな展開に。しかし、クライマックスでは『マッスル』戦士726の奥さんが亡くなっていたという衝撃の事実が明かされる。みのるや高山といった大物レスラー相手に、涙をこらえながら必死に食らいついていく726の姿に誰もが胸を打たれた。

どマッスル度▶▶

プロレス界最高記録? 一大会で47試合敢行!

『マッスルハウス6』

08年5月6日　東京・後楽園ホール
観衆=1850人(超満員札止め)



亜門の「プロレスの試合は長すぎる」というアピールから全試合1分で行なわれることになり、インディーから女子プロ、学プロまで次々と選手がリングイン。全47試合という前代未聞の興行のラストを飾ったのは蝶野。「自分は女子プロレスラー、ガチ☆ガールやもん!」と、台本が覚えられずタイトルマッチで新王者に輝いたのが極悪同盟のサソリだった。

どマッスル度▶▶

初の追加公演で亜門とAKIRAが連戦!

『マッスル11～14』

06年9月29日東京・北沢タウンホール
観衆=294人(超満員札止め)

『マッスル11～14～追加公演～』

東京・新木場1st RING
観衆=400人(超満員札止め)



これまでWCWの影響が強かった亜門がWWEの『レッスルマニア』を観て感化されIMGP王座を創設。しかし、タイトルマッチまでの抗争は時間がかかりすぎるとの理由で1年の流れを5分間で再現する煽りVをその場で作成することに。最後には道場破りとしてAKIRAが登場、結婚式を控えた亜門と一騎討ちを行なった。ほぼ同じ内容で翌日には初の追加公演も敢行!

どマッスル度▶▶

後楽園といえば……『笑点』ならぬ『頂点』!

『マッスルハウス3』

07年1月3日　東京・後楽園ホール
観衆=1800人(超満員札止め)



『QJ』や『SPA!』などで『マッスル』が大きく取り上げられてから一発目の大会。大会前の映像ではマスコミ批判的なことを語った某誌でのインタビューに対し、坂井自ら謝罪するという一幕も。その後は『笑点』の聖地としても知られる後楽園で『頂点』なる大喜利番組を敢行。最後はバラバラにされた李日韓のパーツを賭け大日本との全面対抗戦に!

どマッスル度▶▶

初の東京→名古屋での追加公演を開催!

『マッスルハウス4』

07年5月4日
東京・後楽園ホール 観衆=1800人(超満員札止め)

『マッスルハウス4～追加公演～』

愛知・Zepp Nagoya
観衆=596人(超満員)



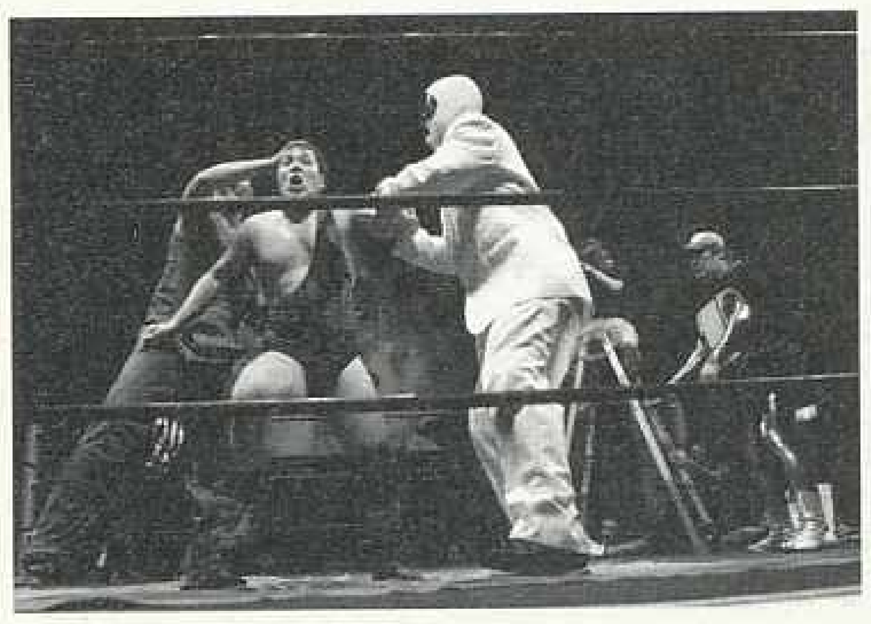
大会の完成度では、これまでの『マッスル』の中でも1～2を争う出来と評価が高い『マッスルハウス4』。プロレスにおけるヤラセやねつ造の排除を宣言した亜門は、スポーツ性の高いフィギュアスケートルールでプロレスの試合を行なうことを指示。最後に登場した鈴木みのるが坂井をぶちのめし、キス・アンド・クライに上がった瞬間は鳥肌もの!

どマッスル度▶▶

マ、マジかよ!? プロレス会場に時限爆弾が!

『マッスル15～初日～』

07年9月5日　東京・北沢タウンホール
観衆=300人(超満員札止め)



『マッスル』初の3連戦初日。大会中盤で坂井がMr.VHSなるロボットと一体化し、リモコンを駆使しアントンを焼死させたり、超雲を溺死させたり問題行動を連発。その後、会場に時限爆弾が仕掛けられるなど『マッスル』未経験者には何がなんだかの世界が続くも、最後は地上波レギュラー番組放映が決定したというハッピーエンドなネタでエンディング。

どマッスル度▶▶



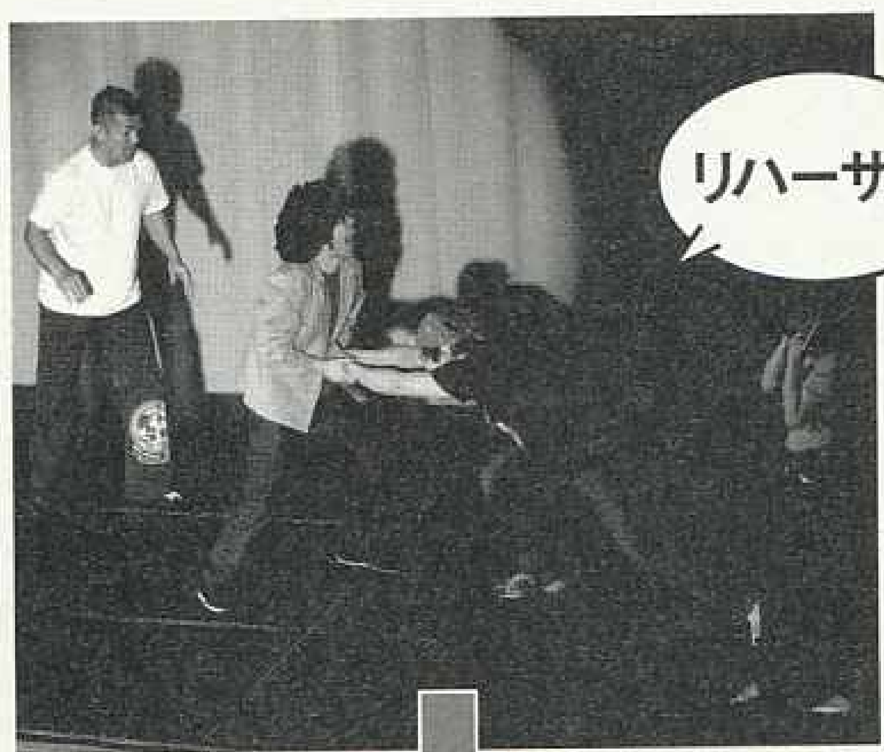
前代未聞! プレイバック!! プロレスのリハーサルを大公開!!

左の写真に注目! 見覚えのある方もいるかもしれないが、こちらは06年5月4日に後楽園ホールで開催された『マッスルハウス2』のリハーサル風景である。「プロレスにリハーサルなんてあるか」と目くじらを立てているアナタ! 『マッスル』にはリハーサルも台本らしきものもあるんです!



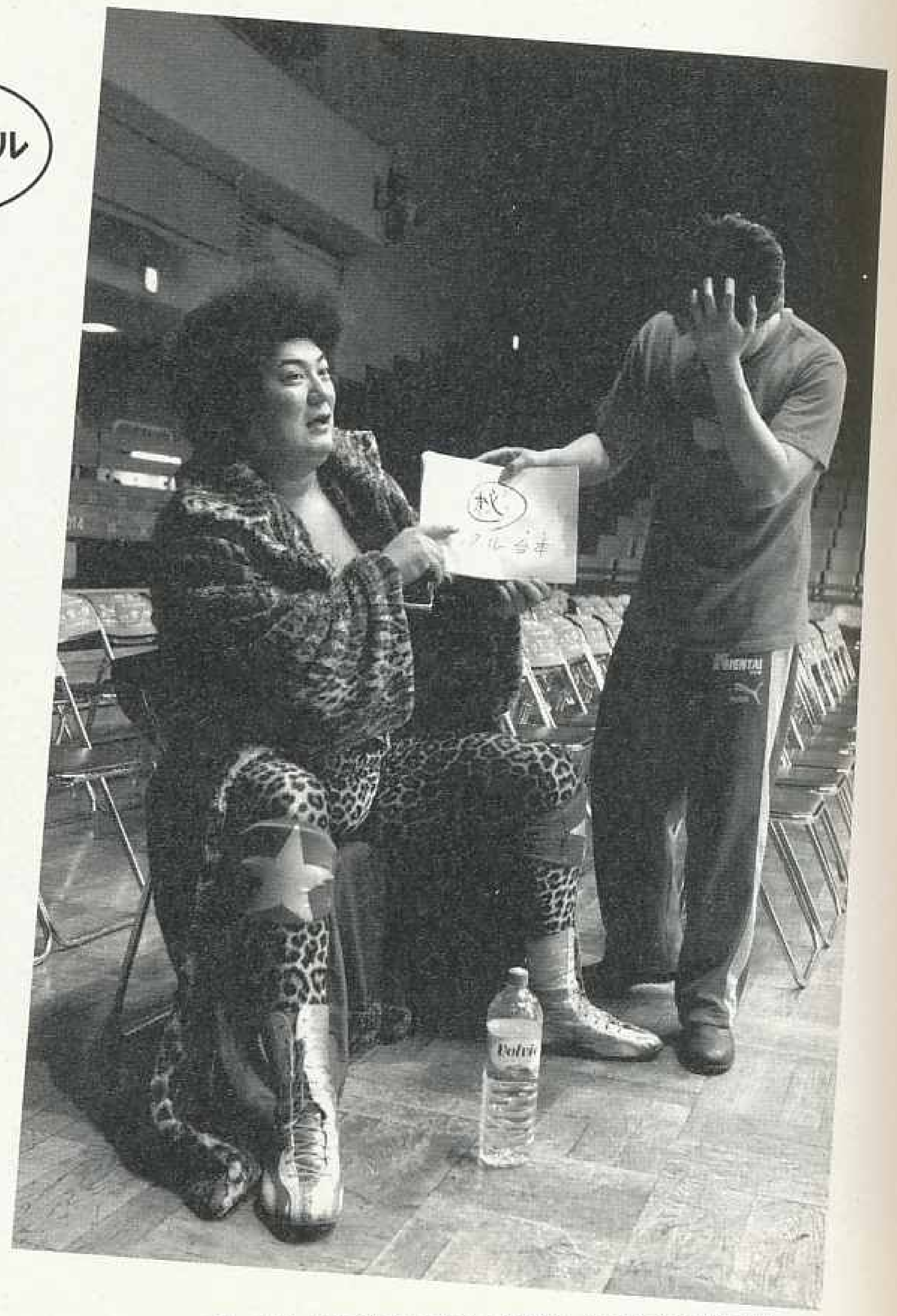


こちらは、この日のメインのフィニッシュシーンとなった藤岡メガネのバルコニーダイブ(ロッククライミング用の安全ベルトつき)の稽古風景だ。本番では安全ベルトを外すのかと思われたが、メガネはそのままの姿でダイブ(宙づり?)。場内はそれでも大歓声に包まれた。





日本はおろか世界中を見渡しても、大会中に一番死者が出ているプロレス団体は『マッスル』で間違いない(基本的に大会中に生き返りますが)。この日の大会のクライマックスともいえるナイフを使っての殺人シーンも何度も入念にリハーサルを行なっていました。



リングサイドで何やら熱心に読み込んでいるマッスル坂井とDJニラ。そ~っと近づいてみると、二人が手にしていたのは、な、なんと「(秘)」マークつきの「マッスル」の台本らしきものだった! ……って、もう驚きませんよね?

『kamipro』ではこれまで何度か『マッスル』の特集を行なってきたが、中でも従来のプロレス界では到底考えられなかった企画が99号で掲載した06・5・4『マッスルハウス2』のリハーサル風景を盗み撮りしたものだ。

そのときはもちろん、現在の日本マット界においても、プロレスの大会のリハーサル風景が表沙汰になったのはおそらくこのとき限り。いわゆる試合がメインの純プロレス興行と『マッスル』では、その内容自体に大きな違いがあるので、一概に比較することはできないが、この企画が日本マット界では前例がないことだということは理解してもらえるだろう。

しかも、この日はリハーサルを目撃しただけにはとどまらず、なんと台本らしきものも目に飛び込んできたから二度ビックリ。一応、プロレス&格闘技の専門誌でもある『kamipro』に、これまで業界的にタブーとされてきた台本らしきものが掲載された号が発売されたときは、かなりドキドキした記憶がある。

『マッスル』を主宰する坂井さんは、こちらが勝手に盗み撮りをしていたにもかかわらず、リハーサルや台本問題に関してもあっけらかんと答えてくれたのだが、当時の坂井さんいわく「一流のプロレスラーならリハーサルは必要ないと思いますけど、ボクらみたいなレスラーは、まだまだ仕掛けや演出とかに頼らないとできない部分が多いので、何度も何度も入念にリハーサルをやるんです」とのこと。

台本については「大会の何日か前に台本を売るとか、前売りチケットを買うとついてくるっていうのもアリかもしれない。実際の大会では、その台本をまったく違う内容をやるっていうのもおもしろいかも」とも語っていた。

あれから、すでに2年が経過しているが、いまのところ『マッスル』のグッズとして台本が販売されたという事実はない。しかし、これまで高橋本の呪いにとらわれることなく、絶妙なバランス感覚でプロレス界を渡り歩き、新たな実験を続けてきた『マッスル』なら、本気で台本を販売するなんて日も来るのかもしれない。

もう『東スポ』がプロレスを作る時代は終わったんだ！

【05年1月30日、DDT後楽園大会】

かつて長州力が「プロレスマスコミは『東スポ』だけあればいい」と言っていた時期もあるなど、プロレス界では『東スポ』主導のアングルも多々見受けられたが、ここ最近の『東スポ』ではプロレスネタが一面を飾ることも少なくなっているのが事実。当時、それほど『東スポ』で取り上げられることのなかった坂井の心の叫びだったのかもしれないが、この発言があった当日の大会では猿のやっちゃんがプロレスデビューを飾り、大会前から『東スポ』で大々的に報じられていたりするから皮肉なものである。

オマエらはこのままお客さんに嘘をつき続けていいと思ってるのか？正確じゃない3カウント、水増しされた身長・体重、5秒以内だったら許される反則。5秒以内だったら許されるってなんだよ、それ!?

【07年5月4日、『マッスルハウス4』後楽園大会】

マッスル坂井による脚本を流暢なセリフ回しで披露し、いまや『マッスル』で1～2を争う人気を得ているのが鶴見亜門だ。この大会では、世間でねつ造ややらせ問題が話題となっているタイミングに合わせ、プロレス界における、ねつ造疑惑にツッコミを入れまくり、観客の喝采を浴びた。

僕はプロレスラーですけど、べつに自分の肩がマットに3秒ついただけでは、そんなに悔しくない。

【06年11月、『SPA!』インタビュー】

プロレスラーなら誰しもが一度は感じたことがあるはずだが、気まずさもあってか、堂々と誌面を通じてアピールしたのは坂井が初めてと思われる。

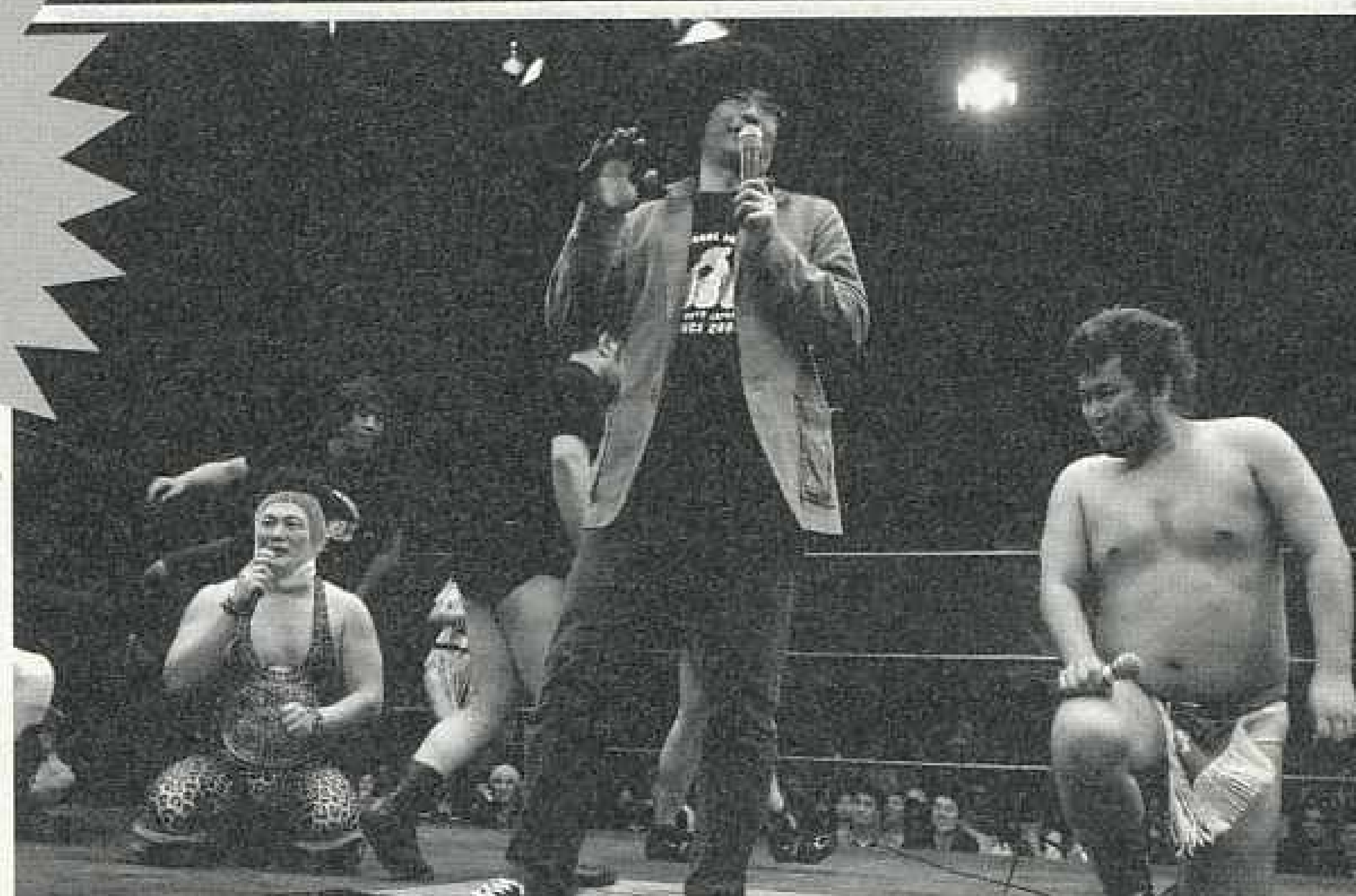
プロレスラーという人種は2行以上は覚えられないんで、台本“のようなもの”を書くときは遠慮するわけですよ。

【06年11月、『SPA!』インタビュー】

これまでの日本マット界において、台本“のようなもの”の存在を大っぴらに明かしたのは『マッスル』が初めて。2行以上のセリフを覚えられないプロレスラーの代わりに、『マッスル』では役者の鶴見亜門を用いて、ほかの団体では考えられないような原稿用紙10枚以上の長セリフも平気であったりするのだ。

『マッスル』だけはガチ語録

脚本と見せかけた本音が満載!



マイクの使用頻度は他の団体と比ベズバ抜けて多いのが『マッスル』である。アドリブは除き、そのセリフの大部分を手がけるのがマッスル坂井だ。ときには笑いを生み、ときには涙腺を刺激しまくる、本音満載の『マッスル』語録はいかがでしょう!?

マッスル坂井が解説する『マッスル』主要登場人物



男色ディーノ

『マッスル』では一番知名度があると思うんで、これから、より大きくなっていくために一番必要な人材だと思ってます。裏方としては、自分がイメージしたことをプロレスのリングでやりたいって言ったときに、それをかたちにしてくれる一番の相談相手ですね。

藤岡“メガネ”典一

西の藤岡、東の趙雲と言われるほどのビッグディックの持ち主なんですよ（笑）。実戦経験は乏しいんですけど、ポテンシャルは高いと思います。リング上ではレスラーの儚さみたいなものを体現できている男だと思うんですけど、制作側の人間としては0点ですね。

鶴見亜門

ここだけの話、亜門さんのアフロってカツラなんですよ。普段はカツラを外して新宿東口の『カフェ・ラミル』でバイトしてます(笑)。マジメなことを言うと、セリフとか覚えないでアドリブを言うのと、覚えた上で言うのは違うんだということを教わりましたね。

ペドロ高石

○ニー生命保険に勤務しているカポエイラ戦士です。先日、入院したときには国民健康保険の高額医療補助の話とか親身になって相談に乗ってくれて、ホントにライフプランナーなんだなってあらためて思わされました。ペドロさんがいるだけで安心感がありますね。

趙雲子龍

売れましたよねぇ……（しみじみと）。NEO、アイスリボン、スタイルE、ガッツワールド、最近は新北京プロレスの興行もやってますし、ボクの予想ではマスクマンとしても活躍してると思うので、『マッスル』のオファーを断られる日も近いんじゃないですかね（笑）。

アントーニオ本多

武蔵野美術大学のプロレス研究会出身の学生プロレスラーで、役者としても活動してますけど、渡辺哲さんの息子だけあって人を惹きつける華がある俳優ですね。でも、本人的にはいまはプロレスが一番で、凄い練習もしてるし、いろんな団体から引っぱりだこです。

団体のご機嫌うかがいの記事、レスラーの意味のないグラビアや、重要なところに触れてないマンガ……、おもしろくない試合をおもしろかったと書けるくらいなら、マッチメイクから何からマスコミがやりゃいいじゃないか!

【05年10月2日、『マッスルハウス』後楽園大会】

ターザン山本ならぬターザン鶴見なる第三のプロレス専門誌『週刊リング』編集長が、プロレス不況の原因はプロレスマスコミにもあるとして、誰もが感じている問題点をズバリ指摘。ちなみに、のちに出版されたGKがプロデューサーを務める『Gリング』と『週刊リング』は無関係。

「興行の良し悪しに短けぇとかなげぇとか関係ねえんじゃねぇのか? 俺は『kamipro』の文字がちっちゃいところとか好きだよ。いっぱい読みたい、いっぱい選手見たい、いっぱい試合見たい、そういう人だっているでしょ? 早く興行が終われば、その記事を書くのも短くてすむし、原稿書くのも楽だよ! でもそれはあくまでアンタらマスコミのエゴだろうが!」

【08年5月8日、『kamipro.com』のポッドキャストにて】

今年5月の後楽園大会の翌々日、『kamipro.com』で絶賛配信中のポッドキャストの司会を務める原タコヤキ君が番組内で『マッスル』の興行時間の長さについて苦言を呈していると、タイミングよく現われた坂井が乱入し、初対面のタコヤキ君に猛烈抗議。その勢いと、あいかわらずの巨体を前にビビってたじろがされたが、ズバリ言って、坂井さんのおっしゃるとおりです、はい。

プロレスは(左の腹をつかんで)これがシナリオで(右の腹をつかみ)これが演出だ!

【05年5月5日、『マッスル4』北沢大会】

プロレスにシナリオや演出が存在するという、きわどいことを言っているにもかかわらず、当時の坂井の腹回りはかなりのボリュームだったため、笑いで中和された感も。坂井いわく「きわどいセリフや演出をする場合でも、お客さんに笑ってもらえたらオッケーなんじゃないかと思う」とのこと。

プロレスでものごとが解決したことがあるのかよ?

【08年5月6日、『マッスルハウス6』後楽園大会】

『マッスル』の一番最近の興行となる5月の後楽園大会で鶴見亜門がリング上のプロレスラーに向けて放った身もフタもない発言。さまざまな団体で活躍するGENTAROもその勢いに押されてか、伏し目がちに「ありません」とポツリ。

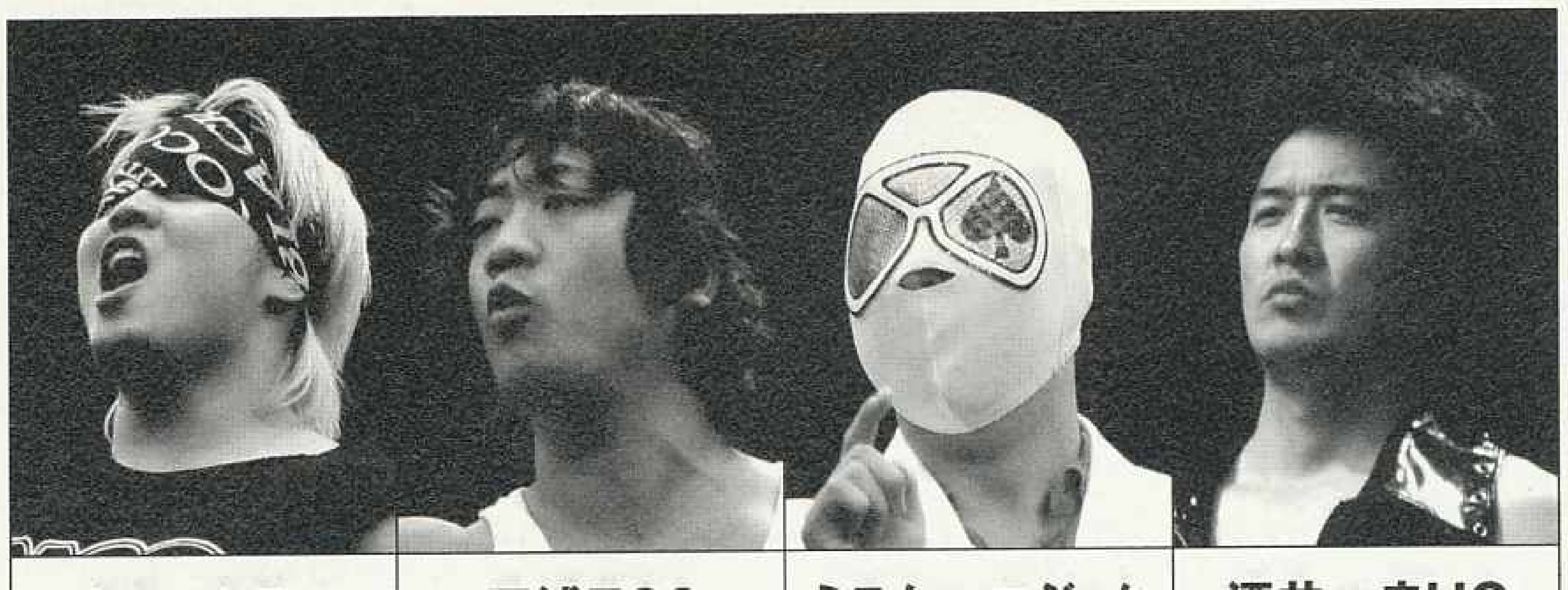
プロレスにはフィニッシュ近くになると場外でゴロゴロしてなきゃいけないという悪しき慣習が……。

【06年10月11日、DDT新木場大会】

ある程度キャリアを積んだプロレスファンにとっては「あるある」ネタではあるが、実際にリング上で闘っているプロレスラー自らの発言だと説得力も違う。しかし、その場面を観ているこちらもなんとなく気まずいのはなんでだろう?

その他『マッスル』登場人物一覧

サイモン鶴見、ランジェリー武藤、蝶野正洋、鈴木みのる、ウルティモ・ドラゴン、高山善廣、高木三四郎、ザ・グレート・サスケ、TAKAみちのく、ゴージャス松野、ツルティモ・ドラゴン、大家健、DJニラ、フランチェスコ・トーゴー、大鷲透、ジャンボ菊、飯伏幸太、のじりくん、AKIRA、NOSAWA論外、菊タロー、伊東竜二、李日韓、関本大介、アブドーラ小林、"黒天使"沼澤邪鬼、マンモス半田、ハチミツ二郎、タノムサク鳥羽、サソリ、子川直也、塩田英樹、アントニオ小猪木、MAZADA、GENTARO、松永智充、TAKEMURA、石川修司、諸橋晴也、虎龍鬼、フランケン吉野、広田さくら、金的桜ヶ丘、セック鈴木、ジャイアント馬諺、死神、森谷俊之、ヨシヒコ、石川はじめ、中川ともか、スペルマ・デルツィン、大塚愛撫、ガッツ石島、JOM太郎、テント・ハリゾー、UZ、ブルブルH、梁和平、BIMA、"ハリウッド"ストーカー市川、ダンプー松本、小仲ペールワン、佐野直、サシミ、isami、矢郷良明、小笠原まさや、見た目が邦彦、ポーク林、青木良子、オナルド・ファック、クズ・ハヤシ、ボボ・ガマンジル、軍団ひとり、稲松三郎、上越たく、タートルヘッドBJ、ガッティー、ドラゴン・タイガー、中川裕也、小山田望、ケン・片谷、梅沢菊次郎、ブラックマミー、The Zack、IRO関、オナン・オナスティ、RIKIYA、大鷲トオルティーヤ・シート、新島愛、A・K、スカルリーパーA-ji、澤宗紀、元祖マミー、ブラック牛マン、ミスター・マジック2号、始皇帝、イホ・デル・ドクトル・ティグレJr、ツルティモ・ドラゴン・キッド、ロングリバー・黄河……(順不同。まだまだいますが、あとは各自調査!)



ヤス・ウラノ
最近の『マッスル』で、かなり重要な存在ですね。ウラノさんは自分とディーノが見落としがちなことに気づいてくれるんですよ。ウラノさんはK-DOJO出身なので、ボクらDDT的な手法とはまた違ったK-DOJO的なエッセンスを注入してくれる心強い存在ですね。

三浦726
『マッスル』のポリスマンですね。もしボクが中東とかに遠征することがあったら間違いなく726を連れて行きます。726は頻繁に海外と日本を行き来して、密輸っぽいことをしてた時期もあるらしく(笑)、どこに行っても拳銃の一丁ぐらい用意できると思うんで。

ミスター・マジック
テレビ○日コンテンツ事業部所属にして、いまはなき上井ステーションでは下島車掌として活躍してた選手です。最近知ったのはマジックは旗揚げ当初の西口プロレスに足しげく通っていて、ずっと「入れてくれ」って言ってたみたいですけど、断られたんでしょうね(笑)。

酒井一圭HG
『マッスル』の方向性とか相談はけっこうしてますね。まだ、ゼロの状態で一圭さんと遊びに行ったりして、帰る頃には『マッスル』のイメージがボンヤリできあがってることが多いですね。あと、移動中の話が『マッスル』で一番おもしろいです。要は友だちですね(笑)。

マッスルの生みの親
DDT高木三四郎社長激白!

「日本武道館でいつでもできる」

え、マッスルが!?

おい、ホントかよ!?

「行こうぜ！ プロレスの向こう側!」をキャッチコピーに、着実に人気を拡大してきた『マッスル』。その生みの親こそDDTの社長であり、マッスル坂井の上司にあたる高木三四郎だ。プロレス界の突然変異である『マッスル』の誕生、そして認知を得るまでの試行錯誤の歴史、さらに話題の日本武道館進出まで、マッスル坂井を最もよく知る男が語り明かす!

聞き手／阿修羅チョロ　試合写真／平工幸雄

—今回は『マッスル』の生みの親でもある高木さんに、『マッスル』の誕生秘話から今後の展開まで、お話をうかがえればと思っています！

高木　よろしくお願いします。

—早速ですが『マッスル』はどういった経緯で誕生したんでしょうか？

高木　もともとDDTの所属選手数が増えてきた頃に、二軍というかファーム団体みたいのを作りたいと考えていたんですよ。自分は一歩退いて若い選手をプッシュしていきたい、おもしろい新人を発掘していきたいと。ちょうどその頃に学プロ出身の男色ディーノが注目され始めて手応えも感じてましたし。

—その頃の坂井さんはどういう立ち位置だったんでしょうか？

高木　当時、坂井はいろいろあってプロレスラーとして復帰するにあたって、僕が勝手に「マッスル坂井」ってリングネームをつけてマスコミにリリースを流したんですよ（笑）。

—なんでまた「マッスル坂井」だったんですか？

高木　坂井がボディビルダーのマッスル北村さん（故人）のDVDを観て、さかんにおもしろいって言ってたんですよ。それで「じゃあ、おまえ『マッスル坂井』って名前に変えろよ」って、なかば勢いというか強引に（笑）。あいつは「嫌ですよ！」って拒んだんですけど。

—上司の権限を発動して（笑）。

高木　それと同時に「うさん臭い人間を発掘するファームみたいなのを作れよ、大会名は『マッスル』でいいじゃん」って言ったのが『マッスル』の始まりですね。そうしたらあいつも「わかりました。覚悟を決めてやります」ってことで、いまに至ると。

—なるほど。当初の『マッスル』の「ファイティングオーディション」っていうコンセプトは高木さんの意向だった、と。もともとは『ハッスル』をモジったパロディみたいなものだったんですよね？

高木　『ハッスル』がなければ『マッスル』は生まれなかったですから。ぶっちゃけ、『マッスル』自体も長く続くとは思ってなかったですし。

—最初は現場介入してたと思うんですけど、『マッスル』が高木さんの手から離れたのはいつ頃ですか？

高木　『マッスル3』からですね。その日は昼にDDT、夜に『マッスル』っていう千葉ブルーフィールドでの昼夜興行で。それで手が回らなかったので坂井に「俺は客席で笑ってるから」って全部任せたんですよ。

—その大会で初めて選手の攻防がスローモーションになる手法が取り入れられたんですよね。

高木　そうです。あれは事前に聞いてなかったんで、観た瞬間に「うわっ！」て思いましたね……（しみじみと）。いまでこそスローモーションはあたりまえの光景ですけど、初めて観たときにはいろんな人の顔が頭に浮かびました。それこそ力道山先生からジャイアント馬場さん、アントニオ猪木さんとか（笑）。

—ダハハハハ！ 偉大なる先駆者たちの顔が浮かびましたか（笑）。

プロレスと演劇のコラボを売りにすれば広く世間に届くと思った

高木　これはひょっとしたら気まずいことになるんじゃないかって（笑）。ただ、観ておもしろかったし、お客さんも笑ってたんで問題ないかなと思って。そこからは坂井にすべて任せようと思いましたね。これはなんか化けそうだなって予感があって。それが確信に変わったのが鶴見亜門さんが初登場したときですね。

—『マッスル4』ですね。

高木　そのときに僕は「K－1みたいなトーナメントやってくれよ」ってことだけ坂井に伝えたんですよ。有象無象のどインディーとかの連中を集めて、ゴチャゴチャしたものが観れたらおもしろいなと思って。それがK－I（ケーアイ）トーナメントだったんですけど。で、そこに亜門さんが出てきて、そのデタラメ加減に僕はゲラゲラ笑って（笑）。

—これまで、プロレスの登場人物であそこまでしゃべれる人はいませんでしたからね（笑）。

高木　ですよね。その頃になると、『マッスル』は演劇とプロレスのコラボなんだなっていうのが、なんとなく自分の中にできてきて。それをウリにしていくほうがより広く世間に届くんじゃないかと思いましたね。

—案の定、ほどなくしてマット界以外でも注目され始めましたよね。

高木　坂井は少しチキンなところがあって、最初は「好きなことができればいいんで」って自信なさげだったん

ですね。だから「何言ってんだ！一般に浸透するから」って言い聞かせて（笑）。従来のプロレスとはまったく違う部分を押せば弾けるなっていうのはありましたね。

——高木さんは立場上、マット界関係者から批判の声とかもあったんじゃないですか？

高木 それは他団体の選手からマスコミまでちょくちょくありましたよ。みんな「あれはプロレスじゃない」って言うことは一緒で。僕は内心カチンときながらも、体面上は「プロレスじゃないんで」ってサラッとかわしてました。でも、業界外のインタビューでは「プロレスです」って答えてましたけど（笑）。そういう批判の声も、後楽園大会を成功させてからはすっかり収まりましたね。

——後楽園大会を成功させたら、文句も言えなくなったわけですね。時代的には『マッスル』誕生の少し前になりますが、ミスター高橋本ってDDTに何か影響はあったりしましたか？

高木 まったくなかったですね（アッサリ）。だいたい「カミングアウトってなんだよ」っていうところがありましたし、それでもプロレスを観に来る人はいるわけですし。

——DDT以外の団体では高橋本を無視するところも多かったですけど、『マッスル』では、いろんな手法を取り入れて、ある種、カミングアウト的なこともしてブレイクしたところもあると思うんですよ。

マッスルは"グレー"な部分じゃなく"ブラック"を狙いにいったからウケた

高木 それはありますよね。でも、結局は高橋本にしても真意はわからないですし。そういうプロレス特有の"グレー"な部分と関係ない部分で、『マッスル』は最初から"ブラック"を狙いにいったところがウケたんじゃないですかね。

——いまはほとんど、『マッスル』の中身的なことには関わっていないみたいですが、鈴木みのるさんなど大物レスラーの参戦の際には高木さんが交渉のサポートをされているんですよね？

高木 そうですね。やっぱり自分が「『マッスル』とは何か」というところから説明して、理解してもらう作業が必要ですし。

——大物となると坂井さんはキャリア的なことも含めて頼みづらいところもあるでしょうし、そのへんは高木さんがアシストする、と。

高木 鈴木さんに関しては自分が観たいということもありましたし。『マッスル』の一度目の後楽園のときに、坂井は内容的にピンとこなかったみたいで、「これはリング上でリアルな部分も見せて一皮むけるしかない」って思ったみたいなんですね。で、たまたま二人で『上井ステーション』を観に行ったときに、鈴木さんと高瀬大樹さんの試合を観て「鈴木さんは本当に凄いな」って二人して感動したんですよ。後日、次の『マッスル』の話をしていてネタが決まらないとき、僕が坂井に「これはもう上げちゃうしかないんじゃない？」って言ったんです。そしたらあいつが即座に「鈴木さんですか？」って返してきて（笑）。「そうだよ、なんでわかった？」ってこっちが聞くと、坂井は「もうパンクラスのビデオとか観てたんです」って（笑）。

——なるほど。隠れたエピソードですね（笑）。高木さん自身は『マッスル』に出場することに線引きとかはないんですか？　それこそ、ほかの団体の手前、出るのは気まずいとか。

高木 いや、本当は出たくなかったんですよ。当然、DDTとの線引きという面もありましたし。ただ、出場するからには坂井にゆだねて「なんでもやるよ」とは言ってるんですけどね。

——『マッスルハウス6』ではスローモーションを披露してましたね（笑）。基本的にはよほどのことがない限りは出たくないと？

高木 そうですね。『武道館は出させろ！』って言ってますけど（笑）。

——武道館進出はここ何年か『マッスル』の大会でも開催を匂わせたりしてますけど、そろそろ機は熟してきたんじゃないですか？

高木 じつはゴーサインは何回も出してるんですよ。資金面も問題ないですし。ただ、自分としては、大きいところでやるとそれが最終回になっちゃうんじゃないかって恐れも正直あるんですね。だから、そこを最終回にさせない"何か"があればいいんじゃないかとは思うんですけど。

——『マッスル』なら武道館に見合った意味のある内容を見せてくれるっていう期待感はあると思うんですが、そのあとがどうなるかっていう心配はあるでしょうね。

高木 だから、いまの『マッスル』の上がり方って、ある意味一番怖いですよね。

——なるほど。武道館のキャパ的な問題とかはとくにないわけですね。

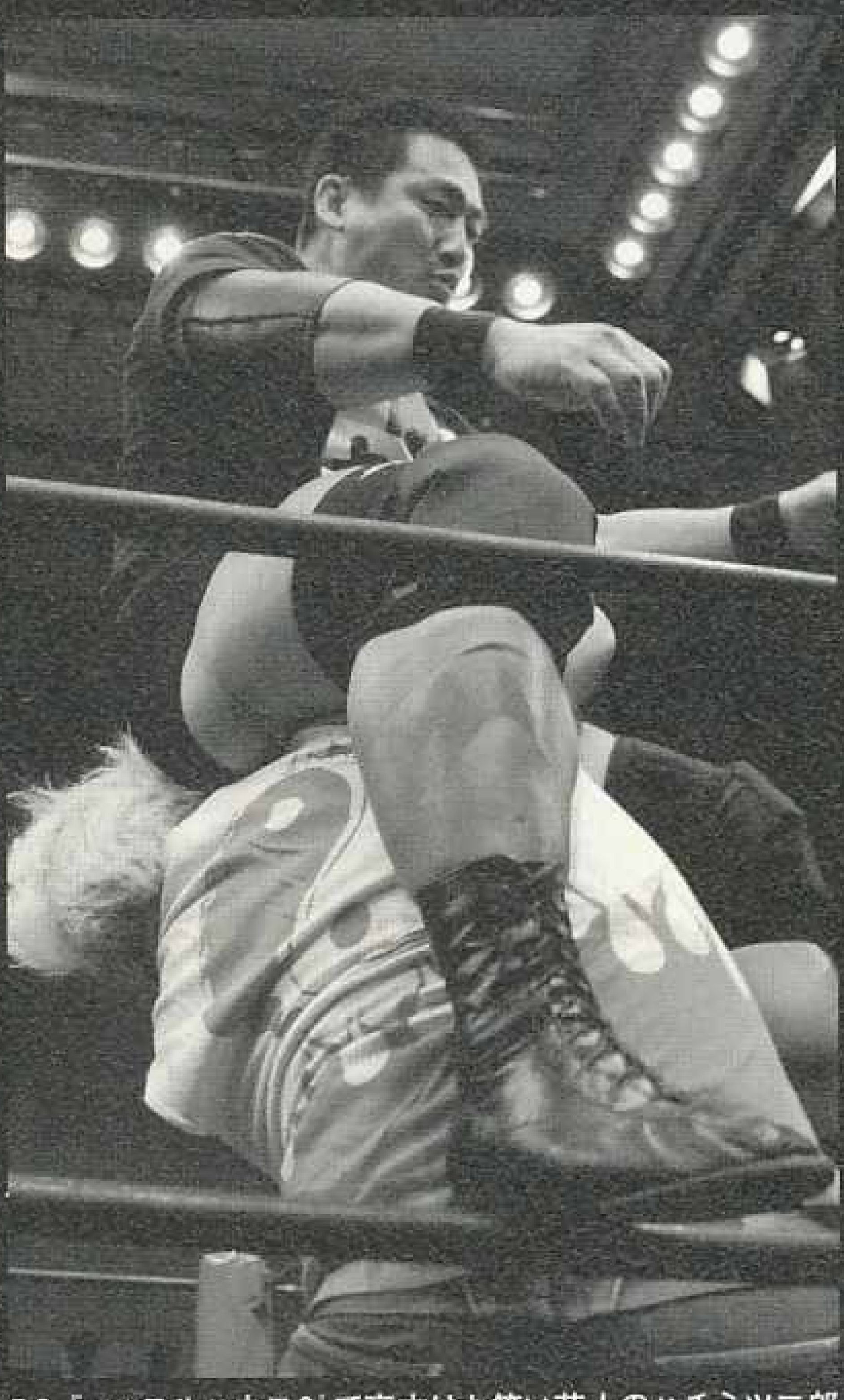
高木 満員とかそんな景気のいいことは言えないですけど、ペイラインには充分にもってけますね。X JAPANが東京ドームの復活コンサートで1億5000万かけてhideを再現とかやってましたけど、坂井がそういうわけわかんないことさえしなければ（笑）。坂井には何回も武道館の話を持ちかけてるんですけど、あいつはチキンなところがあるんで「もうちょっと地道に頑張りたいです」って言うんですよね。そういう意味ではあいつ次第じゃないですかね。まぁ、言うことがコロコロ変わるヤツなんで、急にやるって決めるかも知れないですし（笑）。

——気まぐれな坂井さんなら突発的に武道館に乗り込む可能性もあるわけですね（笑）。『マッスル』、そしてDDTの大会場進出を期待してます！

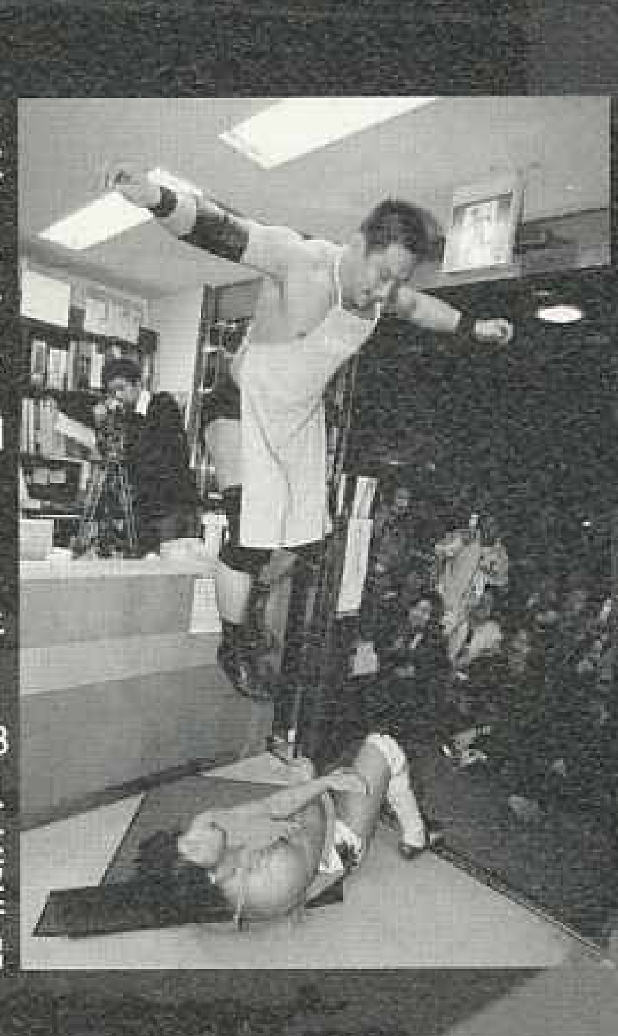
【08年5月22日／都内DDT事務所にて収録】



DDTを始めて10年あまり、やっと高級時計のロレックスも買えるようになってきた高木は、07年の5.4『マッスルハウス4』でマッスル初登場! マッスルでの定番ムーブの一つであるスローモーションで必殺のスタナーを炸裂!



5.6『マッスルハウス6』で高木はお笑い芸人のハチミツ二郎(西口プロレス所属)と対戦。しかしコーナー上でファイヤーポーズしてるところを雪崩式スクールボーイで丸め込まれわずか53秒でフォール負け! 社長はいい仕事するな〜。



たかぎ・さんしろう■1970年1月13日、大阪府出身。95年にIWA格闘志塾でデビュー。96年にPWC、フリーを経て97年にDDTプロレスリングの旗揚げに参加。06年1月29日に社長争奪ロイヤルランブルを制し、社長に就任。08年の3月16日に格闘を全面に押し出した新ブランド『ハードヒット』、4月23日には自著本のプロモーションの一貫から端を発した『本屋プロレス』の旗揚げと、奇抜なアイデアでDDTの舵取り役を務める。175センチ、95キロ。

マッスル狂たちが、プロレス界に起死回生(?)の提言!!
三沢、蝶野、武藤、すべてのレスラーは『マッスル』に集結セヨ!!



マッスル変態座談会

渾身の『マッスル』16ページ総力特集のラストを飾るのは、いずれも『マッスル』に一家言を持つ、熱烈かつ変態的なマッスルフリークたちを緊急招集! あらためて、いまこそ『マッスル』の魅力、その可能性を存分に語りまくったあげく、ついには苦闘を続けるプロレス界へ、『マッスル』を通して起死回生の提言まで炸裂!

司会／真下義之

——今日は、マッスル狂の皆さんに『マッスル』の魅力を存分に語っていただきたいと思います!

チョロ ……と言いながら、ハチミツ二郎さんは坂井さんとも仲がいいし、一番最近の『マッスル』にも出てますから。

二郎 そう、出演者です!(と胸を張って)。坂井くんに「そろそろチケット、お願いしようかな～」と思ってた頃に、オファーがきちゃって。

大坪 電話がかかってきましたか(笑)。

——凄いなぁ。坂井さん番のチョロさんは、そういう電話はかかってこないの?

チョロ こないねぇ。「戦極ポーズ、最低ですね」ってメールは来ましたけど(泣)。

二郎 まぁ、俺は「出オチでいい」くらいで出たんですけど。なぜか5人抜きさせられちゃってね。

——1分一本勝負の試合で、5人に勝ち抜いて、最後は高木三四郎さんまでフォールしてますから。その『マッスル』は皆さん、どこから視界に入ってました?

二郎 俺は後楽園ホール大会をやる前は、よくあるインディーだ、と思ってたんですよ、後楽園以降は確実に大きくなったと思いますけど。

大坪 僕は、一興行で4大会ぶんやった(『マッスル5～8』)団体があるという話を聞いて。「それは、おもしろそうだな」と。

チョロ あれは画期的でしたよね。僕も最初は「よくあるインディーの一つかな」って思ってたけど、だんだん周りの関係

座談会出席者



阿修羅チョロ

本誌編集者兼、煽りポーズ研究家(?)。戦極ポーズを考案した男として、各方面から賛否両論を浴びまくっている悩める36歳。『kamipro Hand』ではマッスル坂井のブログ日記を担当するなど、坂井番として活動。当然のごとく、編集部一の『マッスル』事情通として知られる。



大坪ケムタ

フリーライター。AVライターの第一人者として、自身が手がけた"統計ノンフィクション"『世界が100人のAV女優だったら』(扶桑社)も出版。幅広いジャンルで活躍中。サブカル血中濃度の高さと演劇的視点からハマったマッスルフリークとして、本誌にもたびたび登場。



ハチミツ二郎

お笑い芸人。01年に松田大輔と東京ダイナマイトを結成し、絶賛活躍中。『M-1グランプリ2004』ではファイナルに出場。筋金入りのプロレスファンであり、西口プロレスの所属レスラーでもある。マッスル坂井とも交流を持ち、5.6『マッスルハウス6』で演じる側として参戦!

マンモス半田の公開ドッキリは笑ったし、「ここまでやっていいのか」と驚いた（二郎）

者から「おもしろい」って耳に入ってくるようになって、『マッスル4』から取材に行ったんです。そこで鶴見亜門さんが初登場だったんですけど、いろんな意味で「いままでのプロレスとは違う」って思って、一発でハマりましたね。

――『マッスル』は試合結果だけ見ても意味がわからない場合が多いですからね。

大坪　試合結果に、「死亡」とか書いてあるから、サッパリわかんない（笑）。で、「大会を『スラムダンク』のパロディで終わらせたらしい」って話を聞いて「なんだ、それ！」と。プロレスにはインポ状態だったけど、演劇にハマッてたのもあって、そっち側の興味で行きましたね。

二郎　当時は、『週プロ』も大きく扱ってなかったし、どこも取り上げてなかった。ま、いまも『週プロ』は担当記者が特殊な立ち位置から見てるから、よく伝わってないと思いますけど（笑）。

――ええ。メインの鈴木健記者は解説担当で、ある意味、当事者ですから。

チョロ　なぜか2ちゃんでは、「チョロが解説をやれ」とか書かれたりしてますけど（笑）。ボクは歯がないんで滑舌が悪いし、鈴木さんと実況の村田晴郎アナの代わりは誰もできないと思うし『マッスル』に欠かせない存在になってますからね。

――チョロさんは『マッスル4』から、ほぼ毎回観てるんですか？

チョロ　そうですね。さっきも言いましたけど、最初に観た回から"総合演出家"という、日本プロレス界ではいなかったキャラを演劇畑の鶴見亜門が演じるようになって。間違いなく、あの大会が『マッスル』の転機だったと思うんです。単純にプロレスの登場人物で、あそこまでしゃべれる人っていなかったし。

二郎　プロレスって、WWEのビンス・マクマホン的な人がいればストーリーが組みやすいことは、どの団体もわかってるのに、レスラーとか関係者から出そうとすると絶対失敗するでしょ。じゃあ演劇から持ってこようって簡単な話なんだけどそこに気づいたのは凄いよ。

チョロ　それまで、しゃべりがうまいって評価されるリング上の登場人物って高田総統ぐらいでしたもんね。リングじゃなく、バルコニーが多いですけど（笑）。

大坪　新日本の草間（政一・元社長）さんとかフロントの人が出るっていうのはあったけど。正直、素人ですから（笑）。

――サイモン猪木さんとか（笑）。それから見始めて一番、ショックだったのは？

二郎　俺はマンモス半田なんですよ！

――あ、『マッスルハウス2』でやった、観客も仕掛人に巻き込んだ、「マンモス半田公開生ドッキリ」ですね。1時間使って、観客にドッキリをレクチャーして、天然のレスラーをダマしてリアクションを楽しむっていうタチの悪い構成で。

二郎　あれは声出して笑ったね！　自分でやってるんで、「ここまでやっていいのか」って驚きもあったし。マンモス半田なんて誰も知らない素人みたいなレスラーだから、あれをイジるってのはかなり危ない橋を渡ってる感じもあった。

大坪　構造的にも凄かった。たった一人に全員でドッキリを仕掛けるってのは。

チョロ　最後は、こっちがダマしてるのか、ダマされてるのかすらわからなくなったり……。あと、マンモスには坂井さんが「『ハッスル』からマンモスを使いたいって話がきてるから、最後にマッスルポーズをするときにハッスルポーズをしろ。それが参戦条件だ」ってとこでもダマしてて、ちゃんとマンモスは一人だけハッスルポーズをしてるんですよ（笑）。そういう観客には関係ないところまで、ネタになってるのってホントに凄いなって。

――ドッキリとプロレスをかけて「プロレスも作りもの」って部分を、観客に共有体験させるって恐ろしい構成ですよね。

二郎　ただ、いまのプロレス界って完全に「なんでもいい状態」じゃないですか。



史上初、"ドッキリ"がテーマとなった06年の『マッスルハウス2』は、名古屋在住の天然レスラー・マンモス半田を、レスラーと観客全体が一丸となってダマす異常興行。最後は「知ってましたよ」と半田がウソぶく（?）衝撃の結末。

"歌人"から見た『マッスル』

枡野浩一



ますの・こういち■1968年9月23日、東京都生まれ。歌人。音楽評論やマンガ評論、エッセイ、小説など、幅広く執筆活動。短歌小説『ショートソング』（集英社文庫）がヒット中。最新刊は『淋しいのはお前だけじゃな』（集英社文庫）。

私はケラさんの『ナイロン100℃』、松尾スズキさんの『大人計画』あたりから演劇に興味を持ち始めたんですが、毎回欠かさず観ている好きな劇団の一つ、『シベリア少女鉄道』に通じるプロレス団体があると、ライターの大坪ケムタさんに教わって、その大坪さんと二回続けて『マッスル』を観ました。

そもそも私は、プロレスや格闘技を含めてスポーツ全般にまったく興味がありません。「そんな自分でもおもしろがれるのか?」と疑いながら観たんですが、その二回はとりあえず楽しめました。『マッスル』は凄くゆるい空気だけど、その反面、台本を苦労して考えてそうなところがいい。ただ、プロレスの歴史を知っていたほうが何倍も楽しめるんだろうということも想像がつきました。

歌人の立場からの『マッスル』ですか?　ん〜。セリフが特別に研ぎすまされてる感じはないですが、そのゆるさが逆にいいと思います。演劇界では"現実以上に現実的な言葉の繰り出し方"を武器にしている尖った劇団もありますが、そういうのは芸術的ではありますけど、『マッスル』のようにビール片手にリラックスしては楽しめませんから（笑）。

ただ、私が最後に観た大会（『マッスルハウス5』）では、あるレスラーの奥さんが亡くなったという重い現実を台本に組み込む勇気に、「凄い」と思う気持ちと「それを入れたら重すぎるだろう」、「いままでの軽やかさが台なしだろう」という気持ちが両方あって、結局、次から観なくなってしまいました。「プロレスを知らなすぎる私にはやはり難しい」と思ってしまったことも大きいですが。

私自身、『マッスル』を観る資格がないと判断したので、何かのきっかけでプロレス全般に興味を持ったりしないかぎり、もう観ないかもしれません。ただ、私のような男にもおもしろいと感じさせる仕掛けの部分はいつまでも失なわないでほしいし、遠くから成功をお祈りしています。

もし、いまミスター高橋本が出ていたら、『マッスル』は絶対にネタにしてる（大坪）

マッスル変態座談会

試合ができなくても、芸人や小学生が出てきても許しちゃうし。そういう末期的状態で、『マッスル』はプロレスインポみたいな人も巻き込めたと思うんですよ。

——二郎さんはこの中で、一番プロレス愛があると思うんですが、『マッスル』にカチンとくるところはなかったですか？

二郎　とくになかったですね。本来、スローモーションとかは、やっちゃいけないとも思うけど……。『マッスル』って絶対に二重に仕掛けるから。鈴木みのるが出たときもそうじゃないですか？

——ええ。アイススケートばりに試合後にプロレスに点数をつける〝キス&クライ〟を主軸にした興行に、鈴木みのるが怒って坂井をボコボコにして帰った……、と思いきや最後に〝キス&クライ〟で点数を取りに行くっていう。あぁいうアイデアのヒネリ方は尋常じゃないですよね。

大坪　僕は二日続けて同内容のプロレスをやる、追加興行は驚いたっていうか。一番のタブーと言えば、タブーですよね。

二郎　う〜ん。ただ、WWEのワールドツアーとか観てれば、実際はタブーでもなんでもないですよ。

——日本大会と韓国大会の結果が同じだったりしますよね。

二郎　初めて日本にザ・ロックが来たときの横浜アリーナ大会も、現地で観たとき、『スマックダウン』の前座（放送外）でやってた試合と全部一緒でしたから。

——はぁ〜、展開も一緒なんですか？

二郎　一緒です（キッパリ）。そこにロックと（クリス・）ジェリコのメインが足されただけ、それ以外の試合は全部一緒で。まぁ、タブーで怒る人って『マッスル』に来てないと思うんですよ。

大坪　ただ、いまは認知されてるけど、昔は『マッスル』に本気で怒るって人はどれぐらいいたんでしょうね？

チョロ　高木（三四郎）さんに聞いたら、一発目の後楽園をやる前は選手や業界関係者、あとマスコミからも、いろいろと批判の声はあったみたいですね。それが、後楽園大会を成功させたら、そういう声はパッタリなくなったらしいですけど。

二郎　普通の団体より、チケットが売れてるから、印籠になるだろうねぇ。でも、アメリカは完全にカミングアウトして、日本はタブーを知る知らないで、格闘技に流れたり、プロレスを観なくなった人がいる状況でまさか、そこを救う方法があるとは思わなかった（しみじみと）。

——そんな救い方があったのか、と。

二郎　俺なんか「まっすぐに進まなきゃいけない」のがプロレス道だと思ってけど、『マッスル』は「道から外れた人だけ集めりゃいい」って発想でしょ。

大坪　ほかの団体もやりやすくなったと思うんですよ。WWEの黒船ショックでエンタメはどこまでやればいいかわかんなくなった。でも、『マッスル』がここまでやることで、「ここまではいいな」って。

——ミスター高橋本の〝呪い〟みたいな部分から一番自由なんじゃないかなって感じはありますね。

大坪　いまあの本が出てたら、『マッスル』は確実にネタにしてるだろうし（笑）。

チョロ　絶対やるでしょうね。（笑）。高橋本が出たあと、これまで高橋さんをリングに上げようって話はいろんな団体であったと聞いてますけど、いまのところ諸問題もあり実現してないですからね。でも一番ネタとしてうまく使いそうなのが『マッスル』だと思いますし。

二郎　だからね。プロレス界が生き残る方法は二つしかないんだよ！　WWE方式でカミングアウトするか、レスラーが総合で勝ち続けるしかない！（キッパリ）。

——キツい二択ですねぇ。

二郎　しかも『1・2の三四郎』（小林まこと著）の東三四郎みたいにブレーンバスターとかで勝たなきゃいけない（笑）。ファンはもう10年ぐらい期待してるけど、みんなあきらめてるから、もう一つのほうしかないじゃない？

チョロ　まぁレスラーが総合で勝ち続けるのは難しいでしょうけど。でも柴田（勝頼）には夢を見てたんだけどなぁ……。

大坪　（聞かずに）ただ、カミングアウト路線もサジ加減が重要ですよね。『マッスル』も初期は試合内容自体、どっかスローモーション頼りだったけど、最近は試合内容でも「ちゃんと見せよう」って意識があって。僕なんか試合がもの足りないというか、いま一つなんですよ。

チョロ　僕は逆に仕掛けとか演出自体への期待が高いんで、逆に試合内容はそれほど重要視してないですね。肉体と肉体のぶつかり合いは求めてないというか。

大坪　僕は『マッスル』を観ることで、プロレスのおもしろさを再認識しましたか

“演劇雑誌”から見た『マッスル』

『シアターガイド』スーパーバイザー
今井浩一



いまい・こういち■1966年生まれ。大学在籍中に小劇場ファンに。93年に『シアターガイド』編集者、04年に編集長就任、06年には『シアターガイド』スーパーバイザー、媒体制作部ヘッドマネージャーに。『マッスル』にも演劇的視点から注目。

『マッスル』は役者の今林（久弥=鶴見亜門）くんを前々から知っていたので観るようになりました。僕自身は演劇とプロレスって、けっこう通じる部分があると思うんですよ。たとえばプロレスラーも素に戻れば皆さんわりと普通ですけど“プロレスラー”というものをまとった瞬間にオーラが変わるっていう部分とか凄く役者と似てる感じがしますし。

『マッスル』は「プロレスはこんなところがヘン」みたいなことを表現しながらも、最後は迫力も示して「プロレスっておもしろいじゃん」という結末へちゃんと道筋を作って、プロレス初心者の観客をも引き込んでいるっていう意味で非常に知恵を絞っているし、おもしろいなって思いますね。坂井さんは、演劇や狂言をはじめ、プロレス以外のジャンルからもアイデアを取り入れて、プロレスに変換させたり、これまでと違った方法論でプレゼンし、実験的なことを行なう。そういう才能はホントに感心させられますね。どんなスタイルになろうとも、彼らが「これはプロレスだ」って自信を持って言いきれる、その想いさえブレない限り、僕は『マッスル』はプロレスだと考えます。

ただ、ウチの雑誌で取り上げる場合は“演劇”として捉えてますね。そうしないと載せられないっていうのもありますけど（笑）。でも、演劇を単に取り入れているだけでは、ほかの団体を紹介するつもりはないです。『マッスル』の場合は「作・演出」をクレジットしているのも大きいですし、単に演劇の枠にプロレスを当てはめるのではなく、自分たちの世界を構築することに腐心しているからこそ評価できるんです。そこがヨソと違う。

ただ、『マッスル』がリングを飛び出し劇場のステージで興行をやったら、現段階ではウチの雑誌には載せられないでしょうね。演劇として勝負するとなったら、もっと厳しい目線で観なきゃいけないですから。でないと、今林くんが所属する劇団の『双数姉妹』さんに怒られてしまいます。



学生プロレスや西口プロレスなど60人以上が登場した『マッスルハウス6』のラストで、超大物・蝶野正洋が突如登場すると場内は大爆発！　ハチミツさんは「あの大歓声はnWo時代以上。蝶野もまんざらではないハズ」と鋭く分析。

ら。仕掛け以上にバチバチやって、生きざまを見せた、マッスル坂井vs鈴木みのる戦はとくにそれを感じたし、それ以上のものを求めるのは仕方ないかな、と。

二郎　ホントは『マッスル』にみ〜んなレスラーが揃えばいいんですよ！　そしたら試合内容も上がるしね。

チョロ　初期の頃、それはもの凄く思いましたね。坂井さんが考えた脚本で、三沢や天龍、蝶野、武藤といったビッグネームが演じたら、こんな凄いプロレスはないだろうって妄想してましたね。

大坪　それはそれで観てみたいよね（笑）。

チョロ　ただ、いまとなっては『マッスル』メンバーも成長して、このメンバーだからこそおもしろい感じもありますから。

大坪　『マッスル』は一話完結ではあるけど引いてみると、連続物語になってる。そこが演劇と決定的に違うし、それにDDTっていうホームもあるわけじゃない？　そこの成長もフィードバックさせてる。『マッスル』自体は巧妙に作られてるけど、演者たちはドキュメンタリー的ですよね。だって演劇なら、凄いダメなレスラーでも「俺は一流レスラーだ」って言えるわけじゃないですか。でも『マッスル』では「俺らは汁レスラーだ」って言い方をしてる。

チョロ　リアルなんですけど、〝四流レスラーの集まり〟って打ち出しで、ツッコミを回避してるって部分では、ちょっと卑怯な感じもしますけどね（笑）。

——シュートな部分を増幅させたファンタジー、って意味で、『マッスル』はプロレスなんですかね？

二郎　こないだ、一回もプロレスを観に行ったことないヤツを3、4人招待したんですよ。彼らの感想は「初めてプロレス観ておもしろかったです！」と。結局、蝶野さんも出ちゃってるし、やっぱり「プロレス観た」って感じになるんですね。

大坪　でも、「どんなプロレスか？」って言われると、非常に紹介しにくいところはありますね。正面きって「『マッスル』はプロレスです」ってのもちょっと違うし。

二郎　俺は、馬場さんが言ってたみたいに、「プロレスラーはデカくなきゃいけない」って気持ちがある。マッスル坂井って身体がデカいからOKなんですよ！

チョロ　谷津（嘉章）的に言うと「デカくて1000円！」（笑）。坂井さんの言葉で、「プロレスラーはプロレスラーの言うことしか聞かない」って名言もありますし。

二郎　これが中心が佐野直（身長170センチのインディーレスラー）とかだったら、こういう展開になってないよ！

——それから、ずっと「やるやる」と言ってる日本武道館大会はどうですか？

二郎　いや、勢いがあるうちにやったほうがいい！　西口プロレスは（長州）小力ブームのときに大きい会場でやらなかったから、もうできない！（笑）。

坂井さんが考えた脚本をビッグネームが演じたら、こんなに凄いものはない（チョロ）

一同　ダハハハハ！

大坪　確かに「ゴールを迎えたら、終わっちゃうかもしれない」とかセコイ理由で止めるのは『マッスル』らしくない。

二郎　ゴールも何もないですよ！　最初は「北沢タウンホールで充分」ってやってたんだから。やったほうがいい。ただ、武道館って3000人以下の動員だと、その関係者が次は借りれないらしい。

——そこはクリアできそうですけど（笑）。ただ、バトラーツ的な燃えつき現象もあるじゃないですか。両国までいったら、団体が求心力を失なっちゃうとか。

二郎　いや、どうせDDTって戻るところがあるんだから、いいんですよ！

大坪　バンドでも過去に武道館でやったあと、細々とライブハウスでやってる例はいくらでもあるわけですから。

チョロ　原タコヤキ君というカリスマ司会者兼音楽プロデューサーも言ってましたけど、音楽業界的にもバンドが「目指せ、武道館！」みたいなとこを打ち出すと、応援する側としても凄く感情移入しやすい、と。いまの坂井さんが、武道館というハコで何を提示してくれるか……やっぱり、やってほしいなぁ。

二郎　それに、俺らは『マッスル』のメンバーが武道館のリングでこのメンバーが泣いてるところを観たいだけでね。

チョロ　ただ、武道館大会成功後に、『マッスル』メンバーの確執から分裂っていう

座談会出席者が選ぶ『マッスル』ベスト名場面!!



ハチミツ二郎

ハチミツさんの選出は、『マッスル・ハウス5』（後楽園大会）にて726がボコボコにされるシーン。726の奥さんの「死」を組み込んだ内容は賛否両論を巻き起こすも「あれができれば、真逆もできる」とマッスル坂井をメールで激励！



大坪ケムタ

大坪さんは、評判は芳しくなかった『マッスル10』（新宿FACE大会）をチョイス！　新宿FACEビルの各階（ゲームセンターやボウリング場）で試合を行なうことを表明、“観客移動”をうながした投げっぱなしの態度が衝撃を呼んだ。



阿修羅チョロ

阿修羅チョロの選出は、『マッスル』らしからぬピュアなプロレスを展開した『マッスルハウス2』（後楽園大会）。アントーニオ本多が師匠のディック東郷に挑み、試合後は涙ながらに感謝の手紙を読み上げ、リアルな感動を呼んだ。

のも、ちょっと期待したり（笑）。

大坪　最近、『マッスル』メンバーもちゃんとしたレスラーになりつつあるじゃないですか。いままでダメレスラーな部分で共感したんだけど、最近はノアの選手と闘ったり、へんに認められてるでしょ。普通に三沢と対等に闘えるようになってからやってもしょうがない。ダメレスラーのときに武道館やらないと（笑）。

二郎　ノリでやらなきゃダメですよ！

——ただ、最近はハードルが上がって苦しそうだなっていうのもありますけど。

大坪　アイデアを出すのは大変そうだよね。でも坂井さんの苦しみを観るのがおもしろいところだし、彼の脳内を実現化するのが『マッスル』じゃないですか。

二郎　芸人も、出世して注目度が上がったときだろうが、貧乏で1枚でも売らなきゃってときだろうが、ほとんど前日まで内容決まってない。宿題を早めにやるヤツはあんまりいないんですよ。

チョロ　僕もなかなか原稿が手につかないからなぁ……。

——それはシャレになってない（笑）。

大坪　出演者だけ決めといて、直前に「どうしよう？」みたいな。武道館もそれでやったら凄いですけどね、そこも演劇と全然違うところですね。演劇なんて何カ月も前から練習するから。プロレスってヒドイというか、凄いというか。

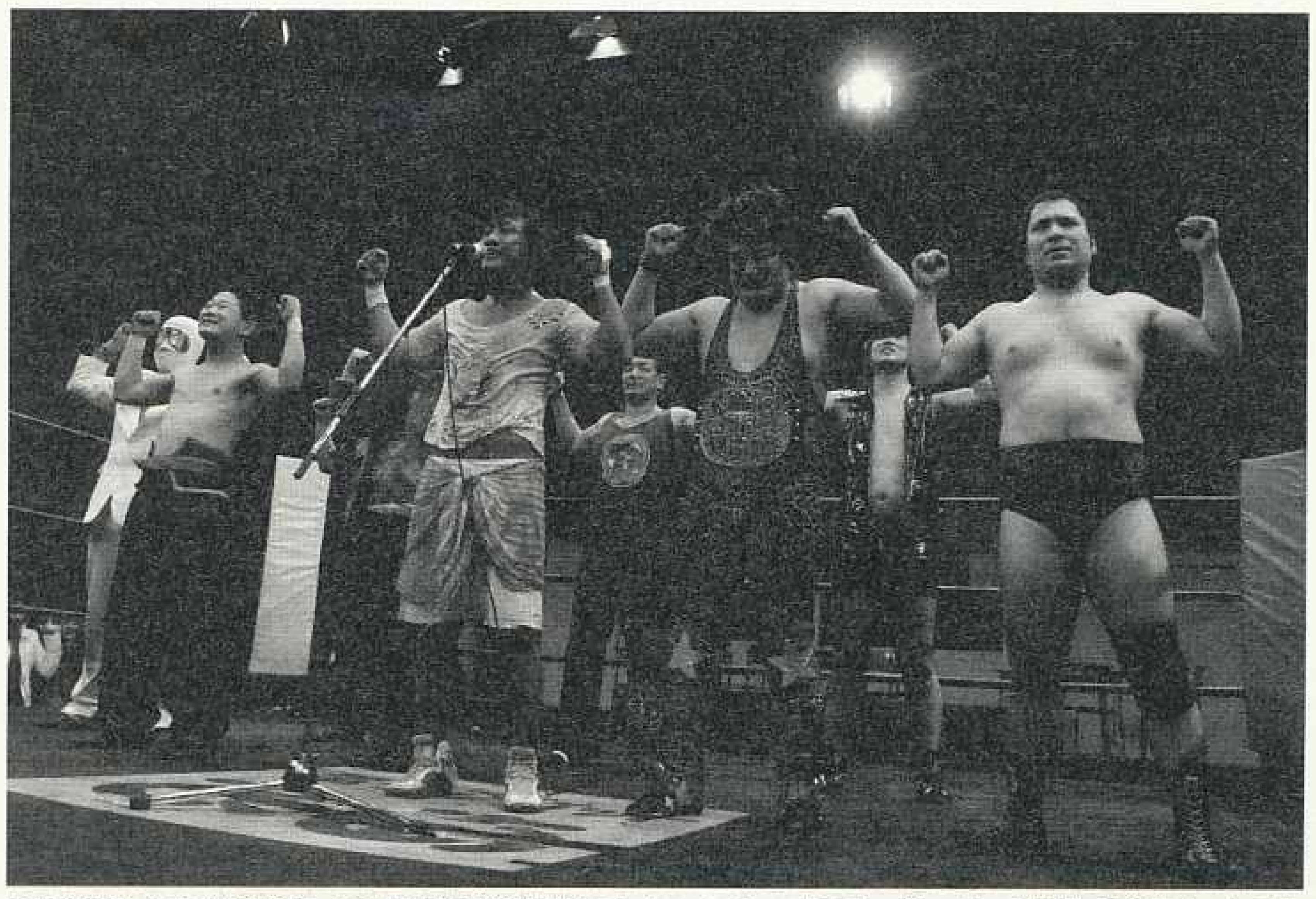
二郎　ただ俺が「武道館できる！」って確信したのは、『マッスルハウス4』の726の場面を観たからなんですよ。

——奥さんのリアルな死をストーリーに取り込んで、賛否両論になった大会ですね。

二郎　批判の声も多かったし。坂井くんも落ち込んでたけど、俺は素晴らしかったと思う！　ダメレスラーが人生をむき出しにして、リング上で見せるのは……。『マッスル』じゃなかったらできないよ。

大坪　天然のマンモス半田をいじって笑いを取るのとは、真逆のパターンで。

二郎　726はホントにやる気がなくて、奥さん亡くなって。で、ホントに鈴木&高山（善廣）にはボコボコに殴られてるし、ホントに汗も鼻水も涙も流してる。フェイクドキュメントのつもりが、リアルドキュメントになっていく過程を見せられた。俺は自分で難しい客だと思ってるんで。その俺が泣いたんだから大丈夫だろって。



726の奥さんの“死”を扱って、賛否両論が渦巻いた『マッスルハウス6』。超ヘビーな題材を乗りきったことで、チームとしての『マッスル』の結束は深まった感も。はたして日本武道館進出はホントに実現するのか？

マッスル変態座談会

武道館はとにかく早めにやってほしい!!
勢いのあるうちにノリでやらなきゃ!（二郎）

チョロ　思い出すと、また泣けるなぁ〜。

二郎　悪ふざけもあるし、人間を見せることもできる。「だからこそ武道館はいける」と思って。そういうメールを坂井くんに出したら、今回の『マッスル』にオファーがきちゃって（笑）。

——それキッカケでしたか（笑）。では最後に今後への期待をお聞かせください！

チョロ　まぁ、次の日程も発表されてないですけど、カード発表はおろか何をやるかは始まってみないとわからないという状態にも関わらず、後楽園を超満員にできるところまできましたからね。いつも大ワクで「こんなことやろうと思ってる」って事前に坂井さんに聞いたりもするんですけど、それでも本番では驚いたり泣かされたりしますから。いまの調子で突っ走ってほしいです！

大坪　僕もマッスル坂井の才能は絶対的に信頼してるから、不安はないですね。ただ、いままではダメレスラーの『がんばれ！ベアーズ』的なおもしろさがあったのが、この前の大会では西口プロレスとの対抗戦で、上の選手じゃなく、同レベルや下のレベルの選手を引き上げる闘いもしなきゃいけなくなってる。各自が中堅レスラーになる成長過程も含めて、どう作るのかなって気になりますね。

二郎　俺はとにかく早めの武道館！　日本の団体で、ノアか『マッスル』しか武道館やらないっていうのは痛快なんで（笑）。まぁ、ぶっちゃけマッスル坂井は、なんとでもなると思うんですよ。

——潰しがききますか（笑）。

二郎　ダスティ・ローデスみたいに、ローカルのブッカーがメジャーのエージェントになったり。そういう感じになる思います。だから、新日でも『ハッスル』でもノアでも格闘技団体でもマッスル坂井を確保したほうがいいですよ！　ホントのこと言えば、これは新日本でやったほうがおもしろい！

大坪　『レッスルランド』ならぬ、『マッスルランド』って感じで（笑）。

チョロ　凄いチープな『マッスルランド』は実際に昔やったことがありましたけど（笑）。僕としては『kamipro』のインタビューでも言ってたように、プロレス界だけじゃなく、『戦極』の煽り映像とか、格闘技関係でも活躍してほしいですね。僕も大坪さんと同じく、内容的には坂井さんが作るものは絶対的に信用してるんで。

二郎　で、最終的に日本で一番大きい団体に最強のブレーンとして就任する、と。

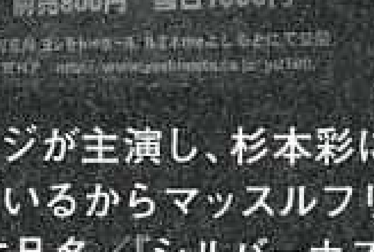
チョロ　なるほどなぁ。ただ坂井さんはお笑い芸人として、お笑い界にもちょくちょく進出してますけど、そこは脅威とかってあります？

二郎　まったくないです（キッパリ）。

——ダハハハ！　そっちの評価は厳しいわけですね。ありがとうございました！


［08年5月23日／本誌編集部で収録］

マッスル坂井監督の『シルバーホストG』ついに公開!



マッスル坂井が映画界進出! 吉本興行の各劇場で順次公開中の『YOSHIMOTO DIRECTOR'S 100』の中で、『シルバーホストG』という作品を監督！　あの村上ショージが主演し、杉本彩に鶴見亜門こと今林久弥も出演しているからマッスルフリークは絶対に見逃すな！

- 作品名／『シルバーホストG』
- 上映日時／6月9日（月）〜13日（金）
- 料金／前売800円、当日1,000円
- 上映会場／神保町花月、ヨシモト∞ホール、ルミネtheよしもと



6.15 DREAM.4
誇り高き英雄たちの宴!!

前回の『DREAM.3』で夢の片鱗を見せつけてくれたDREAM!!
開催が迫る『DREAM.4』も、ミドル級GPとライト級GPの注目マッチに加えて、
所英男の初参戦、さらにはなんとミルコのグラップリングマッチも決定!!
この豪華な顔ぶれは日本格闘技の文化を堪能させんとする、ワクワクドキドキ感が感じられるのだ。
う〜ん、オモロ〜な夢ならさめないで〜!

桜庭二律背反

サク烈する“リアル”——問われてくるのは我々がどう見るかだ

撮影／タイコウクニヨシ

日本MMA界最大の功労者にして英雄的ファイター、桜庭和志。その歩みも終盤にさしかかった現在、ファンは彼にどのような闘いを望むのだろうか……。

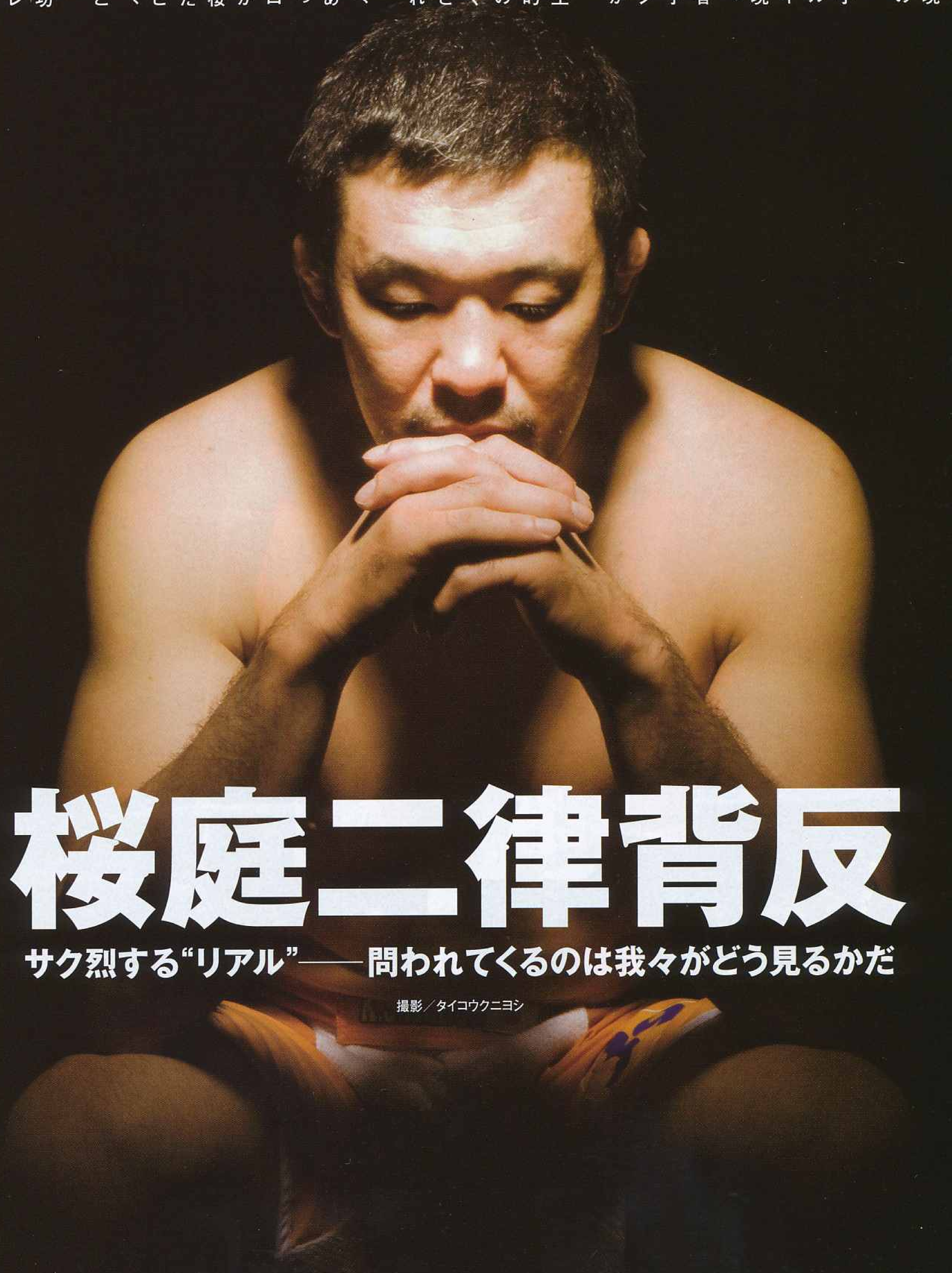
6・15『DREAM・4』にて桜庭の相手を務めるのは、〝オランダの殴り屋〟メルヴィン・マヌーフである。このマッチメイクをどうとらえるかは、そのまま桜庭の現在を考えることにつながってくるだろう。

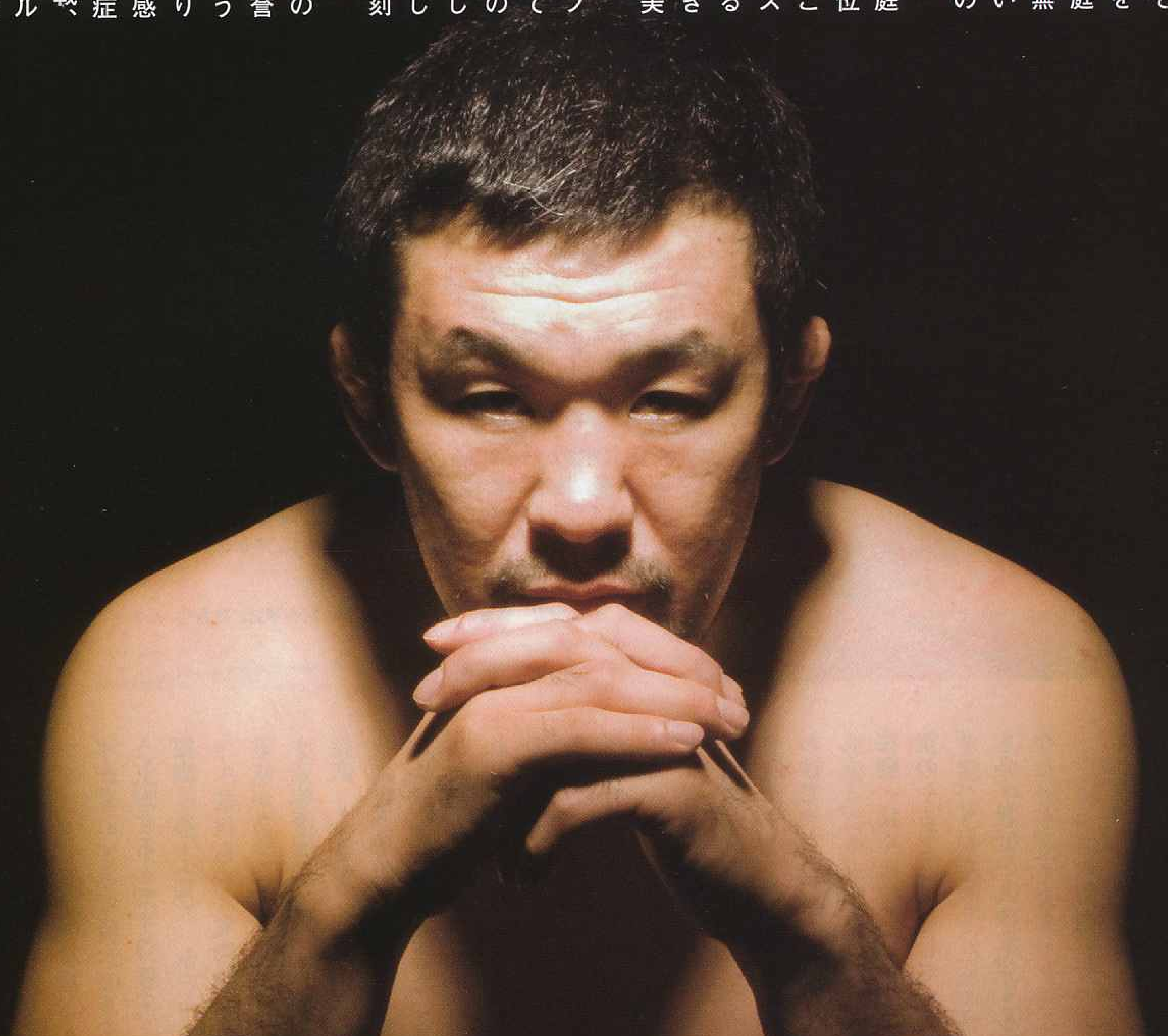
打撃と組み技それぞれに特化した両者の対決は、なるほど確かに盛り上がりを予感させる。かつてマヌーフとユン・ドンシクが繰り広げた名勝負もまた、同じ構図から生まれたものであった。

しかしながら、このカードがおそらく生み出すであろう〝激しい闘い〟を、全面的には歓迎できないファンも多いはずなのである。その深層心理には、間違いなく「桜庭の殴られる姿はもう見たくない」という〝おびえ〟がある。言い換えれば、それは〝愛〟なのだ。

MMAという真剣勝負の場においては、過去にどれほどの強さを誇った選手であろうとも、勝てなくなれば求心力を失なってゆくのが常である。だが、崇高なるプロ意識と持ち前のエンターテイメント性から〝闘う姿〟そのものを支持されてきた桜庭和志は、この絶対的なルールをも超えたところでファンに愛された。たとえばヒヨードルが同じ相手に3連敗したとして、変わらず支持され続けるだろうか？　これが〝愛〟と〝人気〟の違いである。

PRIDE時代、莫大かつ前人未到の功績をあげた桜庭は、その結果としてプロレスファン、格闘技ファン、一般スポーツファンのすべてから応援される唯一の格闘家となった。彼のようなかたちで支持さ





れた選手は、ほかに誰もいないのだ。そして、このことが現在、意外なかたちでファンの心を揺さぶっている。

ファンは間違いなく桜庭を愛した。そして愛とは求めることであり、愛する人を守ることでもある。これはすなわち、桜庭の試合を観たいと願いながらも同時に「無事であってほしい」と感じてしまっている、桜庭ファンの矛盾した心理そのものだ。彼らはいま、愛ゆえに苦しんでいる。

これがプロレスのリングであれば、桜庭のような英雄にふさわしい"上がりの位置"がちゃんと用意されているのだ。そこにたどりつくことができた選ばれしレスラーたちは、すべてのファンに肯定されるかたちで幸せな晩年をすごすことができる。だがMMAには、そのような優しく美しい世界はない。

最近の試合を観れば、いまの桜庭が"ファンからの同情"などまったく必要としていないことはわかる。IQレスリングの恐ろしさは、ますますもって円熟味を増している。だがしかし、トーナメントの厳しさが、桜庭の身体にさらなるダメージを刻んでゆくこともまた確かであろう。

いま桜庭の全身をおおっている無数のテーピングは、まさしく歴戦の傷跡、名誉の負傷の表われである。眼窩底骨折という重傷を負わされたミルコ戦、3度にわたり打ちのめされたシウバ戦、命の危険すら感じさせたアローナ戦、試合後日には嘔吐症状もあったといわれるスミルノヴァス戦、そしてあの忌まわしき大晦日、"ヌルヌル事件"こと秋山成勲戦。マヌーフの豪快な打撃が、これらの惨劇を連想させないといったら嘘になる。ファンの「桜庭に勝ち進んでほしい」という願いは、「桜庭が無事であってほしい」という切実な想いをはたして上回るだろうか？

しかし、である。DREAMという生まれたばかりの団体は、現在のところそこまで順調な道のりを歩んでいるわけではない。ならばいま、看板選手である桜庭へかかっている重圧もまた、ファンの"おびえ"とともに大きくなっているはずだ。やはりファイターは、ボロボロになるまで闘うべきなのだろうか？　しかし、人生はリングを降りてからのほうがずっと長い。桜庭とは、我々にそのような心配までさせてしまう稀有な存在でもある。

海の向こうUFCでは、かつての好敵手シウバが完全復活を遂げたという。まことしやかに衰えをささやかれ、ダナ・ホワイトからも厳しいコメントを出されていた崖っぷちのシウバが、PRIDE時代を彷彿とさせるような激勝を収めたのだ。試合後には戦友・桜庭に対してエールを送ったとも聞く。そんな格闘ドラマを耳にしてしまえば桜庭の復活劇を期待したくもなるが、「だがしかし」という想いもやはり消えない。桜庭とは、なんと難解な存在であることか！

そう長くないMMAの歴史において、桜庭のように「スター誕生から晩年まで」をひと通りファンに見せることができた選手はほかにいない。だから彼をどのように見送るべきかなど、じつは誰一人としてわかってはいないのだ。

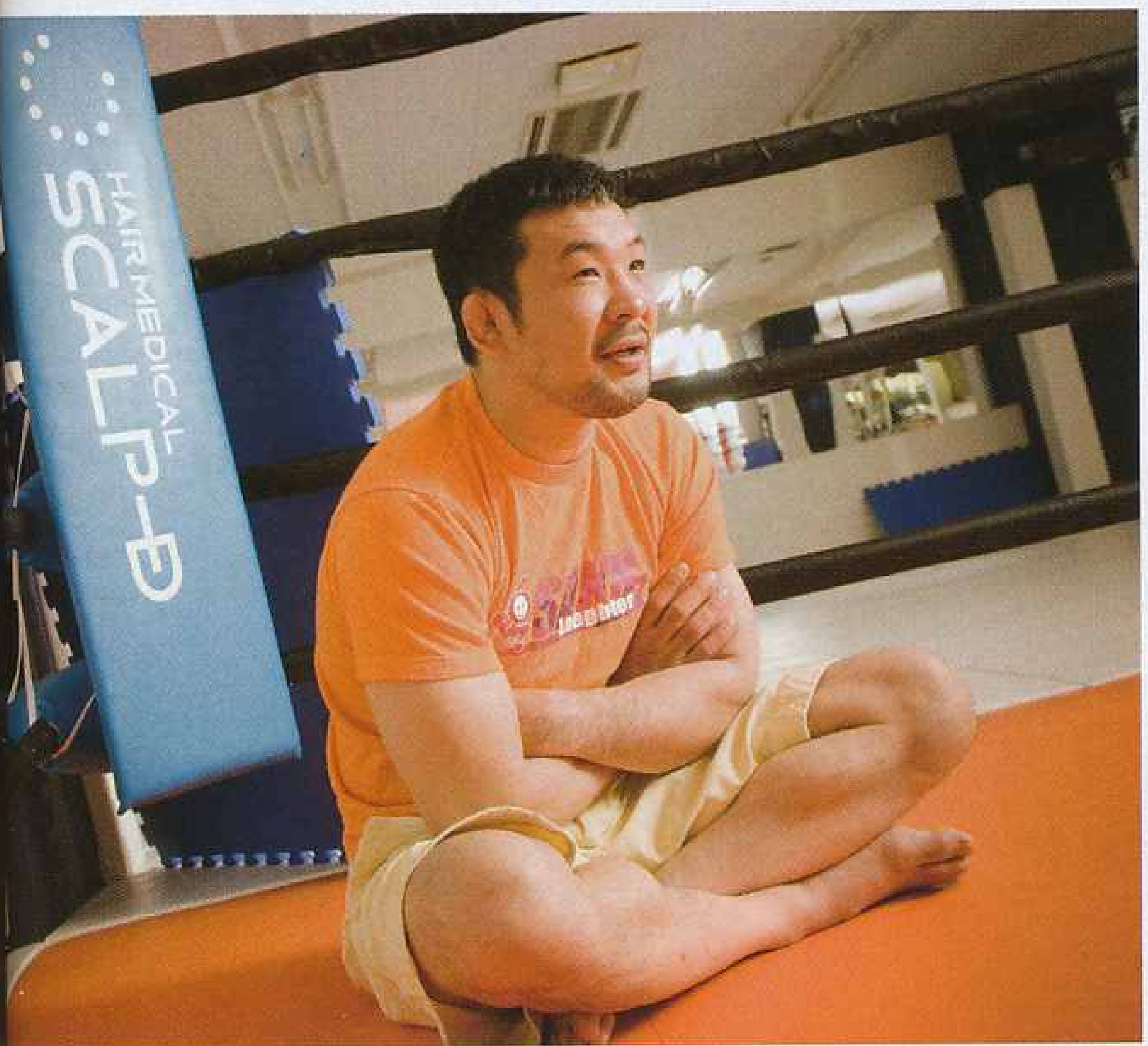
だがおそらく、我々の腹が決まる前に『DREAM・4』はやってきてしまうのである。

桜庭に勝ってほしい。だが壊れてほしくはない。この"桜庭二律背反"には、桜庭がリングに上がり続けるかぎり、ファンはとらわれていくことだろう。

（田中太陽）

何のために闘うのか？　何のために生きるのか!?
IQレスラーに迫る“面倒くさい”インタビュー

桜庭和志



6.15『DREAM.4』いよいよ迫る！　トーナメントを嫌いながらも、ミドル級GP2回戦へとコマを進め、やはり“主役”を張る桜庭和志。
男38にして、桜庭はいま、闘うという意味をどう捉えているのだろうか。
今回は桜庭の“本音”が漏れる寝起きにアタックし、小難しい質問をぶつけてみた！
IQレスラーが考える、その答えとは!?

聞き手／井上崇宏　撮影／タイコウクニヨシ　試合写真／乾晋也

桜庭　（寝ぼけた顔をして姿を現わす）………………どうぞ。

——完全に寝起きですね（笑）。いきなりですけど、3日前の会見でメルヴィン・マヌーフ戦が発表されましたね。

桜庭　え？　今日はちょっと頭が回らない……。メルヴィン？　八丈島への引っ越しの準備は進んでます。

——寝ぼけているわりにはきっちりスタイルを貫きますね（笑）。笹原（イベントプロデューサー）さんとの絡みも回を重ねるごとにだいぶこなれてきまして。

桜庭　……そうですねぇ。

——あうんの呼吸で、桜庭劇場もかなりの完成型に向かってってですね、マスコミ陣もおおいに楽しいひとときをすごさせてもらいまして。僕なんかも会見帰りの道すがら、「笹原さんとの相性いいなあ」なんてのん気なことを考えてたんですけど（笑）。

桜庭　ええ（笑）。

——だけども、いまさらながらですね、こっちも桜庭劇場に「ああ、おかしい！」って同調してるだけじゃヤバイぞってことにハタと気づいてしまったんですよ。

桜庭　……いいんじゃないですか？

——いやいや、このマスコミの怠慢が業界を地盤沈下させるんです（笑）。というわけで、今日はここ最近の桜庭劇場の真意についてちょっと話し合いたいなあと思いまして。

桜庭　真意ぃ？　いや、僕は……会見とかああいう場所でしゃべるのが面倒くさいから。それでこっちがワケがわかんないことをやれば、質問がこなくなるじゃないですか。逆にその記者の皆さんのお手上げ状態を見てて、こっちは楽しいんですけどね。

——これまでの桜庭さんの数々のパフォーマンス……、たとえばホイス戦のときのセコンドをいっぱい連れてくるグレイシーに対抗して、増殖するマシン軍団っていうパフォーマンスは非常に痛快かつ明確でわかりやすいコンセプトだったんですけど、最近の桜庭さんはちょっと仕事が荒れてきてるんじゃないかなっていう気がするんですね（笑）。

桜庭　あ～（笑）。

——前はもっと皮肉ってたりとか、何か意味があったんですけど、最近はますます意味不明っていうか。

桜庭　もともとね、ホイス戦もなんか……皮肉とかが混ざってるんじゃなくて、要はいまと同じことをやってるんですよね。ただホントに「知ってる人だけウケてくれりゃいいや」って感覚なんで。普段も僕のギャグなんかホント、10人いたら一人か二人にしかわかんないですよ。その気づいてくれる人が一人か二人しかいないっていうのが最高におかしいんで。

——ちょっとシュールな。だけどマシン軍団の意味合いっていうのは、多くのプロレスファンにそのメッセージが伝わるわけじゃないですか。そのパイがどんどん……。

桜庭　狭くなってる（笑）。ほぼみんなが僕のやることに対して「何言ってるのかサッパリわからない」って言いますよ。でも必ず最低一人は気づくんで、それがおかしいんですよ。

——そっちの方向に行っちゃいましたかぁ（笑）。

桜庭　………頭が回りませ～ん。

——以前に「ストレスを抱えた桜庭さんが観たいんです」っていうお話をしましたら、桜庭さんは「じゃあワガママ言うような相手を用意してくれ。そしたら俺も本音がボロッと出る」みたいなことを言われてたんですけど、ここ最近は極力ストレスを遠ざけるほうに向かってるんじゃないかなって気がするんですね。

桜庭　もうね……すべてがストレスです。

——そういういろんなストレスから距離を置きたいモードが、いまの桜庭和志なのかなって気がするんですけど。

桜庭　……そんな感じですね。会見だったり、トーナメントだったり、もうあらゆることが面倒くさくて。「イヤだ！」って言ってんのに、やらなきゃいけない状況っていっぱいあるじゃないですか？　「だったら、すっとぼけとけ」って感じで。

——想像ですけど、桜庭さんってこれまでもリング外での面倒くさい状況っていうのはたくさんあったし、いまもあると思うんですよ。

桜庭　……今日はちょっと本音が出ちゃってますねぇ。

——チャンス到来！（笑）。

桜庭　僕の頭が冴えないうちにいろいろ質問したほうがいいですよ（笑）。ホンットにいろいろ面倒くさい！　確かに昔とは違うストレスがありますよ。

——種類の違うストレスが。たとえば、PRIDEから『HERO'S』に移籍した際、どんな理由があったのかはわかんないですけど、やっぱりその行動に移すこと自体が多大なストレスなわけじゃないですか。そういうことを経験してきてかなり煮詰まった瞬間があったのかなって。

桜庭　疲れてましたね。しかも眠いし。

——眠いのはいまですよね（笑）。だからさっきおっしゃった「すっとぼけとけ」じゃないですけど、前にも増してあんまり本音の部分を語らなくなってきた気がす



4.29『DREAM.2』ではアンドリュース・ナカハラと対戦。予想以上に腰の強いアンドリュースだったが、桜庭は期待を裏切ることなく一本勝利。次のマヌーフ戦、そして強豪ひしめくトーナメントを桜庭はどう渡り合っていくのだろうか!?

「人より強くなりたい」って気持ちがまだちょっと残ってるんじゃないですかね

るんですよ。

桜庭　でも、本音ってあんまり語ることないじゃないと思うし。

──だから、「そんなに俺の本音が観たいんなら、そういう相手をぶつけろ」っていう主張もわかるんです。野次馬根性的に言えば、怒ってる人を観るのは単純に楽しいっていうのもありますし。

桜庭　じゃあ相手はメルヴィンじゃなくて……、まあいいや。

──アハハハハ！

桜庭　だから、やっぱりトーナメントじゃなくて、一つ一つテーマを持ってやったほうがいいですよね。確かにトーナメントはわかりやすいし、試合も組みやすいのかもしれないですけど。たとえば僕とメルヴィンなんか、正直なんのテーマもないじゃないですか。それを考えたら、もっとテーマがある試合のほうがいいと思うんですけどね。

──ただ、メルヴィンは強いですよね。

桜庭　それもあらためて言わなくても、みんなわかってることだし。

──たとえばリング内のストレスでいえば、ルール変更を要求してきたホイス戦だとか契約体重を守ってこなかったビクトー・ベウフォート戦とか、ほかにもいろいろありましたよね。怪我をおして無理して出場したり。そういうファイターとしてのストレスを経験してきてて、それプラス、リング外でのストレスも通過してきた中で「面倒くせえ！　もう俺は競技としての総合のほうに向かうんだ！」みたいなモードってあるんですか？

桜庭　いや、それはないですね。やっぱり競技性重視っておもしろくないと思うし。そこまで深く考えたことないですけど。

──桜庭さんは今年39歳になるわけですけど、たぶんボクらと同じで200歳ぐらいまでは生きないと思うんですよ。

桜庭　はい。

──キャリア的にも年齢的にも幕引きを意識するようなこともあるかなと思うんですけど、Uインターからキャリアがスタートして、PRIDE、『HERO'S』、DREAMへと進んでいく中で、いま現在のファイターとしてのモチベーションっていうのはなんなんですか？

桜庭　おそらく、「人より強くなりたい」ってことでしょうね。その気持ちがまだちょっと残ってるんじゃないですかね。でもね、若い頃のようにガンガンガンガン……「絶対強くなるぞ！」とかそういうんじゃないけど……なんか今日は面倒くさい質問が多いですよね？　質問を変えませんか？

──え～っと、じゃあ華麗に質問を変えますけど……桜庭さん！　人間ってなんのために生きてるんですかね⁉

桜庭　ハアッ⁉

──いや最近ですね、自分でやっぱり頭悪いなと思うんですけど、「なんのために仕事してんのかな？」ってことをたまにふと考えちゃったりするんですよ（笑）。桜庭さんはそういうことを考えたりはしませんか？

桜庭　ないです。なんのために仕事するかって、そりゃメシ食うために仕事して

『DREAM.4』直前!!
kamipro Hand
緊急アンケート

Q.いまの桜庭和志に一言!

とにかく負けてほしくない！（たんたんさん）

ジャカレイとやってほしかったです（クギヌキさん）

桜庭はやはり「秋山とやる！」と言ってほしい。そこを乗り越えないと、日本格闘技界は未来へ向かえないのではないか？（ルシファーさん）

もっと真剣勝負してほしい（ホナウド鈴木さん）

勝っても負けてもいい。“カッコいい”桜庭を見せてほしい！（非力さん）

マヌーフは強豪だけどユンが勝てて桜庭が勝てないことはない！（グリとグラさん）

以前はサクの闘いには必ずテーマがあったような気がするんですが、いまのテーマは何なんでしょうか？（しゅうまいさん）

また強打の選手が相手なんで、身体を心配しちゃいます。チャッチャと極めて勝ってください（まあちんさん）

少しでもお身体が万全な状態に近づくように祈っています。試合後、満面のニコニコをぜひまた見せてください（「忘れ物」は何?さん）

いまの桜庭は一昔前にはなくなってしまっていた期待感がちょっと出てきてる……。それがマヌーフに勝つことでホントの期待感に変わると思う。ぜひ勝ってほしいです！（まこりんさん）

桜庭ワールドはいつのまにか哀愁ただよう芸術の域に到達し見るモノのココロをせつなくさせる（中村主水さん）

まだまだ大丈夫！いまだにタップアウトがないのは凄い。グラップリングの試合が見てみたい（日明さん）

世間がなんと言おうと、桜庭和志は美しい（黒田知洋さん）

ヒリヒリするようなギリギリのファンタジーを見せてほしい（DREAM大好きっ子さん）

トーナメントとかどうでもいいので、メッセージ性のある試合をしてほしい（がっくさん）

最後は優勝

（プロテインさん）

ヒクソン戦の実現にのみ注力してほしいです（薬王寺さん）

一時期より調子がいいみたいなので期待してます（ハーンズさん）

最近の試合観てると
調子よさそうなので
勝てると思う!
がんばれサク!（観戦王者さん）

トーナメントを優勝して大晦日に田村選手と対戦してください。応援してます（パウンド鈴木さん）

やっぱりなんだかんだでDREAMを盛り上げようとしてるから素敵！トーナメント終わったらマンバとやらせてあげてください（まちゃたさん）

なんとか生き残ってほしいが2回戦がストライカーのマヌーフなので一連のシウバ戦の悪夢も想像できる（STALEMATEさん）

もっと強くなってください

（はっちさん）

また強い
桜庭が見たい!!
（ゆりりん）

〝魔王〟秋山との因縁決着をぜひ！（カミプロ変態オタクさん）

最近強豪と
試合してなかったので、
ひさしぶりに
バチバチのサクが
見れると思います♪
（えみりーさん）

昔のサクをもう一度!
いまでも大ファンやけど、
昔のように入場から
試合終わるまで
ずっと味わえてた
絶頂の興奮を頼みます
（アントニオまさしさん）

残り少ない現役で、
もう少しだけ伝説を作ってほしい（キングさん）

まさに男の中の男だな！

（くらまにあさん）

るんで。

——誰と話してもそういう答えになるんですけど。「メシ食うため」、「金を得るため」っていうのと、いろいろ話してるうちに「生きるため」っていうのが言葉の響きとして一番塩梅がいいんじゃないかっていうアホな結論を出したりして（笑）。

桜庭　ああ、なるほど（笑）。

——「だけど、そこに適当な意味をつけたいね」っていう話をしてみたり。

桜庭　生きるっていうことは、メシ食ったりウンコしたりってそれだけじゃないです。人間の世界の中で、なんかほしいものを買ったり着飾ってみたりもする。そのためには、いまの世の中お金が必要だから仕事をする。その程度でいいんじゃないですか？

——じゃあ、金を得るために何を仕事にするのかっていうことも大事になってきますよね。

桜庭　そうですね。僕も自分の好きなことを仕事としてやってるわけですから。でも、そういうのって考えすぎじゃない？　あ……！　だから今日はわけわかんない質問ばっかなんですかね？

——アハハハハ！　そうなんでしょうかねぇ（笑）。

桜庭　「何をテーマに考えてこの人質問してんだろうな？」って思いながら、半分寝ぼけてるから、「面倒くせえな〜」って。たぶんね、僕とは考えてる深さが違うんじゃないですか？

——どういうことですか？

桜庭　いろんなことを海底深くまで考えちゃってるんだと思いますけど、僕は適当に浅いところでピチャピチャ潮干狩りしてるようなもんだから。

——そんなことはないでしょう！

KAZUSHI SAKURABA

僕は適当に浅いところでピチャピチャ潮干狩りをしているようなもんだから

桜庭　水の中に深く潜って、息止めながらなんか探してんじゃないですか？　で、「わかんねえ！」ってグワーって海面に戻ってきて、「ブエーッ、ヘーッ、ヘーッ……」って息して、「見つかんねえなあ！」って。僕は浅いとこで「やった、貝見つかった」って感じですから。

——それは溺れて上がってきたところで、潮干狩りをやってるおじさんに解決策を求めてもどうしようもないって話ですか（笑）。



「トーナメントには出ません」「八丈島に引っ越します」など、独特のテンションが展開されている最近の"桜庭劇場"。インタビューでは、いったいどんなモードなのかを探ったのだが、なんと答えはめちゃくちゃ簡単な一言で解決してしまった!

桜庭　そうそう。「見つかんないんだけど！」、「いや、ここ掘ればいるよ」って感じで（笑）。

——いや、桜庭さんは頭がいいんで、僕みたいにいちいちしょうもない悩みを人に話さないんですよ。

桜庭　まあ、確かにね、30代っていろいろあるんですよね（笑）。それはなんとなくわかります。

——たとえば、格闘家としてじゃなくていち生活者として、どんな人生をすごしていきたいと思っています？

桜庭　……考えたことない。

——まったくイメージもしないですか？

桜庭　だから、ホントに僕の考えは浅いんですよ。「明日雨降んねえよな？」とか、そんな程度ですね。「雨降ったら面倒くせえな、車で行くの」とか、そんな感じです。

——それ、ホントですか？

桜庭　ええ、だいたいそんな程度ですよ。だから先のことなんか考えたことないですね。……井上さん、自殺とかしないでくださいよ？

——アハハハハ!!　すいません、ご心配をおかけします（笑）。

桜庭　深く考えるから面倒くさくなるんじゃないですか？　アレみたいなもんですよ、終わりのないヤツ、無限の∞マークみたいな。紙と紙を裏でこうやってくっつけて。あんなもんじゃないですか？　考え始めるとキリがないですよ。でも……、僕は格闘家なんで悩んだときは考えるんじゃなくて身体を動かすんですよ。身体を動かせば、そんな考える時間なんかないんで。

——考える時間を作らないようにするんですか。

桜庭　そういうことはありますよ。練習するときはべつにほかのことを考えないですから。練習のことしか頭にないんで……考えちゃうと寝れないときとかありますよね？

——（太田アナ調で）桜庭和志も悩むことがあると……認めたため!!　この話題を続行します（笑）。

桜庭　だからなるべく考えないように、楽しいことを考えるように。それでもどうしても考えなきゃいけないこともあるじゃないですか。そういうときはホント寝れなくなりますね。

——どうなっちゃうんですか？

桜庭　もう布団の中でモソモソモソーってずっと寝れない。で、朝方にフッと寝始めて。たまんないです、あれは。そのときは考えなきゃいけないことが頭の中で大きくなる前に別のこと、楽しいことなんかを思い出すようにして……。

——散らしますか。

桜庭　ええ。それで、「物事は深く考えちゃダメだな」と。

——そう思うようになったのっていつぐらいからですか？

桜庭　それは最近っていうか、30代になってからかな？　20代の頃は単なるバカだったから。

——そうですよね。若い頃って「明日なんかねえ！」って感じじゃないですか（笑）。

桜庭　そうそうそう！（笑）。黙ってても楽しいこと考えるけど30歳すぎてくると、今度は別のこと考えだしちゃうんですよね。だから、たとえば子どもの頃は寝るときに「俺はガンダムに乗ってんだ！　ガンダム乗って操縦して学校の近くまで行って、悪いヤツやっつけて〜」とかって空想してたらいつの間にか寝てたり。でも、いまこの歳で「俺、ガンダムに乗って……」とか、そんな想像できるわけないじゃないですか（笑）。だから実際に起こりうるような楽しいことを想像したりする。たとえばですけど、僕が寝れないときにたまに使うのは、空想でバイクでいろんなとこに行くんですよ。「玄関出てドア開けて、バイク乗ってあそこ右曲がって〜」って、いろんなとこグルグル周ってるとウトウトして寝ちゃうんです。

―それ、ガンダムかバイクかだけの違いですね（笑）。

桜庭　そうか（笑）。あっ、だからね、会見なんかも僕は僕のキャラなんで、皆さんに笑っていただければ。ここも『Laughter7』（ラフター・セブン）ですからね。ラフター（＝笑い）だから。

―「もう人生、笑うしかないじゃん」ってヤツですか。

桜庭　ああ、そうそう。そういう意味もありますね。苦しいことを一生懸命苦しくやったって、なんの楽しみもないじゃないですか。なんでも笑いながらやったほうが楽しいし。

―それはいままで煮詰まったりストレスを抱えてやってきたこととか、抱えたところで結局なんにもなんねえじゃん、みたいな経験からくるものなんでしょうね。

桜庭　そう。ただ自分だけがドヨーンと沈み込むだけなんで。だったら、こないだウチの高橋（渉）が試合で殴られてアゴの骨が折れたんですけど、それすら笑い話でいいじゃんって。だってアイツ、試合直前の練習で僕が「おまえ、こんなんでいいの？」って聞いたら、「大丈夫です。僕は骨を斬らせて肉を断ちますから」って言ったんですよ！

―アハハハハ！

桜庭　「それ、肉と骨が逆だろ！」って突っ込んだんですけど、見事に実現したじゃないですか（笑）。一応ギブアップは取ったけど、でもその相手の選手のほうはもう次の試合が決まってますからね。

―キッチリ骨を斬らせましたねぇ。なのにノンストレス（笑）。

桜庭　やっぱり高橋は凄いなあと思って。

―そうだ、確かに『Laughter7』っていうネーミングは全部つながってますね。桜庭さんの人生観から高橋選手の生き様まで（笑）。

桜庭　そうですね。笑うしかないじゃないですか。だから僕の場合は入場のVTRとかも笑えるように作ってほしいんですよ。悲しい方向じゃなくて。

―ああ。煽りVの中にBOØWYの曲を入れてほしいとか、オープンカーに乗りたいとかっていうアイデア出しも、どんなにシリアスに作られても「なーんちゃって」ってできるようにしておきたいっていうのが桜庭さんの中にあるんだろうなと思ってたんですけど。

桜庭　あとはアレもあるでしょ、ちょっと（キャリアが）長いからワガママもきくっていうのもあるんで（笑）。若い選手が「あれやってくれ、これやってくれ」って言ったって、「そんなの無理だよ」って言われるけど、僕はもう歳いってて付き合いも長いし、「（佐藤）大輔さん、次これやりたいんですけど」「あ、いいッスよ」って感じで。

―そういえば桜庭さんって『タモリ倶楽部』が好きじゃないですか。

桜庭　ええ、好きですねぇ。あの番組って毎回凄いマニアックな企画ばっかりやるじゃないですか。わかる人だけわかればいいって感じで。

―いや、桜庭さんのやってることって『タモリ倶楽部』ですよね。

桜庭　（小声で）僕の性格は『タモリ倶楽部』で作られたんですよ。

―アハハハハ！　そういえばタモさんも『タモリ倶楽部』でストレス解消してるとこありますよね（笑）。

桜庭　そうかもしれない（笑）。

―昔から好きですか？

桜庭　好きですねぇ。あとは中学のときは『ビートたけしのオールナイトニッポン』とか聴いてましたね、寝ながら。♪テレッテ、テッテレレテッテレ、「ケーシー高峰コーナー！」（笑）。アレおかしかったなあ。いまでも凄い覚えてるネタは、「オシッコをするときの音は次の3つのうちどれでしょう？　1、立て。2、立つんだ。3、ジョー」とか。「なんだそりゃ！」って一人で笑ってましたね。そういうの好きでしたね。

―桜庭和志の人格はだいたい深夜に形成されたんですね（笑）。

桜庭　ホント、僕の人格はそれからきてますね。『オールナイトニッポン』から始まり『タモリ倶楽部』で。

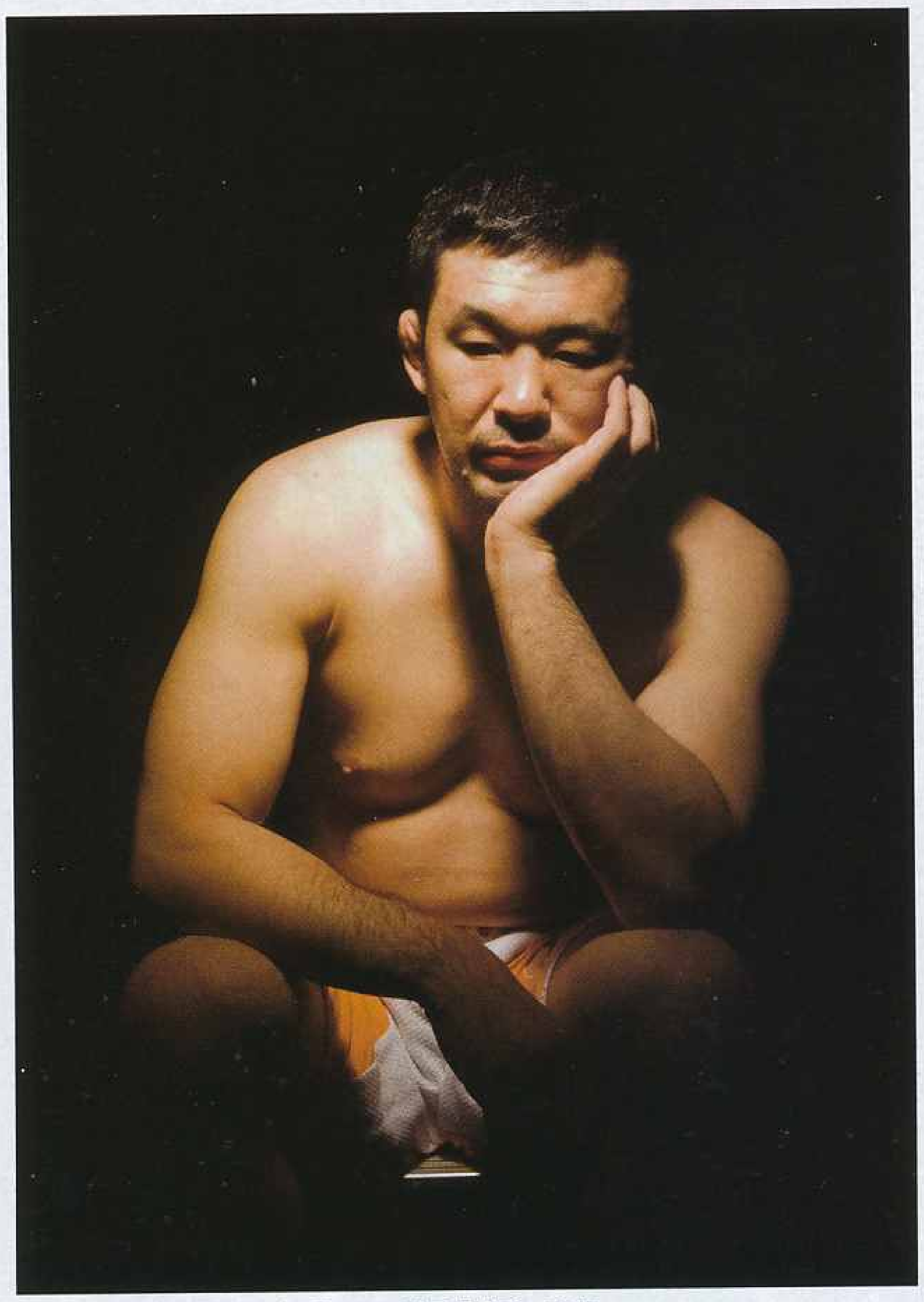
―そこで培われた。

桜庭　はい。『NO.NEWYORK』で入浴シーンを撮ったり、こないだの『Dreamin'』を使ってくれって言ったのも、ようは空耳アワーですからね。

―前回に引き続き今回もメインを務めますけど。ファイターとしてはまごうかたなきメインイベンターですけど、人格は……（笑）。

桜庭　人格はね、深夜枠なんですよ（笑）。

【08年5月26日／Laughter7にて収録】



さくらば・かずし■1969年7月14日、秋田県出身。92年、UWFインターナショナルへ入団。97年12月UFC-Jヘビー級トーナメント優勝。98年からはPRIDEへ参戦。90分の死闘を繰り広げたホイス・グレイシー戦をはじめ、一連の"グレイシー狩り"は桜庭フィーバーとともにPRIDE人気を押し上げた。06年には戦場をHERO'Sへ。6.15『DREAM.4』ではミドル級GP2回戦としてマヌーフと対戦。180cm、83.6kg。

PICK UP DREAM MIDDLE WEIGHT FIGHTER

ユン・ドンシク 光と影

悲運の柔道王の恐るべき人間力——!!

「俺はしょせんエキストラ。だから強くなければならないんだ」



ユン・ドンシク——。05年4月に行なわれた桜庭和志とのプロデビュー戦を前に、「楽勝」と豪語したものの、あっさり秒殺KO負け。以後、戦績は4連敗。PRIDE崩壊後は『HERO'S』へと主戦場を移し、〝猛獣〟マヌーフから一本勝ちを奪って風向きを変え、現在ではミドル級でトップクラスの選手として、世界からその実力を認められる男である。そして、DREAMミドル級GPでは、総合格闘家として初の栄冠を虎視眈々と狙っている。

だが、ユンがここに来るまでに歩んできた道のりを、我々はどれだけ知っているだろうか。あふれんばかりの才能の持ち主であるにもかかわらず、辛酸をなめさせられ続けた柔道家時代の苦悩と鬱屈。逆境での強さと現在のファイトスタイルとの因果関係。そして、格闘技に対する深い愛情と、〝闘い続けること〟への真摯な思い。紆余曲折の格闘技人生が、現在のユン・ドンシクを作り上げたのだ。

〝悲運の柔道王〟ユン・ドンシク

柔道家時代のユン・ドンシクは、その全盛期（93～95年）に〝国際大会47連勝〟という驚異の記録を樹立。驚くべきは、連勝中には一度も相手に〝効果〟以上のポイントを奪われることなく、パーフェクトな内容で勝利していること。

ユン自身の言葉によれば、「この3年間で12の大会で優勝した。試合はほとんど一本勝ち。〝世界最高の選手〟と呼ばれた時期」（『スポーツ2・0』08年3月19日号）だった。

だが、この〝国際大会47連勝〟という記録は、ユンにとって誇らしい記録であると同時に、忌まわしい追憶の裏で打ち立てられたものだった。

オリンピックで金メダル間違いなしと言われたユンだったが、国内のオリンピック選考会では、必ずと言っていいほど負けていた。いや、正確に言えば〝負けにされた〟のだった。それは、ユンが韓国の名門・龍仁大学の出身ではなかったからだ。学閥主義がはびこる韓国柔道界では、審判の大半は龍仁大学のOBで占められていた。龍仁大の選手との試合では、必ずユンが負けた。実力の拮抗する者同士の試合で、守りに徹する相手から一本を取るのは至難の業。

ユンがいくら相手を投げても、技ありが有効にされ、有効が無効に、場内が場外と宣告された。そして、ユンが少しでも攻め手を休めると、注意や警告が与えられ、判定負けにされてしまうのだった。結局、ユンが韓国代表としてオリンピックに出ることは一度もなかった。〝国際試合47連勝〟という記録は、こうした国内での試合をカウントしない、ユンの〝痛ましい勲章〟でもあったのだ。

そんなユンにつけられたニックネームが〝悲運の柔道王〟だった。韓国で柔道修行をしていた秋山成勲も、龍仁大学出身ではなかったために、ユンと同じ仕打ちを受けている。ただ、在日韓国人の秋山には「日本に帰化する」という〝奥の手〟があり、実際に秋山は日韓両国で五輪出場に挑戦している。一方、〝奥の手〟や〝逃げ道〟のないユンは、なんとか打開策を探すしかなかった。

そのような困難な状況の中で、ユンは寝技に磨きをかけていくようになる。相手に〝参った〟させ、失神させれば審判に介入されることはないからだ。現在のチームメイトであるチョン・ブギョンも、同様に不正判定によって苦しめられた男である。両者は奇しくも寝技主体の柔道家へと変身していく。MMAデビューして間もない彼らが、最初から極めの強い関節技や、実践的でアグレッシブな

グラウンド技術を持っていたのは、このような背景があったからである。かつて、韓国柔道界の不正判定に苦しめられた経験が、MMAにおいては彼らの助けとなる。――皮肉な結果と言うほかない。

〝実力〟で闘える喜び

その後、ユンはヒザのケガもあって現役を引退し、選手村で鬼コーチとなってチョン・ブギョンらをビシビシ指導するようになる。だが、ユンの「胸中には、はたせなかった思いだけが残っていた」（前掲『スポーツ2・0』より）のだった。現役を引退しても、ユンの〝格闘家〟としての闘志が消えることはなかった。

05年、瀧本誠や吉田秀彦といった柔道出身の格闘家のライバルを探していたPRIDEからオファーをもらったユンは、すでに現役生活を退いてから一年以上経っていた。悩んだ末に受けることにしたユンは、デビュー戦であっなく桜庭和志に38秒でTKO負けしてしまう。試合前、自信満々に発言していたため、母国・韓国では〝人間サンドバッグ〟、〝臆病者〟、〝韓国柔道界の面汚し〟などと、おおいに批判された。結局、ユンはPRIDEでは1勝も挙げられず、4連敗と結果を出せなかった。しかし、ユンは落胆しなかった。「どの試合でも進歩している自分を感じることができたし、勝てそうな試合で惜敗していたので、敗北感にさいなまれることはなかった」（ラジオ番組『アイ・ラブ・スポーツ』08年3月10日出演時・談）という。

ユンの柔道家時代は、厳密に言うと相手選手との闘いではなく、〝勝敗を作り出す魔術師〟と批判された審判たちとの闘いだった。理不尽な不正判定で負けにされる悔しさに比べれば、MMAで自分より強い相手に〝実力〟で負けることは、むしろ清々しいことだった。挫折を味わった者は、艱難との向き合い方を知っている。だからこそ「悔しくても敗北を認めることができてこそ、真のファイターではないか。試合で負けたことに弁解の言葉を並べるのは、相手の選手に対する礼儀ではない。敗北を肯定的に解釈し、何かを学ぶチャンスと考えるべきだ」（前掲『スポーツ2・0』より）と言えるのだろうし、闘って自分より強い者がいれば、素直に頭を下げてその強さの根源を知ろうとするのだろう。

実際、ユンは桜庭に敗北したあと、すぐに高田道場に入門。ムリーロ・ブスタマンチに敗れたあとには、ブラジリアン・トップチームで武者修行をしている。



ユンは、手ごわい相手との対戦を決して断らないことで業界でも有名な選手である。現在でも、嬉々としてミルコ・クロコップ、マーク・ハント、ヴァンダレイ・シウバ、エメリヤーエンコ・ヒョードルの名前を挙げて、「いつか対戦したい」と語るユンは、純粋に対戦相手と強さを競い合えることを楽しんでいるようだ。

昨年、ユンは「二年間、日本に一人で住みながら、いろいろ考えた。男に生まれて、実力で自分がどこまで這い上がることができるのか。それにチャレンジできるのだから、素敵な人生だ。いまの幸福をいつまで享受できるだろうか。年齢的に考えて短い期間にならざるをえないのは、残念なことだ。いまを大切に考え、後悔なくやりたい」（『スポーツソウル』07年6月11日付）と喜びをかみしめるように語っている。

もはや、ユンの中に、不正判定で敗者とされ、次第に「審判の判定を気にしすぎて、闘う上で何が大切なのかわからなくなっていた」（チーム・ユン公式WEB08年4月5日掲載記事）自分はもういない。そこには、純粋な闘いに専念できる喜びだけがある。

いまのユンの憧れは、元UFCチャンピオンのランディ・クートゥアーだという。「クートゥアーは、家族と登山したり、自転車に乗ったりして、生活自体がトレーニングの延長線だったと聞いている。できれば自分もクートゥアーのように、格闘技を長く続けたい」（『ノーカットニュース』08年5月19日付）と語る。36歳になっても少しでも長く闘い続けることを願うユンは、全盛期に望んでもはたせなかった〝夢の続き〟を追いかけているように見える。

エキストラから主役へ

PRIDEで4連敗したあと、『HERO'S』、そしてDREAMで4連勝を飾ったことで、日韓両国でユンの注目度は増している。しかし、DREAMのチャンピオンになることを心から願い、GPに集中するユンは、最近テレビへの出演や雑誌の取材を極力断っている。

「自分の職業は格闘家だから、ある程度自分をPRするのはいい。しかし、そこに陥って潰れてしまった選手もたくさん見てきた。そうやって自分を宣伝するよりも、DREAMのGPで優勝することのほうが自分にとっては、もっと重要なことなんだ。自分は歌もヘタだし、妙な浮気心もない」と、韓国でCMタレントや歌手として大活躍する秋山への暗喩を含ませながら、「率直に言って、自分たちはしょせんエキストラ。お払い箱。だから常に緊張しながら練習に励むんだ」（ともに前掲『スポーツ2・0』より）とシリアスに言い放つ。


いまのユンから、桜庭戦の前に口にした刺激的な発言は、一切聞こえてこない。そこには、ただ格闘技に対する深い愛情と、〝闘い続けること〟への真摯な思いがあるだけだ。

ユンには、秋山のような選ばれた者が持つ華や、多様な才能もない。現時点では、本人が言うように〝エキストラ〟的なポジションにいるかもしれない。だが、残り8人となったDREAMミドル級GPにおいて、ユンは優勝を狙える位置につけている。次の『DREAM・4』の闘いと結果いかんでは、一気にGPの中心に躍り出ることもありうる。

〝エキストラ〟から〝主役〟へ、そして〝悲運の柔道王〟から〝真の勝者〟へ。

主役となるべき力がありながら、その機会に恵まれなかった男の格闘技人生最高の瞬間。我々は、このGPでその瞬間を目のあたりにするかもしれない。

（大川義之）



奇天烈グラップラー

青木真也



Kamipro登場2年目にしてようやく

極めを語る

ここ最近は毎号のように本誌に登場している世界のワオ木さん。
だが、PRIDE休止後、試合から遠ざかっていたこともあり、
あんなに寝技が強いだなんて忘れてた。カルバン戦はホントにビックリ!!
……というわけで、まるで青木の寝技に注目してことなかった本誌も重い腰を上げましたよ!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／タイコウクニヨシ

──青木さんが『kamipro』に登場してから2年近く経ちますが、ついに〝寝技〟の話を聞くときがきました！

青木 え？ いいんですか、『Kamipro』なのにそんなテーマで（笑）。

──はい。でも、技術的なことはズバリ言ってよくわからないんで、寝技に対する〝姿勢〟について聞こうかな、と。

青木 もうワオ木真也は、昔から一本勝ちを狙う寝技です！（キッパリ）。

──まず、どうして昔から寝技にこだわっていたんですか？

青木 それは立ち技のセンスがなかったからですよ。中学の柔道部の先生に「オマエは立ち技のセンスがないから、寝技をやりたまえよ！」って言われて。あのときからボクは寝技にこだわってきました。もともと寝技好きだったということもあるんですけどね。高校に入った頃、（佐藤）ルミナさんが修斗で飛びつきの腕十字をやったりしてたんですよ。それに憧れたんですよね。

──高校柔道界ではかなり異色な存在だったんじゃないですか？

青木 はい。「そんなの柔道じゃねえ！」ってみんなに言われて。でも、それが最高に気持ちがいいんですよ！

──逆に快感になって（笑）。自分は全然、詳しくないんですけど、そういう柔道で勝ち上がっていけるものなんですか？

青木 肝心なのは勢いですよね。つまりケンカ柔道です。ハッタリとケンカ。

──スタイルに限界を感じることはありませんでした？

青木 いや、それはありましたねぇ。だんだんとそれは感じました。試合はトーナメントだから、一日に5〜6回も奇跡を起こさなきゃいけないのは大変だなと思って。

──そうか。柔道で関節を極めるって、奇跡という表現が適当なんですね。

青木 でも、ボクと闘うことに相手はチョー嫌がってましたよ。いわゆる正統派の柔道じゃない。やったら壊されるんじゃないかって。

──けっこう壊した選手はいるんですか？

青木 壊しましたね（キッパリ）。

──さいですか（笑）。

青木 さっきは〝奇跡〟って言い方しましたけど、そのスタイルでけっこう上まで行ったんですよ。だって、当時ボクと競ってた選手が、最近のオリンピック選考会で8位だったんですよ。だからボクもちゃんと柔道を続けてれば、今頃は……。

──東原亜紀と結婚してたかも（笑）。

青木 そうで〜す！ ククク。

──それなのに、どうして大学の途中で柔道を辞めたんですか？ 柔術や総合に興味を持ち始めたからですか？

青木 まあ、それもあるんですけど、単純にクビになったんですよ。早稲田の柔道部から「もうオマエ、来なくていいから」って言われて。クビになっちゃうと所属がなくなるから柔道を続けられなくなっちゃうんです。

──悔いはなかったんですか？

青木 悔いはありましたけど……その頃は「オレは柔道より総合をやりたい!!」っていう気持ちが強くなってたんで。十段（今成正和）とも出会って、バンバン練習してましたし。

──その今成さんとスパーリングをやり続けてた時期がいまの青木さんを支えてるというようなコメントをしてましたよね。

青木 そうですね。十段がZSTを離れたあたりからの半年間、新宿のスポーツセンターでずっと二人でスパーをやって

ボクにとっての寝技はMMAで通用しなきゃ意味がない
高校で柔道やってた頃からMMA志向です

ました。あの半年間のあいだに、ボクのいまの極めの力は養われましたね。

──青木さんはMMAに通用する寝技を究めたいと思ってたんですよね。

青木 はい。MMAで通用しなきゃ意味がないです。柔道やってた頃からMMA志向だし。だってボク、高校生のときに『PRIDE・1』の高田vsヒクソン戦を観て、「オレならヒクソンを極められる！」と思ってましたよ！

──そんなに自信があったんですか！

青木 でも、それはボクが勘違いしてたんですよ。いま思えば、当時のMMAも相当レベルは高かったんです。

──でも、その勘違いがいまの道に至ってるわけですね（笑）。

青木 そう。まったくいい意味に勘違い（笑）。だって十段がZSTで活躍してた頃も、自分なら普通にぶっ飛ばせると思ってましたよ。でも、スパーしてみたら逆にぶっ飛ばされたんです。スゲエ強かった。まあ、いい意味での勘違いですよね。悪い勘違いは怖いから。

──いまもレベルは日進月歩の世界なんですよね？

青木 メチャクチャ上がってると思いますよ。それは選手が常に研究しまくってるところがあるんですけど。いまはちゃんとやんないと勝てないですよね。

──もう寝技に穴がある選手っていなくなりましたよね。

青木 そう。だからこそ逆にスペシャルな選手もいなくなったし。みんな優等生じゃつまんねえっす！

──そういう意味では、青木さんはスペシャルな寝技を持ってますよね。

青木 寝技で狙うのは一本ですよ。それ以外の寝技はウ○コみたいなもんですからね！

──ウ○コな寝技ですか（笑）。

青木 日本人でいったら、じつは極められる選手ってそんなにいないんですよ。押さえ込みやパスガードがうまい選手はいますけど。だから、いまの総合で極めにいく寝技って、自分と十段と北岡（悟）さんくらいかな。

──その3人はスペシャルですか。

青木 ですね。この3人、みんな極めのスタイルが違いますから。十段は〝飛ばし系〟じゃないですか。アキレス、ヒール、下からの十字もあって。で、ボクは柔術のエッセンスがより強いんですよ。

──青木さんからすると、今成さんは柔術の匂いはするんですか？


青木 自分が思うに十段はね、パスガードができなくて足関に磨きがかかったタイプなんですよ。柔術ってのはパスガードがエッセンスなんですね。でも、十段は柔道経験がなくて柔術がなかった時代なんで、足を越えるっていうのがわかんなかったと思うんですよね。それで足関が強くなったと思うんですよ。で、十段と比べて、ボクは腕とか首を取る技術が高いんです。でも、足関節はアキレスだけっていう。北岡さんは、ギロチン、アームロック、肩固め。リーチが長い選手のお手本かな。3人が3人とも、クセがあるというか、一緒じゃないんですよね。

──いまの世界水準からすると、青木さんのスタイルって珍しいですよね。

青木 天然記念物です！

──保護しなきゃならない（笑）。

青木 地味な極めだったらジェイク・シールズとかいますけどね。あとビトー・〝シャオリン〟・ヒベイロも極めが強いですね。あれはホントにベーシックな型。


SHINYA AOKI

――ほかの柔術系で気になる選手っていますか？

青木 ジャカレイの極めは凄いですね。ホジャーはわからないです。MMA、そんなにやってないし。ノゲイラはMMAの中ではうまいですよね。みんなノゲイラには極め極め系のイメージがあるけど、じつは下からのスイープが強いんですよ。

――柔術系でいうと、ヒクソンはどうですか？ MMAでは全試合一本勝ち。

青木 ヒクソンは最近の選手でいうとパウロ・フィリオ型ですよ。パウロ・フィリオは固め系だけど、ベーシック。パスガードも強いし、十字も強いっていう。

――ヒクソンの息子のクロンは、柔術の試合ですけど、51戦連続一本勝ちという記録を更新中です。

青木 あれも超グレイシーですよね。

――クロンはいまの柔術にはけっこう珍しい選手なんですか？

青木 珍しいですね。あれは技術というより、それこそ単純な〝姿勢〟なんじゃないですか。要は、生まれた頃からヒクソンから教わって、「柔術っていうのは、こうやって倒して、パスガードしてアウトポジションを取って、相手の首を絞めるもんだ」っていう信念があるんでしょうね。

――ポイントを取る柔術じゃないという。

青木 そう。セ○○リ柔術じゃないですよ。一本を極めにいく柔術。要は、寝技って考え方の違いなんですよ。どんな信念を持ってやるかどうか。

――しかし、セ○○リ柔術っていう言葉は凄いなあ（笑）。

青木 いまの柔術はみんなそうですよ。自分が気持ちいいだけ。アブダビ（コンバット）も公開セ○○リショーですよ！

――ダハハハハ！ 青木さんとカルバンの試合が海外で評価が高いそうですけど、あんなおもしろい寝技の試合ってなかなか観られないですもんね。

SHINYA AOKI

周囲に研究される怖さ？ 全然ないですよ。だってそれ以上に研究してますもん

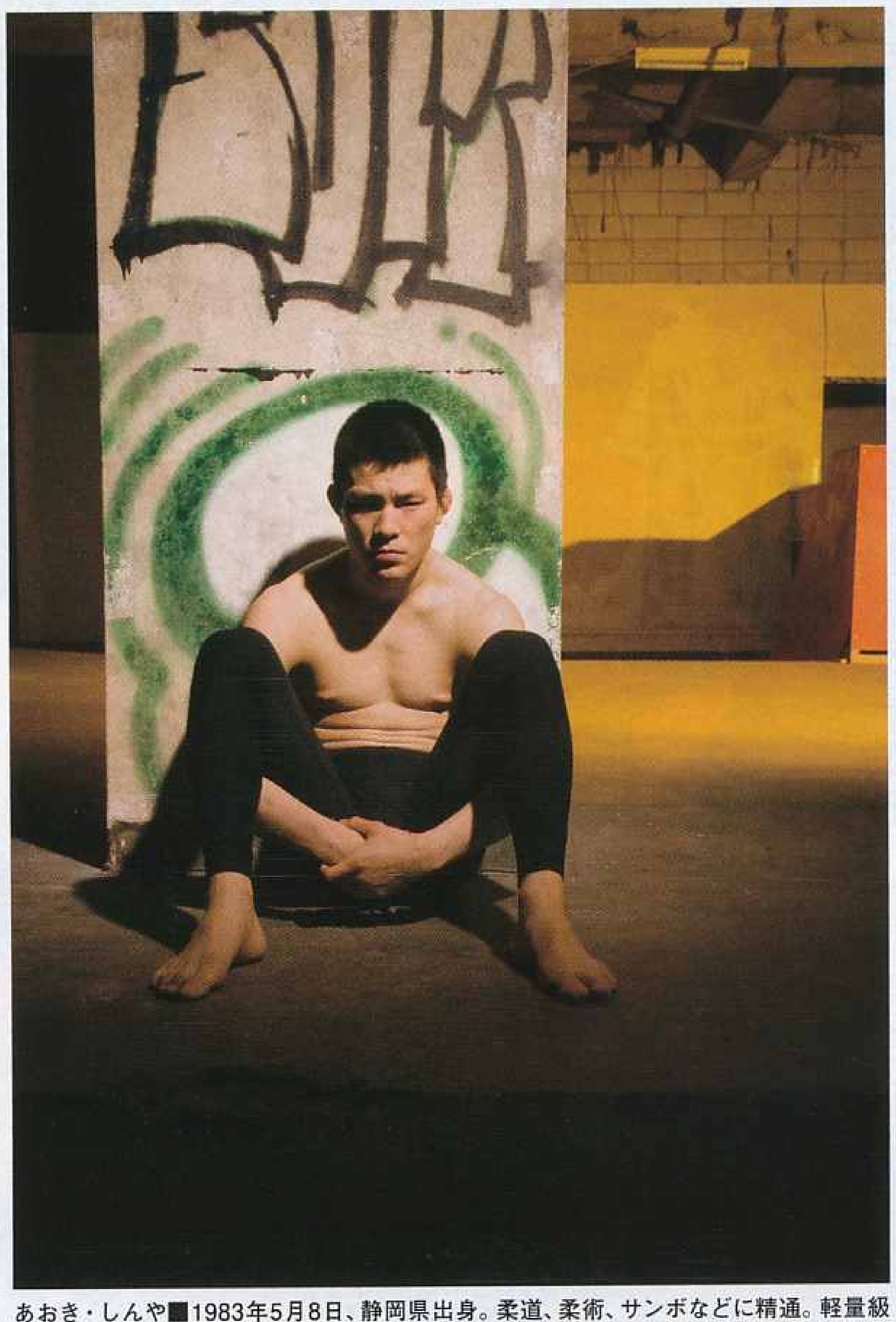
青木 みんな殴って殴ってですから。アメリカ人が知ってるグラップラーの日本人って、じつは二人だけなんです。マサカズ・イマナリとシンヤ・アオキですよ！

――ホントですか⁉ しかも自分で言いますか（笑）。

青木 ククク。向こうのオタクたちに超人気なんですよ。十段の人気はオレより上でしょうね。ネットでチェックすると、マサカズ・イマナリ人気は凄いです。前に十段が出たケージ・レージが全米放送されたじゃないですか。「なんだ、あの足関は⁉」って騒ぎになってましたよ。

――青木さんや今成さんのスタイルが主流になることってありえるんですかね？

青木 ないでしょう！（キッパリ）。だってみんなが十段の寝技できないっすもん。



あおき・しんや■1983年5月8日、静岡県出身。柔道、柔術、サンボなどに精通。軽量級最強グラップラーの呼び声が高く、あのJ.Z.カルバンを完封した。好きなタイプは谷亮子。不倫で金⁉？ 181cm、70kg。

怖くて相手の下に滑り込めないですもん。で、ボクのマネも誰もできないです。

――ラバーガードは流行るかもしれないけど、青木さんのマネはできない。

青木 できないですし、たぶん万人には自分のスタイルは教えられないです。けど、ボクはいいトレーナーになりますよ。どんなテクニックでもわかりやすく教える自信がありますね。

――自分のテクニックを公開することで、周囲に研究される怖さはないですか？

青木 全然ないですよ。だってそれ以上に研究してますもん。ボクら常に足りないと思ってるから、どんどん新しいことを探してますから。日本の試合だけじゃなくて、いま世界の技術がどうなっているのか、注意深く見ていますよ。

――UFCでよく言われるのは、金網とリングの違いじゃないですか。寝技に関してはその違いはあるんですか？

青木 ないですね。単純に広さの問題くらいでしょ。

――ヒジのあり・なしはどうですか？

青木 知らない人がヒジだからとか言ってるだけですよ。

――そんなもんですか（笑）。

青木 ボクもやったことないんだけど（笑）。それでも言っちゃうんですけど、そんなに変わらないと思いますね。要はコーディネートの差なんですよ。アジャストできるか、できないか。だってボクも「青木真也は踏みつけのあるリングじゃ勝てない」って言われてましたからね。でも、そんなことはなかったわけで、そこはコーディネートできるかどうかですよ。

――そう言われると、UFCで闘う青木真也が観てみたいなあ。典型的なMMAファイターとどう闘うのか。

青木 ロマンありますよね～。殺るか、殺られるか。

――DREAMでいえば、エディ・アルバレスは典型的なMMAファイターですよね。


青木 エディはオラオラしてるから、ボクとやったらおもしろいんじゃないですか。なんか「職業・ケンカ」って感じじゃないですか。まだ底が見えていない感じします し。カルバンもボクとやる前は底が見えなかったんですけど、そういう選手とやるのはロマンがありますよね。

――その前に永田克彦選手とのライト級GP2回戦が控えてますね。

青木 全然なめてないですよ！ たぶん固めてくるから、そこをどう動かすか。ボクのためのトーナメントだと思ってるので絶対に優勝します！

――わかりました。素晴らしい試合と、ロマンあふれる極めを期待しています！

【08年5月9日／都内某所にて収録】



6.15『DREAM.4』
ハレック・グレイシー戦
グラップリングマッチ
出陣の真意を独占激白！

MIRCO CRO COP

ミルコ・クロコップ

“白帯”からの出直し

6.15『DREAM.4』でミルコvsハレック・グレイシーのグラップリングマッチが決定！
ストライカーであるミルコがなぜこのタイミングでグラップリングマッチ出場を決意したのか？
そして次回のMMAはいつになるのか？　国際電話でミルコに独占直撃した！

聞き手&撮影／堀江ガンツ　試合写真／乾普也



スタンドで大苦戦した05年のヒョードル戦でミルコを助けたのは、必死に習得した寝技の技術。ヒョードルのパウンドを防ぎ、下からの腕十字や三角絞めで、なんとか逆転を狙っていた。はたして寝技だけの試合でミルコの技術はどこまで通用するか？

負けは恐れない。この経験が自分のMMAキャリアに少しでも役に立てばそれでいい

――ミルコ選手、試合前のお忙しいところすみません。6・15『DREAM・4』でのグラップリングマッチ出場。そのプランがあるとは聞いていましたが、本当に実現するとは驚きましたよ！

ミルコ　まあ、みんなに驚いてもらえるだけでも、挑戦する意義があるということだよ。

――そもそも、なぜグラップリングマッチをやろうとしたのか、あらためて教えてください。

ミルコ　２００８年は、自分にとって紛れもない「出直し」の年だからね。初心に返るという意識を、自分の中できっちりと浸透させるため。そして新しい「挑戦」を自分に課すために、何をすべきかをマネージャーとじっくり話をしている中で出てきたアイデアなんだ。

――確かにストライカーであるミルコ選手がグラップリングマッチに出場するというのは、チャレンジ以外の何ものでもありませんよね。

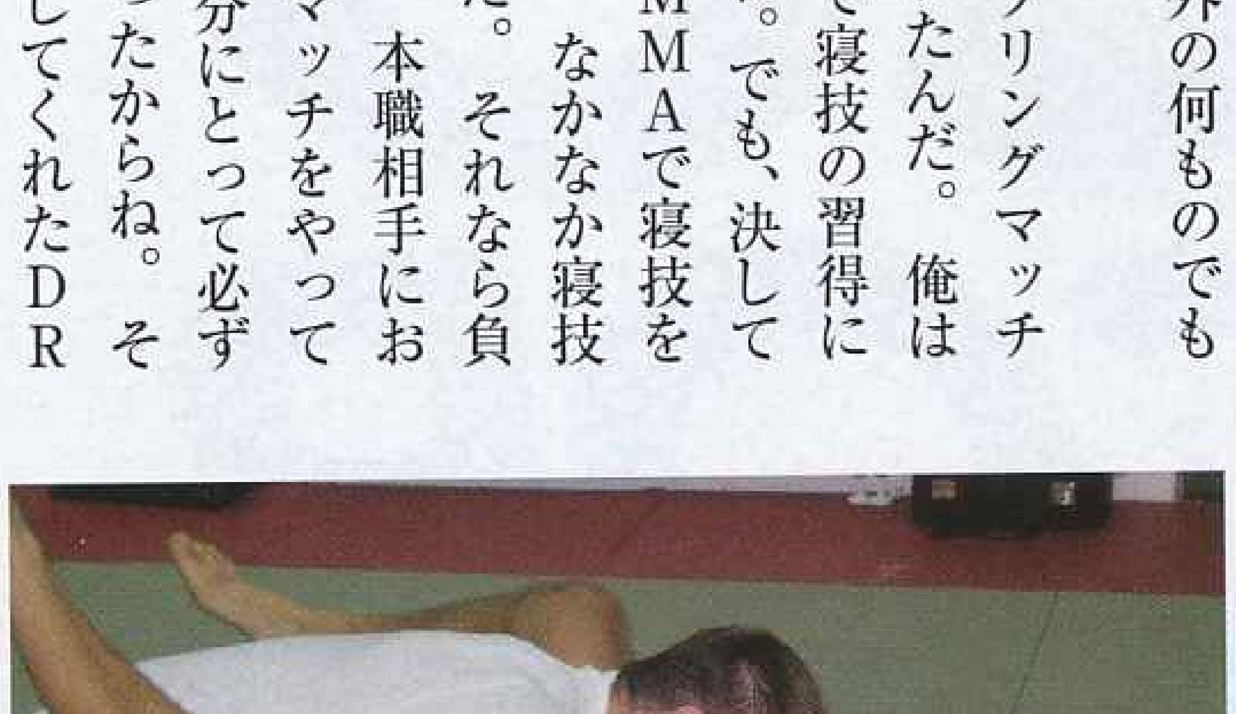
ミルコ　以前からグラップリングマッチはやってみたいと思っていたんだ。俺はもう7年間も死に物狂いで寝技の習得に取り組んできたんだからね。でも、決して負けることが許されないMMAで寝技を試すのはリスキーなので、なかなか寝技で闘うチャンスがなかった。それなら負けてもともとの気持ちで、本職相手におもいきりグラップリングマッチをやってみようと思ったんだ。自分にとって必ずプラスになるだろうと思ったからね。そのチャレンジの場を提供してくれたDREAMに感謝をしたい。

――ちょっと確認しておきたいのですが、6・15『DREAM・4』でグラップリングマッチをしたあと、当初の予定どおり7・21『DREAM・5』でMMAの試合を行なうと考えてよろしいですか？

ミルコ　そうだ。ここに照準を合わせてトレーニングメニューを組んでいる。前回が3月だったから、7月だと4カ月以上試合間隔が空いてしまうので、どこかでピークアウトしたいと思っていたんだ。だから、MMAの5週間前にグラップリングマッチがあるというのは、自分にとってもありがたい。

――グラップリングマッチのための練習で、MMAへの準備が遅れることはありませんか？

ミルコ　ありえないね。むしろプラスに働くと思う。



ハレックよりはるかに実績で上回るファブリシオ・ヴェウドゥムと、寝技のトレーニングを積んできたミルコ。この経験がミルコの自信になっている。

ハレック戦では白帯を巻いて入場したい「0からの出直し」「0からの挑戦」だからね

——4月にオランダで打撃の練習中、軽いケガをしたと聞きましたが、ケガの状態はもう問題ないのでしょうか？

ミルコ　たいしたことはない。オランダ、チェコへの連続遠征で気合いが入りすぎただけだ。俺だけではなく、逆に俺がケガをさせてしまったギルバート・アイブルにはたいへん申し訳なく思っている（ミルコとのスパーリングでケガをしたアイブルは、4月にオランダで予定されていたアリスター・オーフレイム戦を欠場した）。それほど激しいスパーリングをしたということさ。

——わかりました。では、グラップリングマッチの話に戻りますが、今回、そこそこの相手ではなく、あえてハレック・グレイシーを相手に選んだ理由はなんですか？

ミルコ　これは自分にとって本当に「挑戦」であるわけだから、グレイシー柔術というものを生み育んだ一族の誰かとやるべきだと思い、DREAM側に無理を言って、交渉してもらった。

——ただ、いくらミルコ選手が寝技の練習を長年積んできたとはいえ、黒帯柔術家との対戦では明らかに分が悪いように感じてしまうのですが……。

ミルコ　みんなにそう思われるのはあたりまえのこと。彼らは言葉をしゃべり始めるぐらい幼少の頃から、柔術とともに育ってきたわけだから、自分とはそもそも「経験の蓄積」という部分で比較にならないだろう。だから、負けてあたりまえという挑戦の中で、今後の自分のMMAのキャリアにプラスになるもの、学べるものが少しでもあれば、それだけでもかまわない。ただ、やるからには、たとえ1パーセントしか勝つチャンスがなくても、グレイシーと本気で勝負してみたいと思っているよ。


『HERO'S』ではベーシックな技術で柴田勝頼に完勝したハレック。まだまだ底を見せていないが、黒帯を授かるのが難しいとされるグレイシー性の黒帯柔術家だけに、その実力は確かであろう。

MIRCO CRO COP

——グレイシー・ファミリーについてどういった印象をお持ちでしょうか？

ミルコ　うらやましいよ。自分のファミリーの名前が柔術の系譜になっているなんて。自分がいま人生を懸けて取り組んでいるMMAだって、彼らなしでは存在しえなかっただろうからね。そういった部分で敬意を表している。

——ところでミルコ選手は普段、グラップリングの練習は裸でやっているのですか、それともギ（柔術衣）を着てやることもあるんですか？

ミルコ　もちろんノー・ギだ。あくまでも俺にとってはMMAのキャリアのために、練習しているわけで、練習でギを着る必要は、いまはないね。

——当日のコスチュームはどうなりますか？

ミルコ　いつもと同じだよ。ただ、入場時にギを着るかもしれない。

——ミルコ選手の柔術衣姿は新鮮でいいですね！

ミルコ　もしギを着るとしたら、ホワイトベルト（白帯）を巻いて入場したい。「0からの出直し」「0からの挑戦」ということでね。

——ミルコ選手は寝技主体の選手、たとえば青木真也選手なんかについてどんな印象がありますか？

ミルコ　アオキの試合は、何試合かビデオを見せてもらったけど、彼は日本の宝じゃないか？　この前の試合は負傷アクシデントでの再試合という、心理的にJZ（カルバン）が有利だったのに、それを覆したのは素晴らしいこと。彼が俺にサブミッションを教えてくれるなら、左ミドルキックの蹴り方を教えようかと伝えてくれ。

——了解しました。ミルコ選手は、これからもグラップリングマッチをやる予定ですか？　それとも今回が最初で最後ですか？

ミルコ　もちろん継続していくつもりだよ。今回勝てなかったら、勝つまでやるくらいの気持ちでね。

——以前から『アブダビ』出場希望なども口にしていましたが、次回大会に出場したい気持ちはありますか？

ミルコ　今年はない。ただ、来年以降はわからないね。

——今後、グラップリングマッチで闘ってみたい相手はいますか？

ミルコ　今度の試合のあとに考えるよ。その次を考えることは、悪いジンクスだから。俺にとっては今回のハレック・グレイシー戦も真剣勝負以外の何ものでもないからね。

——今後、グラップリングではなく、MMAでグレイシーと闘いたい気持ちはありますか？

ミルコ　もちろん。ヘビー級で俺と闘える選手がいるならやってみたいし、若い選手がいるなら、今度は俺が挑戦を受ける立場になってもいい。

——では、最後に初のグラップリングマッチへの意気込みを聞かせてください。

ミルコ　日本のファンの皆さん、俺は柔術白帯だけど、今回は「挑戦」することに意義があると思っています。死に物狂いで挑戦するので、応援してください。

——では、初のグラップリングマッチ、期待しております！

【08年5月27日／国際電話にて収録】

PICK UP DREAM MIDDLE WEIGHT FIGHTER

金泰泳

空手魂

いまなお活躍を続ける〝歴史上〟のファイター!!

「総合で闘っても自分は空手家。僕にとってはすべて異種格闘技戦」



総合格闘技のリングで闘い、勝利を収める金泰泳の姿を見ていると、いつも二つの気持ちが湧いてくる。〝そりゃあ強いに決まってるよ〟と思い、同時に〝この人、なんで総合やってんだ?〟という疑問も生じるのだ。

間違いなく金は強い。その格闘センスは、ほとんどずば抜けていると言ってもいいくらいだ。ただ、その強さは〝歴史〟の中のものだったはずである。歴史上の人物が現在の総合マットで活躍している。そんな不思議な、かつ幻想性の強い存在が金泰泳なのだ。

筆者が金の試合を初めて生で観たのは、『格闘技オリンピックII』のマンソン・ギブソン戦だった。空手とキックのミックスルールで行なわれたこの一戦、金は大方の予想を覆して勝利を収める。K―1がスタートする前年、1992年のことだった。

金はK―1、キックで中量級の中心選手として活躍した。港太郎など国内のライバル、チャンプア・ゲッソンリットをはじめとする世界の強豪たちと渡り合い、95年の中量級トーナメント『K―3グランプリ』では準優勝をはたしている。決勝でイワン・ヒポリットに敗れたものの、再延長判定2―1という超僅差の勝負だった。また、タイで開催された『国王就任50周年記念大会』にも出場、WMTC世界ミドル級タイトルマッチを闘っている。バックボーンである空手では、空手ワールドカップに優勝。グローブ着用、顔面パンチありのトーナメント『トーワ杯』でも活躍した。

つまり――金泰泳という選手はフルコンタクト空手の強豪であり、空手家がグローブを着けて顔面パンチありの試合で闘い始めた時代の先駆者であり、K―1で中量級をスタートさせた〝早すぎた魔裟斗〟であり、なおかつ〝打倒ムエタイ〟のトップランナーでもあった。K―1から始まるプロ格闘技のメジャー化、その勃興期にあってありとあらゆる闘いに身を投じ、結果を残してきた選手なのである。その活躍ぶりはもはや歴史であり、伝説である。

そういう選手が、一度は引退したものの総合格闘技のリングで復帰し、2008年にDREAMミドル級グランプリで2回戦進出をはたしている。チャンプアと激闘を繰り広げた男が、それから15年近くも経ってゼルグ〝弁慶〟ガレシックと闘おうというのだ。

何歳になってもやっぱり強いなと納得する反面、なぜ、歴史上の人物が〝未来の格闘技ステージ〟にいるのかと頭がクラクラしそうにもなる。

彼が総合格闘技を始めるようになったきっかけは、2002年に国立競技場で開催された『Dynamite!』だった。この大会では当時、無敵を誇ったヴァンダレイ・シウバの対戦相手が見つからないという事態が起きている。そこで相手候補となったのが引退した身の金だったのだが、準備不足が理由で対戦は実現しなかった。

「引退はしたんですけど、やりたいって気持ちは残ってたんですよ。シウバ戦ができなかったときに凄い悔しくて〝次に話があったとき、絶対に出られるように素振りだけはやっておかなきゃ〟って思ったんです」

空手家だから、元K―1ファイターだから総合は関係ない。そういう気持ちにはならなかったと金は言う。

「逆に、凄い関係あると思うんですけどね。組まれたときにどうするかって、空手家としても考えておかなきゃいけないでしょう。総合の時代が来てるなっていうのも感じてましたしね。それに対応しておかないと、バッターボックスにも

立てない。それが嫌やったんですよ。もちろん、歳も歳だし、頭で考えたらNOですよ。周りに相談してもNO。でも直感で〝いったれ！〟って（笑）」

最初に練習を行なったのは、中井祐樹氏率いるパラエストラ。簡単に関節を極められ「やっぱり凄いなって」思ったが、出稽古はこの一回だけだった。正道会館内に組み技部門『柔法コース』を立ち上げ、独力で〝総合で勝てる空手〟を身につけていったのだ。

「最初はもう、ひたすら自己流のスパーリングですよ。だって、総合のビデオを見ても何やってるかわからへんかったから（笑）。空手家同士が、ああでもない、こうでもない言いながら、タックルしたりそれを切ったり」

なぜ、総合のジムに出稽古に行くのではなく、独学という道を選んだのかといえば「総合格闘家になりたいわけじゃないから」だ。

「総合のルールで闘っても、自分は空手家なんですよ。そこは外せない。総合格闘技をイチから勉強してたら、むしろ遠回りやないですか。僕にとって総合の試合はすべて異種格闘技戦なんです。空手家vsボクサー、空手家vsレスラーであって、総合格闘家同士の対戦じゃないんですよ」

金の総合デビューは2006年8月の『HERO'S』。ただしこれは、本人にとっても予想外のことだったようだ。

「柔法コースを作ったのは、空手家に総合でも勝ってほしかったから。自分が教えた選手に活躍してほしかったんですよ。でも、まだみんな素人だから試合には出られない。それで〝じゃあもう、オレが出たらええやん〟って（笑）。自分でもかなりのバクチやと思いましたけどね。でも試合に出たおかげで〝これは必要だな、ここはいらないな〟と大事な部分だけを見極めていくことができた。最短距離で強くなる道を選べるようになったんですよ」

金が総合の世界で進んできた道は、確かに最短距離だろう。なにしろ5戦目で、世界レベルのトーナメントのベスト8入りを果たしているのだ。それにしても、今年38歳になる金がここまで強く、モチベーションが衰えないことには恐れ入る。もっとも、本人に言わせると「楽しいからやれてるんですよ」ということなのだが。

「人も楽しく、自分も楽しくというのが僕のテーマ。楽しくなかったらできませんよ。しんどいってことで言えば、格闘技よりも中学時代に新聞配達したことのほうがしんどかった（笑）」

空手、K―1、総合と、金は時代を越えて常に格闘技の最前線で闘ってきた。それはおそらく〝強さ〟というものに対する純粋な憧れを、いくつになっても持ち続けているからだろう。



ミノワマン戦の煽りVでも紹介されていたように、学生時代の金は地元では知らない人間がいないほどのワルだったらしい。とあるベテラン記者に聞いたところによれば「ケンカと女はバリバリ」。携帯電話のなかった当時、〝通常用〟と〝おねえちゃん用〟、それに〝ケンカの連絡用〟に三つのポケベルを持ち歩いていたともいう。

正道会館でも、鳴り物入りでプロ参戦を決め、総本部に練習に来ていた某アスリートの傲慢な態度に怒り、〝きっちりシメといた〟こともあるそうだ。

ミノワマン戦の前には「キャッチボールがしたい」というコメントも残している。一方的な勝った負けたではなく、試合を通じて相手と何かしらの〝やりとり〟がしたい、と。

「ミノワさんとの試合は、相手がどんなボールを投げてきても受けてやるってつもりだったんです。そしたらミノワさん、おもいっきり直球を放ってきましたね。いつもみたいな変化球はなかった」

金が望むキャッチボールが成立しなかった相手もいる。

「秋山（成勲）選手ですねぇ。こっちがグローブ着けて構えてたら、いきなりサッカーボール蹴ってきた感じで（笑）」

もう一つ、紹介したいエピソードがある。2000年、金がスタン・ザ・マンと引退試合を行なう数ヵ月前のことだ。格闘技雑誌『SRS・DX』編集部に所属していた筆者は、大阪出張の際に谷川貞治編集長たちと金の経営するチャンコ屋で食事をした。雑談の中で、金がこう言った瞬間は忘れられない。

「一回、桜庭さんと練習してみたいんですよ！」

当時の金は、すでにK―1の第一線から離れていた。もちろん総合デビューなどまったく考えていなかっただろう。そういう金が、桜庭に会いたい、練習したいと目を輝かせたのである。

最終的に出場はかなわなかったものの、金は6月のK―1ジャパンGP参戦も希望していた。昨年のアジアGPでは藤本祐介にヒザ蹴りの連打で圧勝しているだけに、もしエントリーしていたら優勝していたんじゃないかという気がする。もしかして、K―1ワールドGPとDREAM、両方のチャンピオンになろうとしてるんですか？　そう聞くと「さすがにそれは」と笑った金だが、続けて発した言葉は、いかにも彼らしかった。

「ジャパンGPって、若い選手がたくさん出るでしょ。格闘技だけでは食っていけない、ガツガツしたハングリーな選手が出てくる。そういう中に入って〝ハングリーだけが強さやないねんぞ〟ってところを見せたいんですよ。〝裕福になったら弱くなる〟っていうけど、オレはちゃうど、〝おまえら、オレの歳になったときにこんなことができるか〟って。もうね、同じ舞台に上がっただけで僕の勝ち（笑）。試合の勝ち負け以上に、人間的なスケールで勝ちたいんですよ」

不良時代のケンカも空手もK―1も、それに総合も、金の中では同じベクトルにあるのかもしれない。どんなかたちであれ〝強さ〟を求める姿勢、ジャンルを越えて〝強い人〟に感応するセンス。それが金の本質なのだろう。そこにルールや年齢は関係ない。〝強さ〟を求める気持ちがある限り、何歳になっても彼は現役の空手家であり、〝空手道〟ははてしなく続く。〝引退〟や〝選手としての終わり方〟という言葉が、これほど当てはまらない選手はほかにいないはずだ。

（橋本宗洋）

Special PRESENTS

今回もスペシャルなグッズが出るぞ!
カミスペ読プレ、いざ!!

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2008年7月8日以降発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事＆その理由⑥つまらなかった記事＆その理由⑦DREAMに今後望むことは?⑧戦極に今後望むことは?

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部「夢、勝ちます」係まで

※締切は2008年7月7日(月)当日消印有効

kamipro Special
応募券
シャキーン!
(締め切り10秒前)

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

SENGOKU

戦極 ■ http://www.sengoku-official.com/pc/



1名様

ジョシュサイン入り3・5『戦極』旗揚げ戦大会記念Tシャツ

[レッド/¥4,200(税込)]
第二陣のメインで見事勝利し、エンディングでは話題の戦極ポーズ、そして、今号のインタビューではIGFポーズまで披露したジョシュのサイン入り『戦極』大会記念Tシャツが到着!



『戦極～第二陣～』オフィシャルパンフレット

[¥2,100(税込)]

2名様

5.18『戦極～第二陣～』に出場した各選手の解説をはじめ、ホジャーのインタビューも収録したパンフレットを2名様に。ホジャー、そしてグレイシーの歴史を大特集!



5名様

『戦極～第三陣～』ポスター

[¥525(税込)]

吉田秀彦 vs モーリス・スミスも決定! 三崎に藤田も出るぞ! 6.8、『戦極』が格闘技の"聖地"さいたまスーパーアリーナについに上陸! 『戦極～第三陣～』のポスターがいざ!!

DREAM

DREAM ■ http://www.dreamofficial.com/

DREAM.3 大会ポスター(B2)

[¥525(税込)]

決闘やれんのか!? とばかりの手に汗握る試合となった宇野 vs 石田戦で会場はまたまた大爆発! 試合後の川尻の喧嘩上等マイクも最高の『DREAM.3』のポスターをプレゼント。



1名様





各1名様

DREAM.3 大会記念Tシャツ

[ホワイト、ブラック/各¥4,200(税込)]

ライト級グランプリの準々決勝は名勝負の連発で場内大ヒート! ミラーやマヌーフも規格外の強さを披露! ミドル級準決勝への期待も膨らんだ『DREAM.3』Tシャツ。





1名様

サイン入り青木フンドシTシャツ

[ブラック/¥3,990(税込)]

"元・『HERO'S』絶対王者"カルバンに勝利し、次は永田克彦戦を控える日本が世界に誇るライト級のエース"バカサバイバー"青木真也のサイン入りフンドシTシャツを1名様に!

DREAM.3 オフィシャルパンフレット

1名様

[¥2,100(税込)]

アルバレス vs ハンセンのガイジン対決は予想を上回る激戦に観客も思わずスタンディングオベーション! 試合後の「二人が勝者」なマイクも感動を呼んだ『DREAM.3』のパンフを提供。

K-1

FEG ■ http://www.k-1.co.jp/



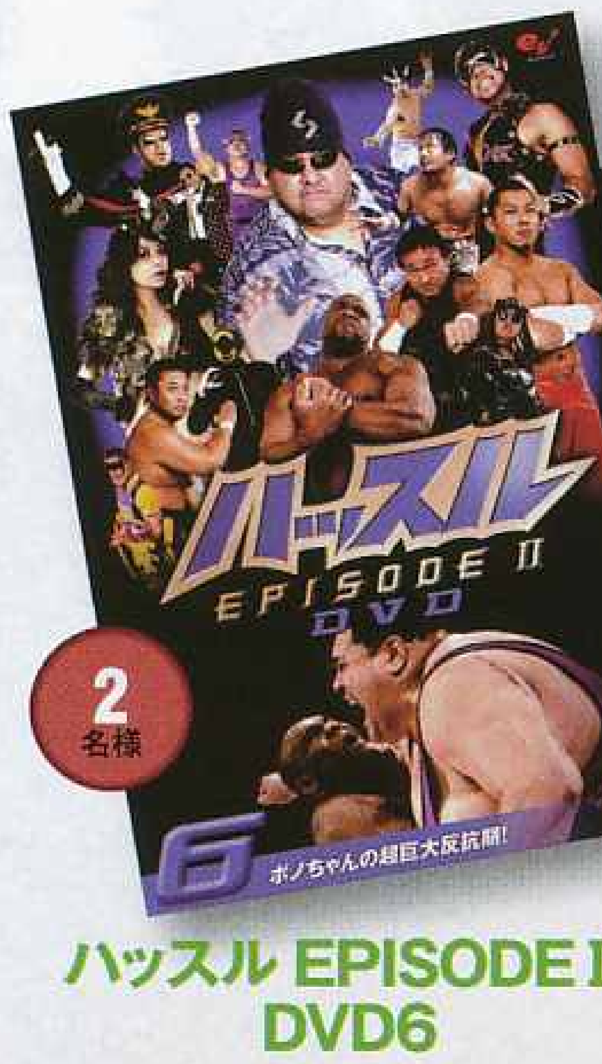
蹬落 -かかとおとし- Tシャツ

［ブラック／¥4,410(税込)］

ジャパンGPに武蔵とテイシェイラの参戦も決定し、群雄割拠の盛り上がりを見せるK-1から"蹬落"(かかとおとし)の文字を筆文字でプリントした渋いTシャツを2名様に提供。

HUSTLE

ハッスル ■ http://www.hustlehustle.com/



ハッスル EPISODE II DVD6

［180分／¥5,040(税込)］

パパに会えない寂しさからボノちゃんが母親であるインリン様に反抗し、モンスター軍を追放！ ボノちゃんがたくましく成長していく『ハッスル27』から『ハッスル29』を収録!!



インリン様 vs ボノちゃん 対戦記念Tシャツ

［ブラック／¥3,990(税込)］

『ハッスル』上半期の天王山決戦、5.24『ハッスル・エイド2008』では、インリン様とボノちゃんの親子の物語も感動のフィナーレ！ 二人の対戦記念Tシャツが堂々登場!!



ART JUNKIE

ART JUNKIE ■ http://www.artjunkie.jp/

カムバッククエストTシャツ

［ホットピンク／¥3,675(税込)］

おなじみART JUNKIEからは現在・長期欠場中の女子プロレス界期待の星、栗原あゆみを応援するために生まれた、明るいピンクの「カムバッククエストTシャツ」が到着！



ビル・ロビンソン・プロジェクトTシャツ

［レッド／¥3,675(税込)］

今号でジョシュも語っていた、本国で療養中のビル・ロビンソンを応援する企画『ビル・ロビンソン・プロジェクト』のTシャツ。バックには『KEEP THE CATCH』のプリント。

PANCRASE

PANCRASE ■ http://www.pancrase.co.jp/



川村亮×TMTコラボTシャツ

［ホワイト／¥4,500(税込)］

『戦極～第二陣～』ではランデルマンをあと一歩のところまで追いつめたパンクラスのホープ・川村亮と人気アパレルブランドTMTとのコラボTシャツを1名様にプレゼント。

REVERSAL

REVERSAL ■ http://www.rvddw.com/

STRIKE A GONG B.B Tシャツ

［ホワイト／¥5,040(税込)］

人気格闘技ブランドreversalからは新作『STRIKE A GONG B.B Tシャツ』が登場！ このほかreversal shopでは燃え盛る夏に向けて、渾身の新作が続々登場！ 詳しくはHPをチェック!!



TAKESHI YAMAZAKI Tシャツ

［ブラック／¥5,040(税込)］

『DREAM.3』では初代ライト級キング・オブ・パンクラシスト、昇侍に見事勝利したGRABAKA唯一の軽量級ファイター、"ロープ際のマジシャン"こと山崎剛のTシャツを1名様に。

QUEST

QUEST ■ http://www.queststation.com/



小林由佳イベント限定オリジナルトレーディングカード

5.17に行なわれたサイン会にてゲット！ 小林由佳の萌え萌えショット満載の、超貴重な「小林由佳イベント限定オリジナルトレーディングカード」を5名様にプレゼント。

跳関十段2 青木真也

［130分／¥5,880(税込)］

世界最高峰のガードワークを誇る"跳関十段"ことワオ木さんのグラップリングの極意を収録！ パラエストラ東京の若林太郎氏が手がけたDVDをサイン入りで1名様に。



小林由佳のキセキ

［235分／¥5,880(税込)］

萌えまくれ！ 華奢でキュートな容姿とキャラでアイドル的人気を誇り、バラエティ番組にも多数出演。外見からは想像できない強さも秘めた"天才女子空手家"小林由佳のDVD。



BOOK

晋遊舎 ■ http://www.shinyusha.co.jp/



サブミッション魂2

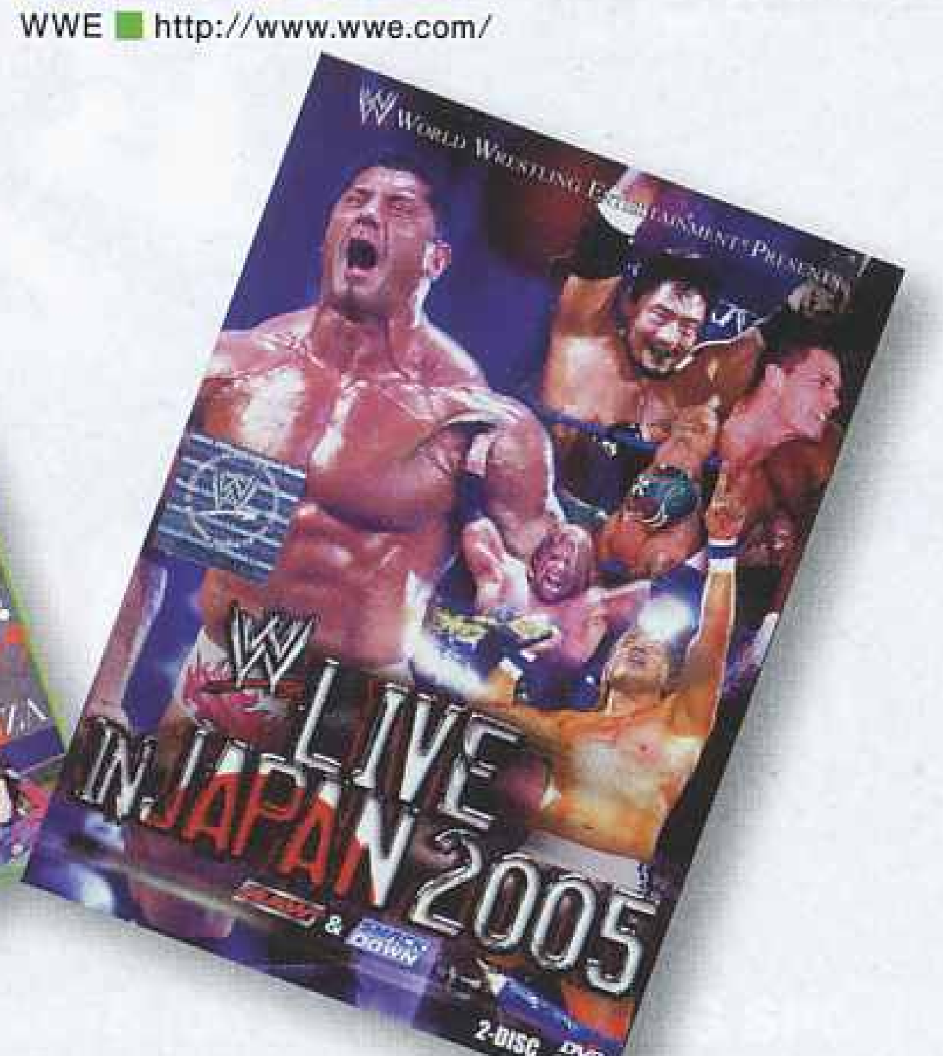
［晋遊舎／¥1,575(税込)］

極め技の魅力がたっぷり詰まったDVDつきムック誌『サブミッション魂2』が到着 青木、ジャカレイ、ブラボーのインタビューに技の解説もついたマニア必見の一冊だ!!

WWE

3 名様

WWE ■ http://www.wwe.com/



LIVE IN JAPAN 2005 DVD

［232分／¥5,880(税込)］

世界最大のプロレス団体・WWEがさいたまスーパーアリーナで日本初のTVショーを開催したあの「LIVE IN JAPAN 2005」のDVDが到着！ TAJIRI、フナキにケンゾーも見参!!



MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2008 JULY
2008年6月20日 発行

発行人
浜村弘一
編集人
斉藤慎一
編集統括本部長
ジャン斉藤
編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
大川義之
鈴木 佑
八木賢太郎(ロードショー公開のため非番)
終身名誉バイザー
吉田 豪
助っ人
ジャイ子
能登くん
上杉盗聴疑惑
編集次長(オークスもハズレ)
松林 貴

デザイン大将
出田さん(TwoThree)
デザイン司令長官
金井ヒサくん(TwoThree)
デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき (以上、TwoThree)
トメさん
はなえちゃん(以上、さおとめの事務所)
カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
梅木麗子
大甲邦喜
お勘定&衣料部
ニュー林様
防衛成功
BJ入江(TwoThree)

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠
助っ人営業
上野宏樹
業務部
樽本"逆目使用"義之
編集庶務
原 正典
山内ユリコ
終身名誉編集庶務
高木由美子
編集チアガール
金川奈津子
編集チアマダム
廣橋久美子
広告営業
株式会社ビューポイント
(広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで)
発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)
印刷
大日本印刷株式会社
協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport



キャラが違う？ そんなことないんで、
吉田さんも例のポーズ、お願いしま～す!


reversal
reversal.dogi.design.works
rvddw
rvddw



Kamipro Special 2008 JULY

ヴァンダレイ復活勝利!! 桜庭、オレも闘ってるぞ!!

2008年6月20日
発行人 浜村弘一 編集人 斉藤慎一 発行・発売所 株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本 大日本印刷株式会社

eb! enterbrain

定価: 本体743円 +税
雑誌 61956-24 Ⓗ2008.10
Printed in Japan 大日本印刷

ISBN978-4-7577-4320-5
C9476 ¥743E
9784757743205
1929476007438